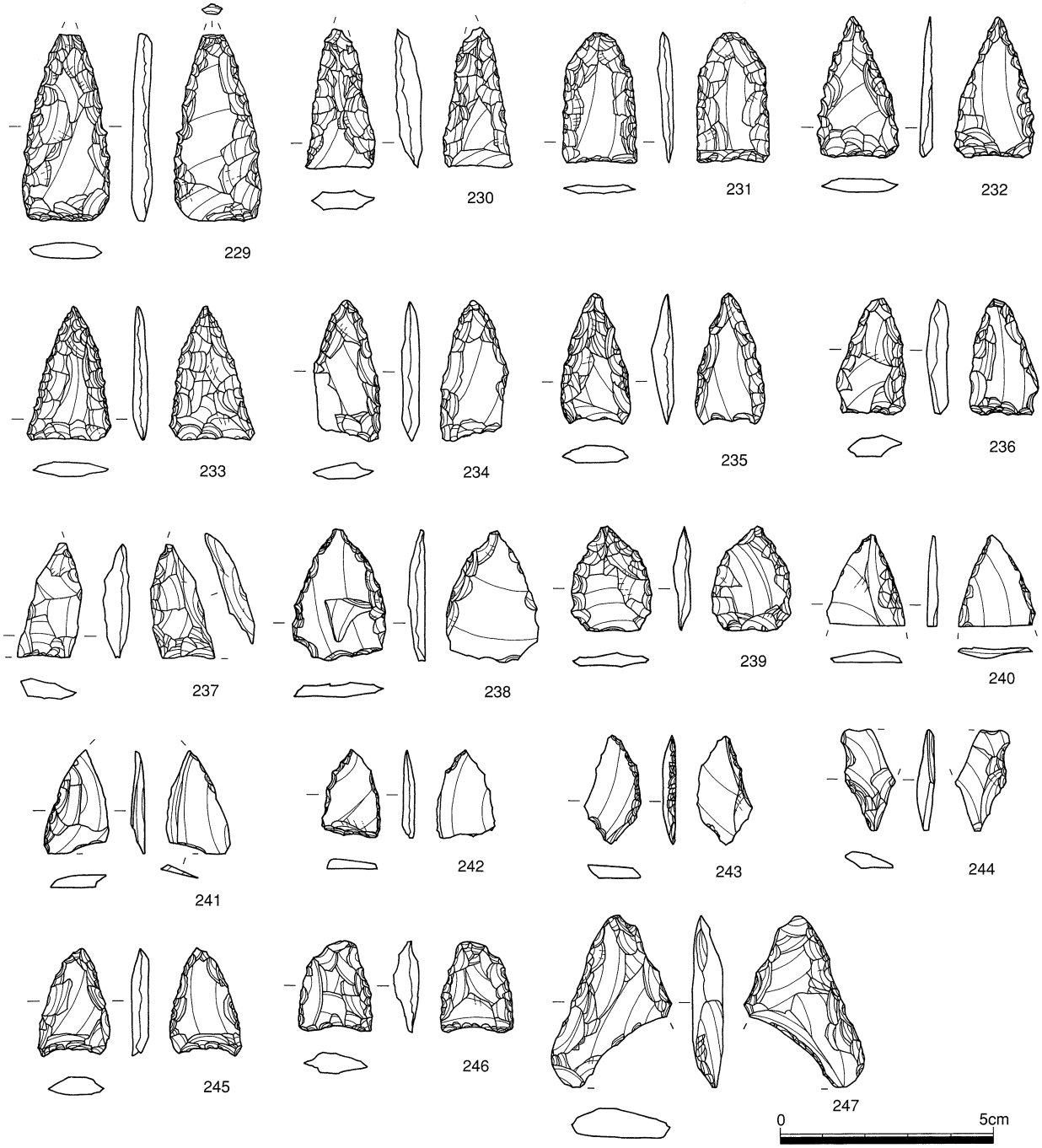
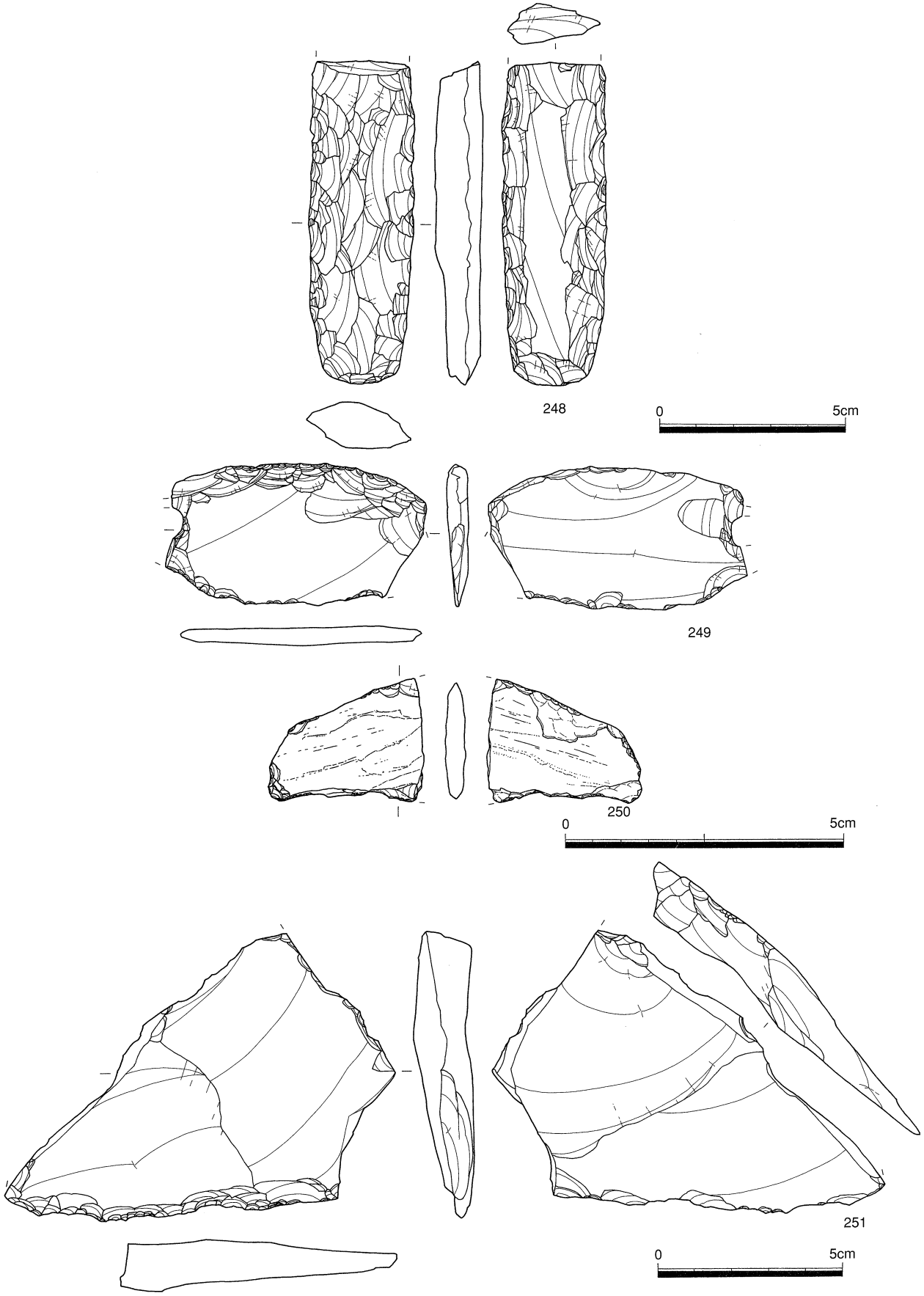
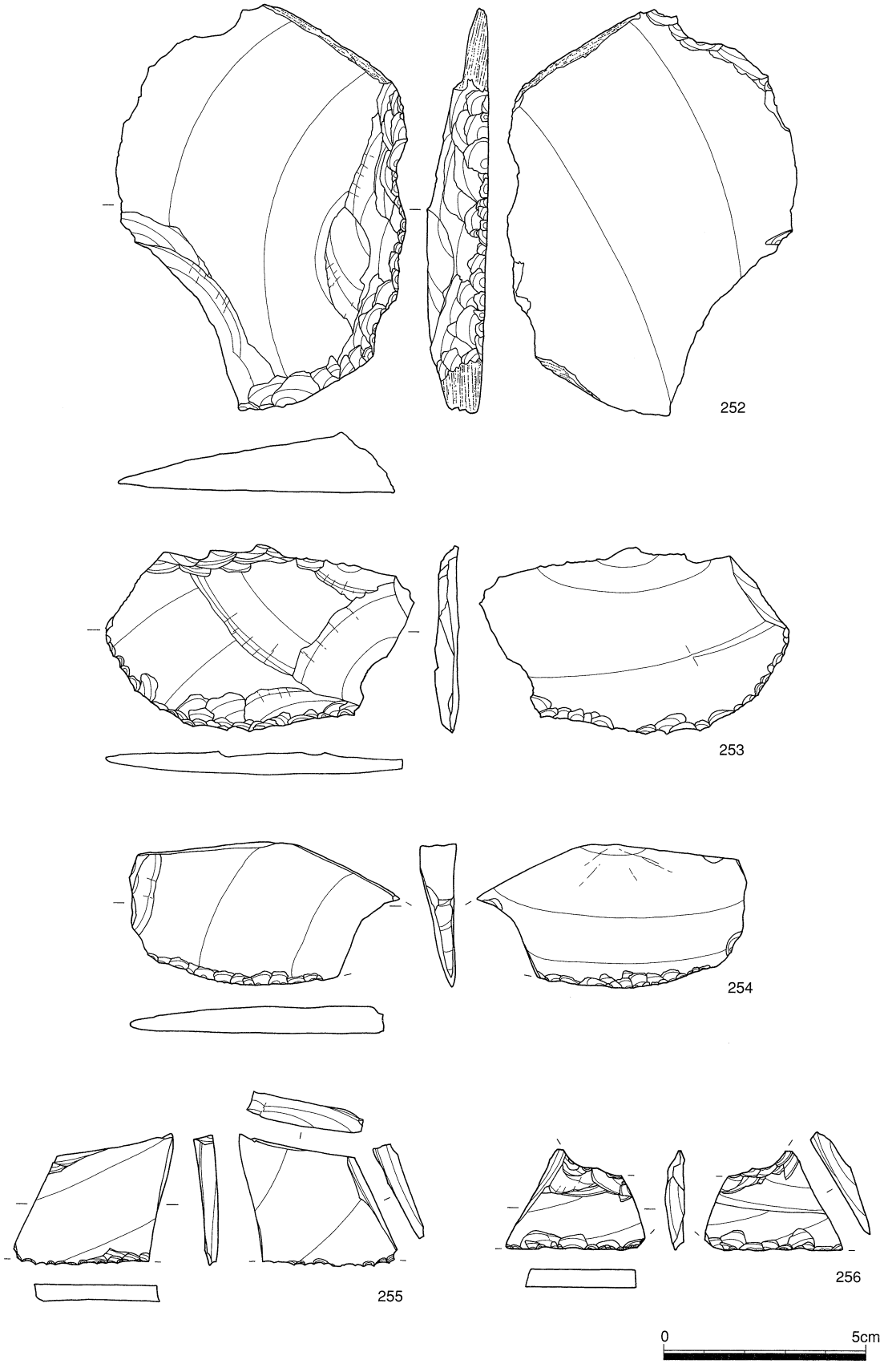


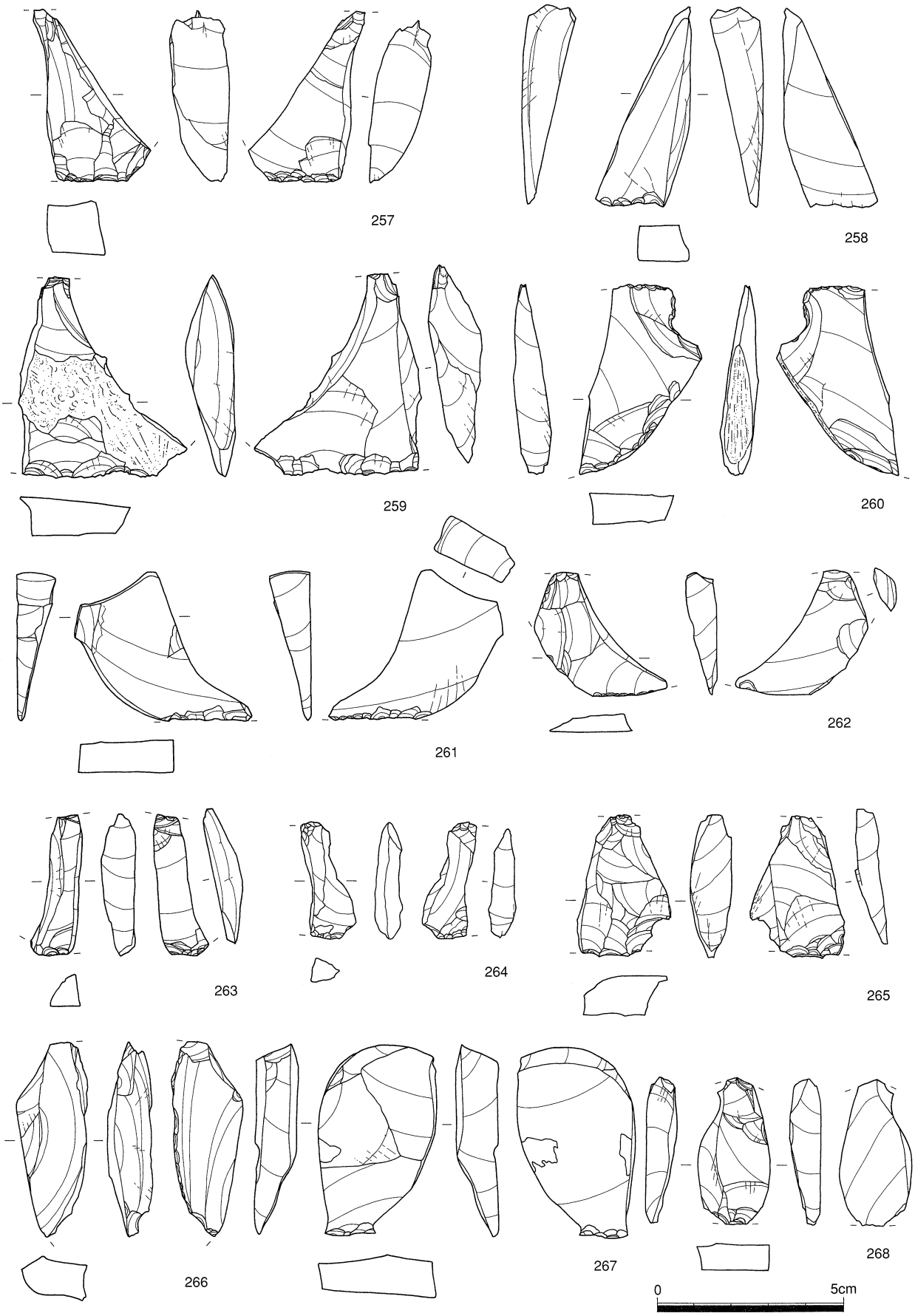
第90図　包含層出土遺物 4



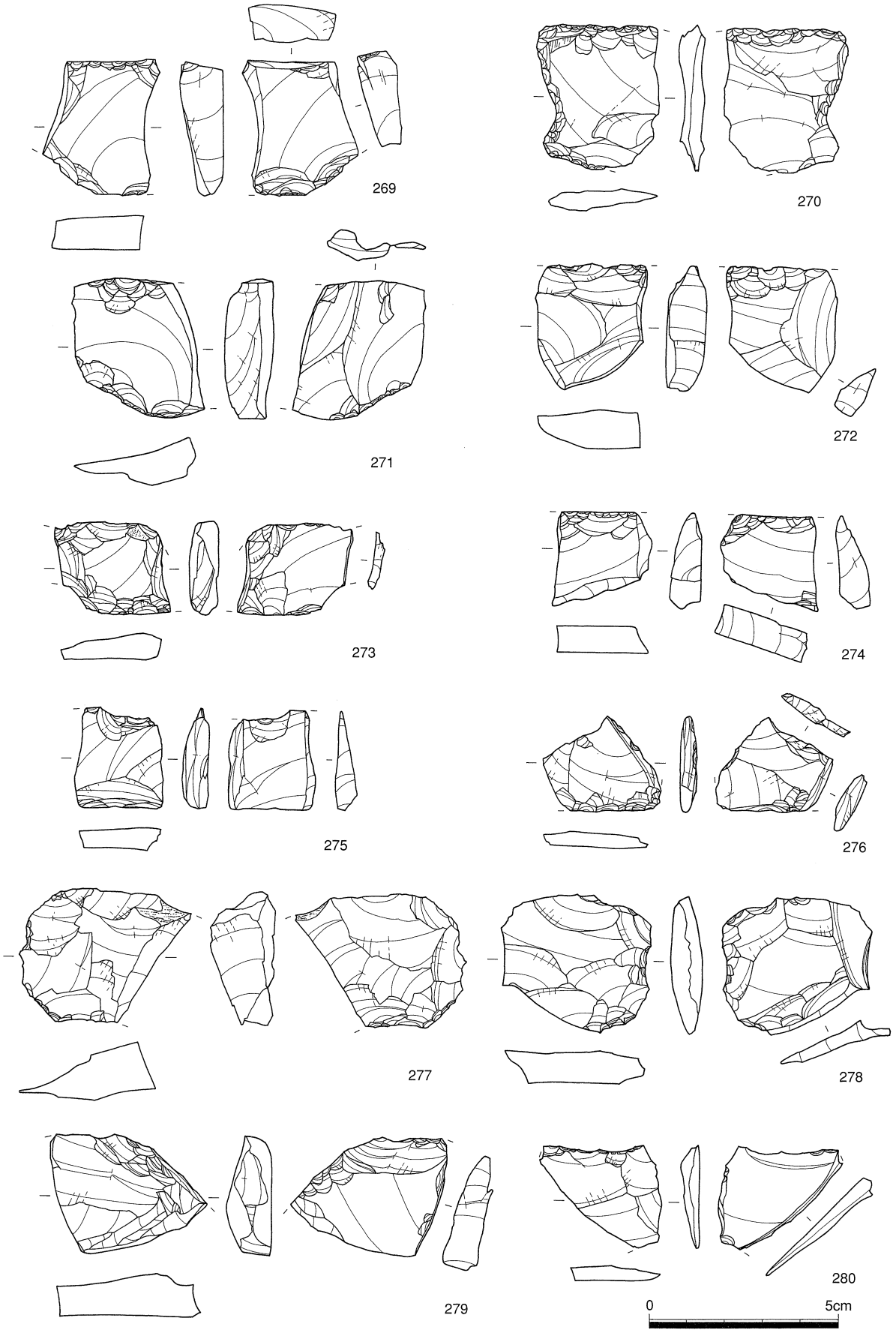
第91図　包含層出土遺物 5



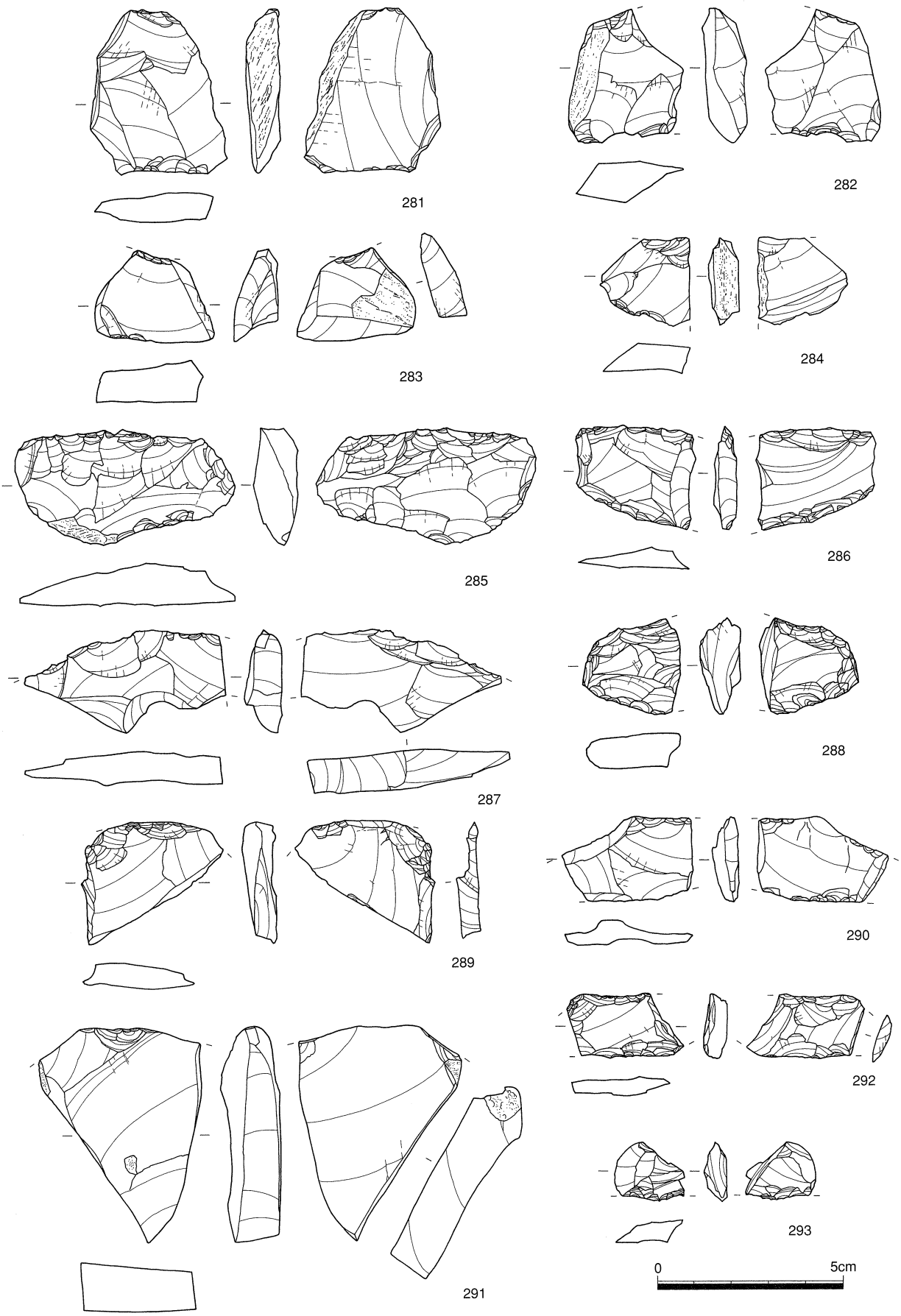
第92図　包含層出土遺物 6



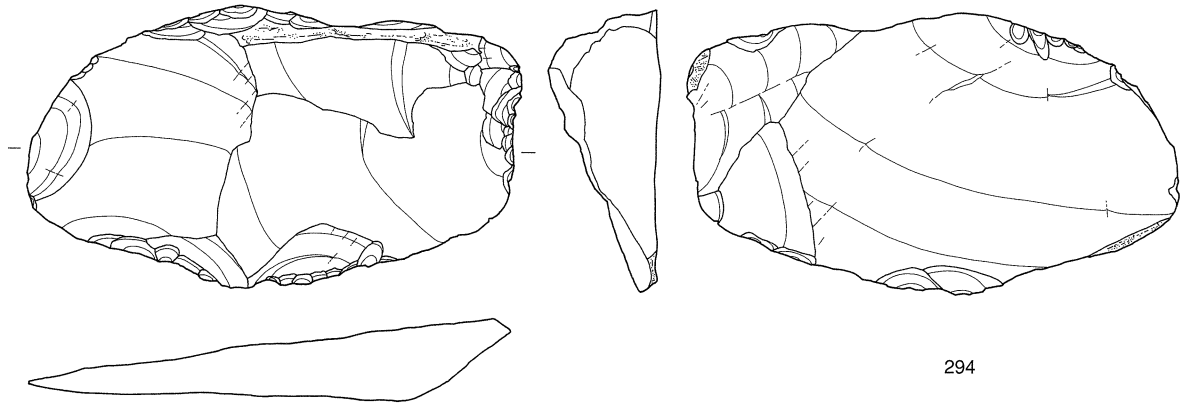
第93図　包含層出土遺物 7

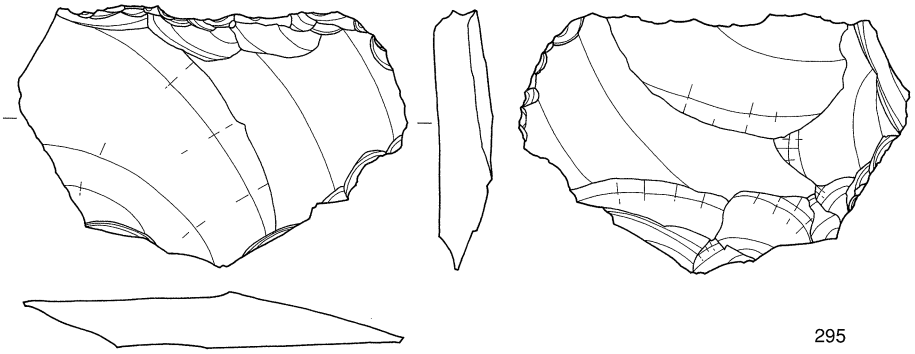


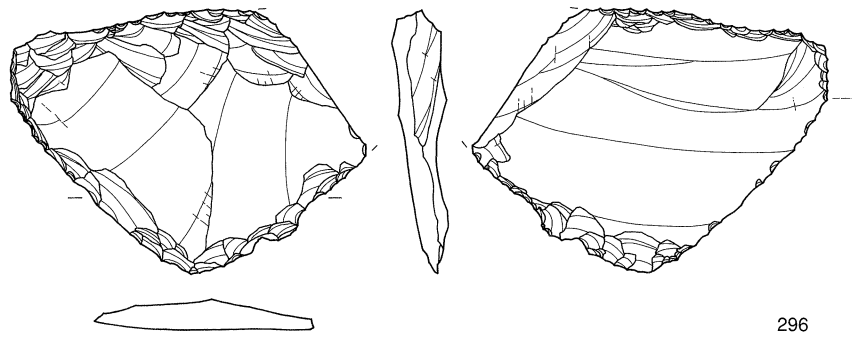
第94図　包含層出土遺物 8

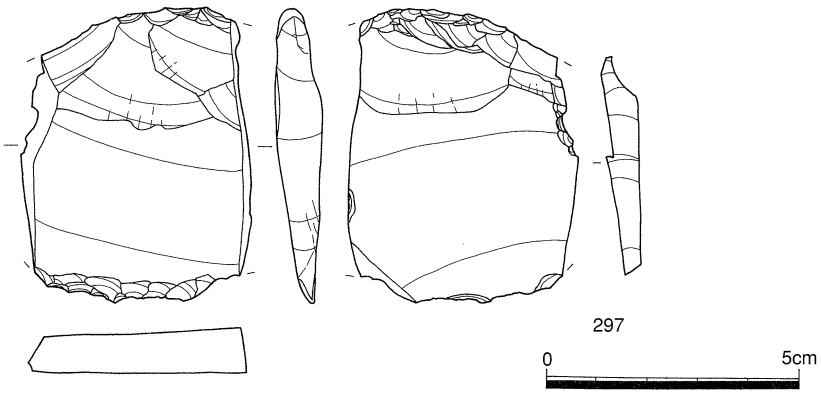


第95図　包含層出土遺物 9

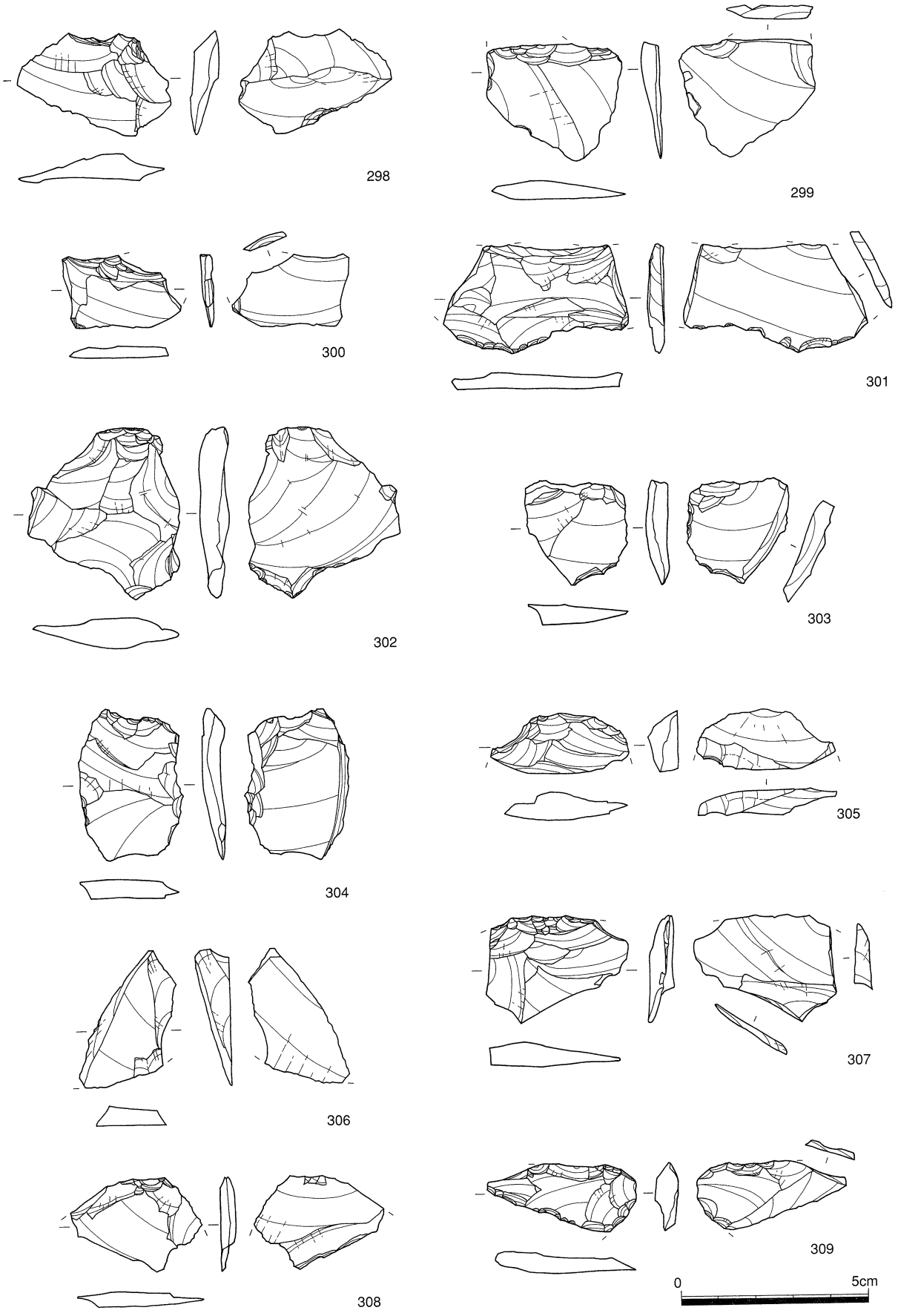




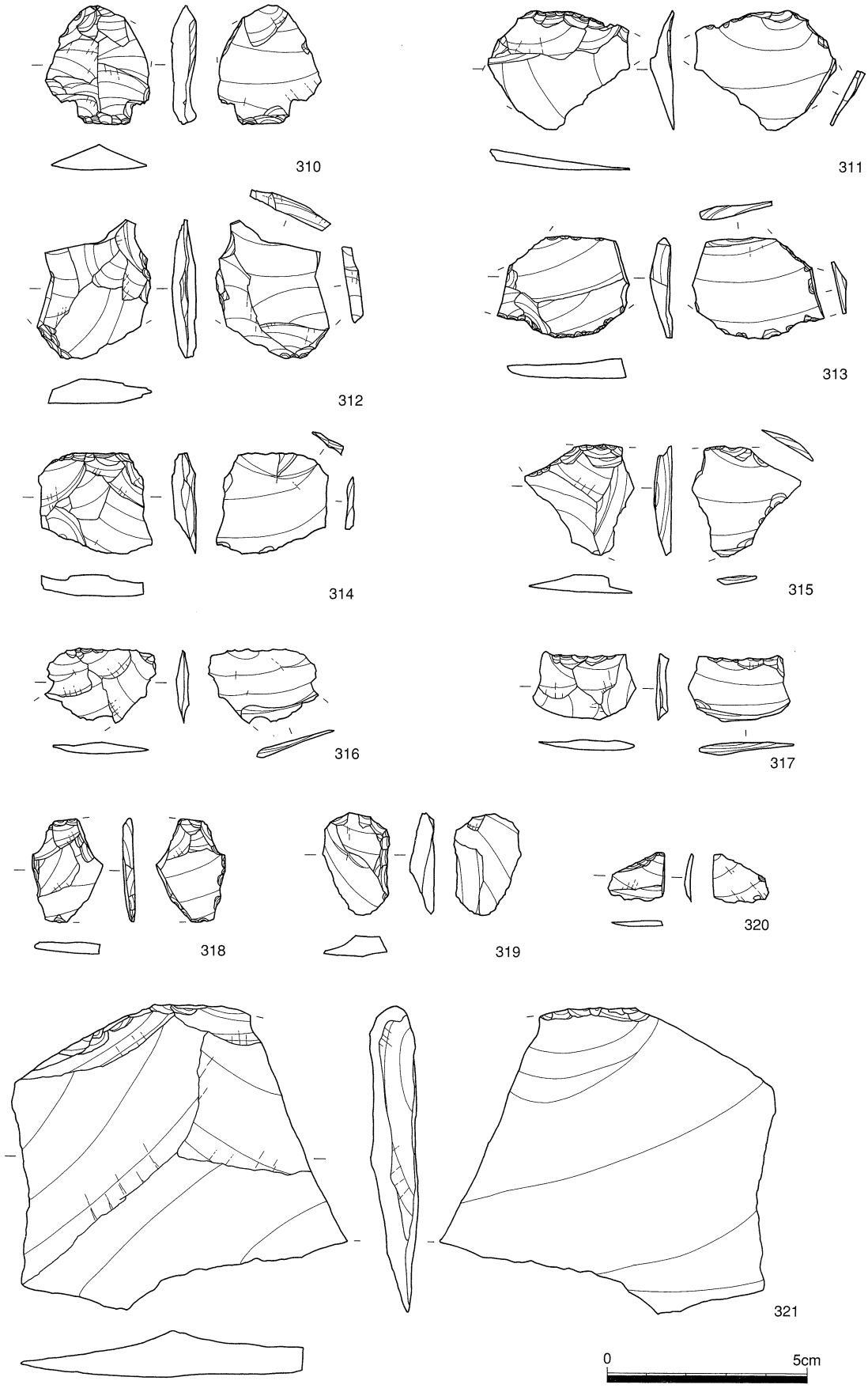




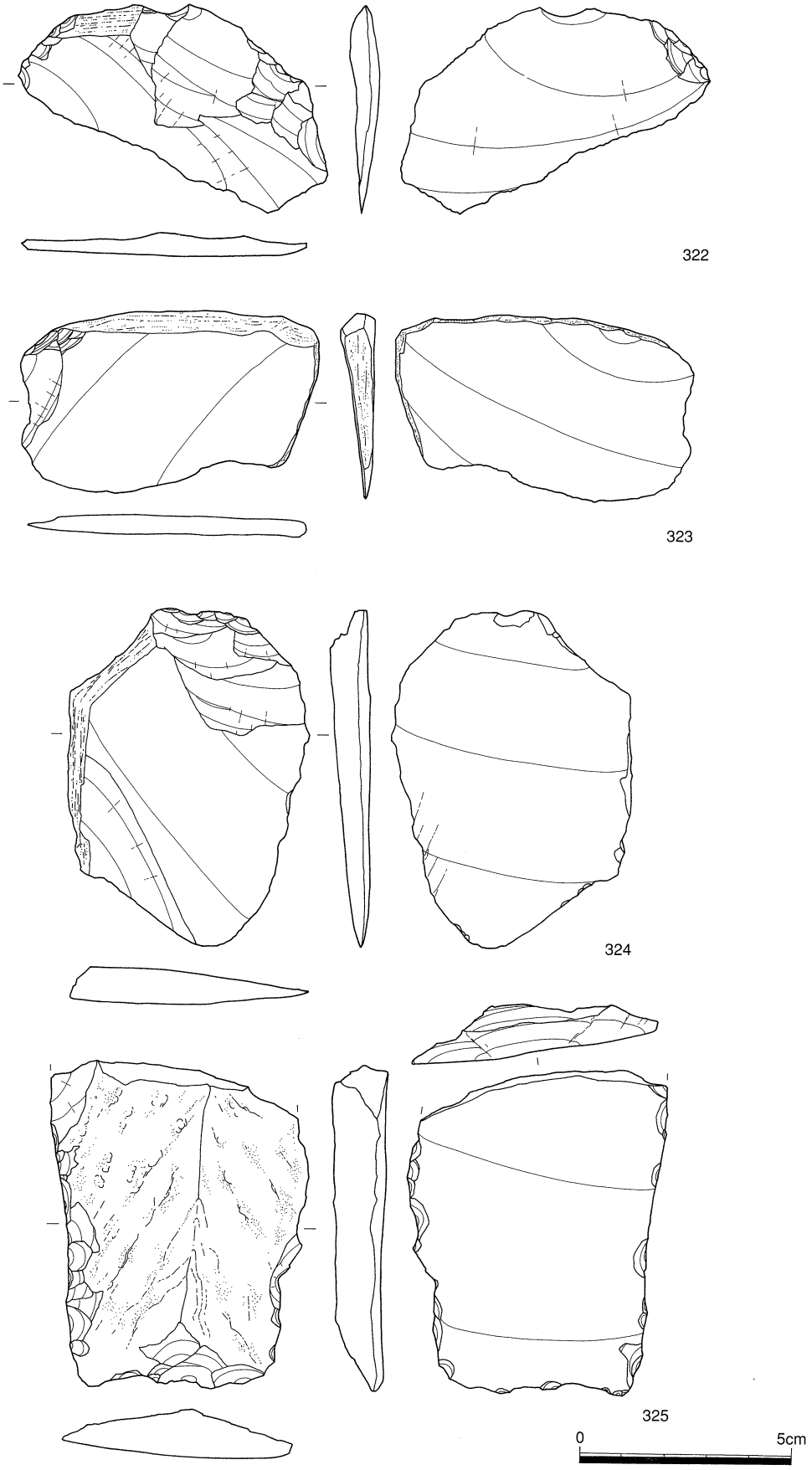
第96図　包含層出土遺物10



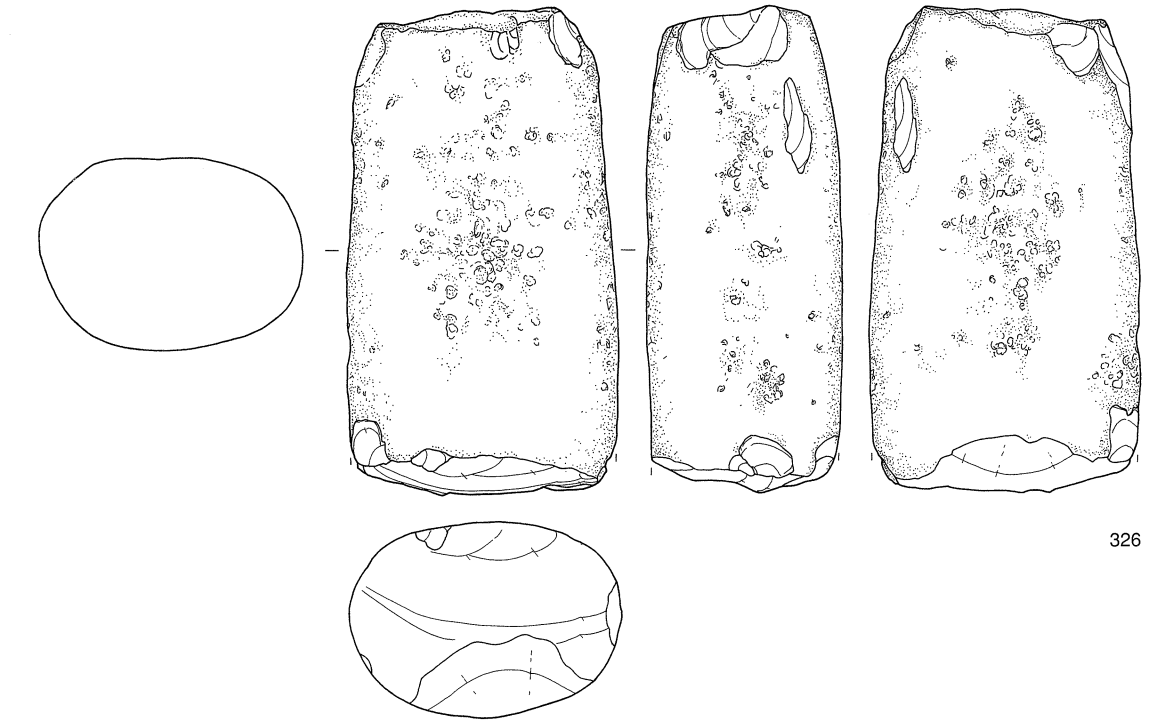
第97図　包含層出土遺物11

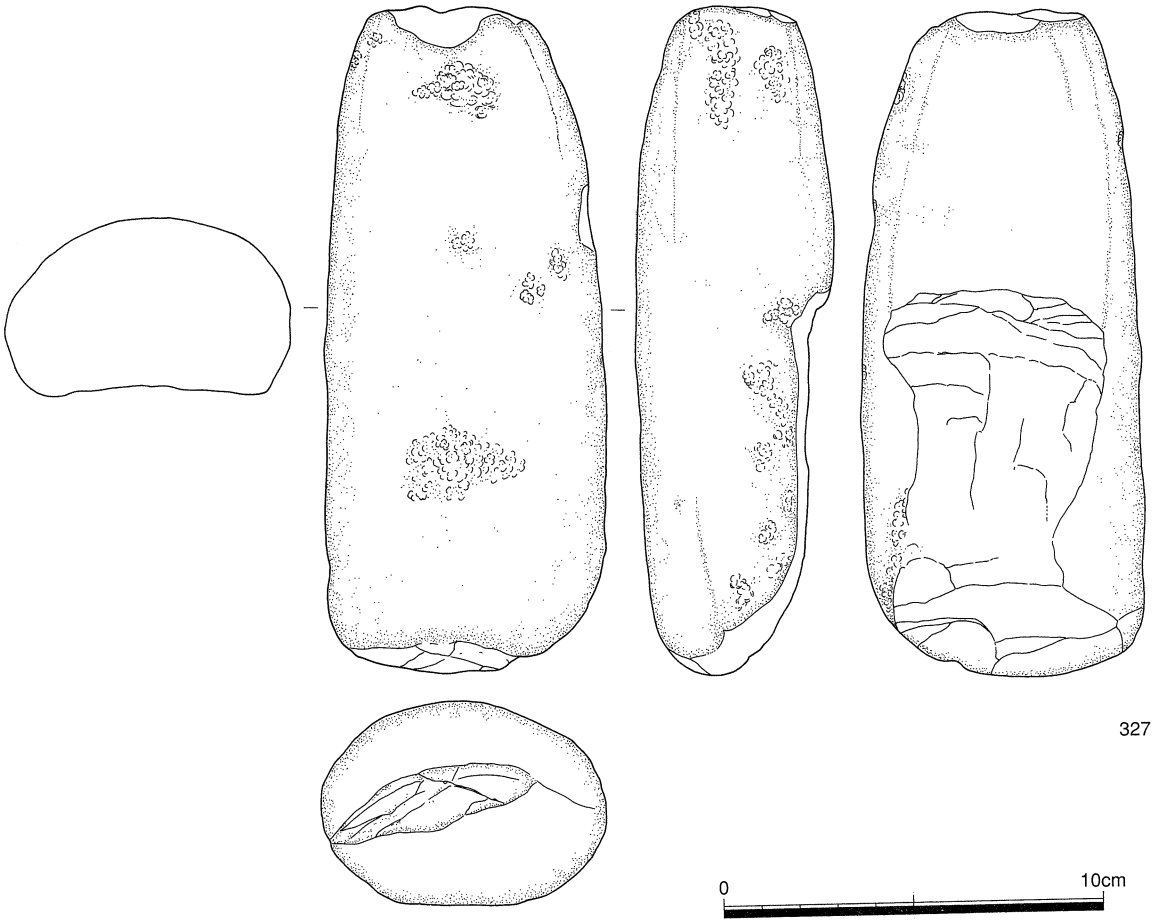


第98図　包含層出土遺物12

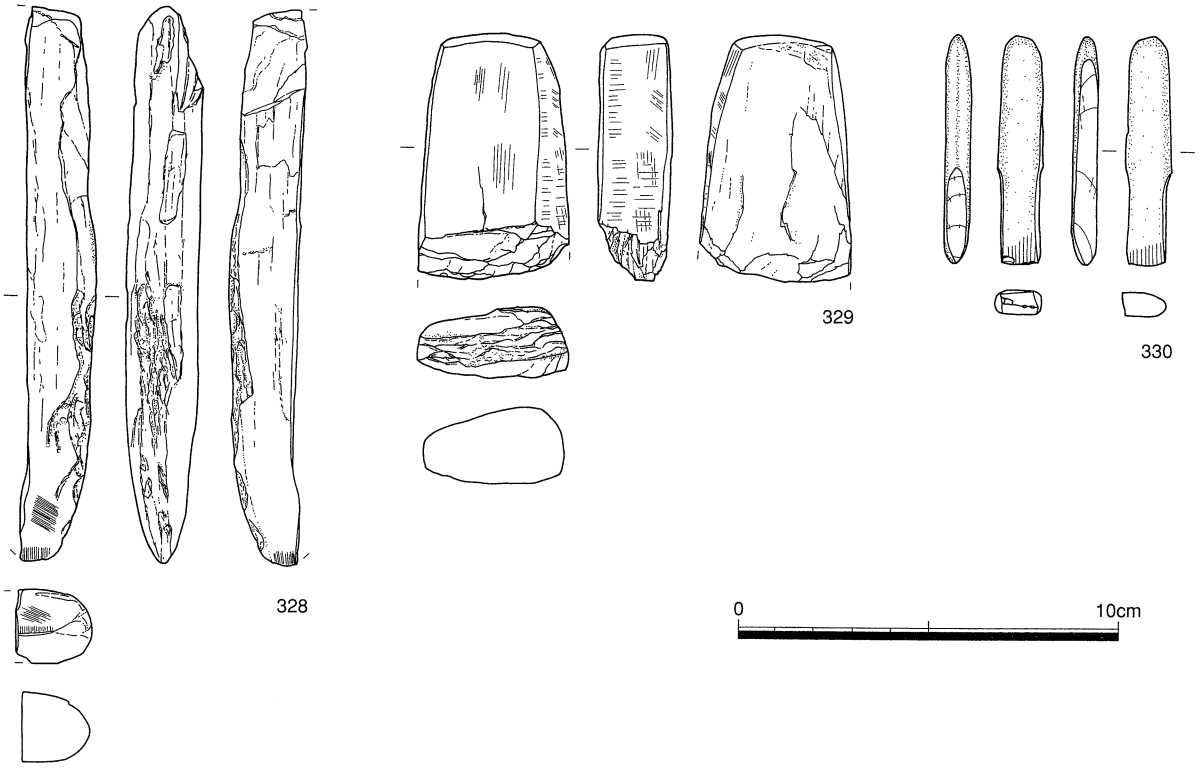


第99図　包含層出土遺物13

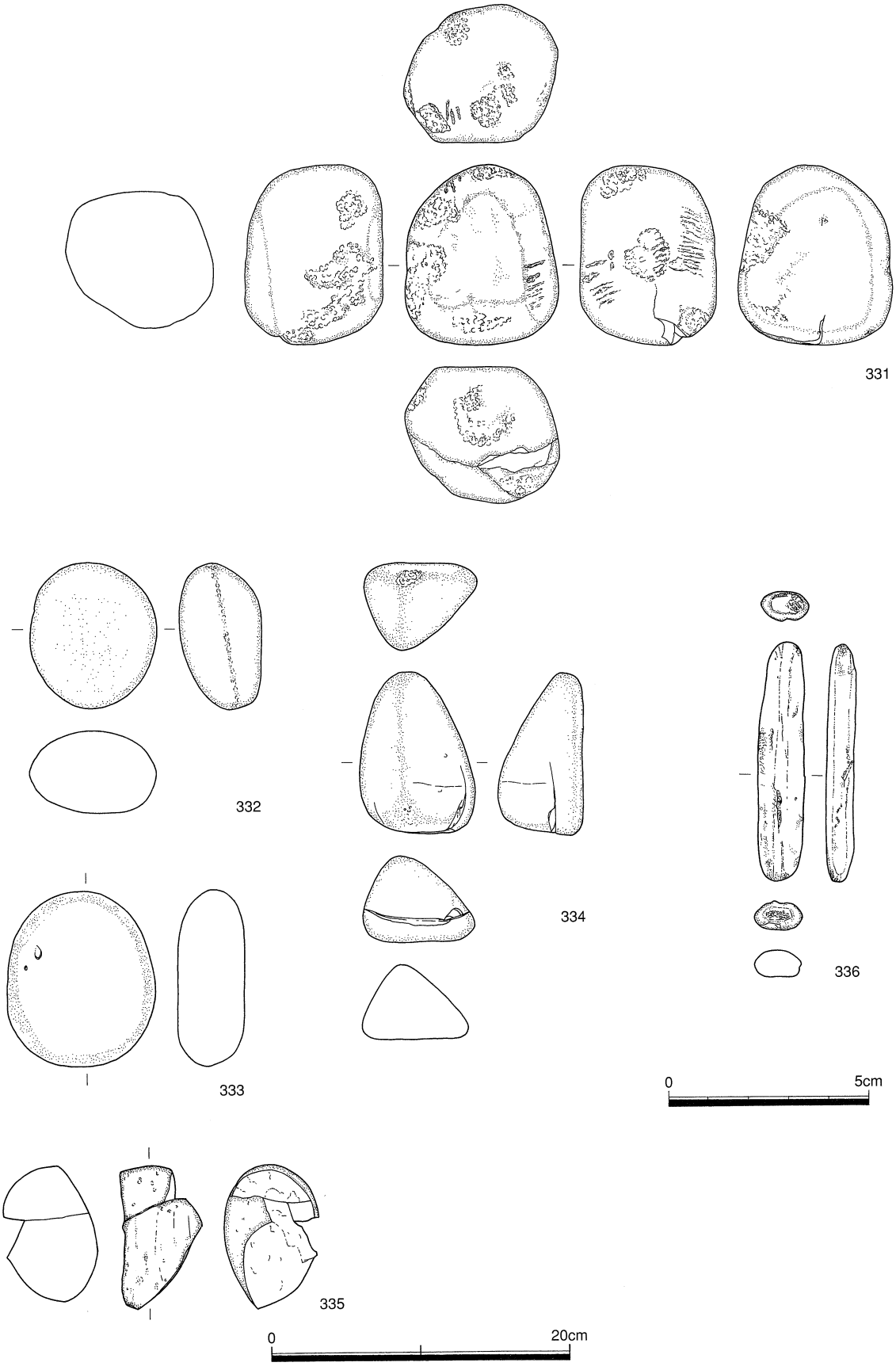




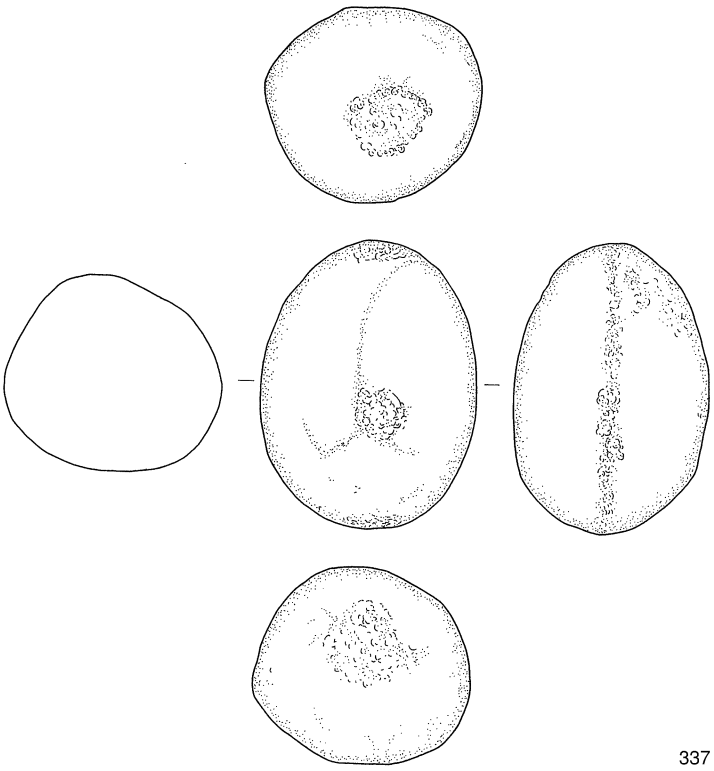
第100図　包含層出土遺物14

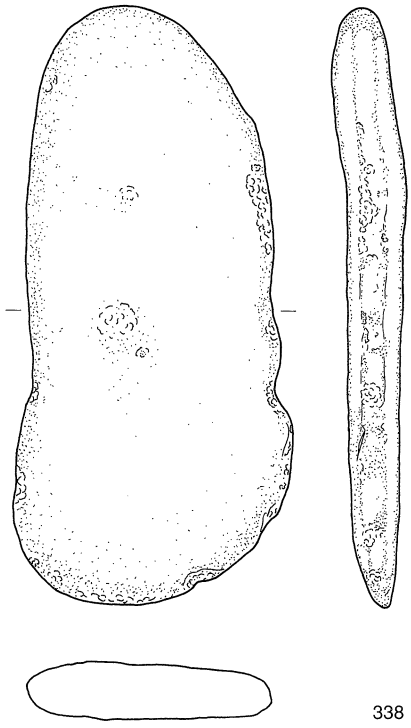


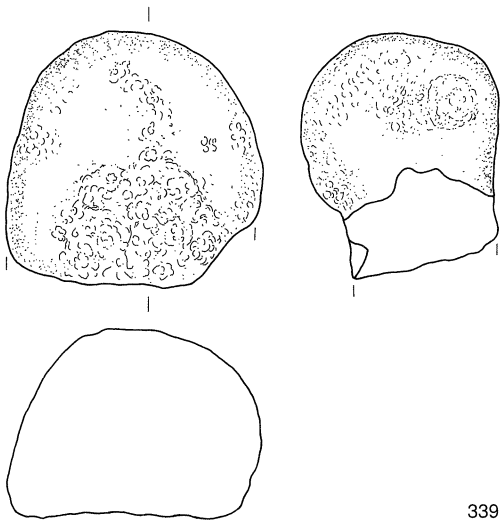
第101図　包含層出土遺物15



第102図　包含層出土遺物16

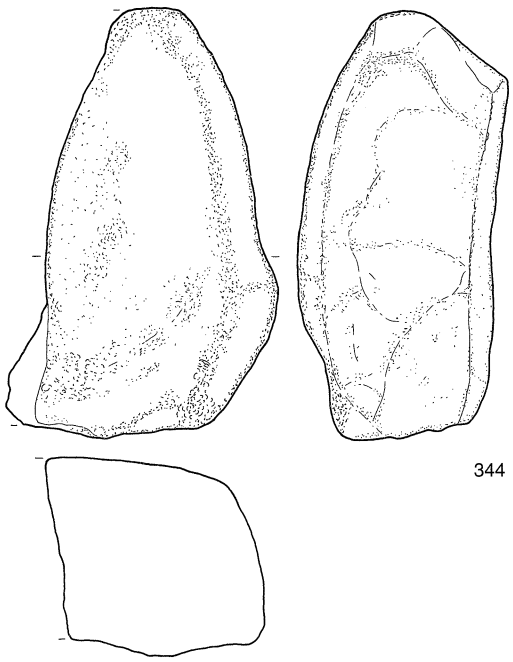






第103図　包含層出土遺物17

第104図　包含層出土遺物18



第105図　包含層出土遺物19

（4）まとめ

はじめに

調査の結果、桧はちまき山遺跡はカネガ谷遺跡とともに、吉野川北岸下流域で高地性集落の具体構造が確認された初例である。

遺跡の立地

桧はちまき山遺跡は、前述した通り、吉野川北岸下流域、阿讃山脈東南縁南麓、カネガ谷遺跡の西方約2.4㎞の二股に分かれた尾根上に位置する。集落を営む尾根は標高50～100m で、麓に広がる平野部との比高差は30～50m である。

遺構について

竪穴住居跡を11軒確認した。その他、斜面上において段状遺構を確認した。桧はちまき山遺跡の西方に位置するカネガ谷遺跡の切り岸のような段状遺構あるいは環壕といった防御的機能を類推させるものではなく、高位の斜面上という限定された立地条件における竪穴住居跡の補完的な施設になると考えられる。これらの遺構の形成時期は出土遺物等から弥生時代中期末～後期初頭頃(Ⅳ-3～Ⅴ-1)と思われ、集落としての継続期間は短期間である。

遺物について

土器の出土はみられたが、概して量的には少ない。また遺存状況も良くないため、壺等の貯蔵具の比率が高い印象はあるが、詳細な器種構成は不明である。

高地性集落における遺物の特殊性は、主に石鏃などの武器類の石器組成が一般的な弥生集落と異なり、その石器組成の偏在が指摘されるが、桧はちまき山遺跡においては、特定器種に極端に偏ることはみられない。石器については、多種多様な器種が出土している。石鏃等の武器類はみられるが、大形で細身のいわゆる戦闘用武器とみなされるものは少ない。日常の生産用具である、敲石・台石・スクレイパー・楔形石器も多く出土しており、特に太形蛤刃石斧（伐採斧）の出土が目立つ印象を受け、日常的生産活動の高さを窺わせる。サヌカイトの総重量は4,082.4g で、製品2,640.3g、剥片類1,442.1g であり、香川県坂出市国分台周辺、金山産のものである（第２分冊　自然科学分析編参照）。

桧はちまき山の位置付け

徳島県では一定の比高差を有して高位に立地する集落がある。これらは日常的様相（柴田氏のいう山住みの集落。柴田 2004）をみせる高位台地性集落と軍事的防御的集落といわれる、いわゆる高地性集落の二者が展開する。いずれも集落の継続期間は土器一形式程度の短期間の居住である。吉野川流域では弥生時代中期中葉から後葉と後期初頭の２時期、吉野川に面した交通の要衝に高地性集落が出現する。

吉野川北岸中下流域には高位台地性集落が多く形成されている。第１次出現期の集落（三野町丸山遺跡・阿波町桜ノ岡遺跡（Ⅰ）・日吉谷遺跡・西長峰遺跡など）は高所立地をするが、防御機能を欠くものが多く、自然要因を含めた出現契機が考えられる。また平地における集落の実態が不明であるが、これらの集落は高地に立地するものの、周辺の台地上にはほぼ同時期に併存して連綴して集落が形成・展

開している。これらの集落は、Ⅲ期（中期初頭）に出現し、Ⅳ期（中期後半）には遺跡数が増加し、Ⅴ-1期（後期初頭）まで継続しており、また、台地単位で集落の移動や並存が確認できる（近藤 1999）。こうした状況からみれば、高地に立地することは普通の居住環境であるといえる。これらは平地から一定の比高差を有するが、出土遺構・遺物からは軍事的側面を積極的に指摘することはできない。

これに対して、第２次出現期の集落（三野町大谷尻遺跡・鳴門市カネガ谷遺跡）は環壕や段状遺構の掘削など大規模な土地改変を伴い、防御的機能が顕著に現れていることが指摘できる。このことは大形の石鏃や石製・土製投弾などの武器が多く出土していることからも窺われる。

これまで吉野川北岸下流域では、光勝院寺内遺跡以外に当該期の様相が部分的にしか分かっておらず、桧はちまき山遺跡・カネガ谷遺跡はともに吉野川北岸下流域で高地性集落の構造が具体的に把握された初例である。

桧はちまき山遺跡は、弥生期の生産基盤である水稲耕作や日常的な生活に不都合な高位に立地する。防衛的条件を備えた狭義の高地性集落の主たる定義に基づけば、従来より認識されてきた高地性集落の範疇に符合するものである。また、集落立地の選定原理からみた隔絶性の抽出からみても、高地性集落として独立していると捉えられる。当該地域での平地集落の実態が不明であるが、当該地域に展開する集落が同一時期に複時的居住域を持たないとすれば、周辺の集落景観から高位に立地することは非日常的な居住領域であるといえる。

桧はちまき山遺跡は、石鏃などの武器類の偏在性と軍事的防御性をもつ遺構の存在に欠ける。また後方の丘陵にも居住域が展開する可能性があることから、常時の集落すなわち日常的な生産性を兼ね備えた高地性集落であったと考えられる。しかしながら、桧はちまき山遺跡の集落は一過性であり、情報の伝達や交易拠点としての集落の形成であれば、集落構造の変化を要せず、山住み（高地立地）を志向する生活領域に元来備わっている機能（高所立地）だけで済むものと考えられる。軍事的防御的機能を有する遺構(環壕等)を具備することは、高地性集落を構成する、あるいは形成する要素の一つであるが、軍事的集落であるという限定的機能にのみ絶対的条件にはなろう。ここでいう異質性の抽出は、複時の居住域を持たず、周辺に分布する弥生集落との間に居住領域や生産領域を共有できない高さ（隔絶性）を持つことであり、地形的条件に重点をおきたい。桧はちまき山遺跡は高所立地することにより、防御的機能を備えつつ、恒常的な農耕生産集落の機能は維持している。多少の日常的生活の不便さは無視しても、なかば恒常的な集落の安定と防御性を確保した丘陵に立地する高地性集落であるといえる。

弥生期における社会・経済の変革期に生じた地域内外の社会的、政治的緊張関係、つまり、鉄器や舶載品などの新しい文物の流入およびその獲得が要因となり、吉野川流域の弥生社会に新たな緊張関係を生成し、そのことが高地性集落（高所に居住する集落）の発生と関係しているものと想定される。阿讃山脈東南縁、吉野川下流域の北岸地域は、弥生時代終末期から古墳時代初頭には最古式前方後円墳につながる要素をもつ萩原１号墓や西山谷２号墳などが形成され、いち早く外来要素を受容したことが確認される。この地域一帯は物流の大動脈であった瀬戸内と四国東部を結ぶ連結点にあたるが、物資や情報の集積など重要拠点としての基盤形成が後期初頭まで遡ることが確認された意義は大きい。

当該地域は、カネガ谷遺跡を中心として、東尾根に延谷東遺跡、麓に光勝院寺内遺跡があり、西方2.4kmに桧はちまき山遺跡が位置し、防御・情報のネットワークを形成していたことを窺わせる。桧はちまき山遺跡は、カネガ谷遺跡を核とした金属器・搬入品の交易に関する拠点的な地域を構成する集落の一つであるといえる。その形態として高地性集落のかたちを採り、カネガ谷遺跡周辺における西方勢力（瀬

戸内・吉備あるいは北部九州)との交渉基盤としての機能および共同体の象徴(地域共同体のランドマークとしての機能・地域共同体としての認知・経済活動との関連)としての機能を持っていたと想定される。

高地性集落の発生あるいは増加が吉野川北岸に集中し、地域的偏在をみせている。これらの要因が鉄器などの文物の入手に際し、吉野川下流域の地域的優越性に基づくものであり、高地性集落の形成および鉄器などの出土遺物は緊張関係の表出と捉えられよう。しかし、鉄器の入手や優越性を保持するための軍事拠点、あるいは反対に他からの侵攻に対する拠点としての側面をも重視すれば、鮎喰川流域社会にも高地性集落が集中してしかるべきであるが、現状では鮎喰川流域に高地性集落は確認されていない。また環濠の掘削を含め、平地の遺跡で緊張関係を反映した痕跡は見出し難いため、これらは今後の検討課題であろう。

引用・参考文献

近藤　玲　1999「徳島の弥生時代－縄文時代から古墳時代へ－」『真朱』3　㈶徳島県埋蔵文化財センター

柴田　昌児　2004「高地性集落と山住みの集落」『考古資料大観10遺構編』小学館

菅原　康夫　2002「弥生時代」『論集　徳島の考古学』徳島考古学論集刊行会

寺澤　薫　2000「王権誕生」『日本歴史』第2巻　講談社

寺前　直人　1999「近畿地方の磨製石鏃にみる地域間交流とその背景」『国家形成期の考古学』大阪大学考古学研究室10周年記念論集　大阪大学考古学研究室

徳島県埋蔵文化財センター　2001「阿讃山脈東南縁の古墳群－四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財調査概報－」『徳島県埋蔵文化財センター調査概報』第3集

菅原　康夫　2000「萩原墳丘墓をめぐる諸問題」『前方後円墳を考える―研究発表要旨集―』古代学協会四国支部第14回大会

桧はちまき山遺跡
第1表　出土遺構一覧表

SB

遺構名	グリッド	平面形態	断面形態	長軸（cm）	短軸（cm）	深度（cm）	備　考
SB1001	Q-16	隅丸長方形	L字状	372	222	9	
SB1002	G·H-5·6	半円形	L字状	532	346	28	
SB1003	K-6·7	半円形	L字状	455	352	42	
SB1004	L-3·4	半円形	L字状	277	262	69	一部削平。
SB1005	I·J-2·3	隅丸長方形	L字状	562	331	27	一部削平。
SB1006	F～H-3	隅丸長方形	浅いD字状	646	256	22	
SB1007	B·C-6·7	半円形	L字状	388	275	42	
SB1008	S·T-15·16	隅丸長方形	L字状	406	358	18	
SB1009	U·V-12	隅丸長方形	L字状	677	186	27	
SB1010	X-12	半円形	L字状	433	152	8	
SB1011	P·Q-19·20	半円形	L字状	546	354	46	石器製作工房跡。

SD

遺構名	グリッド	平面形態	断面形態	長軸（cm）	短軸（cm）	深度（cm）	備　考
SD1001	G-2·3	細長い楕円形状（溝状）	L字状	849	109	15	段状遺構。
SD1002	H·I-4	細長い楕円形状	L字状	776	152	24	段状遺構。
SD1003	J·K-3·4	細長い不整形な楕円形状	L字状	938	104	10	段状遺構。
SD1004	Q·R-9	細長い楕円形状	L字状	409	88	22	段状遺構。
SD1005	U-13	隅丸長方形状	L字状	392	249	34	段状遺構。
SD1006	U·V-14	やや細長い隅丸長方形状	L字状	612	169	21	段状遺構。
SD1007	V-14·15	長方形状	L字状	660	276	18	段状遺構。
SD1008	P·Q-18	細長い楕円形状	L字状	721	151	25	段状遺構。
SD1009	Q·R-18·19	細長い楕円形状	L字状	589	161	32	段状遺構。
SD1010	P～S-20·21	不整形な細長い楕円形状	L字状	2930	73	12	段状遺構。
SD1011	R～T-19・20	不整形な細長い楕円形状	L字状	900	230	55	段状遺構。

SK

遺構名	グリッド	平面形態	断面形態	長軸（cm）	短軸（cm）	深度（cm）	備　考
SK1001	V-11・12	円形					
SK1002	K·L-8	楕円形	逆台形状	89	56	15	
SK1003	K-5	楕円形	逆台形状	146	48	18	
SK1004	K·L-6	楕円形	逆台形状	87	39	27	
SK1005	K-3	いびつな円形	逆台形状	82	74	16	
SK1006	I-2	楕円形	逆台形状	109	59	32	
SK1007	H·I-3	楕円形	逆台形状	158	67	24	
SK1008	H-3	楕円形	逆台形状	75	53	31	
SK1009	G·H-4	楕円形	逆台形状	108	40	18	
SK1010	O-24	楕円形	浅いD字状	141	74	22	
SK1011	S·T-11	楕円形	浅いD字状	161	118	10	
SK1012	S-10	円形	逆台形状	66	59	21	
SK1013	J-3	楕円形	逆台形状	196	116	27	

SP

遺構名	グリッド	平面形態	断面形態	長軸（cm）	短軸（cm）	深度（cm）	備　考
SP1001							欠。
SP1002							欠。
SP1003							欠。
SP1004							欠。
SP1005							欠。
SP1006	I-6	円形	浅いＤ字状	50	29	16	
SP1007	I･J-6	円形	浅いＤ字状	21	19	12	
SP1008	I-3	円形	Ｕ字状	25	19	18	
SP1009	J-3	円形	四角形状	24	16	11	
SP1010	J-4	円形	四角形状	32	23	18	
SP1011	J-3	円形	浅いＤ字状	34	18	15	
SP1012	I-2	円形	逆台形	32	27	19	
SP1013	I-2	円形	Ｄ字状	44	42	21	
SP1014	I-3	円形	Ｄ字状	29	25	16	
SP1015	H-2	円形	四角形状	29	23	8	
SP1016	H-3	円形	Ｄ字状	28	22	10	
SP1017	H-3	円形	Ｄ字状	22	17	7	
SP1018	H-3	円形	Ｄ字状	30	26	16	
SP1019	H-3	円形	浅いＤ字状	23	19	6	
SP1020	H-3	円形	四角形状	28	27	8	
SP1021	H-3	円形	浅いＤ字状	26	22	13	
SP1022	G･H-3	円形	浅いＤ字状	28	23	9	
SP1023	G-3	円形	Ｄ字状	39	38	18	
SP1024	G･H-2	円形	Ｄ字状	19	17	9	
SP1025	G-2	楕円形状	Ｕ字状	21	15	10	
SP1026	G-2	楕円形状	Ｄ字状	25	18	11	
SP1027	G-2	円形	Ｄ字状	22	15	10	
SP1028	G-2	円形	逆台形状	16	15	12	
SP1029	I-3	円形	浅いＤ字状	16	12	7	
SP1030	H-4	楕円形状	Ｄ字状	41	31	10	
SP1031	G-3･4	楕円形状	Ｄ字状	45	28	21	
SP1032	G-3	楕円形状	Ｕ字状	41	29	48	
SP1033	G-3･4	楕円形状	四角形状	103	30	25	
SP1034	G-4	円形	逆台形状	40	32	20	
SP1035	G-4	円形	四角形状	36	34	21	
SP1036	F･G-4	円形	逆台形状	37	28	11	
SP1037	F-3	円形	逆台形状	36	33	14	
SP1038	L-4･5	円形	浅いＤ字状	54	27	9	
SP1039	V-13	長楕円形状	浅いＤ字状	138	22	9	
SP1040	Q･R-9	円形	Ｄ字状	23	19	17	
SP1041	Q-9	円形	四角形状	35	23	20	

第２表　出土遺物観察表
SB（土器）

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	器種	残存率	口径(cm)	体部最大径(cm)	底径(cm)	頸部径(cm)	器高(cm)	その他の法量(cm)	部位	形態	調整	含有物組成	色調	備考
6	SB1003	K-6	ED-1覆土	弥生高杯	杯部1/4					6.8		杯部	杯部は上方に直線的に延びる。円盤充填。	摩滅のため不明。	石英・長石・片岩	外面：にぶい赤褐 内面：にぶい橙	
13	SB1004	L-3･4	覆土	甕	底部1/4			5.0		3.8		底部	平底。体部は斜め上方に延びる。	外面：縦ヘラミガキ。 内面：縦ヘラケズリのちナデ。	石英・長石	外面：にぶい橙 内面：灰	
14	SB1004	L-3･4	覆土下部	高杯	脚部1/1			14.3		10.6		脚部	脚部裾はラッパ状に広がる。円盤充填。	摩滅のため不明。	石英・長石	外面：橙 内面：淡黄	
20	SB1005	J-2	床面直上	壺	底部1/2			6.0		8.8		体部～底部	平底。体部は内彎しながら上方に延びる。	摩滅のため不明。	石英・片岩	外面：橙 内面：にぶい黄橙	
21	SB1005	I･J-2･3	覆土下部	壺	底部1/2			7.0		4.7		底部	平底。体部は斜め上方に延びる。	外面：縦ヘラミガキ（幅４㎜／本）。 外底面：ナデ。 内面：不明。	石英・赤色斑粒	外面：明黄褐 内面：橙	
22	SB1005	J-2	床面直上	壺	底部1/1			6.5		4.7		底部	僅かに上げ底。体部は斜め上方に延びる。	摩滅のため不明。	石英・片岩	外面：橙 内面：橙	
23	SB1005	I･J-2･3	覆土	壺	底部1/1			8.4		3.0		底部	僅かに上げ底。体部は斜め上方に延びる。	外面：縦ハケ（５条／cm）。 外底面：ナデ。 内面：不明。	石英・長石・片岩	外面：橙 内面：橙	
24	SB1005	I･J-2･3	覆土下部	甕	口縁部1/8				17.8	3.2		頸部	口縁部「く」字状に屈曲して外反。	外面：ナデ。 内面：ナデ。	石英・長石	外面：にぶい黄橙 内面：黄橙	
25	SB1005	J-2･3	EH-1覆土上部	甕	底部1/1			4.8		5.0		底部	平底。体部は斜め上方に延びる。	外面：縦ヘラミガキ（幅４㎜／本）。 内面：縦ハケ（10条／cm）。	石英	外面：にぶい黄橙 内面：褐灰	
26	SB1005	J-2	床面直上	甕	底部1/1			5.3		9.7		体部～底部	平底。体部は斜め上方に延びる。	摩滅のため不明。	石英・長石・片岩	外面：浅黄橙 内面：浅黄橙	
27	SB1005	J-2	床面直上	甕	底部1/1			6.6		3.7		底部	平底。体部は斜め上方に延びる。	外面：縦ヘラミガキ（幅７㎜／本）。 外底面：ナデ。 内面：縦ヘラケズリのちユビオサエ。 ナデ。	石英・長石･片岩･赤色斑粒	外面：明黄褐 内面：にぶい橙	
28	SB1005	I･J-2･3	床面直上	甕	底部1/1			6.7		2.5		底部	平底。体部は斜め上方に延びる。	摩滅のため不明。	石英・長石・雲母片岩	外面：明赤褐 内面：灰褐	
29	SB1005	I･J-2･3	覆土上部	甕	底部1/1			5.2		2.6		底部	平底。体部は斜め上方に延びる。	摩滅のため不明。	石英・長石・片岩	外面：明赤褐 内面：浅黄橙	
35	SB1006	G-3	床面直上	壺	底部3/5			7.8		10.3		体部～底部	丸底に近い平底。体部は斜め上方に延びる。	摩滅のため不明。	石英・片岩	外面：にぶい黄橙 内面：黄褐	
40	SB1008	T-16	覆土下部	壺	底部1/2			3.8		4.0		底部	平底。体部は斜め上方に延びる。	摩滅のため不明。	長石	外面：にぶい橙 内面：灰赤	
41	SB1008	T-16	覆土	甕	底部1/3			5.4		3.9		底部	平底。体部は斜め上方に延びる。	外面：不明。 内面：ユビオサエ。	石英・長石	外面：にぶい赤褐 内面：にぶい赤褐	
48	SB1009	T-16	覆土下部	高杯	脚部1/2				脚柱径3.8	6.1		脚柱部	上下外方へ延びる。	外面：縦ヘラミガキ（幅３㎜／本）。 内面：不明。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：灰黄 内面：黄灰	
54	SB1011	P･Q-19･20	覆土	壺	口縁･頸部1/4	15.3			8.1	11.2		口縁～頸部	頸部はやや外方へ開きながら上方に延びる。口縁部外反。口縁端部はやや肥厚し、丸く収める。	口縁部外面：２条の凹線文。 口縁部内面：横ナデ。 頸部外面：縦ハケ（６条／cm）。 頸部内面：縦ヘラケズリ幅（8.5㎜／本）。	石英・雲母	外面：橙 内面：橙	
55	SB1011	Q-19	覆土	壺	口縁部1/4	13.8			10.0	6.7		口縁部	口縁部外反。口縁端部は丸く収める。	外面：縦ハケ（７条／cm）。口縁端部ナデ。 内面：ナデ。	石英・長石・片岩	外面：にぶい黄橙 内面：にぶい黄橙	
56	SB1011	P･Q-19･20	覆土	長頸壺	頸・肩部1/4				4.0	14.9		頸部～肩部	頸部直立して上方へ延びる。端部やや外反。体部下方へ広がる。	摩滅のため不明。	石英・長石・片岩	外面：橙 内面：褐灰	
57	SB1011	P･Q-19･20	覆土	壺	底部1/3			7.0		16.5		体部～底部	平底。体部は内彎しながら上方に延びる。	外面：縦ヘラミガキ（幅３㎜／本）。 内面：縦ヘラケズリのちユビオサエ。ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：にぶい黄橙 内面：灰白	
58	SB1011	Q-19	覆土	壺	底部1/1			9.5		8.6		体部～底部	平底。体部は斜め上方に延びる。	摩滅のため不明。	石英・長石・片岩	外面：赤 内面：赤褐	
59	SB1011	P･Q-19･20	覆土	壺	体・底部1/3		18.6	5.7		18.8		体部～底部	僅かに上げ底。体部は内彎して上方に延びる。楕円形の体部。体部中位に最大径。	外面：縦ヘラミガキ（幅３㎜／本）。 内面：縦ヘラケズリ。	石英・長石	外面：灰 内面：灰	
60	SB1011	Q-19	覆土	壺	底部1/2			6.1		5.0		底部	上げ底。体部は斜め上方に延びる。	外面：縦ヘラミガキ（幅６㎜／本）。 内面：縦ハケ（５条／cm）。	石英・長石・片岩	外面：明赤褐 内面：褐灰	

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	器種	残存率	口径(cm)	体部最大径(cm)	底径(cm)	頸部径(cm)	器高(cm)	その他の法量(cm)	部位	形態	調整	含有物組成	色調	備考
61	SB1011	Q-19	覆土	壺	底部1/1			6.5		3.9		底部	僅かに上げ底。体部は斜め上方に延びる。	外面：縦ヘラミガキ（幅6㎜／本）。 内面：縦ハケ（5条／cm）。	石英・長石・片岩	外面：浅黄橙 内面：灰白	
62	SB1011	P·Q-19·20	覆土	甕	底部3/4			5.8		8.5		底部	平底。体部は斜め上方に延びる。	外面：縦ヘラミガキ（幅4㎜／本）。 内面：縦ヘラケズリ。 内底面：ユビオサエ。	石英・長石	外面：浅黄橙（黒斑あり） 内面：浅黄	
63	SB1011	P-19	覆土	甕	底部1/1			5.2		4.5		底部	平底。体部は斜め上方に延びる。	外面：摩滅のため不明。 内面：ユビオサエ。	石英・長石	外面：明赤褐 内面：にぶい黄橙	

SD（土器）

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	器種	残存率	口径(cm)	体部最大径(cm)	底径(cm)	頸部径(cm)	器高(cm)	その他の法量(cm)	部位	形態	調整	含有物組成	色調	備考
100	SD1002	G·H·I-4	覆土下部	甕	口縁部1/4	25.0	26.8		23.6	7.4		口縁～体部	口縁部外反。口縁端部は肥厚する。	外面：縦ハケ（8条／cm）。 端部内外面：横ナデ。 頸部内面：横ハケ（8条／cm）およびユビオサエ。	長石・砂岩・赤色斑粒	外面：にぶい黄橙 内面：褐灰	
102	SP1030	G-4	覆土	甕	体部1/5		19.2			12.6		体部	口縁部外反。体部内彎。	摩滅のため不明。	長石・片岩・雲母・赤色斑粒	外面：にぶい橙 内面：にぶい黄橙	SD1002に付随か。
104	SD1004	L-3·4	覆土上部	壺	口縁部1/4	27.4	28.0			8.6		口縁～頸部	口縁部外反し、端部は上下に拡張する。	口縁端部外面に5条の凹線文および円形浮文。 頸部外面に凹線文。 外面：ナデ。 内面：摩滅のため不明。	石英・長石	外面：明赤褐 内面：赤褐	
105	SD1004	L-3·4	覆土	壺	口縁部破片					2.3		口縁部	口縁端部内面に竹管文を施す。	外面：ナデ。 内面：ナデ。	長石	外面：にぶい赤褐 内面：明赤褐	
111	SD1007	V-14·15	EK-1覆土	甕	口縁部1/6	21.4			19.0	4.7		口縁部	口縁部外反。口縁端部やや肥厚する。	外面：ナデ。 内面：ナデ。	石英・長石・赤色斑粒	外面：明黄褐 内面：浅黄橙	
112	SD1007	V-14·15	EK-1覆土	壺	底部1/1			6.9		5.0		体部～底部	平底。体部は斜め上方に延びる。	摩滅のため不明。	石英・長石	外面：淡黄 内面：灰白	
119	SD1009	R-19	覆土中部	長頸壺	頸部1/4				4.7	13.8		頸部～肩部	頸部と体部の境に突帯。	外面：縦ハケ（6条／cm）。 内面：ヘラケズリ。	石英・長石	外面：にぶい橙 内面：暗青灰	
120	SD1009	R-19	覆土中部	壺	底部1/3		18.0	5.6		11.3		体部～底部	平底。体部は内彎しながら上方に延びる。	外面：体部下半縦ヘラミガキ（幅4㎜／本）。体部上位に波状文。 内面：縦ヘラケズリのちナデ。	石英・長石·片岩·赤色斑粒	外面：にぶい黄褐 内面：灰	
125	SD1010	P～S-20·21	覆土	壺	口縁部1/6	23.4	24.0		15.8	6.6		口縁部	口縁部外反。口縁端部は肥厚する。頸部直立。	外面：凹線文2条。摩滅のため調整不明。 内面：摩滅のため不明。	長石・片岩	外面：明赤褐 内面：明赤褐	
126	SD1010	P～S-20·21	覆土	壺	口縁部1/3	14.2				5.9		口縁部	口縁部外反。	外面：縦ハケ（7条／cm）およびヘラミガキ。 内面：摩滅のため不明。	石英・片岩	外面：橙 内面：明黄褐	
127	SD1010	P～S-20·21	覆土	壺	頸部9/10					7.7		頸部	やや外方に開きながら上方に延びる。	摩滅のため不明。	石英・長石・片岩	外面：にぶい黄橙 内面：橙	
128	SD1010	P～S-20·21	覆土	壺	体部1/5		17.2			15.0		体部	体部内彎。	外面：肩部縦ハケ（7条／cm）。体部ナデ。 内面：肩部ユビオサエ。体部縦ヘラケズリ。	石英・長石·片岩·雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：にぶい赤褐	
129	SD1010	P～S-20·21	覆土	壺	頸部1/5				8.7	4.9		頸部	頸部と体部の境に2条の突帯。	外面：ヘラミガキ。 内面：摩滅のため不明。	石英・長石・雲母	外面：橙 内面：淡黄	
130	SD1010	P～S-20·21·22	覆土	壺	体部1/4					7.0		体部	肩部外面に円形浮文。	外面：縦および横ハケ（7条／cm）。 内面：縦ハケ（6条／cm）。頸部との境にユビオサエ。	石英・長石・赤色斑粒	外面：にぶい橙 内面：淡黄	
131	SD1010	P～S-20·21	覆土	壺	底部1/1			8.5		8.6		体部～底部	僅かに上げ底。体部は斜め上方に延びる。	外面：摩滅のため不明。 内面：内底面ユビオサエ。	石英・長石・片岩	外面：にぶい黄橙 内面：暗灰黄	
132	SD1010	P～S-20·21	覆土	壺	底部1/2			6.2		4.2		底部	平底。体部は斜め上方に延びる。	外面：縦ヘラミガキ（幅4㎜／本）。 内面：摩滅のため不明。	石英・長石	外面：明赤褐 内面：明赤褐	
133	SD1010	P～S-20·21	覆土	壺	底部1/1			7.8		3.4		底部	平底。体部は斜め上方に延びる。	摩滅のため不明。	石英	外面：明黄褐 内面：にぶい黄橙	
134	SD1010	P～S-20·21	覆土	壺	底部2/3			6.8		4.5		底部	僅かに上げ底。体部は斜め上方に延びる。	外面：縦ヘラミガキ（幅6㎜／本）。 内面：摩滅のため不明。	石英・長石・片岩	外面：にぶい黄橙 内面：褐灰	

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	器種	残存率	口径(cm)	体部最大径(cm)	底径(cm)	頸部径(cm)	器高(cm)	その他の法量(cm)	部位	形態	調整	含有物組成	色調	備考
135	SD1010	P～S-20·21	覆土	壺	底部3/4			6.6		5.1		底部	平底。体部は斜め上方に延びる。	外面：ナデ。 内面：縦ハケ。	石英・長石	外面：浅黄橙 内面：褐灰	
136	SD1010	P～S-20·21	覆土	壺	底部2/3			8.3		4.4		底部	僅かに上げ底。体部は斜め上方に延びる。	摩滅のため不明。	石英・長石・片岩	外面：淡赤橙 内面：にぶい橙	
137	SD1010	P～S-20·21	覆土	壺	底部4/5			7.8		17.3		体部～底部	僅かに上げ底。体部は内彎しながら上方に延びる。	外面：縦ハケ（6条／cm）。 内面：縦（8条／cm）および横ハケ（9条／cm）。	石英・長石・片岩・雲母・赤色斑粒	外面：にぶい黄橙 内面：橙 内底面：明黄褐	
138	SD1010	P～S-20·21	覆土	壺	底部1/3			11.8		13.3		体部～底部	平底。体部は斜め上方に延びる。	外面：縦ヘラミガキ（幅3㎜／本）。 内面：摩滅のため不明。	長石・片岩	外面：にぶい褐 内面：明黄褐	
139	SD1010	P～S-20·21	覆土	壺	全体9/10	2.7	4.2	2.4	2.1	6.9		ほぼ完形	口縁部外反。端部は丸く収める。体部肩が張り、上位に最大径。	外面：ナデ。 内面：ナデ。	石英・長石・雲母	外面：黄灰 内面：黄灰	ミニチュア土器。
140	SD1010	P～S-20·21	覆土	壺	体部1/2		3.8	2.1		6.0		体部～底部	体部中位に最大径。	外面：ナデ。 内面：ナデ。	長石	外面：黄灰 内面：暗灰	ミニチュア土器。
141	SD1010	P～S-20·21	覆土	壺	底部1/1			2.0		1.7		底部	平底。	外面：ナデ。 内面：ナデ。	長石	外面：褐灰 内面：褐灰	ミニチュア土器。
142	SD1010	P～S-20·21	覆土	甕	口縁部1/6	24.0			22.0	5.5		口縁部	口縁部外反。口縁端部やや肥厚する。	外面：縦ハケ（7条／cm）。 口縁部内外面ナデ。 内面：摩滅のため不明。	石英・長石・片岩・雲母	外面：橙 内面：にぶい黄橙	
143	SD1010	P-21	覆土中部	甕	底部2/3			7.0		9.0		体部～底部	平底。体部は斜め上方に延びる。	外面：縦ヘラミガキ（幅5㎜／本）。 内面：摩滅のため不明。	石英・長石	外面：褐灰 内面：黄	
144	SD1010	P～S-20·21	覆土	高杯	口縁部1/7	20.4				4.0		口縁部	口縁部屈曲して直立。	摩滅のため不明。	石英	外面：明赤褐 内面：灰褐	
145	SD1010	P～S-20·21	覆土	高杯	脚部1/4				脚柱径6.7	9.8		脚部	脚部直立して体部は外方に延びる。	外面：縦ヘラミガキ（幅6㎜／本）。 内面：摩滅のため不明。	石英・長石・片岩	外面：赤 内面：赤	
146	SD1010	R-20	覆土	壺	体部破片					7.7		体部	外面に縦方向の櫛描文（5条／cm）。のち2条の横方向の櫛描文。間に波状文を施す。		石英・長石	外面：にぶい橙 内面：にぶい黄橙	
160	SD1011	S-20	覆土	壺	底部1/1			7.8		5.3		底部	僅かに上げ底。	摩滅のため不明。	石英・長石・片岩	外面：にぶい橙 内面：にぶい黄橙	

包含層（土器）

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	器種	残存率	口径(cm)	体部最大径(cm)	底径(cm)	頸部径(cm)	器高(cm)	その他の法量(cm)	部位	形態	調整	含有物組成	色調	備考
169		J-2	3層	壺	口縁部1/9	29.0			16.0	10.5		口縁～頸部	口縁部外反。頸部やや外反しながら上方へ延びる。	摩滅のため不明。	石英	外面：にぶい黄橙 内面：にぶい黄橙	
170		P-21	3層	壺	口縁部1/8	16.8				6.2		口縁～頸部	口縁部外反。頸部やや外反しながら上方へ延びる。	外面：縦ハケ（4条／cm）。 内面：摩滅のため不明。	石英・長石	外面：にぶい橙 内面：にぶい赤橙	
171		O-24	3層	壺	口縁部1/8	16.0			9.9	6.6		口縁～頸部	口縁部外反。口縁端部やや肥厚する。頸部やや外反しながら上方へ延びる。	外面：縦ハケ（13条／cm）。 内面：摩滅のため不明。	石英・長石・雲母	外面：橙 内面：口縁部 淡黄・頸部 黄灰	
172		Q-21	3層	壺	口縁部1/4	15.6				5.0		口縁部	口縁部外反。口縁端部外面に斜格子文を施す。	摩滅のため不明。	石英・長石	外面：明黄褐 内面：にぶい橙	
173		Q-11	3層	壺	口縁部1/10	19.9				3.7		口縁部	口縁部外反。口縁端部やや肥厚する。口縁端部外面に円形浮文。	外面：上位に横ハケ（14条／cm）。下位に縦ハケ（7条／cm）。 内面：ナデ。	石英・長石	外面：にぶい赤褐 内面：にぶい赤褐	
174		P-21	3層	壺	口縁部1/4	16.8				4.7		口縁部	口縁部外面に突帯が1条巡る。口縁部外反。頸部やや外反しながら上方へ延びる。口縁部3ヵ所に穿孔。	外面：口縁部ナデおよび突帯下に縦ハケ（4条／cm）。 内面：横ハケ（13条／cm）。	長石	外面：にぶい橙 内面：にぶい明黄褐	
175		W-14	2層	壺	底部1/4			15.0		7.1		底部	上げ底。体部は斜め上方に延びる。	外面：縦ハケ(8条／㎝) 内面：ヘラケズリのちナデおよびユビオサエ。	石英・長石・片岩・雲母	外面：橙 内面：明赤褐	
176		J-2	3層	壺	底部1/4			8.0		6.9		体部～底部	平底。体部は斜め上方に延びる。	外面：ヘラミガキ（幅5㎜／本）。 内面：摩滅のため不明。	石英・長石・片岩・赤色斑粒	外面：にぶい黄橙 内面：にぶい黄橙	
177		K-3	3層	壺	底部1/8			9.8		8.0		底部	平底。体部は斜め上方に延びる。	摩滅のため不明。	石英・長石・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：明黄褐	
178		S-20	4層	壺	底部1/1			8.8		5.2		底部	わずかに上げ底。体部は内彎しながら上方に延びる。	摩滅のため不明。	石英・片岩	外面：にぶい黄橙 内面：にぶい黄橙	

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	器種	残存率	口径(cm)	体部最大径(cm)	底径(cm)	頸部径(cm)	器高(cm)	その他の法量(cm)	部位	形態	調整	含有物組成	色調	備考
179		M-4	3層	壺	底部 1/1			7.3		5.2		底部	平底。体部は斜め上方に延びる。	摩滅のため不明。	石英・長石・雲母	外面：にぶい黄褐 内面：褐灰	
180		U-15	2層	壺	底部 1/1			8.6		3.1		底部	平底。体部は斜め上方に延びる。	外面：縦ヘラミガキ。 内面：摩滅のため不明。	石英・長石・片岩・雲母・赤色斑粒	外面：褐灰 内面：にぶい黄褐	
181		P-21	3層	壺	底部 1/1			7.5		2.9		底部	わずかに上げ底。体部は斜め上方に延びる。	外面：縦ヘラミガキ。 外底面：ナデ。 内面：摩滅のため不明。	石英・長石・片岩	外面：浅黄橙・灰黄褐 内面：褐灰	
182		U-15	2層	壺	口縁部 2/3	2.2	4.2			2.4		口縁部	口縁部外反。	摩滅のため不明。	石英	外面：淡黄 内面：浅黄橙	ミニチュア土器。
183		G-2	3層	甕	口縁部 1/8	18.6			18.0	7.7		口縁部	口縁部外反。口縁端部はやや上下に拡張。口縁端部外面に2条の凹線文。頸部外面に貼付突帯。	外面：ナデ。 内面：口縁部横ハケ（5条／cm）。体部ナデ。	石英・長石・赤色斑粒	外面：にぶい黄橙 内面：橙	
184		H-4	3層	甕	口縁部 1/10	16.8			15.0	3.3		口縁部	口縁部外反。口縁端部やや丸く収める。	外面：ナデ。 内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：にぶい橙	
185		V-15	2層	甕	口縁部 1/6	13.6			12.0	3.4		口縁部	口縁部「く」字状に外反。口縁部つまみ上げて端部は尖る。	外面：口縁部凹線1条。ナデ。 内面：口縁部ナデ。体部ケズリ。	長石・雲母・赤色斑粒	外面：にぶい橙 内面：にぶい橙	
186		M-3	3層	甕	口縁部 1/5	12.4			10.8	2.7		口縁部	口縁部「く」字状に外反。	摩滅のため不明。	石英・長石	外面：明赤褐 内面：橙	
187		O-21	3層	甕	底部 1/1			6.4		5.8		底部	平底。体部は斜め上方に延びる。	外面：縦ヘラミガキ（4㎜／本）。 内面：ユビオサエ。ハケ（5条／cm）。	石英・長石	外面：浅黄 内面：褐灰	
188		U-15	2層	甕	底部 1/3			6.5		5.6		底部	平底。体部は斜め上方に延びる。	外面：縦ヘラミガキ。 内面：縦ヘラケズリ。	長石	外面：にぶい赤褐 内面：褐灰	
189		H-2	3層	甕	底部 1/2			7.0		3.9		底部	平底。体部は斜め上方に延びる。	摩滅のため不明。	石英・長石・雲母・赤色斑粒	外面：にぶい橙 内面：にぶい橙	
190		S-10	3層	甕	底部 3/4			4.4		4.4		底部	上げ底。体部は斜め上方に延びる。	外面：縦ヘラミガキ。 外底面：ハケ。 内面：内底面ユビオサエ。	石英・長石	外面：にぶい黄橙 内面：にぶい黄橙	
191		H-4	3層	甕	底部 2/5			5.0		2.4		底部	平底。体部は斜め上方に延びる。	外面：ナデ。 内面：ユビオサエ。ナデ。	長石	外面：灰赤（黒斑あり） 内面：黄灰	
192		O-21	3層	バケツ形土器	底部 1/3			13.0		12.5		体部～底部	体部直立気味に上方に延びる。	外面：縦ヘラミガキ。 内面：摩滅のため不明。	石英・長石・赤色斑粒	外面：灰黄褐 内面：灰黄褐	
193		P-19	3層	高杯	杯部 1/6	30.0				5.8		口縁～杯部	口縁部屈曲して直立。	摩滅のため不明。	石英・長石・片岩・赤色斑粒	外面：にぶい橙 内面：にぶい褐	
194		V-9	2層	高杯	口縁部 1/10	19.7				4.0		口縁部	口縁部屈曲して直立。口縁端部やや肥厚する。	外面：ナデ。 内面：ナデ。	石英・長石・雲母	外面：にぶい黄 内面：にぶい黄橙	
195		P-10	3層	高杯	口縁部 1/6	19.2				3.0		口縁部	口縁部屈曲して直立。	外面：ナデ。 内面：ナデ。	石英・雲母	外面：黄灰 内面：褐灰	
196		H-2	3層	高杯	脚柱部 1/2				脚柱径 4.3	6.2		脚柱部	脚柱部直立して杯部外方に延びる。	外面：縦ヘラミガキ（幅3㎜／本）。 内面：縦ヘラケズリ。	雲母・赤色斑粒	外面：にぶい黄橙 内面：褐灰	
197		O-20	3層	高杯	脚柱部 1/4				脚柱径 4.2	4.5		脚柱部	脚柱部直立して杯部外方に延びる。	外面：縦ヘラミガキ（幅3㎜／本）。 内面：縦ヘラケズリ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：にぶい橙 内面：暗灰黄	
198		V-14	2層	高杯	脚部 1/4		8.2			5.4		脚部	脚部下方へ広がる。	外面：縦ヘラミガキ（3㎜／本）。 内面：縦ヘラケズリ。	雲母	外面：褐灰 内面：黄灰	
199		V-15	2層	蓋	上部 1/4					1.6		上部	扁平つまみ。	外面：ロクロナデ。 内面：ロクロナデ。	長石	外面：青灰 内面：青灰	須恵器。
200		R-16	2層	椀	底部 1/12			高台径 7.0		1.4		底部	削り出し高台。高台断面形は台形状を呈する。	外面：横ナデ。 外底面：ケズリ。 内面：横ナデ。	長石	外面：青灰 内面：青灰	須恵器。
201		Q-19	3層	短頸壺	口縁部 1/8	10.4	16.8			5.3		口縁～体部	口縁部短く直立する。口縁端部は丸く収める。	外面：横ナデ。 内面：横ナデ。	長石	外面：灰 内面：灰	須恵器。
202		X-14	2層	壺	底部 1/5			高台径 13.0		3.3		底部	削り出し高台。高台断面形は四角形状を呈する。	外面：ヘラケズリ。 外底面：ケズリ。 内面：横ナデ。	長石	外面：灰 内面：黄灰	須恵器。
203		W-17	3層	壺	底部 1/5			高台径 10.8		2.5		底部	削り出し高台。高台断面形は四角形状を呈する。	外面：横ナデ。 外底面：ケズリ。 内面：横ナデ。	長石	外面：灰 内面：灰	須恵器。
204		Q-20	3層	丸瓦	破片						縦15.0 横9.4 厚さ2.0	不明	彎曲する。	外面：タタキ。 内面：布目痕。	長石	外面：灰黄褐 内面：灰黄褐	須恵質。

SB（石器）

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	石材	器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	その他の法量（cm）	残存率	部位	備考
1	SB1001	Q-16	EH-1覆土	サヌカイト	楔形石器	2.8	2.6	0.7	4.1		4/5		刃部一部欠損。
2	SB1002	H-6	床面直上	サヌカイト	石鏃	2.4	1.5	0.3	0.8		1/1		凹基。
3	SB1002	H-6	床面直上	サヌカイト	石核	4.8	3.1	2.2	28.0		1/1		自然面残存。打面転移しながら剥片剥離。
4	SB1002	H-6	床面直上	サヌカイト	R-フレーク	2.8	1.8	0.3	1.0		1/1		側縁に細かな剥離。
5	SB1002	H-6	床面直上	サヌカイト	剥片	3.8	3.0	0.8	5.6		1/1		一部欠損。
7	SB1003	K-7	覆土下部	サヌカイト	石鏃	3.4	2.0	0.5	2.1		1/1		有茎。丁寧な調整剥離を施す。
8	SB1003	K-7	覆土下部	サヌカイト	石鏃	3.7	1.6	0.5	2.3		1/1		有茎。丁寧な調整剥離を施す。
9	SB1003	K-7	覆土上部	サヌカイト	楔形石器	3.8	5.3	0.6	9.9		3/4		刃部・側縁一部欠損。
10	SB1003	K-7	覆土上部	サヌカイト	剥片	2.3	3.5	0.3	2.3		1/1		一部欠損。
11	SB1003	K-7	覆土上部	サヌカイト	剥片	3.8	5.2	1.0	19.1		1/1		幅広の剥片の下端および左側縁を折断。
12	SB1003	K-7	覆土	片岩	柱状片刃石斧	13.5	3.5	3.9	397.0		1/1		整形時の敲打痕が残る。刃部使用痕顕著。刃部左側再生。基部背面に抉り。
15	SB1004	L-3	覆土	サヌカイト	楔形石器	2.8	2.7	1.1	7.1		1/1		幅広の剥片の両側縁を折断して整形。
16	SB1004	L-3	覆土	サヌカイト	楔形石器	2.5	2.4	0.8	4.2		1/1		幅広の剥片の左側縁を折断して整形。
17	SB1004	L-3·4	覆土	サヌカイト	楔形石器	2.4	2.2	0.5	2.1		1/1		幅広の剥片の両側縁を折断して整形。
18	SB1004	L-3·4	覆土	サヌカイト	石鏃	2.3	1.8	0.5	1.8		1/1		未製品。
19	SB1004	L-3·4	覆土	サヌカイト	楔形石器	3.1	3.3	0.8	8.7		4/5		幅広で厚手の剥片を使用。
30	SB1005	I·J-2·3	覆土	サヌカイト	石鏃	2.4	1.8	0.6	2.5		1/1		平基。
31	SB1005	I·J-2·3	覆土下部	サヌカイト	楔形石器	3.4	2.2	0.8	6.0		1/1		幅広で厚手の剥片を使用。剥片の上端および左側縁を折断して整形。
32	SB1005	I·J-2·3	覆土上部	サヌカイト	楔形石器	2.6	2.5	0.8	4.1		1/1		幅広の剥片の下端および左側縁を折断。
33	SB1005	I·J-2·3	覆土上部	サヌカイト	剥片	1.8	2.6	0.4	1.8		1/1		幅広の剥片の下端および左側縁を折断。
34	SB1005	I·J-2·3	床面直上	片岩	扁平片刃石斧	12.7	4.4	2.3	139.0		1/1		側面に敲打痕が残る。刃部に擦痕。
36	SB1006	G-3	覆土	砂岩	台石	15.2	18.9	3.9	1266.0		1/1		表面下位に敲打痕。
37	SB1007	C-6	3層	砂岩	台石	36.5	30.3	8.9	12480.0		1/2		扁平な自然亜角礫を用いる。表面中央に弱い敲打痕。
38	SB1007	C-6	3層	砂岩	台石	19.2	25.3	6.6	4670.0		1/1		扁平な自然亜角礫を用いる。表面に敲打痕。
39	SB1007	C-6	3層	砂岩	砥石	28.5	11.6	10.1	4850.0		1/2		表面に弱い磨滅痕。
42	SB1008	T-15	覆土下部	サヌカイト	削器	2.9	4.9	0.7	7.7		1/1		凹刃。幅広の横長剥片を折断して使用。
43	SB1008	T-16	覆土上部	サヌカイト	楔形石器	2.3	2.3	0.6	3.2		1/1		幅広の剥片を折断して整形。
44	SB1008	T-16	覆土上部	サヌカイト	楔形石器	3.7	2.9	1.2	12.1		1/1		幅広の剥片を折断して整形。
45	SB1008	T-16	覆土下部	サヌカイト	石核	5.5	5.9	3.4	122.8		1/1		自然面残存。打面転移しながら剥片剥離。
46	SB1008	T-16	覆土下部	玄武岩	太形蛤刃石斧	15.6	7.9	5.1	1149.0		1/1		刃部使用痕顕著。器体全面に整形時の敲打痕が残る。
47	SB1008	T-15	覆土上部	砂岩	敲石	14.5	12.2	3.4	842.2		1/1		表・裏面に敲打痕。
49	SB1009	U・V-12	覆土	サヌカイト	楔形石器	2.4	2.7	0.9	5.0		4/5		刃部一部欠損。
50	SB1009	U・V-12	覆土	サヌカイト	楔形石器	2.4	2.0	1.3	6.7		4/5		刃部一部欠損。
51	SB1009	U-12	床面直上	サヌカイト	剥片	2.9	6.5	2.7	49.4		1/1		横長剥片。
52	SB1010	X-12	覆土下部	サヌカイト	楔形石器	2.8	2.8	0.9	6.1		4/5		刃部一部欠損。
53	SB1010	X-12	覆土	玄武岩	太形蛤刃石斧	14.2	7.0	4.8	754.0		4/5		刃部一部欠損。
64	SB1011	P·Q-19·20	覆土	サヌカイト	石鏃	3.8	1.2	0.3	1.2		1/1		有茎。茎部長は全長の約1/2を占める。
65	SB1011	P·Q-19·20	覆土	サヌカイト	石鏃	2.9	1.3	0.9	2.8		1/1		有茎。茎部長は全長の約1/2を占める。厚手の剥片を使用。
66	SB1011	P·Q-19·20	覆土	サヌカイト	石鏃	2.6	1.2	0.3	0.9		1/1		平基。基部右側一部欠損。
67	SB1011	P·Q-19·20	床面直上	サヌカイト	石鏃	2.6	1.4	0.3	1.1		1/1		平基の三角形鏃。基部は丸みをもつ。
68	SB1011	P-19	覆土	サヌカイト	石鏃	2.5	1.6	0.5	1.8		1/1		平基。尖端部欠損。
69	SB1011	P·Q-19·20	覆土	サヌカイト	石鏃	2.4	1.6	0.3	1.5		1/1		平基。尖端部欠損。
70	SB1011	P·Q-19·20	床面直上	サヌカイト	石鏃	2.7	1.8	0.4	1.7		1/1		平基。三角形の形態。
71	SB1011	P·Q-19·20	床面直上	サヌカイト	石鏃	2.7	1.7	0.4	1.5		1/1		平基の三角形鏃。
72	SB1011	P·Q-19·20	覆土	サヌカイト	石鏃	1.6	2.0	0.4	1.5		1/1		平基。三角形鏃。
73	SB1011	P·Q-19·20	覆土	サヌカイト	石鏃	1.2	1.2	0.3	0.4		1/1	尖端部	基部欠損。74と同一個体。
74	SB1011	P·Q-19·20	覆土	サヌカイト	石鏃	2.3	1.9	0.5	2.1		1/1		凹基。尖端部欠損。73と同一個体。
75	SB1011	P·Q-19·20	覆土	サヌカイト	石鏃	2.2	1.7	0.5	2.1		1/1		平基。尖端部欠損。
76	SB1011	P·Q-19·20	床面直上	サヌカイト	石鏃	2.5	1.3	0.4	1.0		1/1		凹基。
77	SB1011	P·Q-19·20	覆土	サヌカイト	石鏃	3.1	1.8	0.7	2.4		1/1		平基。尖端部欠損。厚手で細身。
78	SB1011	P·Q-19·20	覆土	サヌカイト	削器	2.7	3.8	0.4	2.8		1/1		横長剥片の下端に平刃の刃部を作出。素材となる剥片は折断して整形。
79	SB1011	P-19	覆土	サヌカイト	楔形石器	2.2	1.5	0.8	3.2		1/1		厚手の横長剥片を折断して整形。
80	SB1011	P·Q-19·20	覆土	サヌカイト	楔形石器	2.5	1.0	0.9	1.9		1/1		厚手の横長剥片の両側縁を折断して整形。
81	SB1011	P-19	覆土	サヌカイト	楔形石器	3.9	2.4	0.9	8.7		1/1		幅広で厚手の剥片を折断して整形。
82	SB1011	P·Q-19·20	覆土	サヌカイト	楔形石器	1.7	2.2	0.9	7.1		1/1		厚手の横長剥片を折断して整形。
83	SB1011	P·Q-19·20	覆土	サヌカイト	楔形石器	1.9	2.2	0.9	3.7		1/1		厚手の横長剥片を用いる。丁寧な周縁調整を施し、平面形は方形を呈する。
84	SB1011	P·Q-19·20	覆土	サヌカイト	楔形石器	1.9	2.2	0.6	2.3		1/1		厚手の横長剥片を折断して整形。

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	石材	器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	その他の法量（cm）	残存率	部位	備考
85	SB1011	P·Q-19·20	覆土	サヌカイト	楔形石器	2.2	2.4	0.9	6.6		1/1		厚手の横長剥片の両側縁および下端を折断して整形。
86	SB1011	P·Q-19·20	覆土	サヌカイト	楔形石器	3.5	2.9	0.8	7.7		1/1		幅広で厚手の剥片を折断して整形。
87	SB1011	P-19	覆土	サヌカイト	石錐	2.3	2.1	0.5	2.1		4/5		刃部尖端部欠損。
88	SB1011	P·Q-19·20	覆土	サヌカイト	石錐	3.1	1.4	0.5	1.5		1/2	錐部	基部欠損。刃部断面は六角形状を呈する。
89	SB1011	P-19	覆土	サヌカイト	石錐	2.0	0.7	0.3	0.3		1/5	錐部	断面形は菱形状。
90	SB1011	P·Q-19·20	覆土	サヌカイト	R-フレーク	3.2	2.5	0.5	4.3		1/1		縦長剥片の打点側折断。表面に擦痕。
91	SB1011	P·Q-19·20	覆土	サヌカイト	剥片	2.7	2.4	0.4	2.7		1/1		横長剥片。
92	SB1011	P-19	覆土	サヌカイト	剥片	1.5	3.0	0.4	2.2		1/1		横長剥片の下端および左側縁を折断。
93	SB1011	P·Q-19·20	覆土	サヌカイト	剥片	1.9	4.6	0.6	3.2		1/1		横長剥片。
94	SB1011	P·Q-19·20	覆土	サヌカイト	剥片	3.0	2.8	0.6	5.1		1/1		横長剥片。
95	SB1011	P·Q-19·20	覆土	玄武岩	太形蛤刃石斧	14.5	7.1	4.6	730.0		4/5		刃部一部欠損。刃部擦痕顕著。
96	SB1011	Q-20	覆土	片岩	扁平片刃石斧	6.6	2.7	1.9	48.5		1/1		表・裏・側面に擦痕。刃部使用痕顕著。
97	SB1011	Q-19	覆土	砂岩	敲石	11.9	6.5	3.8	332.0		1/1		上・下および右側縁に敲打痕。
98	SB1011	Q-19	覆土	砂岩	台石	24.8	31.5	8.5	10315.0		1/1		扁平な自然亜角礫を用いる。表面に弱い敲打痕。
99	SB1011	P·Q-19·20	床面直上	砂岩	砥石	23.6	19.1	7.9	4600.0		1/1		表・裏面に磨滅痕。

SD（石器）

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	石材	器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	その他の法量（cm）	残存率	部位	備考
101	SD1002	H·I-4	覆土下部	サヌカイト	石鏃	4.5	2.9	0.5	5.2		4/5		有茎。尖端部一部欠損。
103	SD1003	J·K-3·4	覆土下部	サヌカイト	剥片	6.4	4.0	2.0	58.9		1/1		表面に自然面残存。
106	SD1004	Q-9	覆土上部	サヌカイト	楔形石器	2.7	2.9	0.9	5.1		1/1		厚手の剥片を素材とする。
107	SD1004	Q-9	覆土下部	サヌカイト	剥片	12.8	20.2	3.7	370.5		1/1		自然面残存。
108	SD1005	U-13	覆土下部	サヌカイト	石錐	2.4	1.8	0.5	1.8		1/1		刃部尖端部欠損。
109	SD1005	U-13	覆土下部	サヌカイト	剥片	1.6	1.4	0.3	0.4		1/1		横長剥片。
110	SD1005	R-19	覆土中部	片岩	柱状片刃石斧	10.8	2.2	3.1	140.5		1/1		刃部使用痕顕著。刃部左側再生。基部背面に抉り。被熱により一部赤く変色。
113	SD1007	V-14·15	覆土下部	サヌカイト	石鏃	2.0	1.5	0.4	1.2		1/1		凸基。基部は丸みをもつ。
114	SD1007	V-14·15	覆土下部 EK-1直上	サヌカイト	剥片	2.0	3.2	0.3	1.5		1/1		横長剥片。
115	SD1007	V-14·15	覆土下部 EK-1直上	サヌカイト	楔形石器	7.0	4.3	1.1	321.6		1/1		厚手の剥片を素材とする。残核転用。
116	SD1007	V-14·15	覆土下部	結晶片岩	石庖丁	12.5	5.6	0.7	59.0		1/1		素材となる剥片の両側縁に直線状の刃部を作出。
117	SD1007	V-14·15	覆土下部	結晶片岩	石庖丁	12.0	5.0	0.9	51.0		1/1		刃部の作出は弱い。
118	SD1007	V-14·15	覆土下部	片岩	柱状片刃石斧	11.1	2.2	1.9	83.0		1/2		1/2欠損。刃部に擦痕。
121	SD1009	R-19	覆土	サヌカイト	楔形石器	4.9	2.3	0.8	9.4		1/1		厚手の横長剥片の両側縁を折断して整形。
122	SD1009	R-19	覆土	サヌカイト	楔形石器	4.5	1.9	0.9	7.9		1/1		厚手の横長剥片を折断して整形。
123	SD1009	R-19	覆土	サヌカイト	R-フレーク	1.8	3.1	0.7	3.3		1/1		横長剥片を折断して器形を整える。
124	SD1009	R-19	覆土	砂岩	敲石	10.2	5.1	4.2	296.0		1/1		自然円礫を用いる。上下および左側縁に敲打痕。
147	SD1010	R-20	覆土	サヌカイト	石鏃	2.9	1.1	0.4	1.2		1/1		凸基。器形は菱形を呈する。
148	SD1010	P～S-20·21	覆土	サヌカイト	石鏃	3.6	2.7	0.6	4.8		2/3		未製品。尖端部欠損。
149	SD1010	R-20	覆土	サヌカイト	石鏃	2.9	2.1	0.6	3.1		1/1		尖端部および基部一部欠損。
150	SD1010	P～S-20·21	覆土	サヌカイト	石鏃	3.2	2.5	0.6	4.3		1/1		凹基。尖端部欠損。
151	SD1010	R-20	覆土	サヌカイト	石錐	3.3	1.1	0.4	1.2		1/1		横長剥片を素材とする。
152	SD1010	R-20	覆土	サヌカイト	楔形石器	4.5	4.2	1.1	17.1		1/1		厚手の横長剥片を折断して整形。
153	SD1010	P～S-20·21	覆土下部	サヌカイト	楔形石器	2.8	4.3	0.7	9.6		1/1		厚手の横長剥片の右側縁を折断して整形。
154	SD1010	R-20	覆土	サヌカイト	R-フレーク	3.0	3.6	0.8	8.0		1/1		厚手の横長剥片。
155	SD1010	P～S-20·21	覆土	サヌカイト	R-フレーク	3.8	2.0	0.4	2.5		4/5		横長剥片。上部欠損。
156	SD1010	R-20	覆土	サヌカイト	剥片	5.7	7.0	2.0	57.0		1/1		横長剥片。
157	SD1010	P～S-20·21	覆土	砂岩	台石	20.3	13.6	4.4	1350.4		4/5		表裏面に敲打痕。
158	SD1010	P～S-20·21	覆土	砂岩	台石	15.4	15.5	8.7	1889.0		1/4		上端部および表面に敲打痕。
159	SD1010	P～S-20·21	覆土	砂岩	台石	19.0	22.5	9.3	4900.0		1/2		表·裏面に敲打痕。裏面左側縁に擦り面。
161	SD1011	S-20	覆土	サヌカイト	石鏃	3.2	1.7	0.6	2.2		1/1		凸基の三角形鏃。基部はやや丸みを帯びる。
162	SD1011	S-20	覆土	サヌカイト	石鏃	2.3	1.1	0.4	0.8		1/1		有茎。尖端部欠損。
163	SD1011	S-20	覆土	サヌカイト	楔形石器	3.4	2.0	1.1	6.4		1/1		厚手の横長剥片を折断して整形。
164	SD1011	S-20	覆土	サヌカイト	石錐	2.7	1.7	0.6	2.9		1/1		横長剥片を折断して器形を整える。
165	SD1011	S-20	覆土	サヌカイト	剥片	1.5	3.6	0.5	1.5		1/1		横長剥片。

SP（石器）

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	石材	器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	その他の法量（cm）	残存率	部位	備考
166	SP1008	Q-20	覆土	サヌカイト	石鏃	2.2	1.2	0.4	0.8		1/1		平基。三角形鏃。
167	SP1008	Q-20	覆土	サヌカイト	石鏃	3.1	1.1	0.3	0.9		1/2		凹基。三角形鏃。右半分欠損。
168	SP1008	Q-20	覆土	サヌカイト	楔形石器	2.7	3.5	0.7	5.9		1/1		厚手の剥片を素材とする。

包含層（石器）

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	石材	器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	その他の法量（cm）	残存率	部位	備考
205			3層	サヌカイト	石鏃	4.6	2.6	0.6	3.5		1/1		有茎。
206		TP3		サヌカイト	石鏃	4.1	1.6	0.6	3.4		1/1		有茎。
207		V-14	2層	サヌカイト	石鏃	3.8	1.7	0.9	5.4		1/1		有茎。厚手の剥片を素材とする。
208		U-15	2層	サヌカイト	石鏃	3.8	1.2	0.4	1.9		1/1		有茎。
209		I-3	3層	サヌカイト	石鏃	3.3	1.3	0.6	2.0		1/1		有茎。尖端部欠損。
210		U-12	2層	サヌカイト	石鏃	4.5	2.3	0.6	6.8		4/5		有茎。茎部一部欠損。
211		V-12	2層	サヌカイト	石鏃	3.7	1.8	0.5	3.2		1/1		有茎。茎部一部欠損。
212		V-15	3層	サヌカイト	石鏃	3.2	2.2	0.6	2.5		4/5		有茎。尖端部および基部一部欠損。
213		S-20	3層	サヌカイト	石鏃	2.9	1.6	0.5	2.3		1/1		有茎。
214		U-15	3層	サヌカイト	石鏃	2.2	1.9	0.4	1.4		1/1		有茎。茎部一部欠損。
215		R-20	3層	サヌカイト	石鏃	1.9	1.9	0.4	1.3		1/2		有茎。上半部欠損。
216		V-15	3層	サヌカイト	石鏃	2.5	1.4	0.3	1.6		4/5		有茎。茎部一部欠損。
217		V-15	3層	サヌカイト	石鏃	3.0	2.2	0.5	2.4		4/5		有茎。未製品。尖端部欠損。
218		Q-20	3層	サヌカイト	石鏃	2.2	1.4	0.3	1.1		1/2		有茎。茎部欠損。
219		S-20	3層	サヌカイト	石鏃	3.8	1.4	0.4	1.6		1/1		凸基。基部は丸味をもつ。
220		R-18	3層	サヌカイト	石鏃	3.7	1.4	0.5	2.7		4/5		凸基。尖端部および基部一部欠損。
221		T-15	2層	サヌカイト	石鏃	2.3	1.3	0.4	1.5		1/2		凸基。尖端部および基部一部欠損。
222		J-4	3層	サヌカイト	石鏃	3.6	1.8	0.7	4.5		1/1		凸基。基部欠損。
223		P-21		サヌカイト	石鏃	3.6	1.9	0.5	2.9		1/1		未製品。
224		U-15	2層	サヌカイト	石鏃	2.7	1.6	0.4	1.7		1/1		凸基。
225		R-20	3層	サヌカイト	石鏃	2.1	1.1	0.4	0.8		1/1		凸基。
226		V-15	2層	サヌカイト	石鏃	2.6	2.0	0.4	2.0		4/5		未製品。一部欠損。
227		P-15	3層	サヌカイト	石鏃	2.0	1.6	0.3	1.2		1/1		平基。三角形鏃。
228		W-16	3層	サヌカイト	石鏃	1.7	1.1	0.6	1.2		1/2	鏃身部	有茎。茎部欠損。
229		X-13	2層	サヌカイト	石鏃	4.4	2.0	0.5	4.5		1/1		平基。三角形鏃。尖端部一部欠損。
230			3層	サヌカイト	石鏃	3.2	1.6	0.6	2.7		1/1		平基。三角形鏃。尖端部一部欠損。
231		U-15	2層	サヌカイト	石鏃	3.0	1.7	0.4	2.0		1/1		平基。五角形鏃。
232		Q-19		サヌカイト	石鏃	3.3	1.9	0.3	1.8		1/1		平基。三角形鏃。
233		W-13	2層	サヌカイト	石鏃	3.2	2.0	0.4	2.0		1/1		平基。三角形鏃。
234		R-19	3層	サヌカイト	石鏃	3.3	1.6	0.4	2.2		4/5		凹基。三角形鏃。左側縁一部欠損。
235		S-18	3層	サヌカイト	石鏃	4.1	1.6	0.5	2.1		1/1		平基。三角形鏃。
236		S-18	3層	サヌカイト	石鏃	2.7	1.6	0.5	2.4		1/1		平基。三角形鏃。
237		T-14	2層	サヌカイト	石鏃	2.7	1.5	0.6	1.6		1/2		平基。器体右側欠損。
238		Q-20	3層	サヌカイト	石鏃	3.1	2.2	0.4	2.3		1/1		平基。三角形鏃。
239		Q-9	2層	サヌカイト	石鏃	2.5	1.9	0.4	1.6		1/1		平基。五角形鏃。
240		U-13	2層	サヌカイト	石鏃	2.1	1.8	0.3	0.9		1/1		未製品。
241		R-19	3層	サヌカイト	石鏃	2.4	1.5	0.4	1.1		1/1		未製品。
242		U-12	3層	サヌカイト	石鏃	2.1	1.4	0.3	0.9		1/1		平基。三角形鏃。
243		G-2	2層	サヌカイト	石鏃	2.6	2.4	0.3	1.0		1/1		未製品。
244		W-9	2層	サヌカイト	石鏃	2.4	1.3	0.4	0.9		1/3	茎部	有茎。鏃身部欠損。
245		J-2	3層	サヌカイト	石鏃	2.6	1.7	0.4	2.1		1/1		凹基。三角形鏃。

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	石材	器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	その他の法量（cm）	残存率	部位	備考
246		Q-19	3層	サヌカイト	石鏃	2.1	1.7	0.6	1.7		1/1		凹基。
247		Q-20	3層	サヌカイト	石鏃	4.0	2.8	0.7	5.9		2/3		平基。三角形鏃。基部一部欠損。
248		P-21		サヌカイト	石剣	8.7	2.9	1.3	41.5		1/2	下半部	器体上半部欠損。両面に丁寧な調整加工を施す。横断面は凸レンズ状を呈する。
249		V-14	3層	サヌカイト	石庖丁	5.1	9.3	0.8	49.0		1/1		一部欠損。横長剥片の打点側縁辺に直線状の刃部を作出。
250		R-20	3層	片岩	石庖丁	4.9	5.6	0.7	23.0		1/2		素材となる剥片の両側縁に直線状の刃部を作出。
251		V-14	2層	サヌカイト	削器	7.8	10.5	1.6	91.2		1/1		横長剥片の一側縁に直線状の刃部を作出。
252		U-9	2層	サヌカイト	削器	10.0	7.1	1.5	99.0		1/1		素材となる横長剥片の打点側に直線状の刃部を作出。
253		G-3	3層	サヌカイト	削器	4.6	7.6	0.6	25.8		1/1		横長剥片を素材として下側縁に凸刃を作出。
254		V-14	2層	サヌカイト	削器	3.5	6.6	0.9	20.5		4/5		一部欠損。横長剥片の一側縁に円弧状の刃部を作出。
255		W-17	3層	サヌカイト	削器	3.2	3.9	0.6	8.4		1/1		厚手の横長剥片の打点側側縁および両側縁を折断して整形。下側縁に直線状の刃部を作出。
256		T-14	2層	サヌカイト	削器	2.5	3.4	0.5	4.1		1/3		素材となる剥片の側縁に直線状の刃部を作出。
257		V-15	3層	サヌカイト	楔形石器	4.6	3.2	1.6	16.3		1/1		厚手の横長剥片の両側縁を折断して整形。
258		G-2	3層	サヌカイト	楔形石器	5.3	2.5	1.4	10.9		1/1		厚手の横長剥片の両側縁を折断して整形。
259		J-4	3層	サヌカイト	楔形石器	5.4	4.5	1.3	22.2		1/1		厚手の横長剥片を折断して整形。裏面に自然面残存。
260		J-3	3層	サヌカイト	楔形石器	5.0	3.3	1.0	14.3		1/1		厚手の横長剥片を折断して整形。右側縁に自然面残存。
261		R-21	3層	サヌカイト	楔形石器	4.0	4.7	1.0	13.4		1/1		厚手の横長剥片の両側縁および上部を折断して整形。
262		P-22		サヌカイト	楔形石器	3.3	3.6	0.8	5.2		1/1		厚手の横長剥片を折断して整形。
263		R-20	3層	サヌカイト	楔形石器	3.8	1.4	0.9	3.9		1/1		厚手の横長剥片の両側縁を折断して整形。
264		V-12	2層	サヌカイト	楔形石器	3.1	1.5	0.7	2.5		1/1		厚手の横長剥片を折断して整形。上下端部欠損。
265		X-14	2層	サヌカイト	楔形石器	3.8	2.5	1.1	9.9		1/1		厚手の横長剥片の両側縁を折断して整形。
266		U-15	2層	サヌカイト	楔形石器	5.2	1.9	1.2	11.4		1/1		厚手の横長剥片を折断して整形。
267		P-17	3層	サヌカイト	楔形石器	5.1	3.2	1.2	24.1		1/1		厚手の横長剥片の両側縁を折断して整形。
268		V-14	2層	サヌカイト	楔形石器	3.9	1.9	0.8	7.8		1/1		厚手の横長剥片の両側縁を折断して整形。
269		V-14	2層	サヌカイト	楔形石器	3.6	3.1	1.1	15.1		1/1		厚手の横長剥片の両側縁および上部を折断して整形。
270		U-15	2層	サヌカイト	楔形石器	3.8	3.3	0.7	8.3		1/1		厚手の横長剥片を用いる。
271		R-20	3層	サヌカイト	楔形石器	3.7	3.5	1.3	13.8		1/1		厚手の横長剥片の右側縁および上部を折断して整形。
272		P-21		サヌカイト	楔形石器	3.3	3.0	1.1	13.1		1/1		厚手の横長剥片を折断して整形。
273		T-14	2層	サヌカイト	楔形石器	2.4	3.0	0.7	6.3		1/1		厚手の横長剥片を折断して整形。
274		T-14	2層	サヌカイト	楔形石器	2.5	2.6	0.8	6.4		1/2		厚手の横長剥片の両側縁および下部を折断して整形。
275		W-13	2層	サヌカイト	楔形石器	2.6	2.3	0.7	5.3		1/1		厚手の横長剥片の両側縁を折断して整形。
276		V-13	2層	サヌカイト	楔形石器	2.5	3.1	0.5	4.4		1/1		厚手の横長剥片を折断して整形。
277		U-15	2層	サヌカイト	楔形石器	3.5	4.5	1.7	19.8		1/1		厚手の横長剥片を折断して整形。
278		P-22		サヌカイト	楔形石器	3.7	4.0	0.9	14.4		1/1		厚手の横長剥片を用いる。
279		P-21		サヌカイト	楔形石器	3.1	4.1	1.2	18.4		1/1		厚手の横長剥片の両側縁を折断して整形。
280		R-19	3層	サヌカイト	楔形石器	2.7	3.8	0.5	3.2		2/3		厚手の横長剥片を折断して整形。
281		V-15	3層	サヌカイト	楔形石器	4.4	3.7	0.9	15.0		1/1		厚手の横長剥片を用いる。右側縁に自然面残存。
282		T-14	2層	サヌカイト	楔形石器	4.6	3.1	1.2	11.2		1/2		厚手の横長剥片を用いる。器体右側欠損。左側縁に自然面残存。
283		R-19	3層	サヌカイト	楔形石器	2.5	3.2	1.2	9.2		1/1		厚手の横長剥片の両側縁を折断して整形。一部自然面残存。
284		T-14	2層	サヌカイト	楔形石器	2.4	2.4	0.8	5.0		1/1		厚手の横長剥片を折断して整形。右側縁に自然面残存。
285		V-15	2層	サヌカイト	楔形石器	3.1	6.9	1.2	22.5		1/1		厚手の横長剥片を用いる。自然面一部残存。
286		T-14	2層	サヌカイト	楔形石器	2.8	3.2	0.6	5.4		1/1		厚手の横長剥片を折断して整形。

報告書掲載番号	遺　構	出土地点	層　位	石　材	器　種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	その他の法量（cm）	残存率	部　位	備　　考
287		I-2	3層	サヌカイト	楔形石器	2.9	5.4	1.0	13.7		1/1		厚手の横長剥片を折断して整形。
288		P-20	3層	サヌカイト	楔形石器	2.6	2.6	1.1	7.4		1/1		厚手の横長剥片を折断して整形。
289		W-10	1層	サヌカイト	楔形石器	3.3	3.8	0.9	9.5		1/1		厚手の横長剥片を折断して整形。
290		Q-20	3層	サヌカイト	楔形石器	2.3	3.5	0.7	4.9		1/1		厚手の横長剥片を折断して整形。
291		P-23	3層	サヌカイト	楔形石器	5.8	4.4	1.6	39.8		1/1		厚手の横長剥片の両側縁を折断して整形。
292		R-19	3層	サヌカイト	楔形石器	1.7	3.2	0.6	3.1		1/1		厚手の横長剥片の両側縁を折断して整形。
293		O-25	3層	サヌカイト	楔形石器	1.6	1.9	0.9	1.6		1/1		厚手の横長剥片を折断して整形。
294		U-15	2層	サヌカイト	楔形石器	5.6	9.7	2.2	76.6		1/1		厚手の横長剥片を用いる。
295		P-21	3層	サヌカイト	楔形石器	5.1	7.7	1.2	45.3		1/1		厚手の横長剥片を用いる。
296		H-2	3層	サヌカイト	楔形石器	5.2	7.0	1.1	35.4		1/1		厚手の横長剥片を素材とする。
297		U-18	3層	サヌカイト	楔形石器	5.8	4.6	0.9	30.6		1/1		厚手の横長剥片の両側縁を折断して整形。
298		V-14	2層	サヌカイト	剥片	3.8	4.1	0.8	5.4		1/1		横長剥片。
299		X-12	2層	サヌカイト	剥片	3.1	3.6	0.5	4.8		1/1		横長剥片。
300		W-13	2層	サヌカイト	剥片	1.9	3.2	0.4	1.8		1/1		横長剥片。
301		V-15	3層	サヌカイト	剥片	2.9	4.9	0.5	6.9		4/5		横長剥片。
302		P-22		サヌカイト	剥片	4.5	4.0	0.8	12.3		1/1		厚手の横長剥片。
303		U-15	2層	サヌカイト	剥片	2.8	2.7	0.6	4.3		1/1		横長剥片。
304		T-21	3層	サヌカイト	剥片	4.1	2.8	0.6	7.8		1/1		横長剥片。
305		X-14	2層	サヌカイト	剥片	1.6	3.7	0.8	4.1		1/1		横長剥片。
306		H-2	3層	サヌカイト	剥片	3.6	2.6	0.9	5.2		1/1		横長剥片。
307		P-20	3層	サヌカイト	剥片	2.9	3.8	0.7	6.3		1/1		横長剥片。
308		J-2	3層	サヌカイト	剥片	2.5	3.5	0.4	2.8		1/1		横長剥片。
309		S-19	3層	サヌカイト	剥片	1.8	4.0	0.6	2.7		1/1		横長剥片。
310		Q-18	3層	サヌカイト	剥片	2.9	2.6	0.6	3.9		1/1		横長剥片。
311		Q-9	2層	サヌカイト	剥片	3.0	3.6	0.5	2.3		1/1		横長剥片。
312		U-15	2層	サヌカイト	剥片	3.5	2.8	0.6	6.0		1/1		横長剥片。
313		J-3	3層	サヌカイト	剥片	2.5	3.3	0.6	4.5		1/1		横長剥片。
314		H-6	3層	サヌカイト	剥片	2.5	2.8	0.6	3.7		1/1		横長剥片。
315		U-18	3層	サヌカイト	剥片	2.8	2.7	0.5	2.4		1/2		横長剥片。
316		S-20	3層	サヌカイト	剥片	1.9	2.8	0.3	1.4		1/1		横長剥片。
317		U-15	3層	サヌカイト	剥片	1.7	2.6	0.3	1.3		1/1		横長剥片。
318		Q-18	3層	サヌカイト	剥片	2.6	1.7	0.3	1.4		1/1		横長剥片。
319		R-10	2層	サヌカイト	R-フレーク	2.5	1.7	0.6	1.8		1/1		右側縁に調整痕。
320		V-15	3層	サヌカイト	剥片	1.2	1.4	0.2	0.3		1/1		横長剥片。
321		B-6	3層	サヌカイト	剥片	7.7	8.4	1.3	66.9		1/1		横長剥片。
322		L-8	3層上部	サヌカイト	剥片	4.9	7.3	0.7	18.9		1/1		横長剥片。
323		U-18	3層	サヌカイト	剥片	4.3	7.1	0.8	26.2		1/1		横長剥片。上・右側縁部自然面残存。
324		H-3	3層	サヌカイト	剥片	8.0	5.2	1.0	38.8		1/1		横長剥片。自然面一部残存。
325		T-15	2層	サヌカイト	剥片	7.7	6.1	1.3	63.6		1/2		表面に自然面残存。
326		U-15	2層	玄武岩	太形蛤刃石斧	17.6	7.4	5.4	1216.0		1/1		刃部一部欠損。
327		V-14	3層	玄武岩	太形蛤刃石斧	12.9	7.2	5.2	905.0		4/5		刃部・基部欠損。

報告書掲載番号	遺　構	出土地点	層　位	石　材	器　種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	その他の法量（cm）	残存率	部　位	備　　考
328		U-15	2層	片岩	柱状片刃石斧	14.7	2.0	1.9	88.0		1/4		刃部に擦痕。側縁に整形時の敲打痕が残る。
329		I-3	3層	片岩	扁平片刃石斧	6.5	4.0	2.0	100.0		2/3	下半部	刃部欠損。
330		J-3	3層	泥岩	磨製石斧	6.0	1.2	0.7	8.1		1/1		円柱状の礫を素材として刃部を作出。
331		W-14	2層	砂岩	敲石	11.9	10.1	9.1	1589.0		1/1		自然円礫を用いる。裏面を除く全面に敲打痕。裏面に磨滅痕(磨石として使用)。
332		K-3	3層	砂岩	敲石	9.6	8.3	5.5	575.0		1/1		やや扁平な円礫を用いる。側縁全周に敲打痕。
333		T-10	2層	砂岩	敲石	12.8	9.8	4.5	751.0		1/1		扁平な自然円礫を用いる。
334		K-3	3層	砂岩	敲石	11.7	7.5	5.0	560.0		1/1		自然亜角礫を用いる。上端に敲打痕。
335		W-13 P-18	2層	斑レイ岩	敲石	3.7 7.4	3.7 5.3	5.7 6.0	238.0 99.0		1/2		2個体接合。
336		U-12	2層	片岩	敲石	15.8	3.2	1.9	161.0		1/1		円柱状の自然円礫を用いる。上・下端部に敲打痕顕著。
337		V-14	2層	砂岩	敲石	7.6	5.7	5.1	271.0		1/1		卵状の自然円礫を用いる。上・下端部に敲打痕顕著。
338		W-10	1層	砂岩	敲石	15.8	7.4	2.0	306.4		1/1		表・裏面および右側面に敲打痕。
339		調査区西側	3層	砂岩	敲石	6.7	6.7	5.0	279.4		1/2		器体下半欠損。
340				砂岩	台石	13.4	9.9	5.3	1056.0		1/2		扁平な自然亜角礫を用いる。表・裏面および右側面に敲打痕。
341		H-4	3層	砂岩	台石	10.7	15.1	6.4	1604.0		3/4		表面中央および左側縁部に敲打痕顕著。
342		P-21		砂岩	台石	21.2	24.0	9.7	6500.0		1/1		表・裏面中央および側縁端部に敲打痕顕著。
343		Q-17	2層	砂岩	台石	21.0	25.6	9.0	6400.0		1/1		表・裏面中央部に敲打痕顕著。
344				砂岩	台石	22.8	14.3	11.0	4100.0		1/2		表面下側縁・裏面中央に敲打痕。

Ⅷ　桧高麗谷古墳群

例　言

1　本章は四国横断自動車道建設に伴う桧高麗谷古墳群の発掘調査報告書である。

2　所在地　徳島県鳴門市大麻町桧字高麗１他

調査期間　　1999年11月１日～2000年１月31日

調査面積　　1,600㎡

3　発掘調査期間及び報告書作成の実施期間は次の通りである。

発掘調査期間　　平成11年11月１日～平成12年１月31日

報告書作成期間　平成15年４月１日～平成16年３月31日

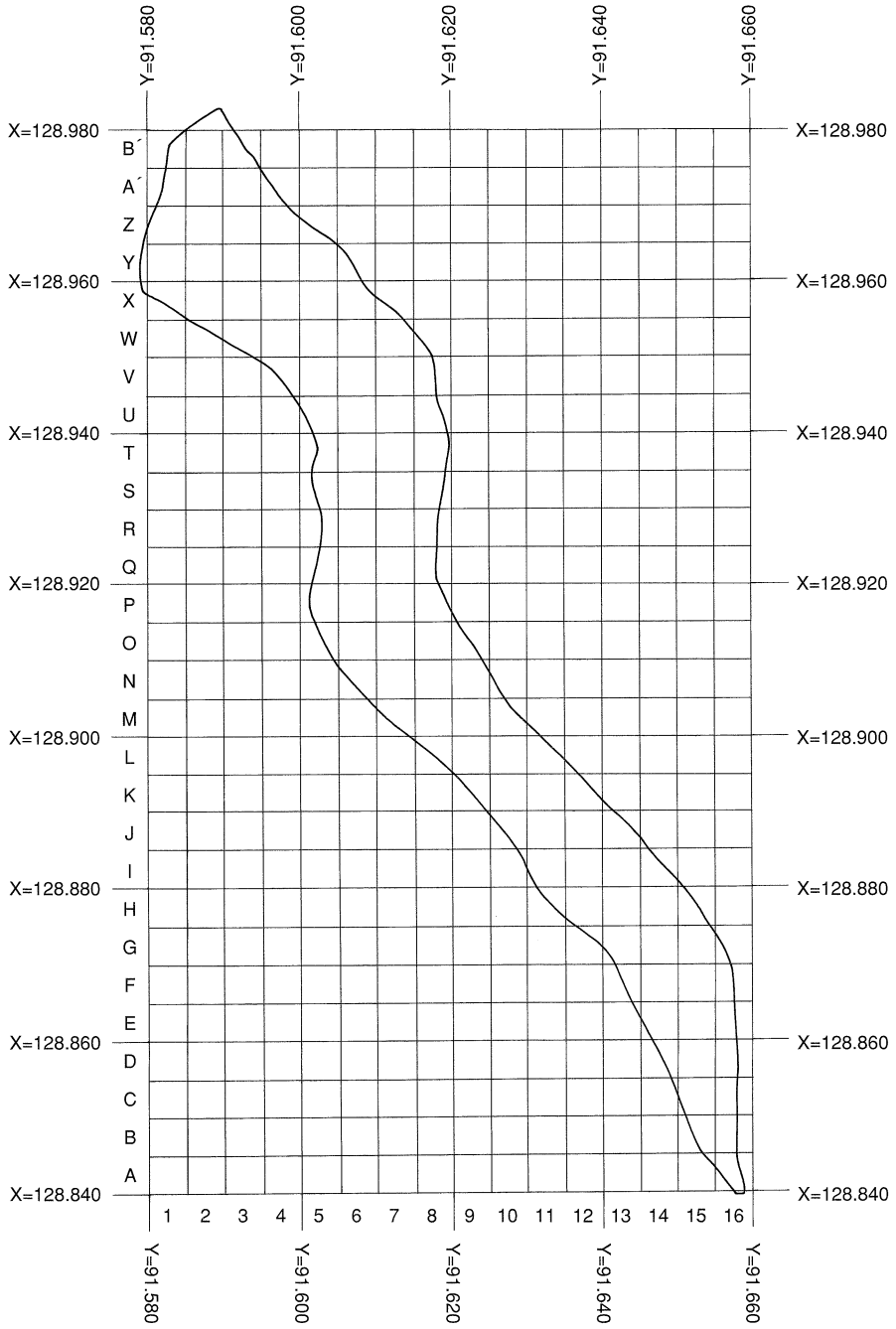
4　遺物番号・挿図番号・図版番号は通し番号とした。遺物番号は本文・挿図・表・図版と一致する。

5　本遺跡の地理的・歴史的環境については、「Ⅱ　調査地点の立地と環境」を参照されたい。

1　調査の経過

（1）調査の経過（Ⅰ-第1図およびⅡ-第1・4・13図）

桧高麗谷古墳群は阿讃山脈南麓の鳴門市大麻町桧地区に位置し、以前から古墳群が密集する地域として周知されていた。事前の分布調査の際にも阿讃山脈から張り出す尾根上に古墳の存在する可能性が指摘されていた。したがって分布調査で推定された遺跡の範囲の内2,880㎡を調査対象面積として試掘調査を実施した。



第1図　グリッド配置図

試掘調査は平成11年11月１日～11月26日にかけて人力掘削によるトレンチを150㎡実施した。試掘の結果、調査区中央部東・西斜面において土器棺墓や小竪穴式石室墓を検出したため、1,600㎡の範囲を対象に本調査へ移行した。本調査は平成12年１月31日に終了した。

（２）発掘調査の方法（第１図）

調査を始めるにあたり、グリッドの配置に際しては、発掘統一基準にならい、第Ⅳ系国土座標を基準とし、５ｍメッシュを１グリッドとして調査対象地を包み込む形で設定した。南西隅を基準として北にA・B・C…、東に１・２・３…の順に記号・番号をふり、その組み合わせで各グリッド名を表すこととした。遺構記号・番号は検出時に順次決定した。

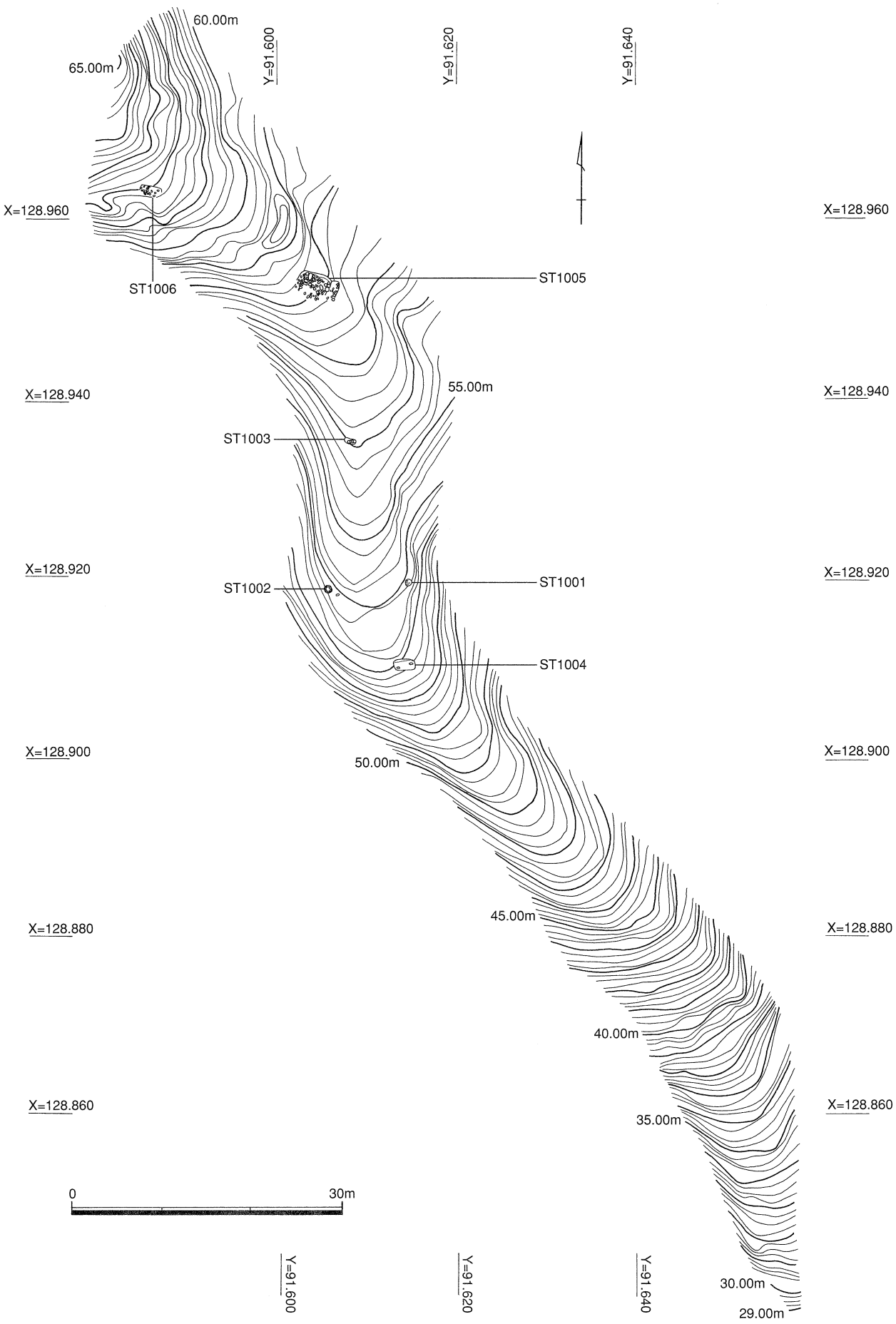
（３）調査日誌抄

1999年

11月１日　調査準備。物品搬入。試掘調査開始。
11月４日　調査地点平板地形測量（S＝1/200）開始。
11月８日　試掘トレンチ設定。
11月９日　平板地形測量終了。試掘トレンチ掘削開始。
11月22日　土器棺墓、石室墓検出。
11月26日　土層図作成。写真撮影。試掘調査終了。調査区の確定。1,600㎡本調査へ移行。
11月29日　調査区人力掘削開始。１号・２号土器棺墓検出。掘り下げ。
12月８日　１号・２号石室墓検出。掘り下げ。
12月12日　３号石室墓検出。掘り下げ。
12月17日　４号石室墓検出。掘り下げ。
12月21日　遺構出土状況全景写真撮影。
12月27日　１・２号土器棺取り上げ。

2000年

１月７日　１・２号石室墓断ち割り。
１月12日　３・４号石室墓断ち割り。
１月27日　遺構完掘。埋め戻し作業。
１月31日　現場撤収。調査終了。



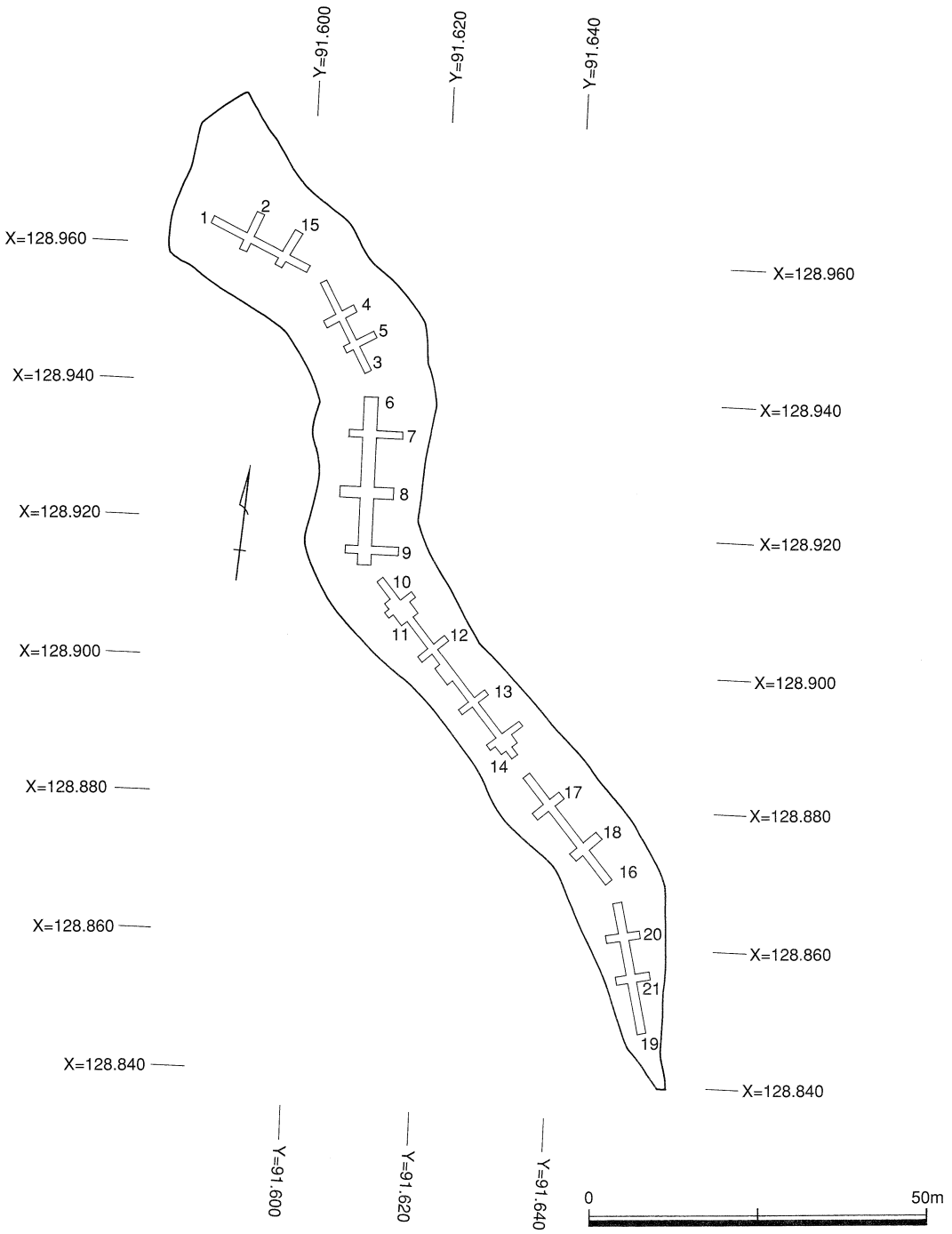
第２図　地形平面・遺構配置図

2　調査成果

（1）基本層序

トレンチ配置状況と土層堆積状況（第２・３・４図）

調査に際し、現況の地形測量を実施した。墳丘と思われる高まりを確認した後、試掘トレンチを設定し、掘削作業を行った。トレンチの設定については墳丘と思われる地点を中心に尾根筋に沿ってメイン

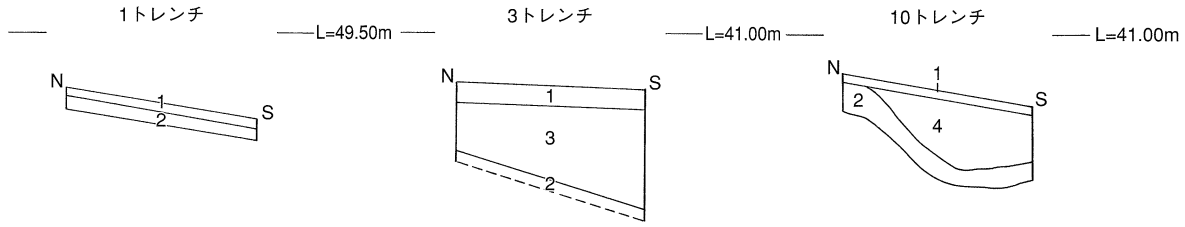


第３図　トレンチ配置図

トレンチを設定し、それに直交するようにサブトレンチを設定した。試掘の結果、調査区中央部東・西斜面において土器棺墓や小竪穴式石室墓を検出したため、1,600㎡の範囲を対象に本調査へ移行した。土層堆積状況は各トレンチとも類似しており、地点によって微差はあるが、基本層序は以下の通りほぼ対応する。

1．…黒褐色 10YR2/3 砂質土（表土、腐植土。）

2．…明黄褐色 10YR6/8 粘性砂質土（岩盤風化土、ϕ＝3～5㎝程度の礫を含む。部分的に灰黄褐色 10YR6/3 粘土が混じる。）



1．暗褐色　10YR3/3　砂質土（炭化物、マンガン粒若干含む。しまり不良。粘性弱い。腐葉土。）
2．明黄褐色　10YR6/8　砂質土（炭化物、マンガン粒若干含む。しまり良。粘性弱い。岩盤。）
3．オリーブ褐色　2.5Y4/4　砂質土（炭化物、マンガン粒若干含む。しまり不良。やや粘性あり。岩盤風化土。）
4．黄褐色　2.5Y5/4　砂質土（炭化物、マンガン粒若干含む。しまり不良。やや粘性あり。岩盤風化土。）

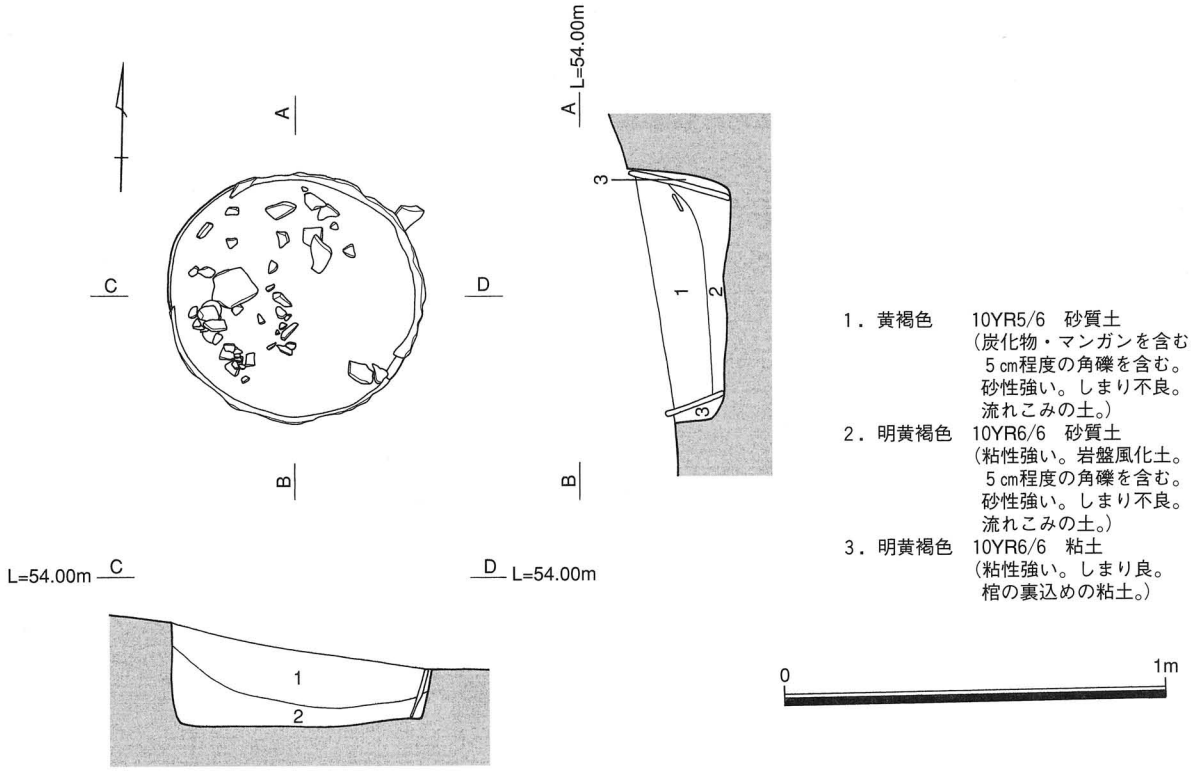
第4図　模式柱状土層図

（2）遺構と遺物（第2図）

遺跡内における遺構配置は第2図に示すとおりである。土器棺墓2基、竪穴式石室墓4基が出土し、遺構は尾根線頂部から西側斜面肩部にほぼ等間隔に点在している。1号土器棺墓・1～3号石室墓は遺存状態が良好でなく、大部分が消失していた。

ST1001（1号土器棺墓）（第5図）

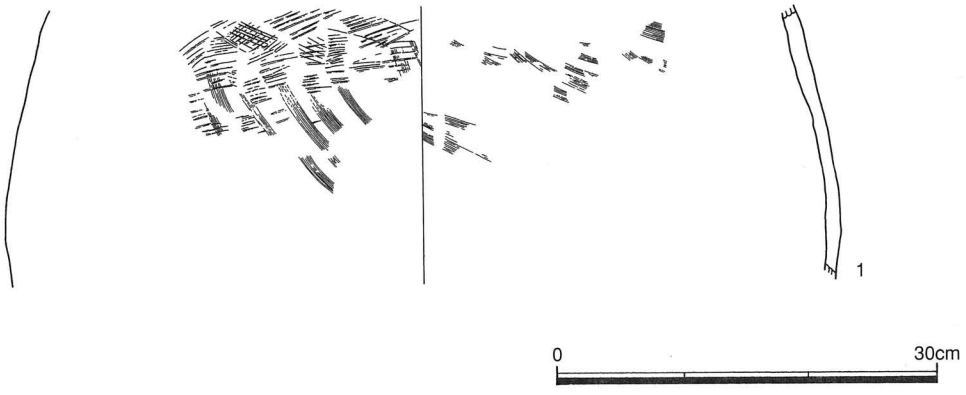
ST1001は大部分が消失している。現状の規模は直径67㎝の円形で、深さ22㎝を呈する。地山を掘り込み、大形の壺肩部より上を打ち欠いた下半部を用い、底部を上にして逆位に据えられていたものと考えられる。基底部には部分的に粘土が残存しており、地山を平坦に整地した後、粘土床が構築されていたと思われる。土器棺以外に遺物の出土はみられなかった。時期的には弥生時代終末頃と考えられる。



第5図　ST1001平・断面図

出土遺物（第6図）

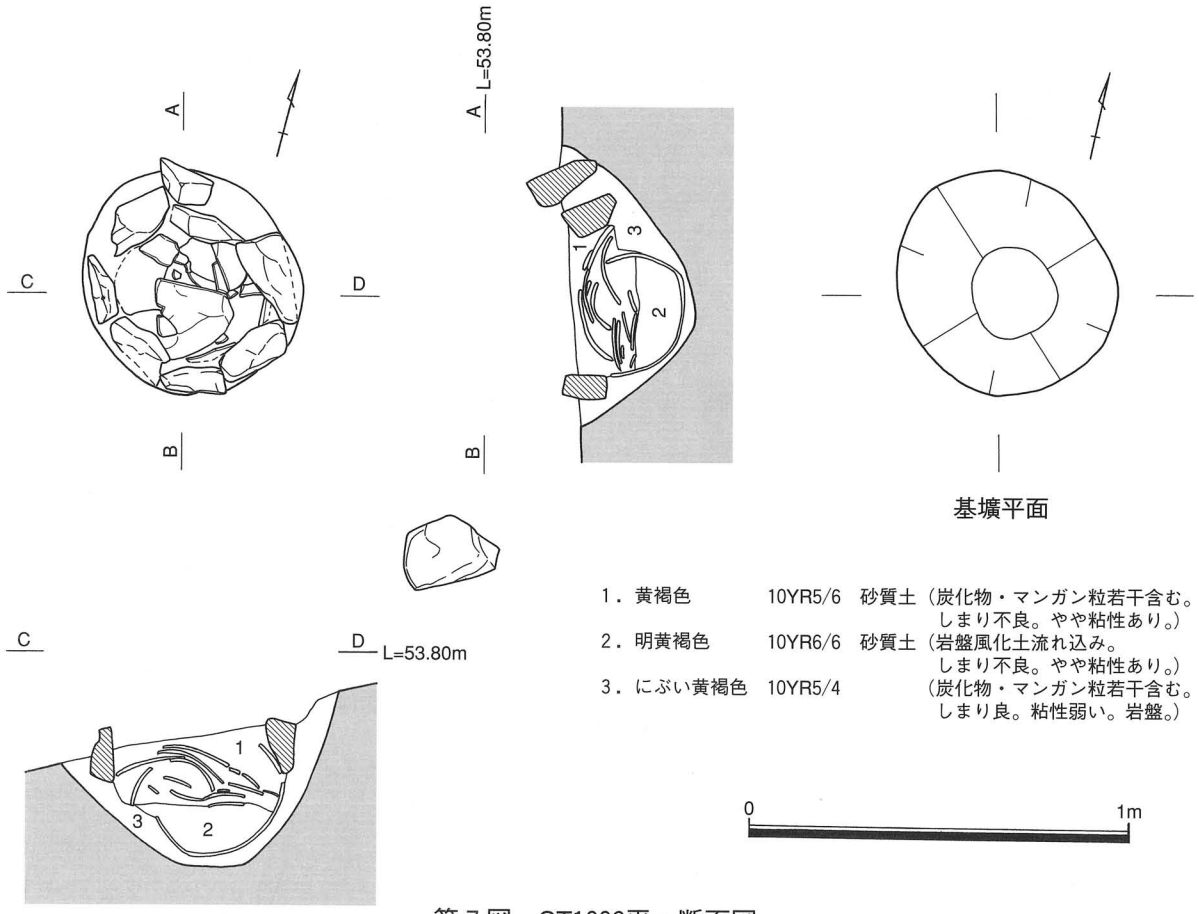
1は土器棺で大型の壺形土器肩部より下半部を転用したものと考えられ、肩部が残存している。体部調整は外面粗いタテハケを施し、肩部に平行タタキが認められる。内面はハケが施される。



第6図　ST1001土器棺

ST1002（２号土器棺墓）（第７図）

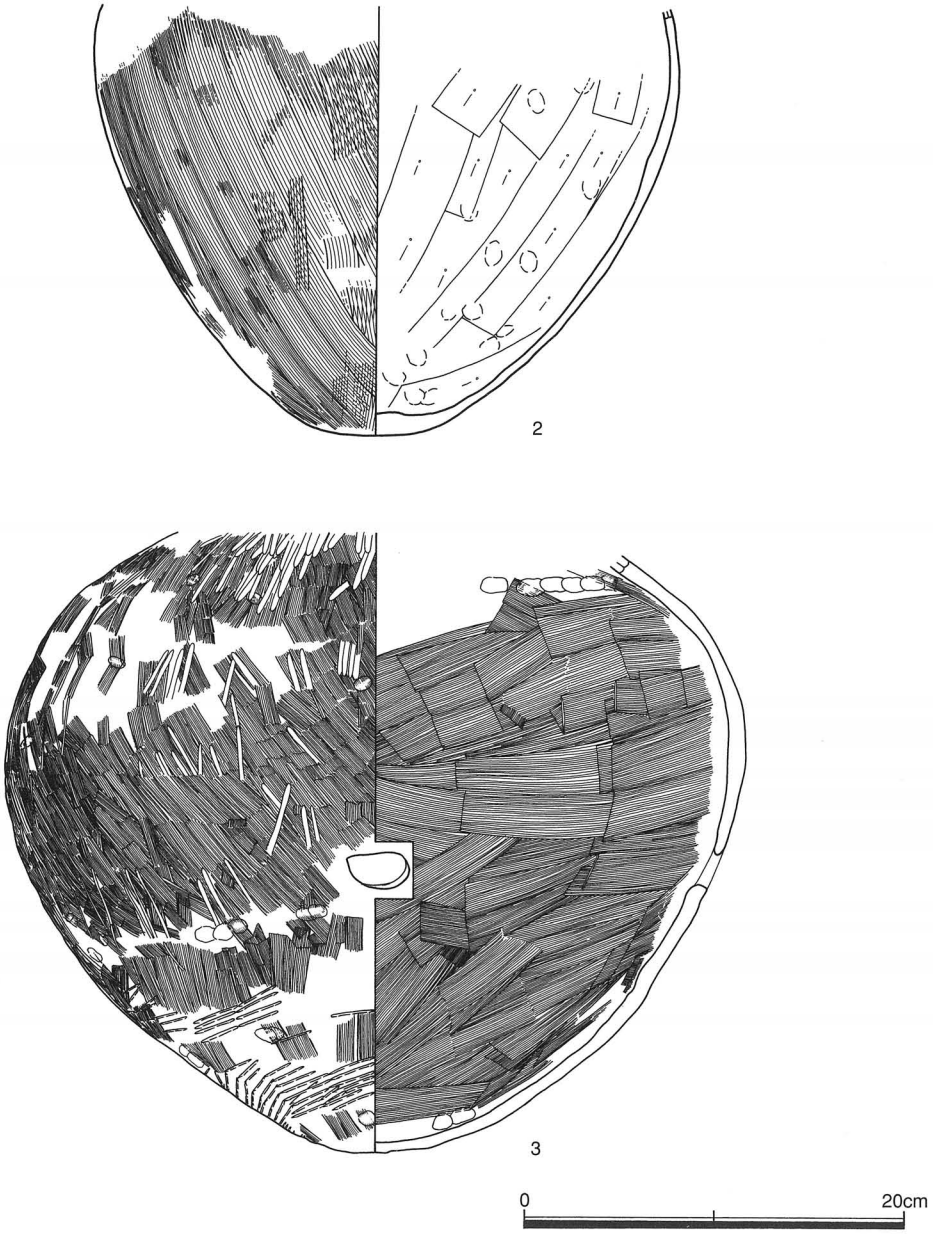
ほぼ全形の土器棺墓である。平面形は円形を呈し、規模は直径60㎝、深度は35㎝を測る。墓壙肩部には環状の配石がみられ、上部構造は蓋石を架構していたと思われる。墓壙基底部は丸底で、墓壙内には壺の頸部より上を打ち欠いた土器棺身が墓壙いっぱいに正位で安置され、壺下半部を転用した棺蓋が被せられていた。墓壙肩部は粘土で固定され、押えと考えられる砂岩礫が環状に配石される。土器棺内には遺物はなかった。



第７図　ST1002平・断面図

出土遺物（第８図）

２は土器棺蓋である。壺形土器下半部を用いる。底部は弱い平底をとどめる。調整は外面タテハケ、内面は底部から体部方向へのヘラケズリで内底面にユビオサエが残る。３は土器棺身で壺形土器頸部より上を打ち欠いている。体部中央部に水抜きと考えられる穿孔がある。底部はわずかに平底をとどめる。外面は縦方向のハケ調整のち肩部外面に縦方向のヘラミガキが施される。底部に粗いタタキが残る。内面は細かな横方向のハケ調整が施され、頸部と体部の境にユビオサエが残る。時期的には土器棺の形態から弥生時代終末頃と考えられる。



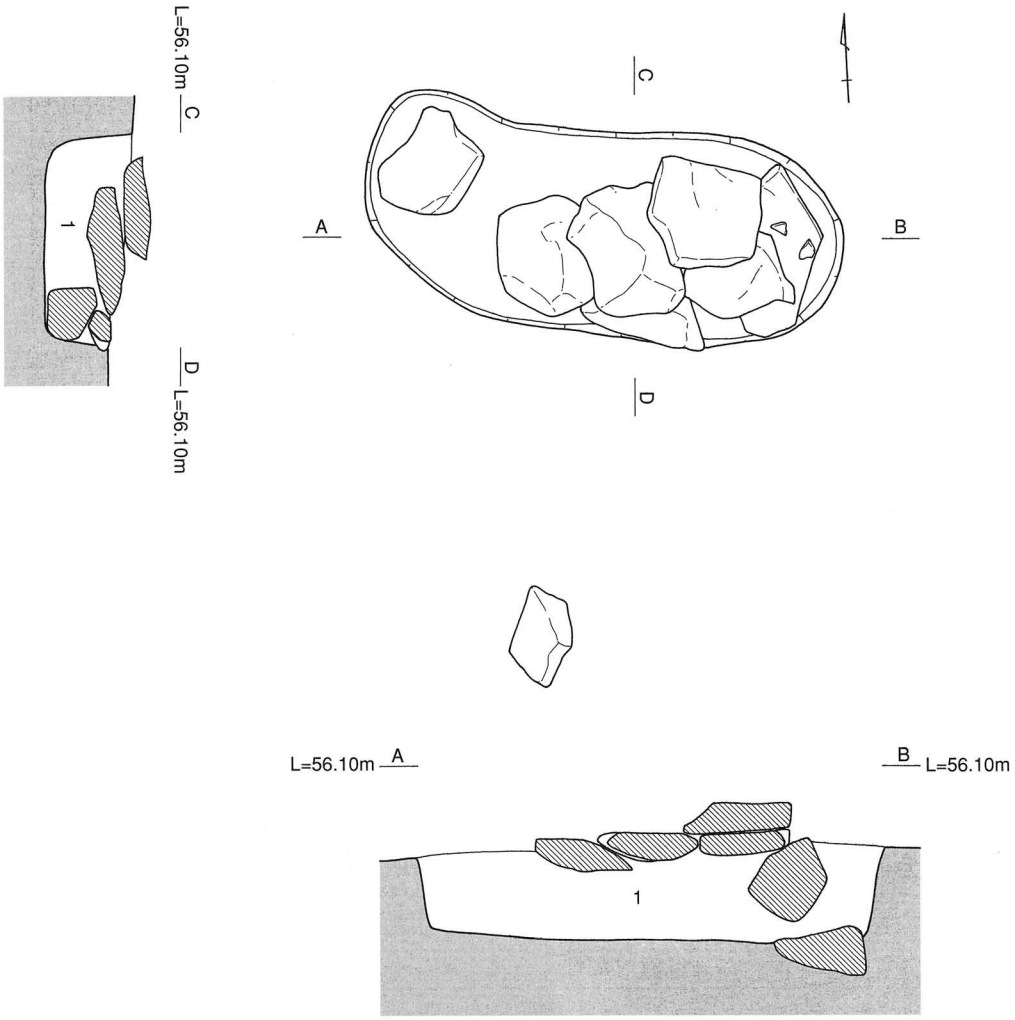
第８図　ST1002土器棺蓋・身

ST1003（１号石室墓）（第９図）

長軸1.26m、短軸0.58m、深さ0.26mの長楕円形の墓壙を呈する小形の石室墓である。主軸方向はN-85°-Wで、ほぼ東西方向をむく。石室の石材には砂岩の亜角礫を用いる。側壁は東側で２段、南側で１段残存する。一部消失しているが、上部構造は30㎝前後の扁平礫の蓋石を架構している。蓋石上面に被覆粘土等は見られなかった。出土遺物はなかった。

出土遺物

出土遺物はなかった。

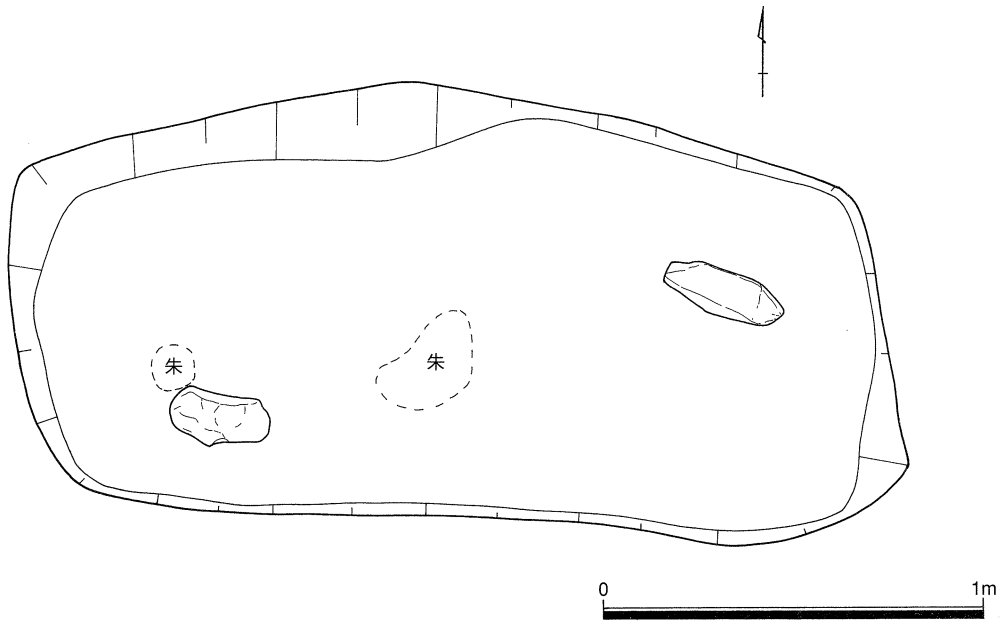


1．にぶい黄褐色　10YR5/4　砂質土
（炭化物・マンガン・土器細粒若干含む。
粘性ややあり。しまり不良。流れこみの土。）

第９図　ST1003平・断面図

ST1004（２号石室墓）（第10図）

現存で長軸1.95m、短軸0.9m、深さは最深部で0.1mの墓壙をもつ。主軸方向はN-95°-Wでほぼ東西方向を示す。一部石室基底と思われる砂岩礫を検出しているが、壁体および上部構造はほとんど残存しておらず、詳細は不明である。出土遺物はない。



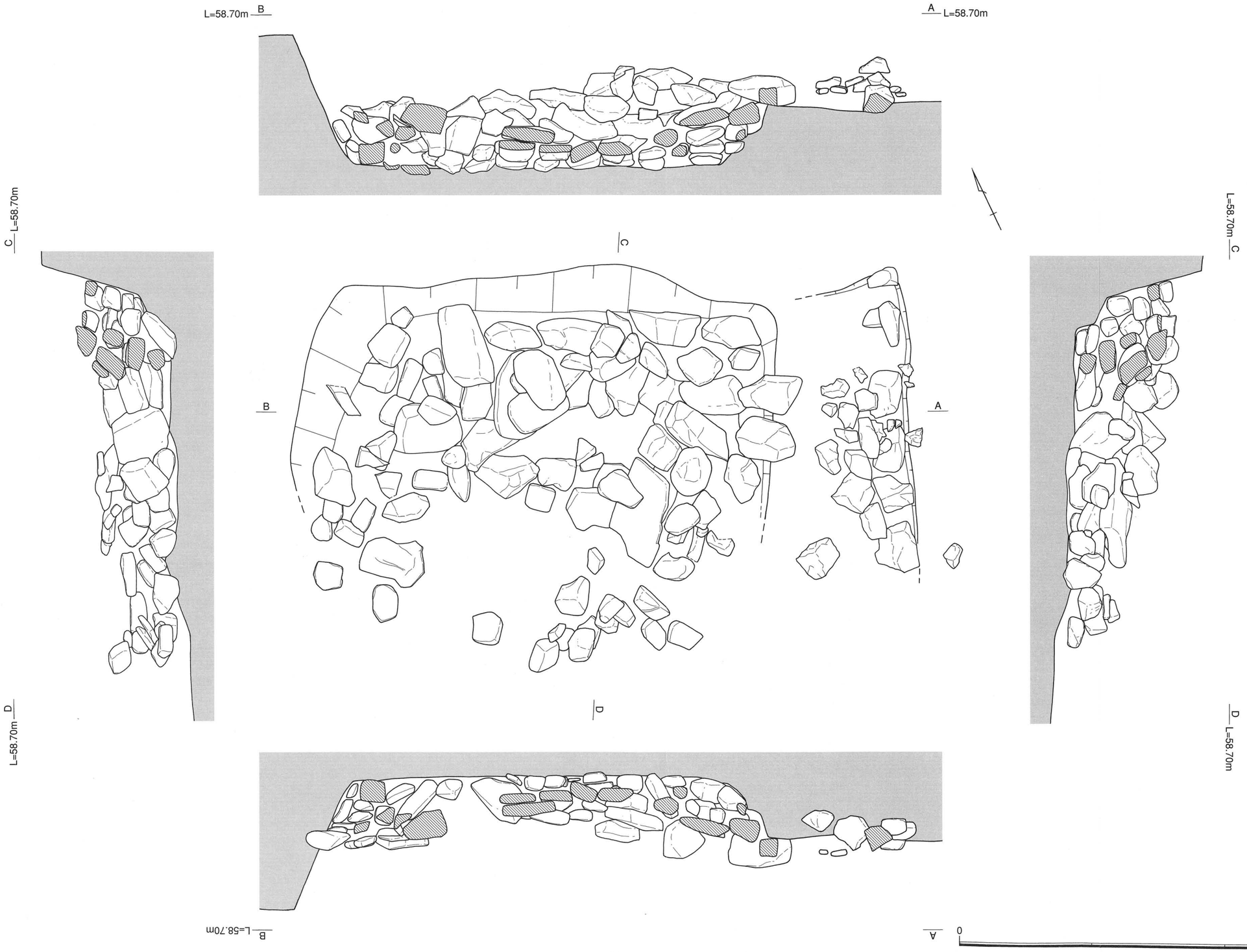
第10図　ST1004平面図

出土遺物

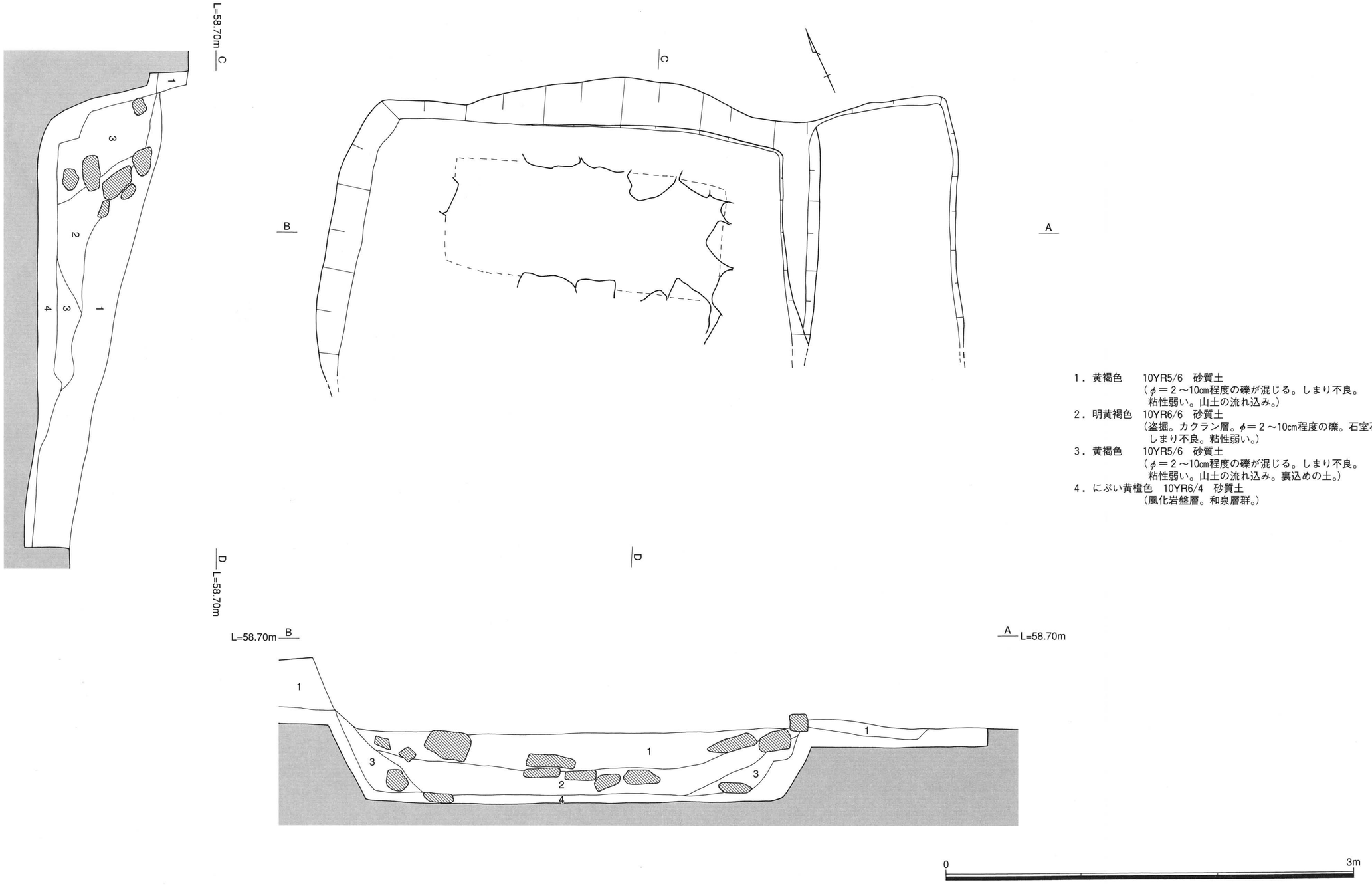
出土遺物はなかった。

ST1005（３号石室墓）（第11・12図）

墳丘はなく、長軸3.6m、短軸2.2mの長方形の墓壙をもつ竪穴式石室墓である。墓壙の掘削角は約70°である。上部構造は不明である。石室底面までの深さは１mを測る。西辺には外護列石の基底と思われる石列が一段２m程度遺存する。石室の遺存状態は悪く攪乱が基底面まで及んでおり、また東側壁もほとんどが崩壊していた。石室の石材には砂岩の20～50cm程度の亜角礫を用い、石垣状に積まれていたものと思われる。墓壙と石室の間には裏込め石は見られない。石室規模は現存の内法で長軸2.25m、短軸0.83mで壁体の高さは良好な部分で0.7m程度残存する。床面は地山を平坦に整形しているが、攪乱が床面まで及んでいるため、遺存状態は良くない。礫床や粘土床などはみられず、床面の基底部構造を確認するに至らなかった。長軸方向はN-30°-Wである。石室内・外とも時期を確定できる出土遺物が少ないため、詳細な時期決定は困難であるが、ST1002に後続するものと推測される。



第11図　ST1005平・断面図

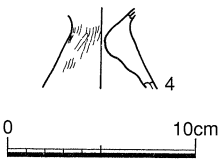


1．黄褐色　10YR5/6　砂質土
（φ＝２～10cm程度の礫が混じる。しまり不良。粘性弱い。山土の流れ込み。）
2．明黄褐色　10YR6/6　砂質土
（盗掘。カクラン層。φ＝２～10cm程度の礫。石室石材混じる。しまり不良。粘性弱い。）
3．黄褐色　10YR5/6　砂質土
（φ＝２～10cm程度の礫が混じる。しまり不良。粘性弱い。山土の流れ込み。裏込めの土。）
4．にぶい黄橙色　10YR6/4　砂質土
（風化岩盤層。和泉層群。）

第12図　ST1005土層断面図

出土遺物（第13図）

土師質の土器片が数点出土しているが、実測可能な遺物は１点のみである。４は高杯の脚部である。時期的には古墳時代初頭頃と考えられる。



第13図　ST1005出土遺物

ST1006（４号石室墓）（第14図）

長軸1.78m、短軸1.54m、深さは最深部で0.27m、大部分が消失しており、主軸方向は推定でN-65°-Wを示すと思われる。残存する掘り方は東西1.24m、南北1.41m、深さは最深部で0.27mを測り、石材は砂岩の角礫を用いる。西側部分に石室基底と思われる石列が一段、南北方向に1.5m程度残存するが、全体の様相を把握するに至らない。出土遺物はない。

出土遺物

出土遺物はなかった。

（３）まとめ

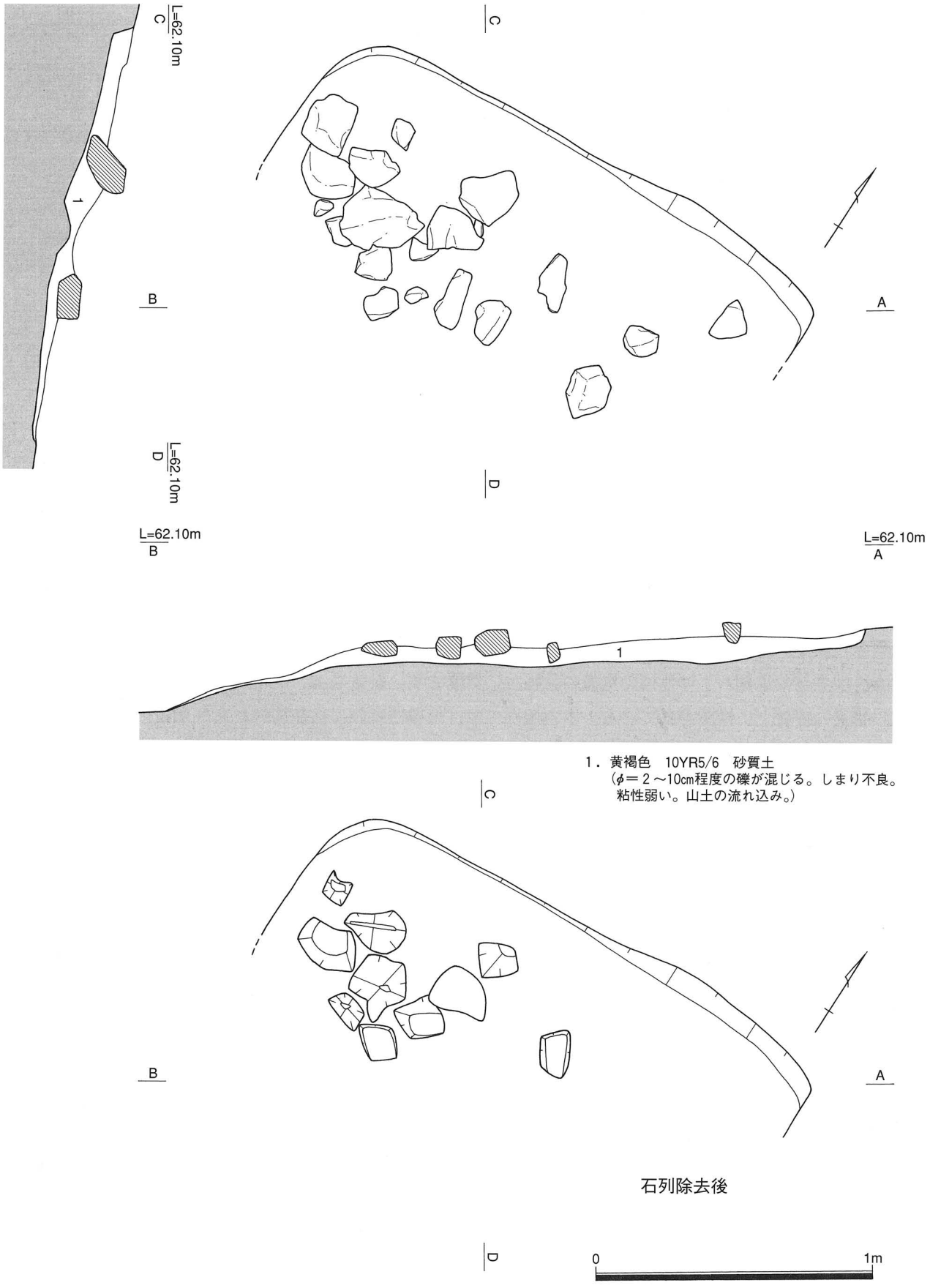
調査の結果、土器棺墓２基、竪穴式石室墓４基が出土した。いずれも無墳丘であった。土器棺墓は、調査区中央部の東側および西側の尾根の稜線上に位置する。石室墓は、ほぼ等間隔に調査区中央部より北に尾根の稜線上に構築されている。本古墳群では、土器棺墓群、石室墓群と大きく２グループに分けられる。埋葬形態の差は被葬者集団における階層差の反映、あるいは年齢差による可能性も考慮される。

このような在り方は、上板町安楽寺谷墳墓群と類似した様相をみせる。安楽寺谷墳墓群においては、土器棺墓→竪穴式石室墓→古墳（定型化竪穴式石室＋割竹型木棺）という変遷がたどれる。本遺跡においても土器棺墓→竪穴式石室墓という変遷がたどれるものと考えられる。出土遺物に乏しく、詳細な時期決定は困難であるが、安楽寺谷墳墓群と同様、一連の集団により同一尾根上において墳墓群が造営されたと考えられ、弥生墓的な埋葬形態から、古墳への変遷がたどれるものとして注目される。

築造順序については、出土遺物などの情報量が少ないため、詳細な築造の先行関係は必ずしも明らかではないが、おそらく土器棺墓の築造をきっかけにして、ひとつの墓域が構成されたものと考えられる。

桧高麗谷古墳群は、ひとつの墓域が同一地域の一集団ないし近隣集団によって営まれたものと思われ、埋葬施設の形態の相違は造墓の時期差もあるだろうが、墓域を共有する集団ないし共同体内部における差異の表示とも考えられる。

土器棺墓の主軸方向は限定できないが、確認された各埋葬施設の頭位については、石室墓のほとんどが東西方向を指向する。東西方向を志向するのは本地域における古墳など埋葬施設の埋葬頭位の一般的傾向と一致する。他の石室墓と比較すれば、南北方向を指向しているとみられるのはST1005のみである。ST1005の主軸方向は南北方向ではあるが、真北は指してはおらず30°西に振っている。このことは地形的な要因による影響が大きいと思われる。埋葬頭位の相違は造墓集団内部の社会規範の変化による可能性を示唆するものと思われる。



第14図　ST1006平・断面図

桧高麗谷古墳群

第1表　出土遺構一覧表

ST

遺構名	グリッド	平面形態	断面形態	長軸（cm）	短軸（cm）	深度（cm）	主軸方向	備　考
ST1001	P･Q-7･8	円形	四角形状	67	67	22		土器棺墓。
ST1002	P-6	円形	逆台形	60	57	35		土器棺墓。
ST1003	T-6	長楕円形	逆台形	126	58	26	N-85°-W	石室墓。
ST1004	O-7･8	長方形		195	90	10	N-95°-W	石室墓。
ST1005	W-5･6	長方形	逆台形	360	220	100	N-30°-W	石室墓。
ST1006	Y-2	長方形	不整形	178	154	27	N-65°-W	石室墓。

第2表　出土遺物観察表

ST（土器）

報告書掲載番号	遺　構	出土地点	層　位	器　種	残存率	口　径（cm）	体部最大径（cm）	底　径（cm）	頸部径（cm）	器　高（cm）	その他の法量（cm）	部位	形　態	調　整	含有物組成	色　調	備　考
1	ST1001	P-7	遺構内	壺	肩部1/8		63.0			24.5		肩部	土器棺で大型の壺形土器肩部より下半部を転用したものと考えられ、肩部が残存している。	体部調整は外面粗いタテハケを施し、肩部に平行タタキが認められる。内面はハケが施される。	石英・長石・雲母・赤色斑粒	外面：明黄褐（一部黒斑） 内面：浅黄	土器棺。肩部がドーナツ状に残存。
2	ST1002	P-6	遺構上部	壺	体部1/2		30.9	5.0		22.7		体部下半	壺形土器下半部を用いる。底部は弱い平底をとどめる。	外面：縦方向のハケ（6条／cm）。 内面：底部から体部方向へのヘラケズリ。内底面にユビオサエが残る。	石英・長石・片岩・赤色斑粒	外面：橙 内面：明黄褐	土器棺蓋。
3	ST1002	P-6	遺構下部	壺	体部9/10		39.0	6.0		32.8		体部	壺形土器頸部より上を打ち欠く。体部中央部に水抜きと考えられる穿孔がある。底部はわずかに平底をとどめる。	外面：縦方向の細かなハケ（12条／9㎜）のち肩部外面に縦方向のヘラミガキ（3㎜／本）が施される。底部に粗いタタキ（4条／1.8cm）が残る。 内面：細かな横方向のハケ（32条／2.5cm）が施される。頸部と体部の境にユビオサエが残る。	石英・長石・雲母・赤色斑粒	外面：にぶい橙 内面：黄灰	土器棺身。
4	ST1005	K-5	覆土	高杯	脚部1/6					3.8		脚部	脚部下方へ広がる。	摩滅のため調整不鮮明。 外面：ヘラミガキ。 内面：不明。	石英・長石・片岩	外面：黄橙 内面：橙	

Ⅸ　桧北山古墳群

例　言

1　本章は四国横断自動車道建設に伴う桧北山古墳群の発掘調査報告書である。

2　所在地　鳴門市大麻町桧字丸山26-17他

3　発掘調査期間及び報告書作成の実施期間は次の通りである。

発掘調査期間　　平成11年11月16日～平成12年１月14日
報告書作成期間　平成15年４月１日～平成16年３月31日
調査対象面積　　2,780㎡
調査面積　　430㎡

4　遺物番号・挿図番号・図版番号は通し番号とした。遺物番号は本文・挿図・表・図版と一致する。

5　本遺跡の地理的・歴史的環境については、「Ⅱ　調査地点の立地と環境」を参照されたい。

6　ST1001の遺構・遺物の報告記述についての一部および「まとめ　吉野川北岸の阿波式石棺」は栗林誠治が執筆した。

1　調査の経過

（1）調査の経過（Ⅰ-第1図およびⅡ-第1・4・14図）

桧北山古墳群は阿讃山脈南麓の鳴門市大麻町桧地区に位置し、以前から古墳群が密集する地域として周知されていた。事前の分布調査の際にも阿讃山脈から張り出す尾根上に古墳の存在する可能性が指摘されていた。したがって分布調査で推定された遺跡の範囲の内2,780㎡を調査対象面積として試掘調査を実施した。試掘調査は平成11年11月16日～11月26日にかけて人力によるトレンチ掘削を150㎡実施した。試掘の結果、調査区中央部において葺石とみられる集石や箱式石棺等を検出したため、2,780㎡のうち430㎡の範囲を対象に本調査へ移行した。本調査は平成12年1月14日に終了した。

（2）発掘調査の方法

調査を始めるにあたり、グリッドの配置に際しては、発掘統一基準にならい、第Ⅳ系国土座標を基準とし、5ｍメッシュを1グリッドとして調査対象地を包み込む形で設定した。南西隅を基準として北にA・B・C…、東に1・2・3…の順に記号・番号をふり、その組み合わせで各グリッド名を表すこととした。遺構記号・番号は検出時に順次決定した。

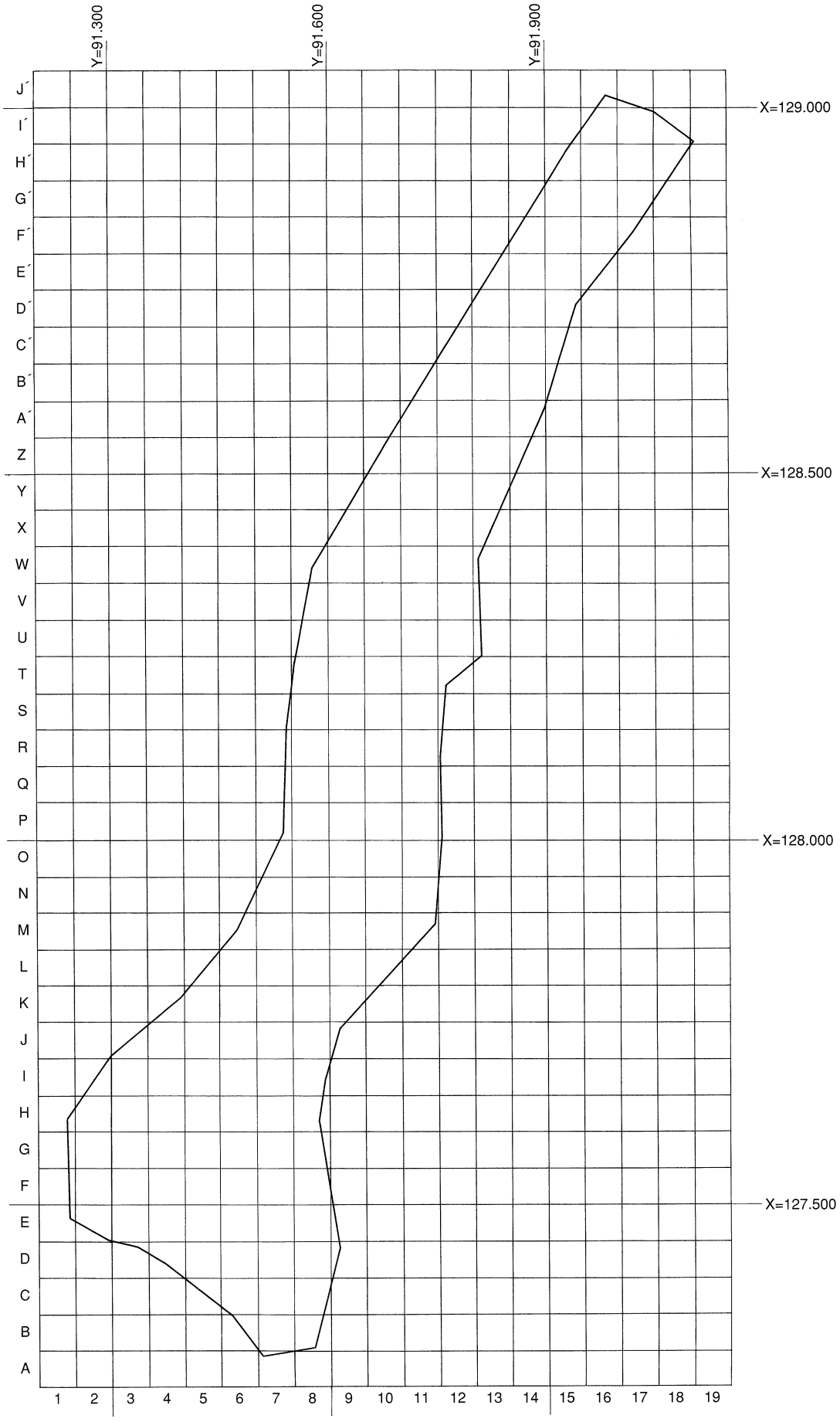
（3）調査日誌抄

1999年

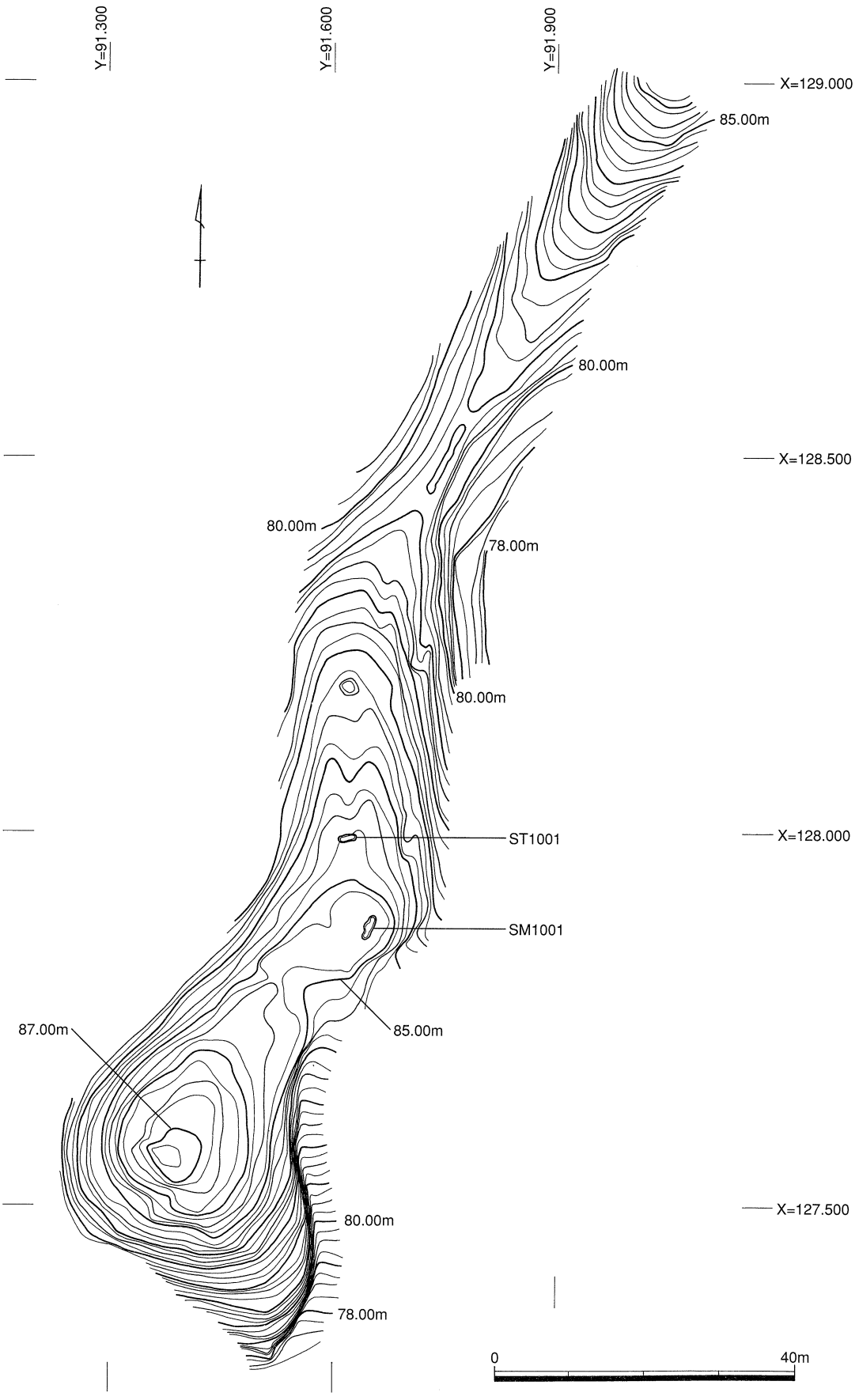
11月16日　調査準備。
11月18日　調査地点平板地形測量（S＝1/200）開始。試掘トレンチ設定。掘削開始。
12月8日　土層断面図作成。
12月9日　SM1001より須恵器2・鉄片1出土。ST1001箱式石棺掘削開始。
12月10日　グリッド設置。ST1001土層断面図作成。SM1001平面図作成。
トレンチ土層断面写真撮影。

2000年

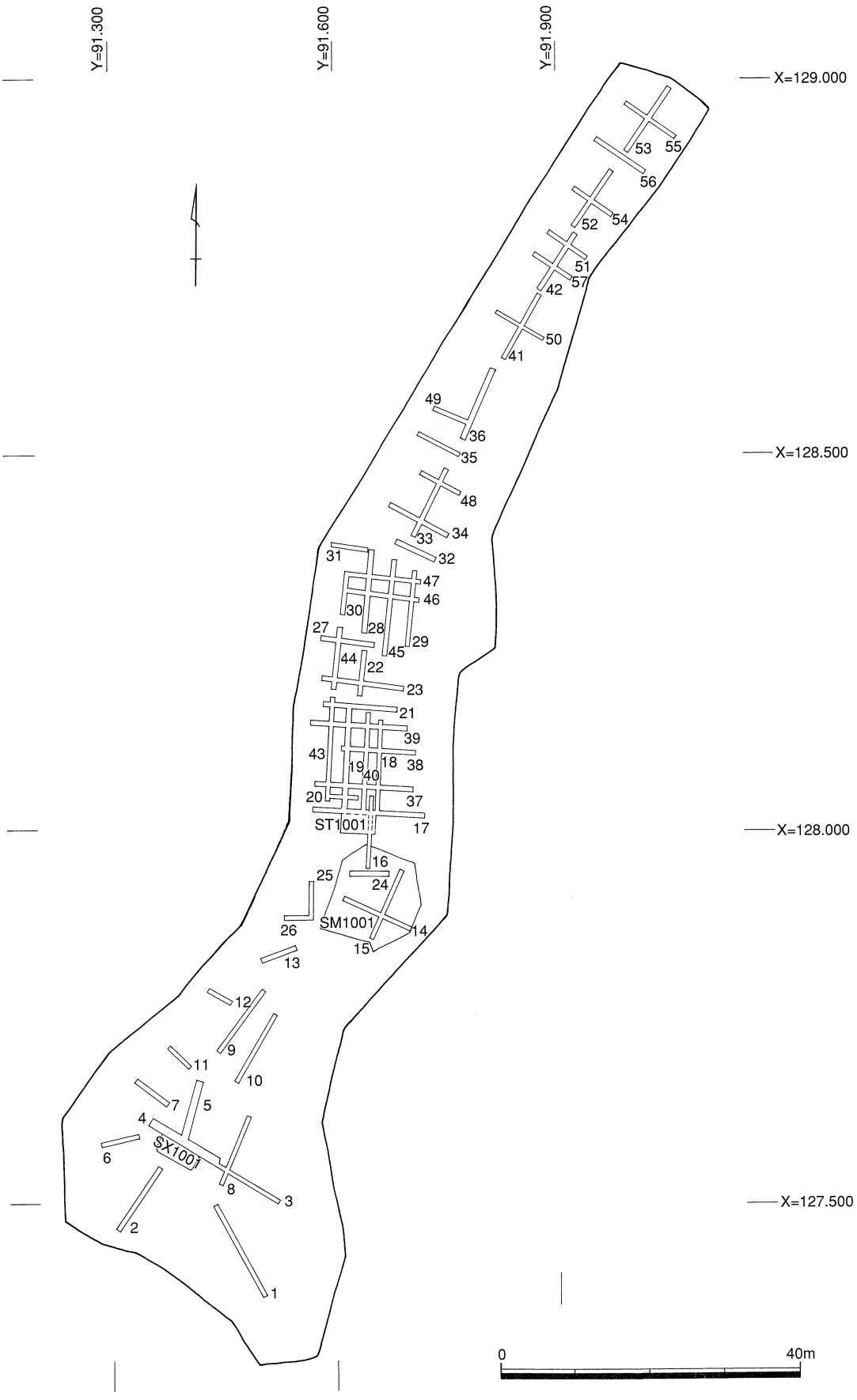
1月5日　SM1001検出。SX1001平面図作成。ST1001平面図作成。
1月7日　SM1001現況地形平面図作成。トレンチ写真撮影。
1月12日　SM1001主体部検出。トレンチ写真撮影。トレンチ土層断面図作成。
1月13日　SM1001地形平面図作成。SM1001立面図作成。
1月14日　SM1001立面図作成。遺構完掘写真撮影。現場撤収。


Y=91.300
Y=91.600
Y=91.900
X=129.000
X=128.500
X=128.000
X=127.500
J´
I´
H´
G´
F´
E´
D´
C´
B´
A´
Z
Y
X
W
V
U
T
S
R
Q
P
O
N
M
L
K
J
I
H
G
F
E
D
C
B
A
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19

第１図　グリッド配置図



第２図　地形平面・遺構配置図



第３図　本調査範囲・トレンチ配置図

2　調査成果

（1）基本層序

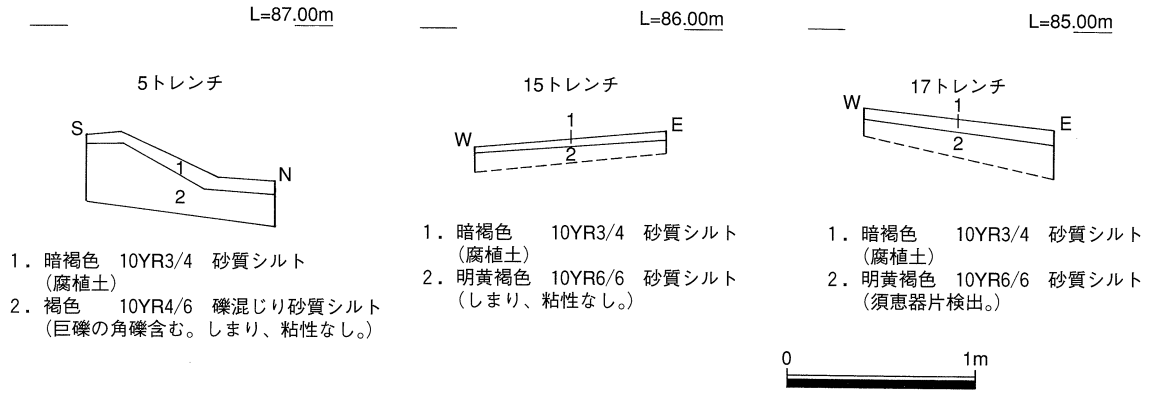
トレンチ配置状況と土層堆積状況（第3・4図）

調査に際し、現況の地形測量を実施した。墳丘と思われる高まりを確認した後、試掘トレンチを設定し、掘削作業を行った。トレンチの設定については墳丘と思われる地点を中心に尾根筋に沿ってメイントレンチを設定し、それに直交するようにサブトレンチを設定した。試掘の結果、調査区中央部において箱式石棺等、遺構を検出したため、430㎡の範囲を対象に本調査へ移行した。

土層堆積状況は各トレンチとも類似しており、基本層序は以下の通りほぼ対応する。

1．…黒褐色 10YR2/3 砂質土（表土、腐植土。）

2．…明黄褐色 10YR6/8 粘性砂質土（岩盤風化土、ϕ＝3～5㎝程度の礫を含む。部分的に灰黄褐色 10YR6/3 粘土が混じる。）



第4図　模式柱状土層図

（２）遺構と遺物（第２図）

遺跡内における遺構配置は第２図に示すとおりである。調査区中央部において円墳１基、箱式石棺１基が出土した。円墳は遺存状態が良好でなく、大部分が消失していた。

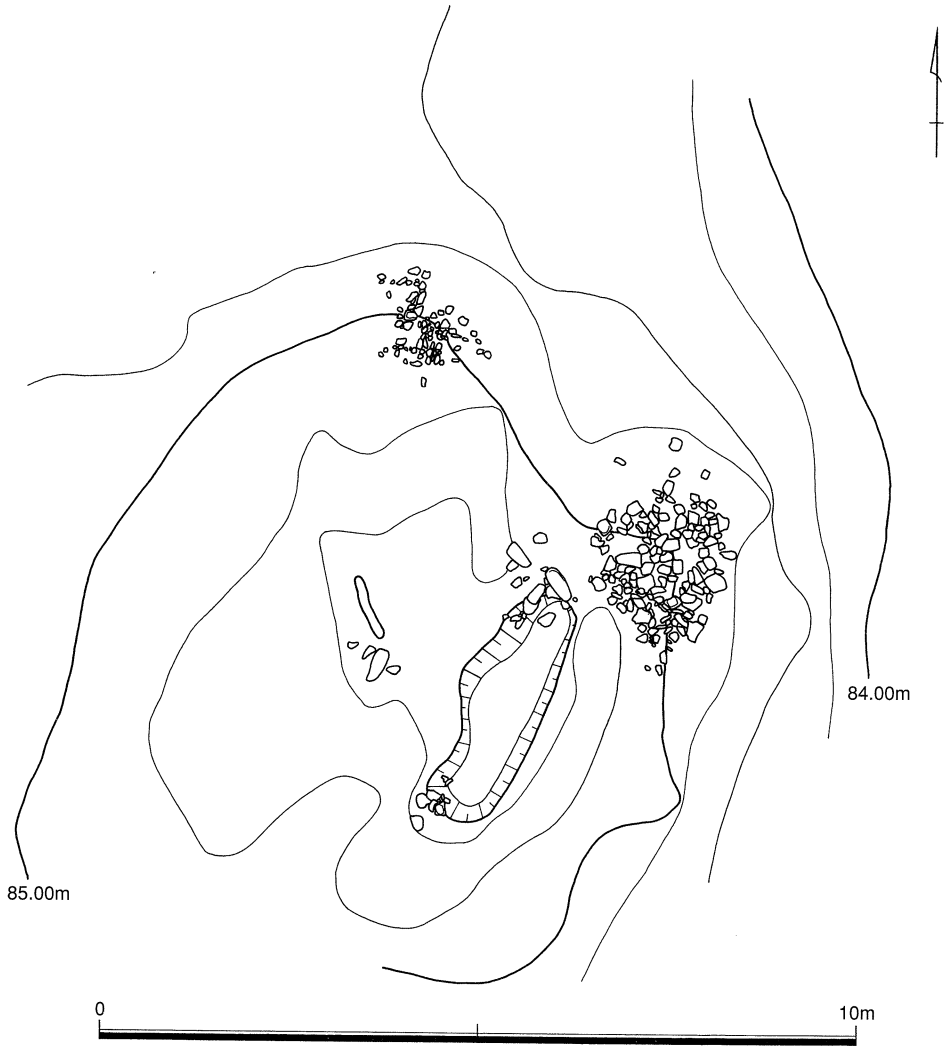
出土遺構

SM1001（１号墳）（第５～７図）

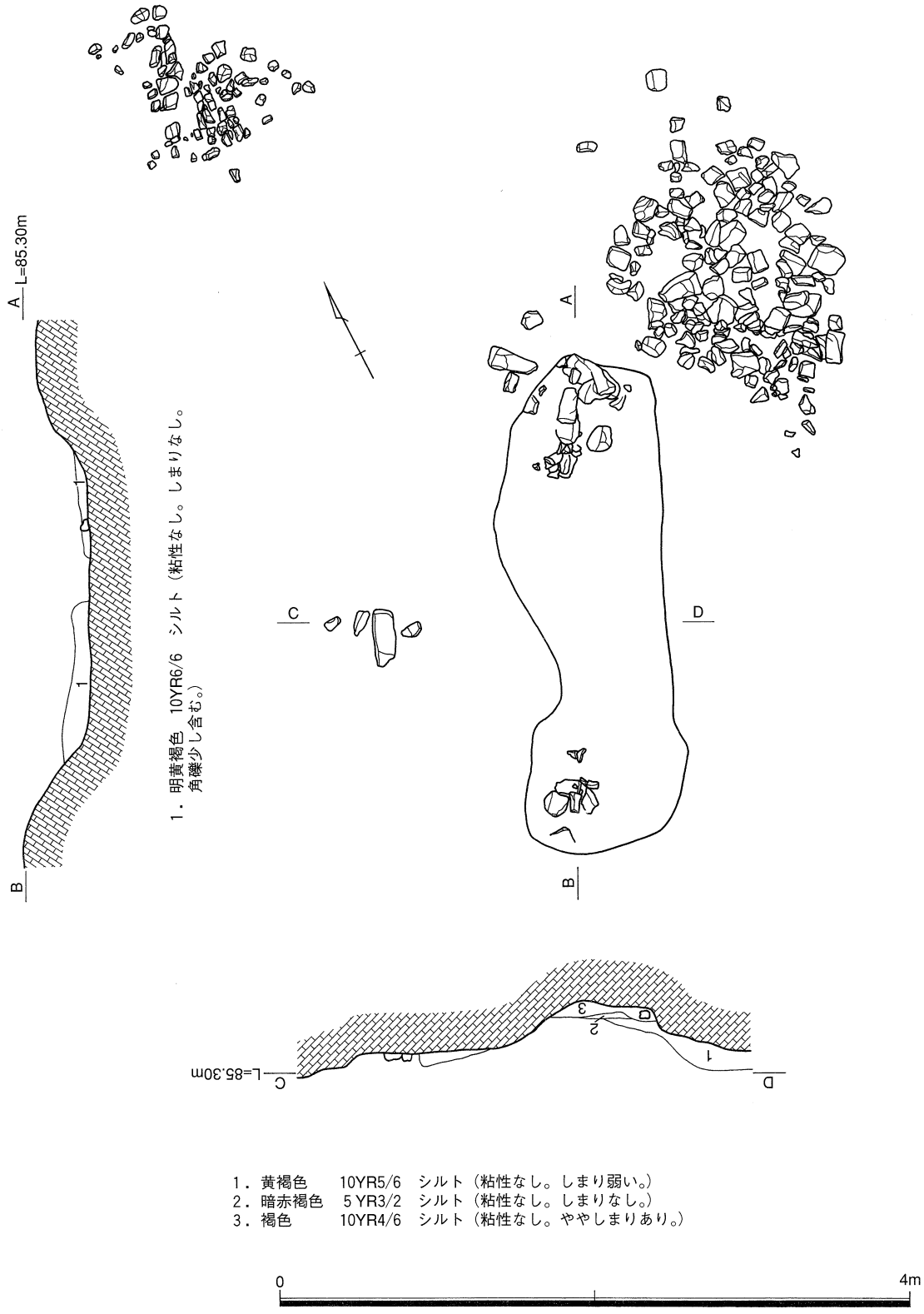
M・N-9・10グリッド、調査区中央部、標高85.00m前後に位置する円墳である。

墳丘

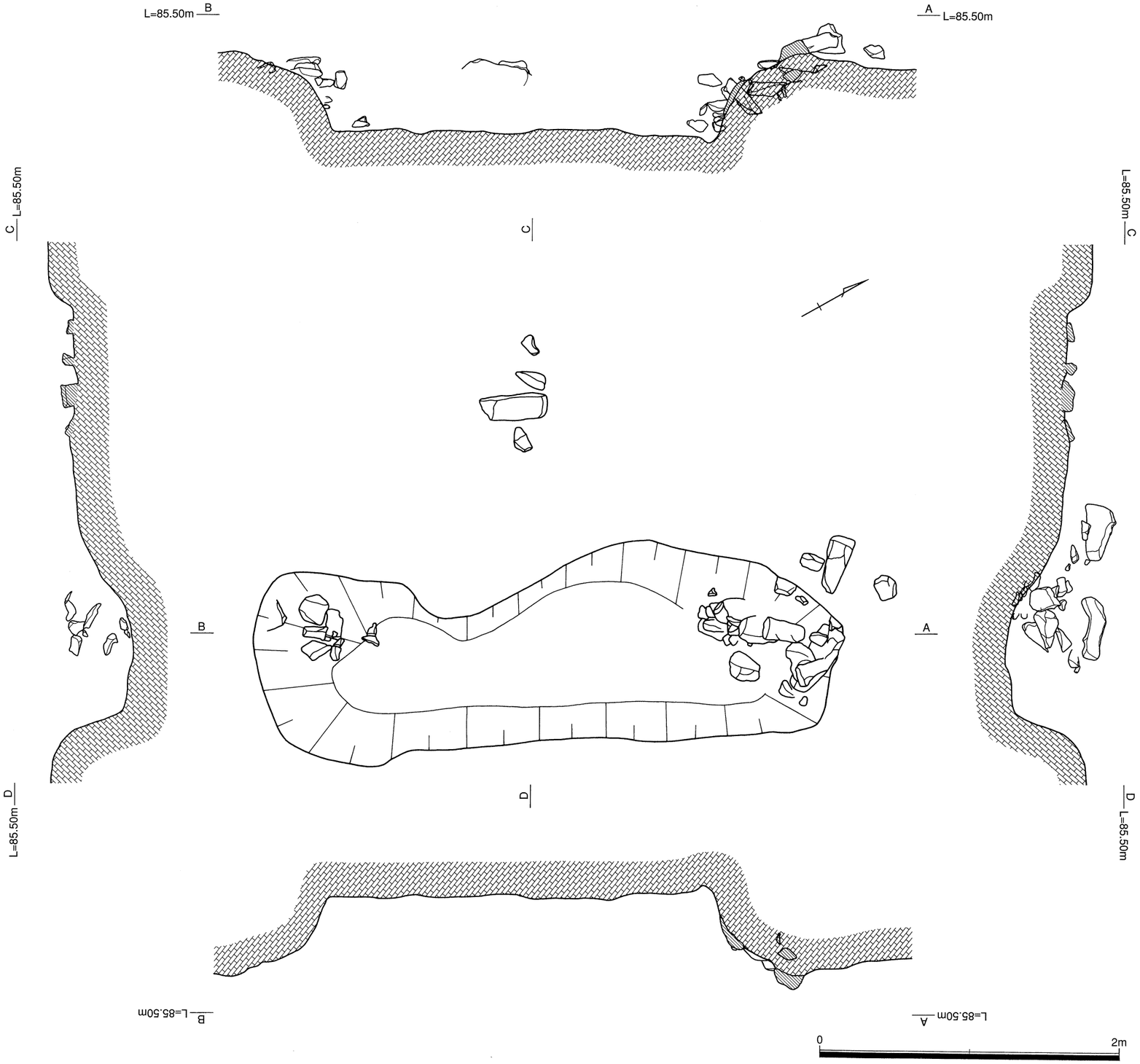
標高約85～86m付近が周囲の地形より一段高く、円形の墳丘状の地形となっている。形状は明瞭でないため全容は不明であるが、現状で直径９m、墳丘高１m程度の規模をなす。墳丘は地形を利用して地山を削出して形成した墳丘の北側に砂岩礫の集中が見られ、葺石の一部と思われる。その主体部には、竪穴式石室を有していたと考えられる。



第５図　SM1001葺石散布状況平面図



第6図　SM1001主体部平・土層断面図



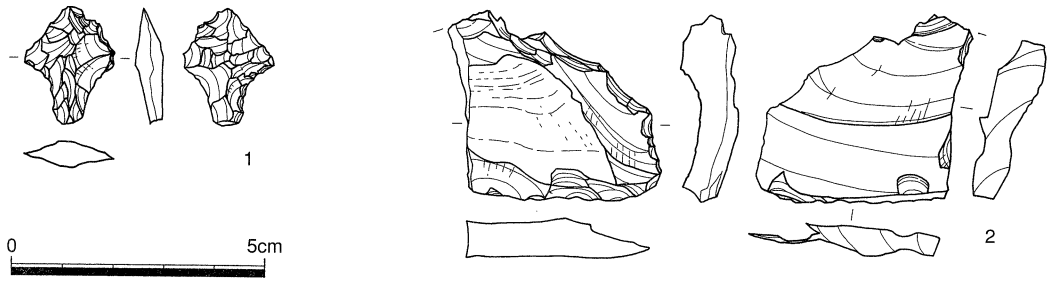
第 7 図　SM1001墓壙平・断面図

主体部

墳丘の中央部に凹地があり、埋葬施設（竪穴式石室）の残穴と思われる。遺存状態は悪く、明瞭でない。現状で規模は、長軸3.90m、短軸1.20mで、墓壙平面形はややいびつな長方形状を呈する。墓壙基底部で北端幅70cm、南端幅60cmでやや北側が開く。主軸方向はN-30°-Eで真北よりやや東に振る。頭位については北側がやや拡がることや周辺の古墳の埋葬施設頭位の傾向などから、北頭位であった可能性が高い。墓壙は地山（和泉砂岩層岩盤）を約70°の角度で掘り込んで削出している。墓壙北側および南側では壁体と思われる砂岩角礫や石室裏込めと思われる砂岩礫が一部検出されている。上部構造は不明である。主体部および墳丘周辺からは、多数の砂岩礫や須恵器片・土師器片が出土したが、小片のため詳細の判明するものはない。

出土遺物（第8図）

墳丘周辺から須恵器片・土師器片も出土したが、小片のため実測可能なものは無かった。当該期に属するものではないが、墳丘から弥生時代後期初頭頃と思われる石器が出土している。1は石鏃、2は楔形石器である。石材はサヌカイトである。



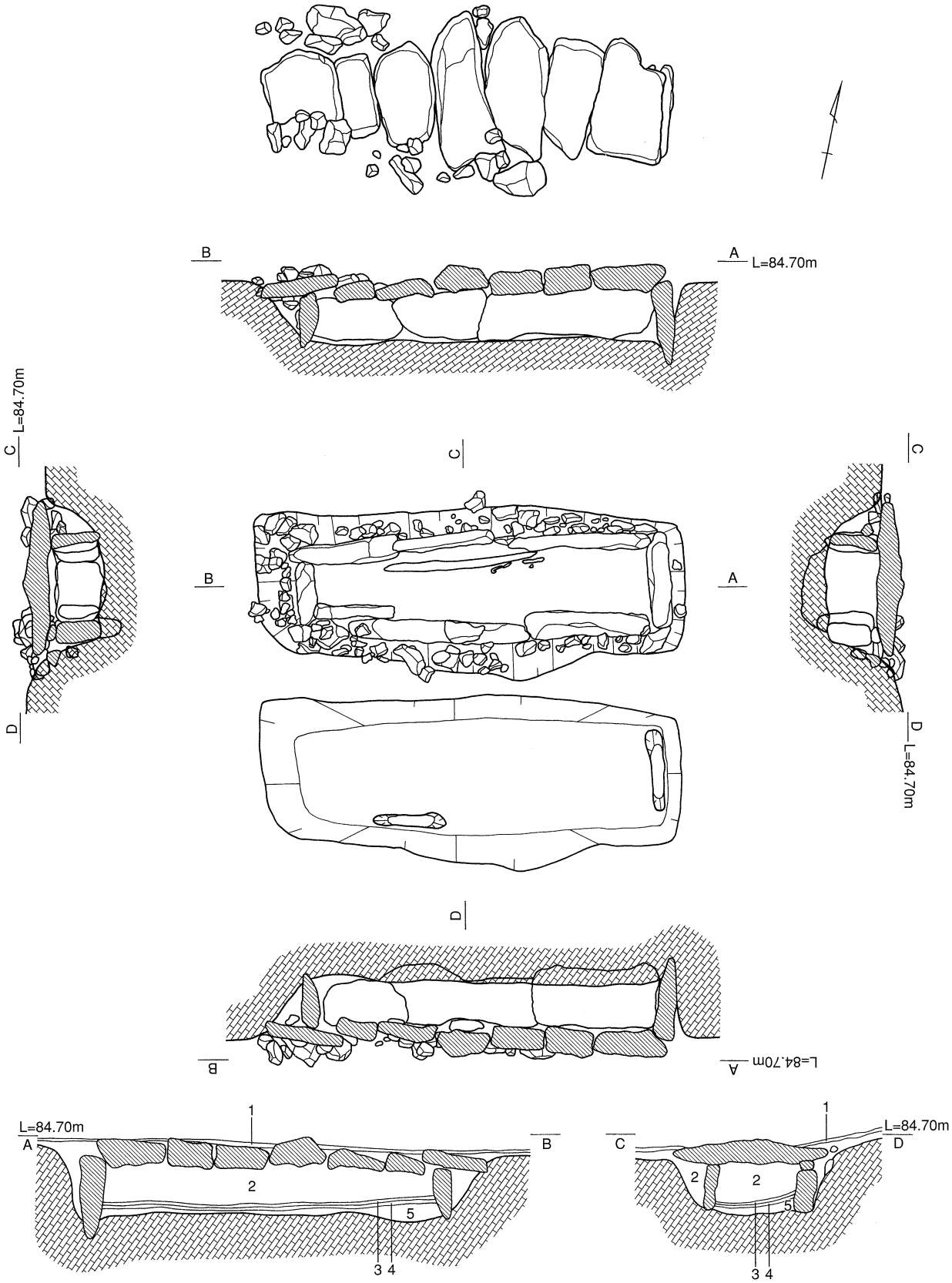
第8図　SM1001出土遺物

ST1001（1号箱式石棺）（第9図）

ST1001はP-9グリッド、標高85m前後、SM1001の北側約10mに位置する箱式石棺である。墳丘はみられない。遺存状態は良好であり、蓋石上面とその周辺には直径5～10cm程度の砂岩礫が多くみられた。石棺上面は粘土（シルト）に被覆され、一部は地表面に露出していた。蓋石および側壁の石材は、調査地点周辺で採取可能な和泉層群の砂岩礫を用いている。

墓壙

地山をほぼ垂直に掘り込み墓壙としている。規模は、長軸2.14m、短軸0.87m、深さは33cmで平面形状は長方形を呈する。



1．暗褐色　10YR3/4　砂質シルト（腐植土）
2．にぶい黄色　2.5Y6/4　粒土混じりシルト（岩盤の風化土）
3．黄色　2.5Y8/6　粘土（しまりあり。）
4．黄色　2.5Y8/6　砂礫混じり粘土（基質は粘土、礫は１～３㎝の砂岩円礫。）
5．明黄褐色　2.5Y7/6　砂礫混じり粘土（礫は３～５㎝の砂岩角礫。）

第９図　ST1001平・断面図

箱式石棺

石棺は墓壙壁に沿うように砂岩の板石を組み合わせて構築しており、規模は内法で、長軸1.65m、幅は東側小口で33cm、西側小口20cmで東側がやや拡がる。蓋石の下から床面上面まで深さ約25cm、主軸方向は、N-80°-Eで、石棺平面形状や副葬品の出土状況から東頭位であると考えられる。

箱式石棺の構築順序は、以下のとおりである。地山（岩盤）を掘り込み、長方形の墓壙を削出する。石棺は砂岩の板石で東・西小口壁を1枚ずつ立て、次に北・南側壁を板石3枚ずつ用いて石棺を構築する。石棺裏込めには、直径5～10cm程度の砂岩礫および粘土(シルト)を併用して石棺を固定している。石棺壁体の構築の後、直径3～5cmの砂岩角礫を含む粘土を墓壙基底部に敷き詰め、さらに直径2～5cmの砂岩円礫、粘土の各層を順に敷き詰めて床面が構築されていた。床面に板石は敷かれていない。床面上面の粘土床の厚さは約2cmである。墓壙基底部の礫混じり粘土層の砂岩円礫は、形や大きさの揃った円礫を丁寧に敷きつめたものである。被葬者を安置し、直刀・刀子を副葬した後、40～70cm程度の長方形の砂岩板石を7枚用いて上面を架構している。さらに蓋石上面を粘土（シルト）で被覆し、最終的に直径5～10cm程度の砂岩礫で上面を覆っていたものとみられる。

箱式石棺使用石材は、面取り等の加工痕を残さない（塊石型）自然転石の砂岩（SS類）を使用している。長側壁構造は左右とも3枚の砂岩塊石を使用していることから側複型となる。小口石構造は砂岩塊石を立てた小単型となる。蓋石構造は7枚の砂岩から構成される蓋複型である。床面構造は緩い円弧を描く粘土床であり、粘土型に分類される。平面形態は両長側壁に小口石が挟まれた状態の梯子型となる。棺外施設は墓壙系の方形型となる。墓壙掘削時期は地山型に該当する（栗林 2000）。

こうした形成の箱式石棺は、桧北山系箱式石棺に該当する。こうした使用石材が砂岩（SS型）に限定される一群は、主に吉野川北岸河口域に分布するのが特徴である（栗林 2000・園木 2005）。

出土遺物（第10図）

棺内は流入土がほとんどなく、埋葬時の副葬遺物配置は原位置を保っているものと思われる。床面からは直刀・刀子が各1振、副葬されていた。直刀は床面中央部北側に置かれ、切先を西に向けている。刀子は直刀の柄付近で切先を東に向けて置かれていた。

直刀

3は先端部が変形しているものの、ほぼ完形の状態で出土した。全長92.4cm、身部長74.8cm、柄長17.6cmである。身部幅は、切先から1/3のところで2.1cm、厚さは0.7cm、関近くでは身部幅2.9cm、厚さ0.6cmである。関は直角で角関である。柄部の幅は中央部で2.0cm、厚さは0.9cm、柄尻断面は約1cm角の方形状を呈する。刃はやや内反りで、身部、柄部に木質が遺存しており、鞘等に納められていたものと思われる。目釘穴は、2孔確認でき、それぞれ直径は約6㎜である。全体の形状は、「撫角関隅抉尻中細」（臼杵1984）に類似している。

刀子

4は全長15.2cm、刃部長10.0cm、刃部最大幅は1.1cm、厚さは約0.6cmを測る。柄部側が嶺側に彎曲している。宝幢寺3号墳（菅原 1981「中内遺跡」徳島県教育委員会）に類例がみられ、いわゆる曲刀子である。刃部は直線状に延びるが、柄部は鋒方向に向かって緩い弧を描きながら曲がり、ほぼ直交する

「鉄柄刀子」（鈴木 2005）である。柄の先端は断面形状が正方形を呈し、刃部幅と変わらないことからⅠ類（幅広型）となる。柄の厚みは刃部に比べて約1.5倍を測り厚柄と認定できる。更に全長は15cmを測り、長群に分類することができる。中期末の年代を与えることができる。

（3）まとめ

吉野川北岸の阿波式石棺

結晶片岩を使用した箱式石棺「阿波式石棺」は、中期になると吉野川流域、勝浦川流域を中心に拡散する。この拡散には、集成編年4期までに行われた主要水系単位での古墳祭祀の集約・統合が、渋野丸山古墳築造を契機に完成したことが最大の要因である。すなわち阿波においては渋野丸山古墳築造以降、地域群首長層が不明確になる。恐らく政治的に安定（古墳祭祀の集約・統合）したために、前方後円墳が従来の機能を果たす必要がなくなったと考えられる。しかし、自立的な再編が進行する灌漑単位や専業集団では従来通りの墳墓構造が維持された。その灌漑単位を基本する水系首長層や、専業集団首長層の埋葬施設として箱形石棺が採用され、爆発的に普及したと推定される。「阿波式石棺」は前方後円墳に代わる新たな地域的紐帯を示す埋葬施設と位置づけることができる。

しかし、阿波式石棺は拡散と共に箱形石棺の規範は徐々に崩壊する。但し、その崩壊は吉野川北岸地域を中心に認められる現象である。例えば、普及類型である鶴島山系は前述の津田浦群において確立し、普及する。時期が下っても吉野川南岸の各地域群では基本類型を踏襲した。しかし、規範が崩壊した型式や石蓋土壙墓は河口域北岸群や鳴門海峡群に分布する。これは渋野丸山古墳以降、小松島湾群／多々羅川水系の地位低下と共に、河口域北岸の相対的地位向上が図られ、同地域での被葬者層が拡大したためと考えられる。その為、結晶片岩を産出しない地域では、板石から割石へ、S類（結晶片岩）からSS類（砂岩）へと、規範が崩壊したものと考えられよう。使用岩石がSS類の桧北山系や萩原系は吉野川河口域北岸群や鳴門海峡群にのみ分布する。中央構造線を境に内帯の和泉砂岩帯と外帯である三波川帯に石材供給源を求める各類型に地域的偏在が認められても当然である。しかし、数が少ないながらも結晶片岩が吉野川北岸各地域に供給される一方で、砂岩が吉野川南岸各地の墓群に供給されていない現象は注目されよう。本来の箱形石棺の規範である「S類＋板石型＋側単型」が、拡散と共に崩壊していく構図が読みとれる。こうした規範の崩壊は、石材供給側（吉野川南岸地域おける石材管理集団）の規制によるものか、築造数の増加による石材不足によるものか、本来の被葬者層以外の階層による「模倣的埋葬祭式」の確立によるものか不明である。

結び

本遺跡では円墳と箱式石棺が各1基確認された。出土した刀子の類例資料を出土している宝幢寺3号墳の形成年代は5世紀後半と考えられており、本石棺の年代もこの時期に求められるものと考えられる。

引用・参考文献

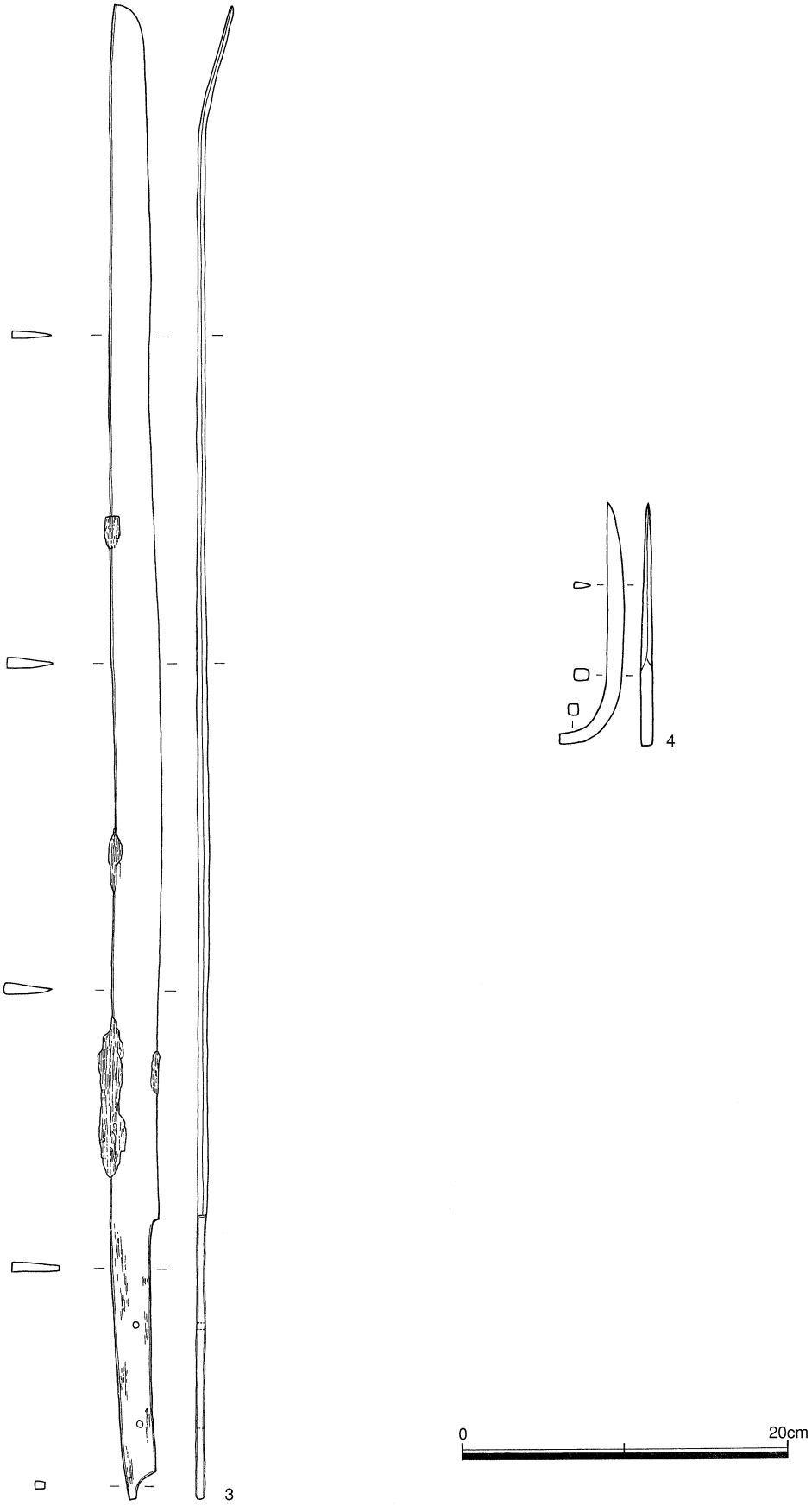
臼杵　勲　1984『古墳時代の鉄刀について』「日本文化研究」創刊号

栗林　誠治　2000「「阿波式石棺」再考」『論集　徳島の考古学』徳島考古学論集刊行会

鈴木　一有　2005「蕨手刀子の盛衰」『待兼山考古学論集』大阪大学考古学友の会

菅原　康夫　1981「中内遺跡」徳島県教育委員会

園木　裕美　2005「古墳時代・箱式石棺使用石材による吉野川下流域の地域性」『眞朱』5　㈶徳島県埋蔵文化財センター



第10図　ST1001出土遺物

桧北山古墳群
第1表　出土遺構一覧表
SM

遺構名	グリッド	墳丘形態	墳丘規模	墓壙平面形態	墓壙断面形態	墓壙長軸（m）	墓壙短軸（m）	墓壙深度（cm）	石室長軸（内法m）	石室短軸（内法cm）	石室深度（cm）	主軸方向	備考
SM1001	M･N-9･10	円墳	直径9m	いびつな長方形状	D字状（浅い台形状）	3.9	1.2	45	2.4	60	33	N-30°-E	竪穴式石室。

ST

遺構名	グリッド	墳丘形態	墳丘規模	墓壙平面形態	墓壙断面形態	墓壙長軸（m）	墓壙短軸（m）	墓壙深度（cm）	石室長軸（内法m）	石室短軸（内法cm）	石室深度（cm）	主軸方向	備考
ST1001	P-9			長方形	D字状（浅い台形状）	2.14	0.87	33	1.65	石棺東33 石棺西20	25	N-80°-E	箱式石棺。

第2表　出土遺物観察表
SM（石器）

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	石材	器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	その他の法量（cm）	残存率	部位	備考
1	SM1001		2層	サヌカイト	打製石鏃	2.3	1.8	0.6	1.4		1/1		有茎。

包含層（石器）

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	石材	器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	その他の法量（cm）	残存率	部位	備考
2	№33トレンチ			サヌカイト	楔形石器	3.7	4.2	1.1	14.8				厚手の剥片の右側縁および下縁を折断。

ST（鉄器）

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	器種	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	その他の法量（cm）	残存率	部位	備考
3	ST1001	P-9		直刀	全長 92.4 (身部)74.8 (柄部)17.6	(身部)2.1 (柄部)2.0	(身部)0.7 (柄部)0.9	537.7				
4	ST1001	P-9		刀子	全長 15.2 刃部 10.0	刃部最大幅 1.1	0.6	41.5				

X　浄　土　寺　遺　跡

例　言

1　本章は四国横断自動車道建設に伴う浄土寺遺跡の発掘調査報告書である。

2　所在地　鳴門市大麻町板東字浄土寺７他

調査対象面積　13,720㎡

試掘面積　340㎡

本調査面積　2,300㎡

3　発掘調査期間及び報告書作成の実施期間は次の通りである。

発掘調査期間　平成12年５月１日～平成12年９月30日

報告書作成期間　平成15年４月１日～平成16年３月31日

4　遺物番号・挿図番号・図版番号は通し番号とした。遺物番号は本文・挿図・表・図版と一致する。

5　本遺跡の地理的・歴史的環境については、「Ⅱ　調査地点の立地と環境」を参照されたい。

1　調査の経過

（1）調査の経過（Ⅰ-第1図およびⅡ-第1・5・14図）

浄土寺遺跡は阿讃山脈南麓、鳴門市大麻町板東字浄土寺7他の樋殿谷川・板東谷川などによって形成された標高27.00m前後の扇状地上に位置する。調査地点は浄土寺という字が残されているが、周辺には該当する寺院はない。本調査地点周辺に「浄土寺」という寺院があったと伝承が残るが、その位置や存続時期など一切不明であり、文献資料にも表れていない。平成11年度に四国横断自動車道建設に伴い、分布調査で推定された遺跡の範囲の内13,720㎡を調査対象面積として試掘調査を実施し、遺構・遺物の有無およびその範囲の確認に努めた。試掘調査は平成12年3月1日～3月31日にかけて試掘トレンチを340㎡掘削した。調査区の大部分では遺構・遺物を確認することができなかったが、調査区東部において13～14世紀にかけての輸入磁器などを含む遺物包含層および建物跡と思われる柱穴などが確認されたため、集落跡あるいは伝承の寺院「浄土寺」跡の可能性が指摘された。よって遺構・遺物の集中がみられた調査区東部を中心にその拡がりの把握に努めた。その結果を受け、平成12年度に2,300㎡を対象に本調査を実施した。本調査は平成12年5月1日～12年9月30日の期間実施され、掘立柱建物跡群の他、階段状の石組みをもつ池状遺構などが確認された。

（2）発掘調査の方法（第1図）

調査を始めるにあたり、グリッドの配置に際しては、発掘統一基準にならい、第Ⅳ系国土座標を基準とし、5mメッシュを1グリッドとして調査対象地を包み込む形で設定した。南西隅を基準として北にA・B・C…、東に1・2・3…の順に記号・番号をふり、その組み合わせで各グリッド名を表すこととした。遺構記号・番号は検出時に順次決定した。

第1図　グリッド配置図

（3）調査日誌抄

試掘調査

2000年

3月1日　調査準備。

3月7日　トレンチ掘削開始。

3月8日　No.5トレンチより青磁片・鉄釘・陶器片・瓦器片出土。

3月9日　No.5トレンチより陶器甕出土。

3月31日　トレンチ掘削終了。埋め戻し。現場撤収。

本調査

2000年

5月1日　調査準備。

5月10日　重機表土掘削。第1包含層人力掘削。

5月11日　側溝掘削。表土機械掘削。トレンチ再掘削。

5月22日　表土客土層機械掘削。客土包含層人力掘削。側溝掘り。遺構検出。遺構内掘削。精査。

6月6日　南部分遺構検出。写真撮影。

6月12日　北部分遺構検出。検出風景写真撮影。

6月16日　側溝掘削。遺構内掘削（SX1001～1004）。作図。状況写真撮影。

7月11日　調査区南部、甕周辺遺構（SX1005・1007等）内掘削。作図。南側溝掘削。
SX群ベルト掘削及び写真撮影。

7月24日　遺構内掘削完掘作業。遺構実測。

8月1日　完掘写真準備。作図。遺構内掘削（SKベルト除去等）。完掘写真撮影。
調査区内廃土反転処理。機械掘削開始。調査準備。

8月7日　SU1001・1002掘り下げ。実測図。包含層人力掘削（土師器・須恵器片出土）。
機械掘削。

8月8日　SX1003・1004周辺にある集石掘削および写真撮影。遺構実測。

8月10日　中央部西側集石遺構掘削および写真撮影。遺構実測。

8月18日　SX1001・SX1007・SX1008・SU1012人力掘削。遺構実測。

8月21日　遺構面精査。

8月30日　遺構実測。

9月1日　遺構検出および遺構掘削。

9月13日　遺構掘削。

9月18日　空撮前準備（遺構精査）。空撮。

9月20日　弥生遺構面。プラン検出。掘削。

9月22日　北区機械掘削。遺構図面作成。重機稼動。

9月25日　遺構掘削。遺構図面作成。トレンチ掘削。

9月26日　遺構完掘。遺構写真撮影。

9月28日　完掘写真撮影。残務整理。現場撤収。調査終了。

2　調査成果

（1）遺跡の概要（第2・3図）

浄土寺遺跡は四国横断自動車道建設に伴い発掘調査が実施された。調査地点は鳴門市大麻町板東の標高27.00m前後の扇状地の扇頂部左岸上に位置する。調査地点の西方には樋殿谷川が南流する。調査の結果、遺構では鎌倉時代後半～室町時代前半の掘立柱建物跡や集石遺構・池状遺構、弥生時代後期の土坑等の遺構などが確認された。遺物は弥生土器壺・甕・鉢の他、土師質土器・須恵質土器・瓦器・陶器・磁器等の中世土器が出土した。

（2）基本層序（第4図）

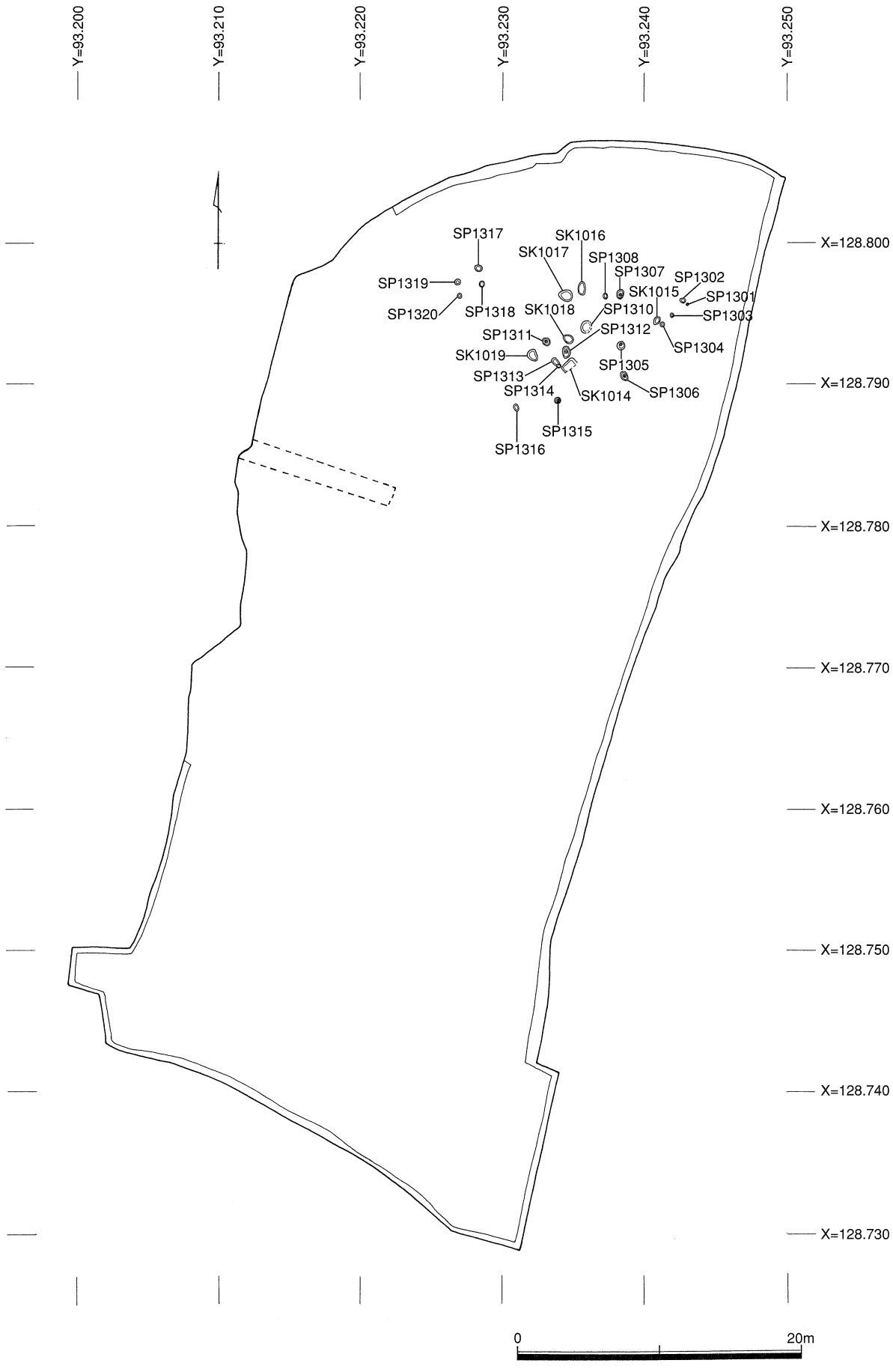
調査地点は水田開墾時の改変・整地（礫）層がみられるが、土層堆積状況の基本層序は概ね以下の通りである。上面より表土（耕作土）は粘性を帯びた砂質土で、以下、床土層が2層に分かれる。床土直下は黒褐色の客土・包含層となっている。この客土・包含層は砂岩礫・土器片・炭化物を含み、遺構内埋土とほぼ同質である。この客土・包含層は調査区全体に拡がっているが、地点によって粘性等の差異はある。調査区東側では概ね砂性が強く、西側にいくほど粘性が強くなる傾向が見られる。客土・包含層下の遺構面を形成する層はオリーブ褐色砂質土で砂岩礫を含む。遺構面は北から南へ緩やかに傾斜している。また遺構面下位の土層堆積は不安定で扇状地形に起因するものと思われる。調査区北側は扇状地性礫層（地山）が直下に表れるが、南側では1m程度の砂層の堆積をはさみ、扇状地性礫層（地山）となる。

（3）遺構と遺物

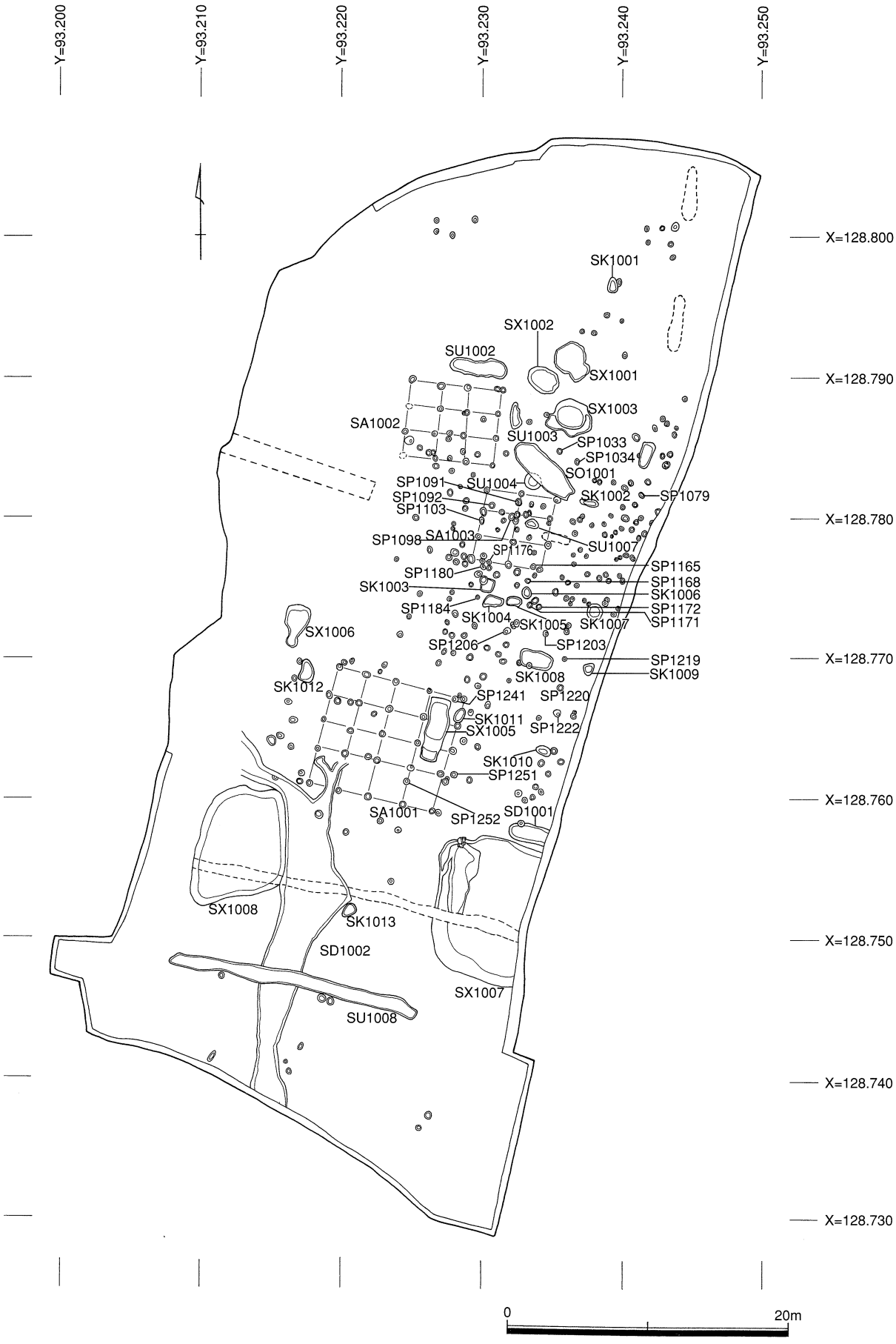
弥生時代および中世（鎌倉時代）の遺構が検出された。数量的には遺構・遺物とも中世期の遺構が主体である。主な遺構では、掘立柱建物跡・土坑・池状遺構・集石遺構・溝状遺構等が出土した。主な遺物では、弥生土器・須恵質土器・土師質土器・瓦器・青磁・鉄滓・刀子・鉄釘等が出土しており、遺物出土総点数は6,500点であった。

弥生時代の遺構（第2図）

弥生時代の遺構は、調査区の北側で検出された。中世の遺構面と同一レベルで検出され、中世の遺構と混在している。単純に弥生時代の遺構として分離・抽出するのは困難である。最終的に弥生時代に属する遺構として認定したものはSK6基、SP20基を数えるが、明確な遺構配置や規則性は抽出できないため、遺跡としての性格等は不明である。時期的には弥生時代後期前半頃と思われる。

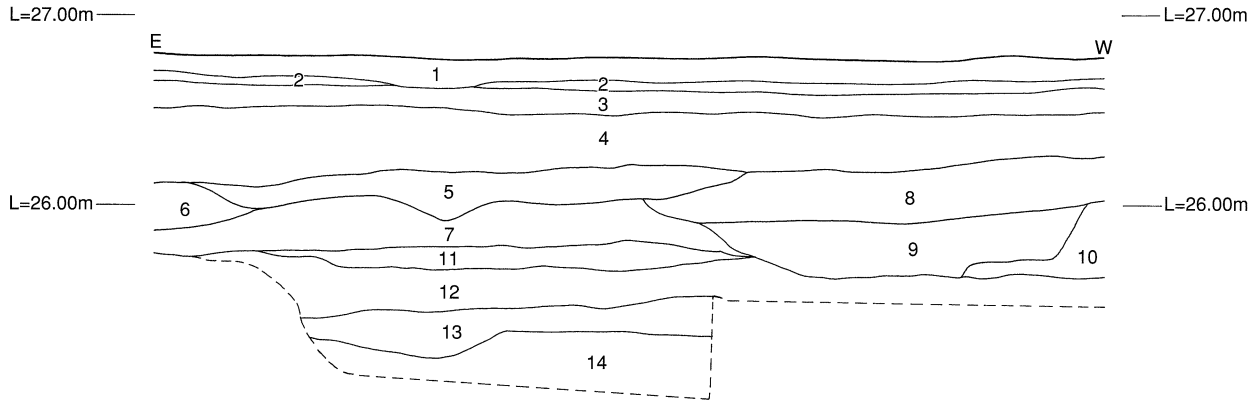

Y=93.200
Y=93.210
Y=93.220
Y=93.230
Y=93.240
Y=93.250
X=128.800
X=128.790
X=128.780
X=128.770
X=128.760
X=128.750
X=128.740
X=128.730
SP1317
SK1016
SK1017
SP1308
SP1307
SP1302
SP1319
SK1015
SP1301
SP1320
SP1318
SK1018
SP1310
SP1303
SP1311
SP1312
SP1304
SK1019
SP1305
SP1313
SP1314
SK1014
SP1306
SP1315
SP1316
0
20m

第２図　遺物配置図（弥生）


Y=93.200
Y=93.210
Y=93.220
Y=93.230
Y=93.240
Y=93.250
X=128.800
X=128.790
X=128.780
X=128.770
X=128.760
X=128.750
X=128.740
X=128.730
SK1001
SX1002
SU1002
SX1001
SX1003
SA1002
SU1003
SP1033
SP1034
SO1001
SP1091
SU1004
SP1092
SP1103
SK1002
SP1079
SP1098
SA1003
SU1007
SP176
SP1165
SP1180
SP1168
SK1003
SK1006
SP1184
SK1004
SK1005
SK1007
SP1172
SP1171
SX1006
SP1206
SP1203
SP1219
SK1009
SK1008
SK1012
SP1241
SP1220
SK1011
SX1005
SP1222
SK1010
SP1251
SA1001
SP1252
SD1001
SX1008
SK1013
SD1002
SX1007
SU1008
0
20m

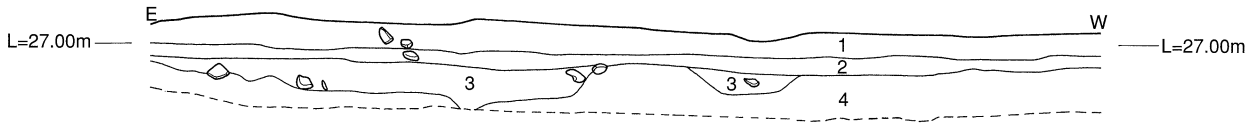
第 3 図　遺物配置図（中世）

調査区北壁



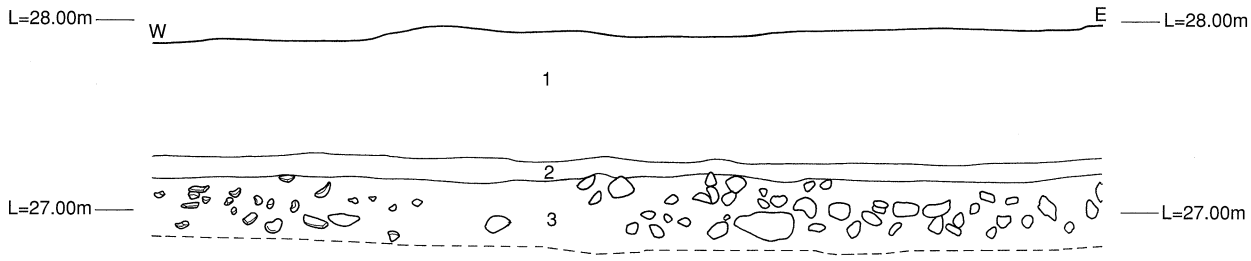
1．黄褐色　2.5Y4/1　砂質土（耕作土）
2．灰黄色　2.5Y6/2　砂質土（上下両面に鉄分が堆積。（床土１））
3．にぶい黄色　2.5Y6/4　砂質土（明黄褐色砂岩礫を一面にまばらに含む。（床土２））
4．黒褐色　2.5Y3/2　砂質土（明黄褐色砂岩礫を一面に含む。土器細片・炭化物を含む。）
5．黒褐色　2.5Y3/2　礫層　（ϕ＝２～４㎝の礫を一面に含みϕ＝10㎝程度の礫をまばらに含む。整地の際の礫層と考えられる。）
6．オリーブ褐色　2.5Y4/3　砂質土（明黄褐色砂岩礫・土器片をわずかに含む。（遺構面ベース））
7．黄褐色　2.5Y5/4　砂質土（ϕ＝２㎝程の礫をわずかに含む。（一部遺構面ベース）炭化物をわずかに含む。）
8．黒褐色　2.5Y3/2　砂質土（明黄褐色砂岩礫・土器細片・炭化物をわずかに含む。ϕ＝５㎝程の礫をまばらに含む。）
9．黒褐色　2.5Y3/2　砂質土（明黄褐色砂岩礫を一面まばらに含む。炭化物・土器細片をわずかに含む。下面に鉄分が帯状に堆積。）
　} 遺構埋土
10．黒褐色　2.5Y3/2　礫層　（ϕ＝１～５㎝の礫を一面に含む。）
11．暗灰黄色　2.5Y4/2　礫層　（ϕ＝１～10㎝程の礫を一面に含む。）
12．黄褐色　2.5Y5/4　砂質土（粘性やや強い。）
13．暗灰黄色　2.5Y4/2　砂礫層（ϕ＝0.5～３㎝の礫を一面に含む。）
14．暗灰黄色　2.5Y4/2　礫層　（ϕ＝20㎝程の礫を一面に含む。地山礫層と考えられる。）

調査区中央

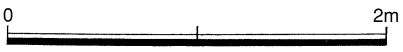


1．黄灰色　2.5Y6/1　シルト（しまり有り。粘性なし。）
2．褐色　10YR4/4　シルト（しまり有り。粘性なし。）
3．暗褐色　10YR3/4　シルト（しまり有り。粘性なし。３～５㎝の礫を多数含む。）
4．暗褐色　10YR3/4　シルト（しまり有り。粘性なし。）

調査区南壁



1．黒褐色　2.5Y3/2　シルト（しまり有り。粘性なし。）
2．黒褐色　10YR2/3　シルト（しまり有り。粘性なし。）
3．黒褐色　10YR2/3　シルト（しまり有り。粘性なし。ϕ＝10～30㎝の礫を50%、ϕ＝10㎝の角礫を10%含む。）



第４図　土層断面図

SK1014（土坑14）（第５図）

攪乱により、東側が削平されているため、全容は不明である。遺構内からは砂岩礫とともに、甕や鉢が出土している。

出土遺物（第６図）

１～５は甕、６・７は鉢である。時期的にはいずれも弥生時代後期前半に属するものと思われる。

SK1015（土坑15）（第５図）

平面形状は楕円形を呈する土坑である。遺構内からは弥生土器小片が数点出土した。

出土遺物

弥生土器小片が数点出土しているが、実測可能な遺物は無かった。

SK1016（土坑16）（第５図）

平面形状は楕円形を呈する土坑である。遺構内からは弥生土器小片が数点出土した。

出土遺物

弥生土器小片が数点出土しているが、実測可能な遺物は無かった。

SK1017（土坑17）（第５図）

平面形状は楕円形を呈する土坑である。遺構内からは弥生土器小片が数点出土した。

出土遺物

弥生土器小片が数点出土しているが、実測可能な遺物は無かった。

SK1018（土坑18）（第５図）

平面形状は楕円形を呈する土坑である。遺構内からは弥生土器小片が数点出土した。

出土遺物

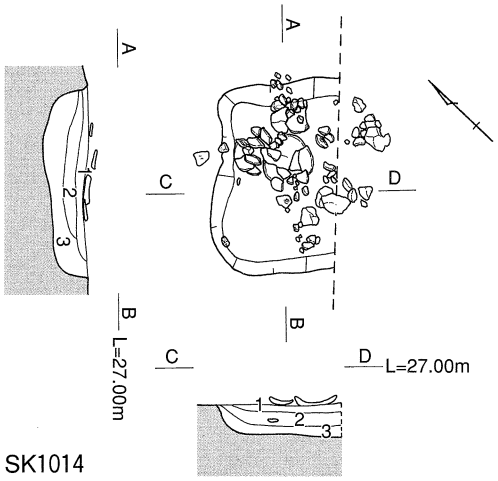
弥生土器小片が数点出土しているが、実測可能な遺物は無かった。

SK1019（土坑19）（第５図）

平面形状は楕円形を呈する土坑である。遺構内からは弥生土器小片が数点出土した。

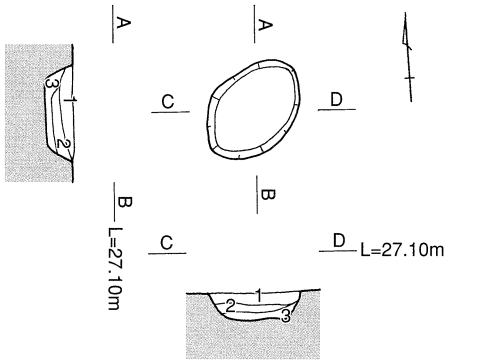
出土遺物

弥生土器小片が数点出土しているが、実測可能な遺物は無かった。



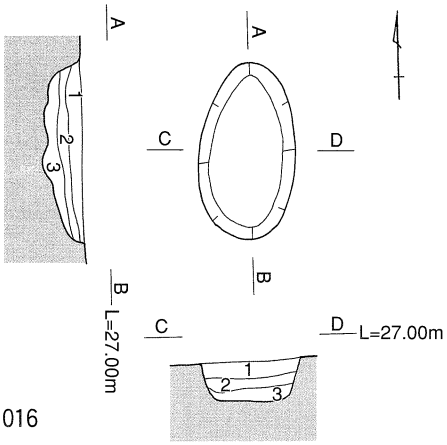
SK1014

1．にぶい黄褐色　10YR4/3　シルト（褐色10YR4/4砂質土と灰黄褐色10YR4/2砂質土が部分的に混じる。土器細片・炭化物をわずかに含む。上層に土器片多く含む。粘性若干有り。しまりやや有り。）
2．褐色　　10YR4/4　シルト（にぶい黄褐色10YR4/3砂質土が混じる。土器片および土器細片・炭化物わずかに含む。粘性有り。しまりやや有り。）
3．褐色　　10YR4/6　シルト（土器細片・炭化物を極少量含む。粘性若干有り。しまり有り。）



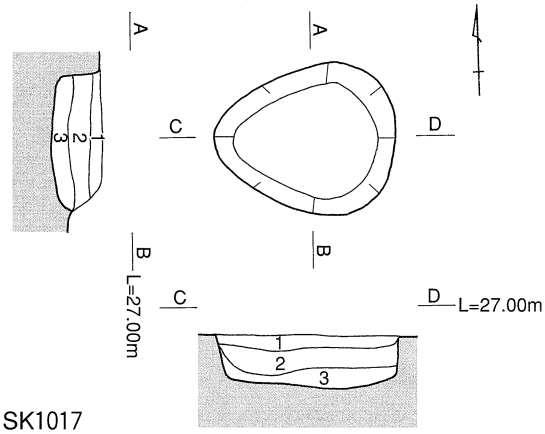
SK1015

1．暗褐色　10YR3/3　砂質土（にぶい黄褐色10YR4/3砂質土と褐色10YR4/4砂質土が部分的に混じる。土器細片およびϕ＝0.2～0.5cm程度の礫を少量含む。粘性若干有り。しまりやや有り。）
2．暗褐色　10YR3/4　砂質土（灰黄褐色10YR4/2砂質土が部分的に混じる。炭化物およびϕ＝0.2～0.5cm程度の礫を極少量含む。粘性若干有り。しまりやや有り。）
3．褐色　　10YR3/4　砂質土（にぶい黄褐色10YR4/3砂質土が部分的に混じる。炭化物を極少量含む。粘性若干有り。しまりやや有り。）



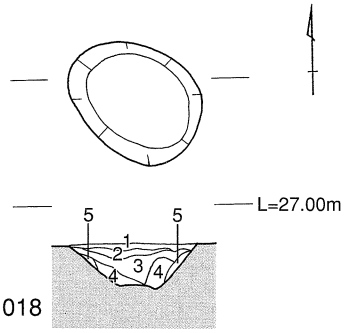
SK1016

1．暗褐色　　10YR3/3　シルト（にぶい黄褐色砂質土が部分的に混じる。ϕ＝0.2～3cm大の礫および炭化物若干含む。）
2．暗褐色　　10YR3/4　シルト（炭化物を若干およびϕ＝0.2～1cm大の礫を少量含む。粘性若干有り。しまりやや有り。）
3．にぶい黄褐色　10YR4/3　砂質土（暗褐色10YR3/4砂質土が部分的に混じる。ϕ＝0.2～3cm大の礫を極少量および炭化物をマーブル状に含む。）

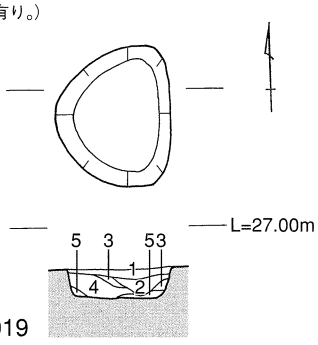


SK1017

1．にぶい黄褐色　10YR4/3　シルト（褐色10YR4/4砂質土と灰黄褐色10YR4/2砂質土が部分的に混じる。土器細片・炭化物をわずかに含む。上層に土器片多く含む。粘性若干有り。しまりやや有り。）
2．褐色　　10YR4/4　シルト（にぶい黄褐色10YR4/3砂質土が混じる。土器片および土器細片・炭化物わずかに含む。粘性有り。しまりやや有り。）
3．にぶい黄褐色　10YR4/3　砂質土（全体的に炭化物はほとんど含まない。粘性若干有り。しまりやや有り。）



SK 1018

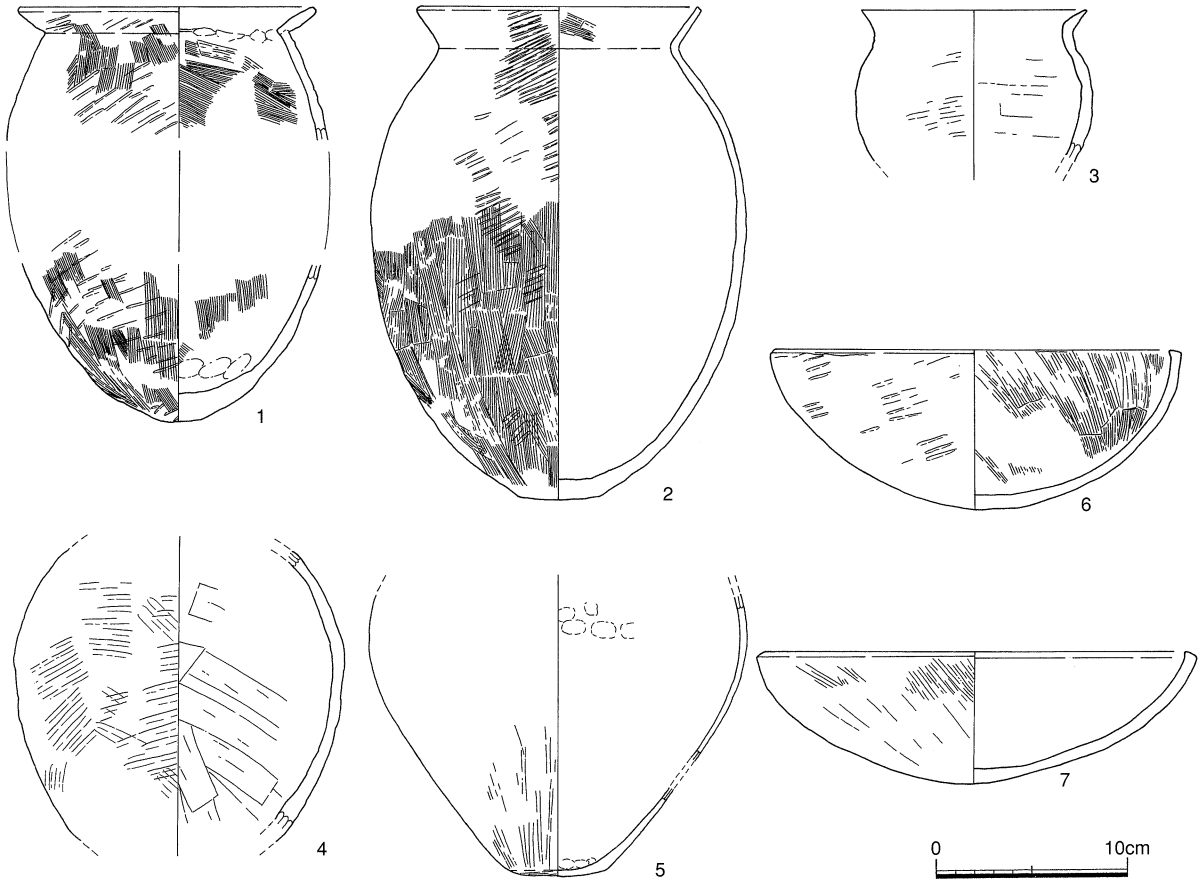


SK 1019

SK1018・1019

1．にぶい黄褐色　10YR4/3　砂質土（褐色10YR4/4砂質土が部分的に混じる。上層に土器片・炭化物若干含む。粘性若干有り。しまりやや有り。）
2．にぶい黄褐色　10YR4/3　砂質土（褐色10YR4/4砂質土が部分的に混じる。炭化物および鉄分を極少量含む。粘性有り。しまりやや有り。）
3．にぶい黄褐色　10YR4/3　砂質土（褐色10YR4/4砂質土が部分的に混じる。炭化物、極少量含む。粘性若干有り。しまりやや有り。）
4．にぶい黄褐色　10YR4/3　砂質土（褐色10YR4/4砂質土が部分的に混じる。粘性若干有り。しまりやや有り。）
5．褐色　　10YR4/4　砂質土（礫はほとんど含まない。粘性若干有り。しまりやや有り。）

第5図　SK1014～1019平・断面図（弥生）



第6図　SK1014出土遺物（弥生）

SP1301（柱穴301）（第7図）

平面形状は円形を呈する。

出土遺物

弥生土器細片が数点出土したが、実測可能な遺物は無かった。

SP1302（柱穴302）（第7図）

平面形状は円形を呈する。

出土遺物

弥生土器細片が数点出土したが、実測可能な遺物は無かった。

SP1303（柱穴303）（第7図）

平面形状は円形を呈する。

出土遺物

弥生土器細片が数点出土したが、実測可能な遺物は無かった。

SP1304（柱穴304）（第７図）

平面形状は円形を呈する。

出土遺物

弥生土器細片が数点出土したが、実測可能な遺物は無かった。

SP1305（柱穴305）（第７図）

平面形状は円形を呈し、平・断面は柱痕と思われる段がみられる。

出土遺物

弥生土器細片が数点出土したが、実測可能な遺物は無かった。

SP1306（柱穴306）（第７図）

平面形状は楕円形状を呈し、平・断面は柱痕と思われる段がみられる。

出土遺物

弥生土器細片が数点出土したが、実測可能な遺物は無かった。

SP1307（柱穴307）（第７図）

平面形状は楕円形状を呈し、平・断面は柱痕と思われる段がみられる。

出土遺物

弥生土器細片が数点出土したが、実測可能な遺物は無かった。

SP1308（柱穴308）（第７図）

平面形状は円形を呈する。

出土遺物

弥生土器細片が数点出土したが、実測可能な遺物は無かった。

SP1310（柱穴310）（第７図）

平面形状は楕円形状を呈し、平・断面は柱痕と思われる段がみられる。

出土遺物

弥生土器細片が数点出土したが、実測可能な遺物は無かった。

SP1311（柱穴311）（第７図）

平面形状は円形状を呈し、平・断面は柱痕と思われる段がみられる。

出土遺物

弥生土器細片が数点出土したが、実測可能な遺物は無かった。

SP1312（柱穴312）（第７図）

平面形状は楕円形状を呈し、平・断面は柱痕と思われる段がみられる。

出土遺物

弥生土器細片が数点出土したが、実測可能な遺物は無かった。

SP1313（柱穴313）（第７図）

平面形状は楕円形状を呈し、SP1314と切り合う。

出土遺物

弥生土器細片が数点出土したが、実測可能な遺物は無かった。

SP1314（柱穴314）（第７図）

平面形状は円形を呈し、SP1313と切り合う。

出土遺物

弥生土器細片が数点出土したが、実測可能な遺物は無かった。

SP1315（柱穴315）（第７図）

平面形状は円形を呈し、平・断面は柱痕と思われる段がみられる。

出土遺物

弥生土器細片が数点出土したが、実測可能な遺物は無かった。

SP1316（柱穴316）（第７図）

平面形状は楕円形状を呈する。

出土遺物

弥生土器細片が数点出土したが、実測可能な遺物は無かった。

SP1317（柱穴317）（第７図）

平面形状は円形を呈する。

出土遺物

弥生土器細片が数点出土したが、実測可能な遺物は無かった。

SP1318（柱穴318）（第７図）

平面形状は円形を呈する。

出土遺物

弥生土器細片が数点出土したが、実測可能な遺物は無かった。

SP1319（柱穴319）（第７図）

平面形状は円形を呈する。

出土遺物

弥生土器細片が数点出土したが、実測可能な遺物は無かった。

SP1320（柱穴320）（第７図）

平面形状は円形を呈する。

出土遺物

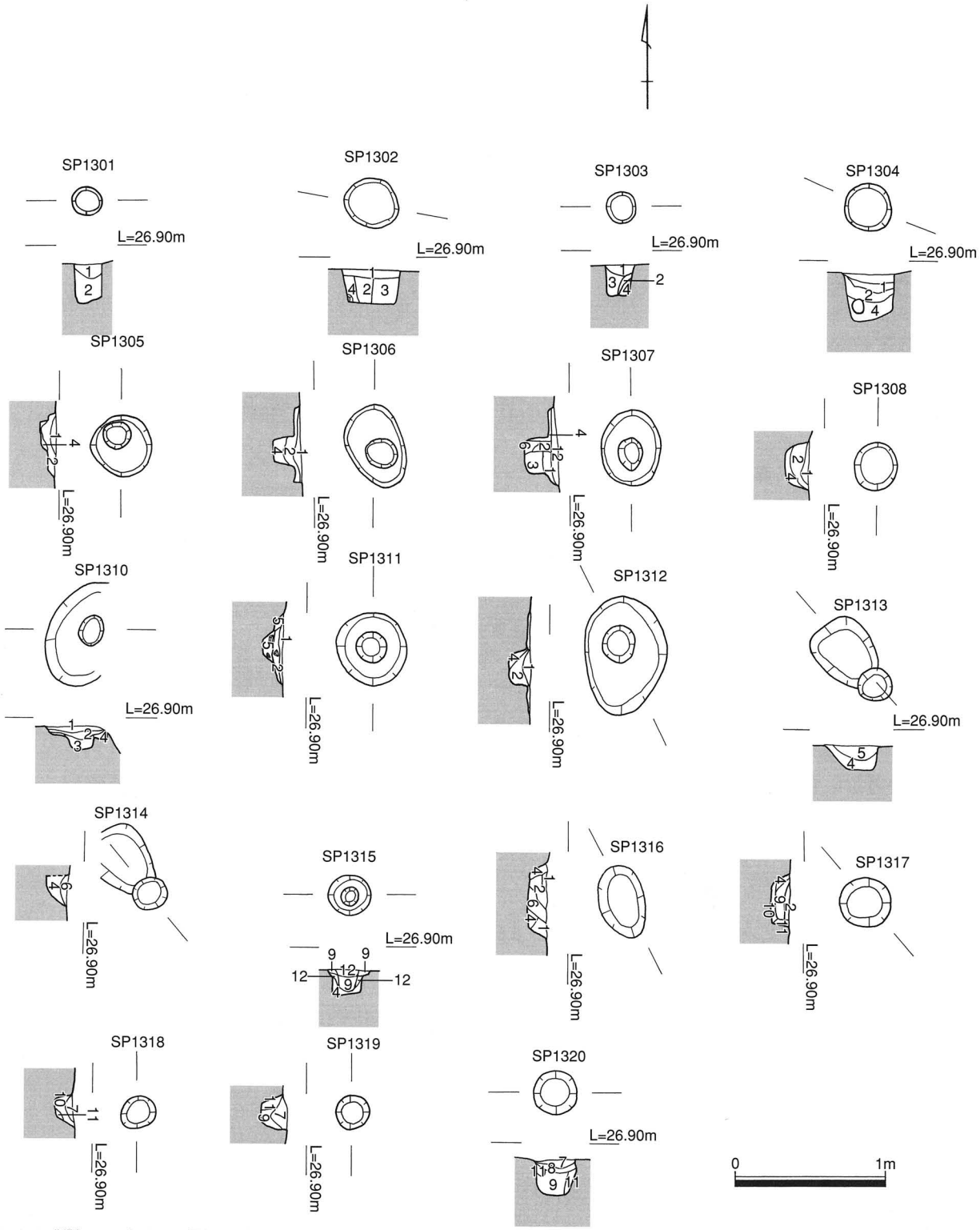
弥生土器細片が数点出土したが、実測可能な遺物は無かった。

包含層出土遺物

遺構以外からも多くの弥生土器・石器が出土している。遺構内出土遺物と同様、土器類は小片あるいは摩滅の著しいものがほとんどであり、全容の判明するものは少ない。遺構外で出土した遺物のうち、実測可能なものについて包含層出土遺物としてここに掲載する。

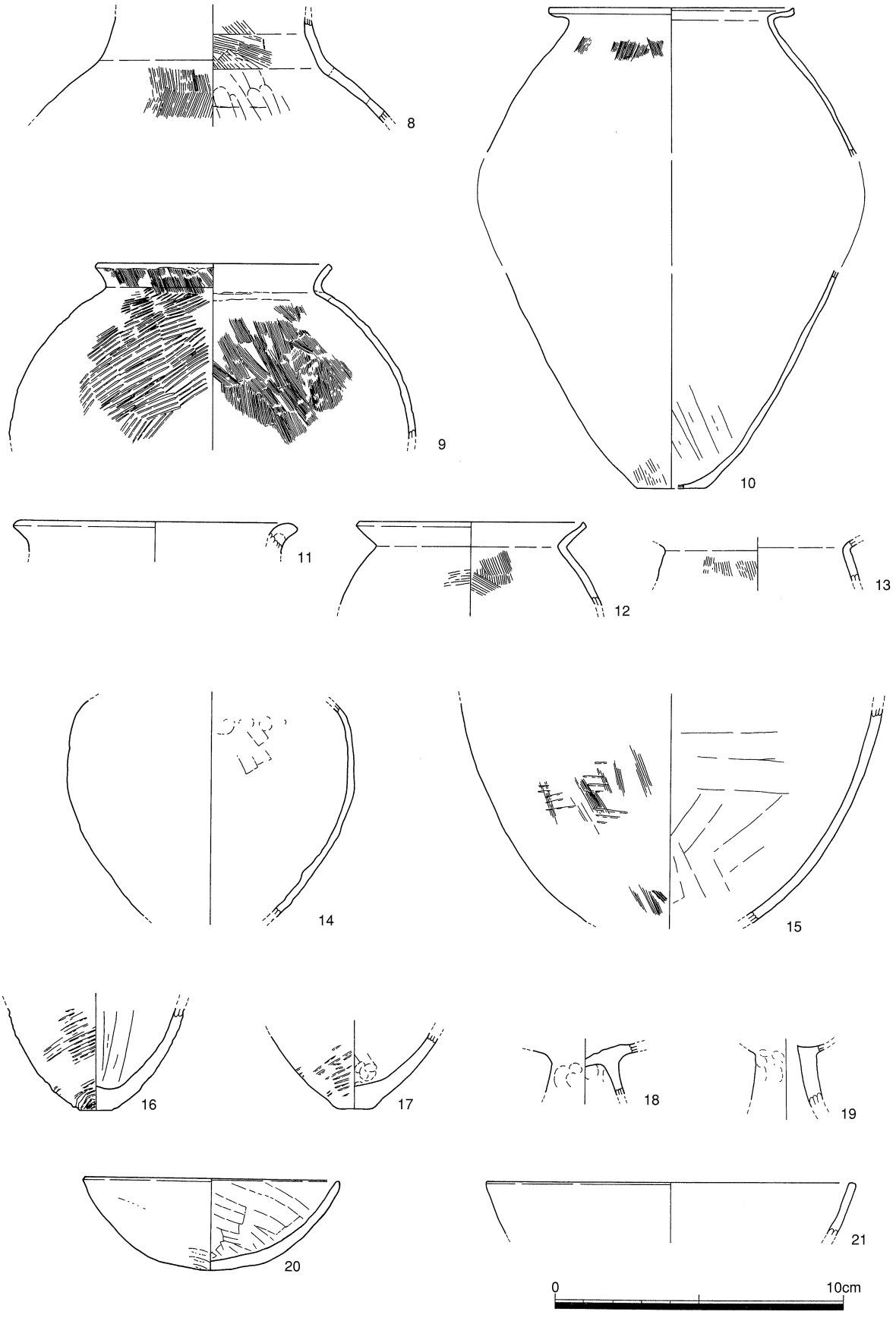
弥生土器（第８図）

８は壺である。９～17は甕である。18・19は高杯脚部、20・21は鉢である。時期的にはいずれも弥生時代後期前半頃と思われる。

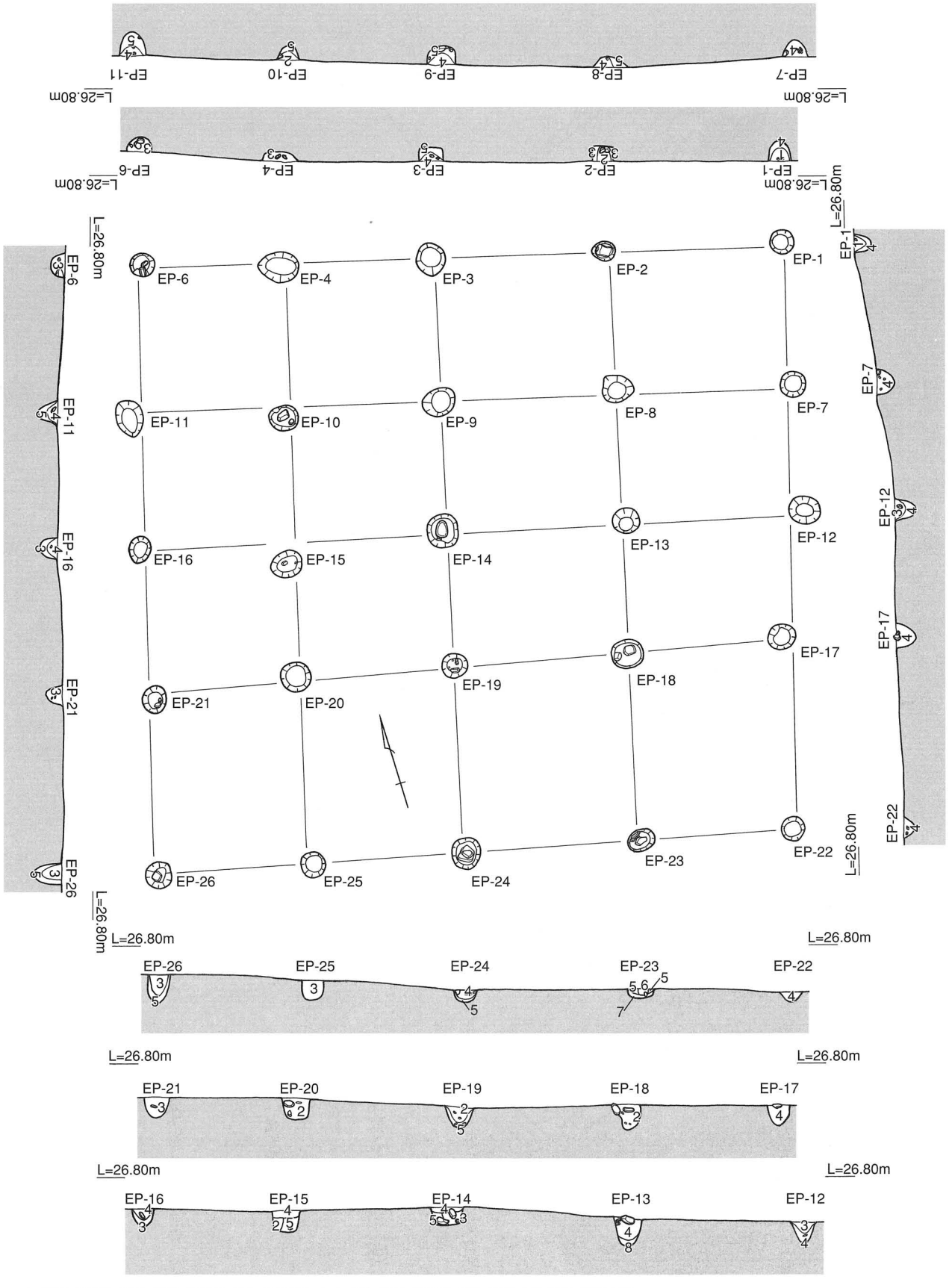


1．にぶい黄褐色　10YR4/3　シルト（褐色10YR4/4砂質土が部分的に混じる。φ＝0.2cm程度の礫を少量含む。粘性若干有り。しまりやや有り。）
2．褐色　10YR4/4　砂質土（にぶい黄褐色10YR4/3砂質土が部分的に混じる。φ＝0.2cm程度の礫を少量含む。粘性若干有り。しまりやや有り。）
3．にぶい黄褐色　10YR4/3　砂質土（褐色10YR4/4砂質土と暗褐色の10YR3/3砂質土が部分的に混じる。土器細片・炭化物を極少量含む。）
4．褐色　10YR4/4　砂質土（φ＝0.5～7cm大の礫を少量含む。粘性若干有り。しまりやや有り。）
5．褐色　10YR4/4　砂質土（φ＝1～4cm大の礫を多量に含む。）
6．にぶい黄褐色　10YR4/3　砂質土（粘性若干有り。しまりやや有り。）
7．暗褐色　10YR3/4　砂質土（暗灰黄色2.5Y4/2砂質土と灰黄褐色10YR4/2砂質土が部分的に混じる。炭化物を極少量およびφ＝0.2～1.5cm大の礫を若干含む。粘性若干有り。しまりやや有り。）
8．暗褐色　10YR3/4　砂質土（灰黄褐色10YR4/2砂質土が部分的に混じる。炭化物を極少量含む。粘性若干有り。しまりやや有り。）
9．暗褐色　10YR3/3　砂質土（暗灰黄色2.5Y4/2砂質土が部分的に混じる。φ＝0.2～1.2cm大の礫を若干含む。粘性若干有り。しまりやや有り。）
10．暗褐色　10YR3/4　砂質土（φ＝0.2～1cm大の礫を極少量含む。粘性若干有り。しまりやや有り。）
11．暗オリーブ褐色　2.5Y3/3　砂質土（にぶい黄褐色10YR4/3砂質土と暗褐色10YR3/4砂質土が部分的に混じる。φ＝0.2～1cm大の礫を極少量含む。粘性若干有り。しまりやや有り。）
12．暗褐色　10YR3/3　シルト（にぶい黄褐色10YR4/3砂質土が部分的に混じる。φ＝0.2cm程度の礫および炭化物を極少量含む。粘性若干有り。しまりやや有り。）

第７図　SP1301～1308・SP1310～1320平・断面図（弥生）



第8図　包含層出土遺物（弥生）



1．暗褐色　10YR3/4　砂質土（砂礫および炭化物を含む。粘性やや弱い。）
2．暗褐色　10YR3/4　砂質土（砂礫および2～15cmの礫を含む。粘性やや弱い。）
3．暗褐色　10YR3/3　砂質土（ϕ=0.5～10cm前後の小礫および土器細片を含む。粘性やや弱い。）
4．にぶい黄褐色　10YR4/3　砂質土（砂礫および土器細片・炭化物を含む。粘性やや弱い。）
5．にぶい黄褐色　10YR4/3　砂質土（ϕ＝2～20cm前後の礫を含む。）
6．にぶい黄褐色　10YR5/4　砂質土（中央にϕ=10cmの礫有り。粘性弱い。）
7．にぶい黄褐色　10YR5/3　砂質土（ϕ＝5cm前後の礫有り。粘性弱い。）
8．灰黄褐色　10YR4/2　砂質土（粘性弱い。）

0　4m

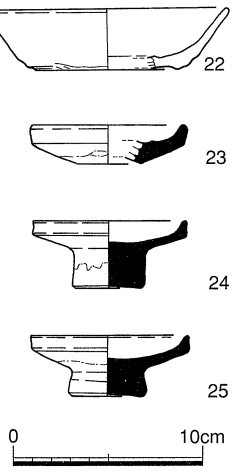
第9図　SA1001平・断面図

中世の遺構（第３図）

鎌倉時代後半～室町時代前半の掘立柱建物跡や集石遺構・池状遺構・土坑等の遺構が確認された。各遺構からは土師質土器・須恵質土器・瓦器・陶器・磁器等の当該期の遺物が出土しているが、小片が多く全体の判明するものは少ない。

SA1001（１号掘立柱建物跡）（第９図）

調査区中央部、M・N-5・６グリッドを中心に位置する梁間４間×桁行４間（8.52m×9.00m）の総柱の掘立柱建物跡である。柱穴は円形を呈し、平均柱穴幅は36.5cmである。柱心間の平均長は梁間2.13m、桁行2.25mで、平均長2.19mを測る。SP内埋土は柱痕をとどめない。ほぼ方形の建物であるが、桁行が若干長く、棟方向は東西とみられ、N-13°-Eで、主軸方向は約13°東偏する。建物南側一間の柱間が約2.70mと他に比べ長くなっており、庇等の可能性も考えられる。時期的には出土遺物や周辺の状況から、12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。



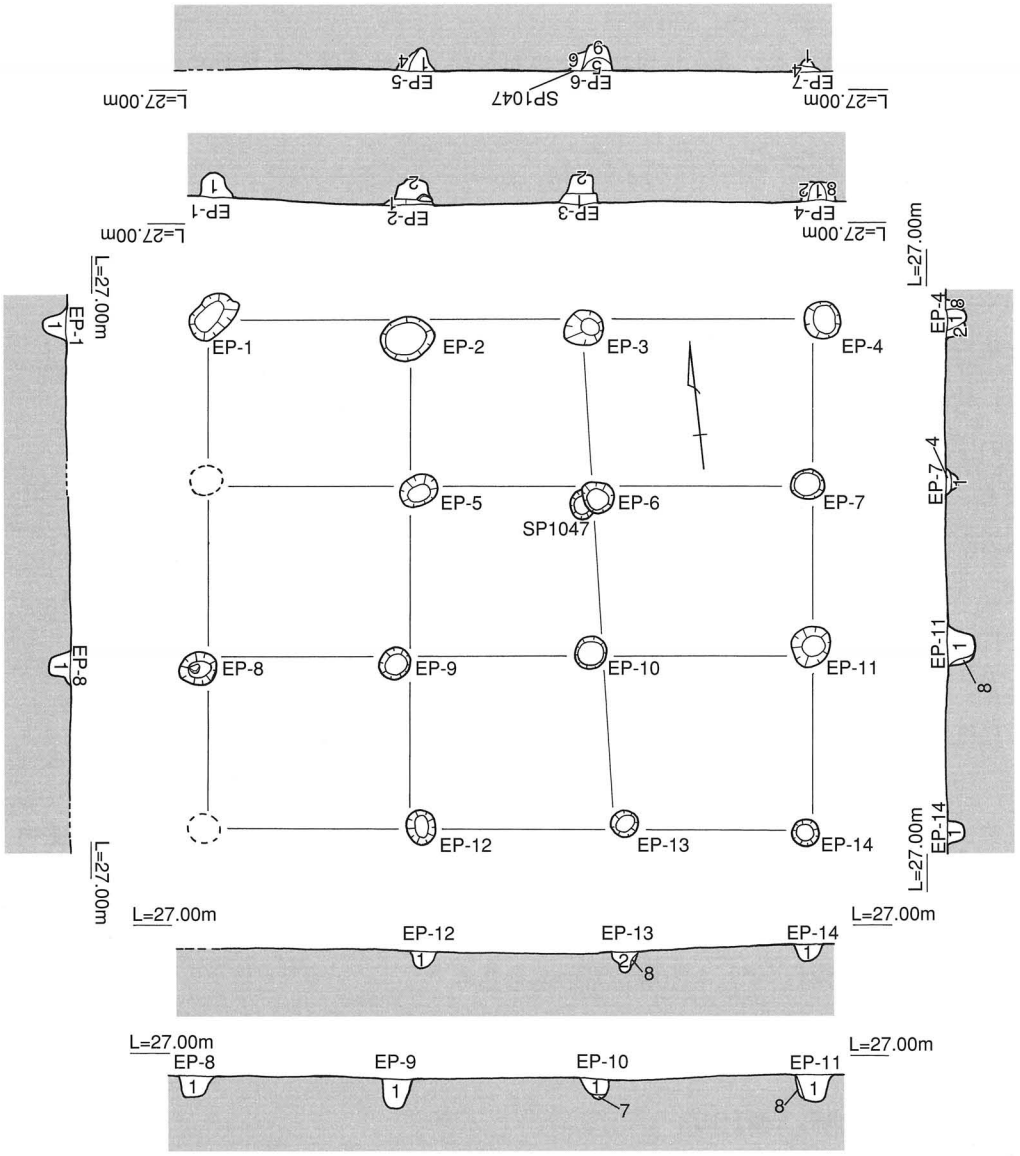
第10図　SA1001出土遺物

出土遺物（第10図）

22は土師質土器杯である。時期的には、概ね12世紀後半頃のものと思われる。23～25は大谷焼で、23は秉燭、24・25は灯明皿である。23～25はいずれも上層からの落ち込みと考えられる。

SA1002（２号掘立柱建物跡）（第11図）

調査区北部、R-6・７グリッド、SA1001の北側に位置する梁間３間×桁行３間（5.80m×6.80m）の掘立柱建物跡である。柱穴は円形を呈し、平均柱穴幅は37.3cmである。柱心間の平均長は梁間1.93m、桁行2.27mで、平均長2.10mを測る。SP内埋土は柱痕をとどめない。ほぼ方形の建物であるが、桁行が若干長く、棟方向は東西とみられ、N-15°-Wで、主軸方向は約15°西偏する。時期的には出土遺物や周辺の状況から、12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。



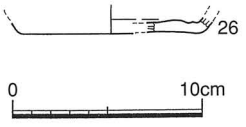
1．黒褐色　2.5Y3/2　砂質土（砂岩礫および土器細片・炭化物を含む。φ＝3～10cm程度の礫を含む。しまり良し。）
2．黒褐色　2.5Y3/2　砂質土（砂岩礫および炭化物を含む。粘性やや弱い。）
3．黒褐色　2.5Y3/2　砂質土（鉄分を含む。しまり良し。）
4．オリーブ褐色　2.5Y4/3　砂質土（炭化物および砂岩礫をわずかに含む。しまり良し。）
5．オリーブ褐色　2.5Y4/3　砂質土（黄褐色2.5Y5/4砂質土が10～15%程度混じる。鉄分をわずかに含む。）
6．オリーブ褐色　2.5Y4/3　砂質土（黄褐色2.5Y5/4砂質土が10%程度混じる。砂岩礫をわずかに含む。）
7．黄灰色　2.5Y5/1　砂質土（下面に鉄分の沈澱が見られる。）
8．黄褐色　2.5Y5/4　砂質土（黒褐色2.5Y3/2砂質土が10～15%程度混じる。しまり良し。）
9．黄褐色　2.5Y5/4　砂質土（オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土が10%程度混じる。しまり良し。）

0　4m

第11図　SA1002平・断面図

出土遺物（第12図）

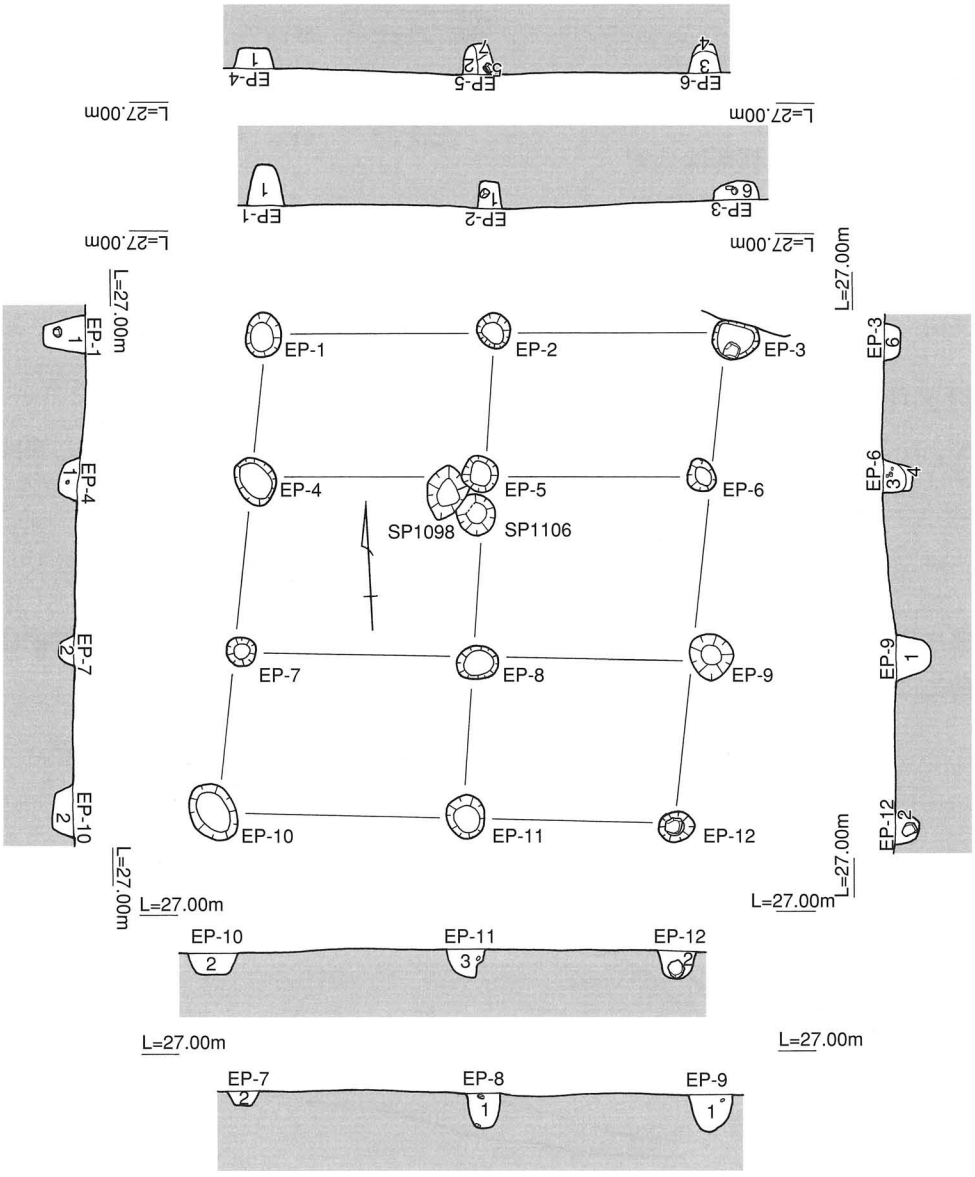
26は土師質土器皿の底部である。全容は不明であるが、底部の切り離しは回転糸切りである。時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。



第12図　SA1002出土遺物

SA1003（３号掘立柱建物跡）（第13図）

調査区北部、P・Q-7グリッド、SA1002の南側に位置する梁間２間×桁行３間（4.80m×5.20m）の掘立柱建物跡である。柱穴は円形を呈し、平均柱穴幅は37.0cmである。柱心間の平均長は梁間2.40m、桁行1.73mで、平均長2.07mを測る。

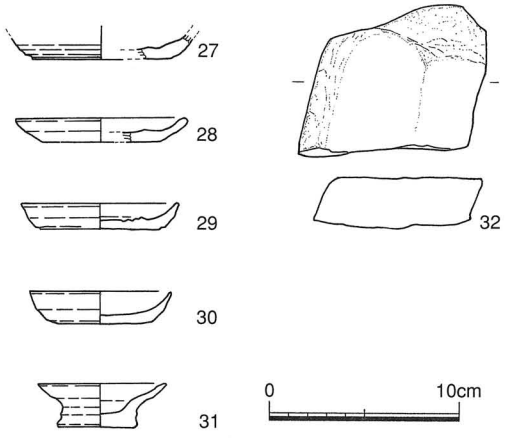


1．暗褐色　10YR3/3　砂質土（砂礫および土器細片・炭化物含む。φ＝２～10cm大の石含む。粘性やや弱い。）
2．暗褐色　10YR3/4　砂質土（砂礫および土器細片・炭化物含む。φ＝３cm前後の小礫多数含む。φ＝20cm程度の石含む。粘性やや弱い。）
3．にぶい黄褐色　10YR4/3　砂質土（砂礫および土器細片・炭化物有り。φ＝５～20cmの石含む。粘性やや弱い。）
4．にぶい黄褐色　10YR5/3　砂質土（粘性きわめて弱い。）
5．オリーブ褐色　2.5Y4/3　砂質土（φ＝10cm前後の石含む。粘性やや弱い。）
6．オリーブ褐色　2.5Y4/4　砂質土（φ＝５～15cm前後の石数個および土器細片・φ＝0.5～2cmの炭化物含む。粘性やや弱い。）
7．オリーブ褐色　2.5Y4/5　砂質土（粘性やや弱い。）

0　4m

第13図　SA1003平・断面図

SP内埋土は柱痕をとどめない。梁間が若干長く、棟方向は南北とみられ、N-85°-Wで、主軸方向は約85°西偏する。時期的には出土遺物や周辺の状況から、12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。



第14図　SA1003出土遺物

出土遺物（第14図）

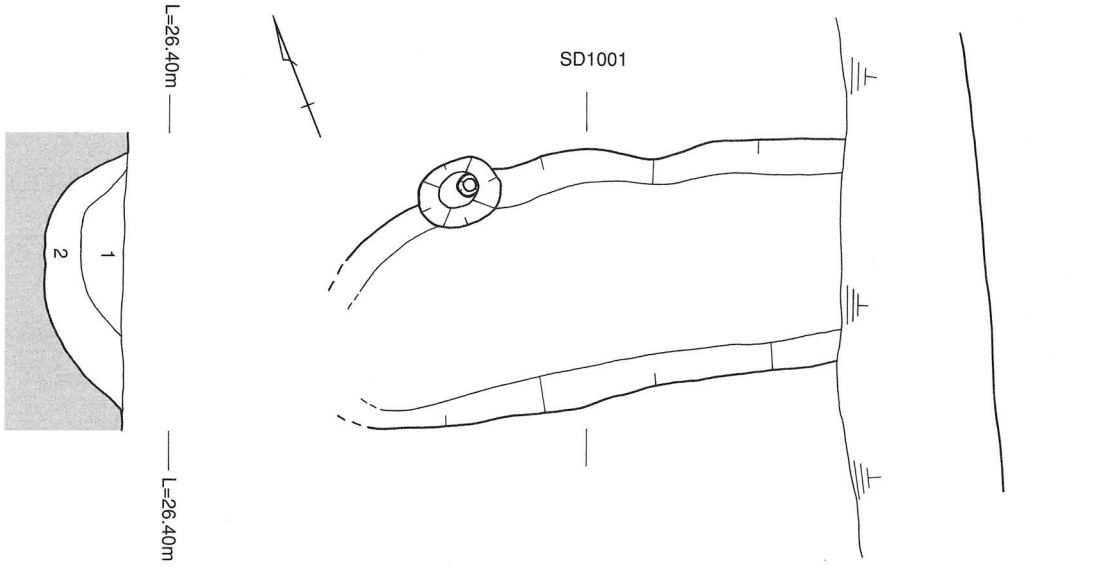
27～31は土師質土器である。27は杯、28～30は小皿である。底部は糸切りである。31は円盤状高台小皿で、底部はヘラ切りのちナデである。時期的には12世紀後半頃と思われる。32は砂岩の砥石である。

SD1001（溝１）（第15図）

調査区南部、L-7グリッドで検出された溝状遺構である。一部調査区外に延びており、規模は不明である。

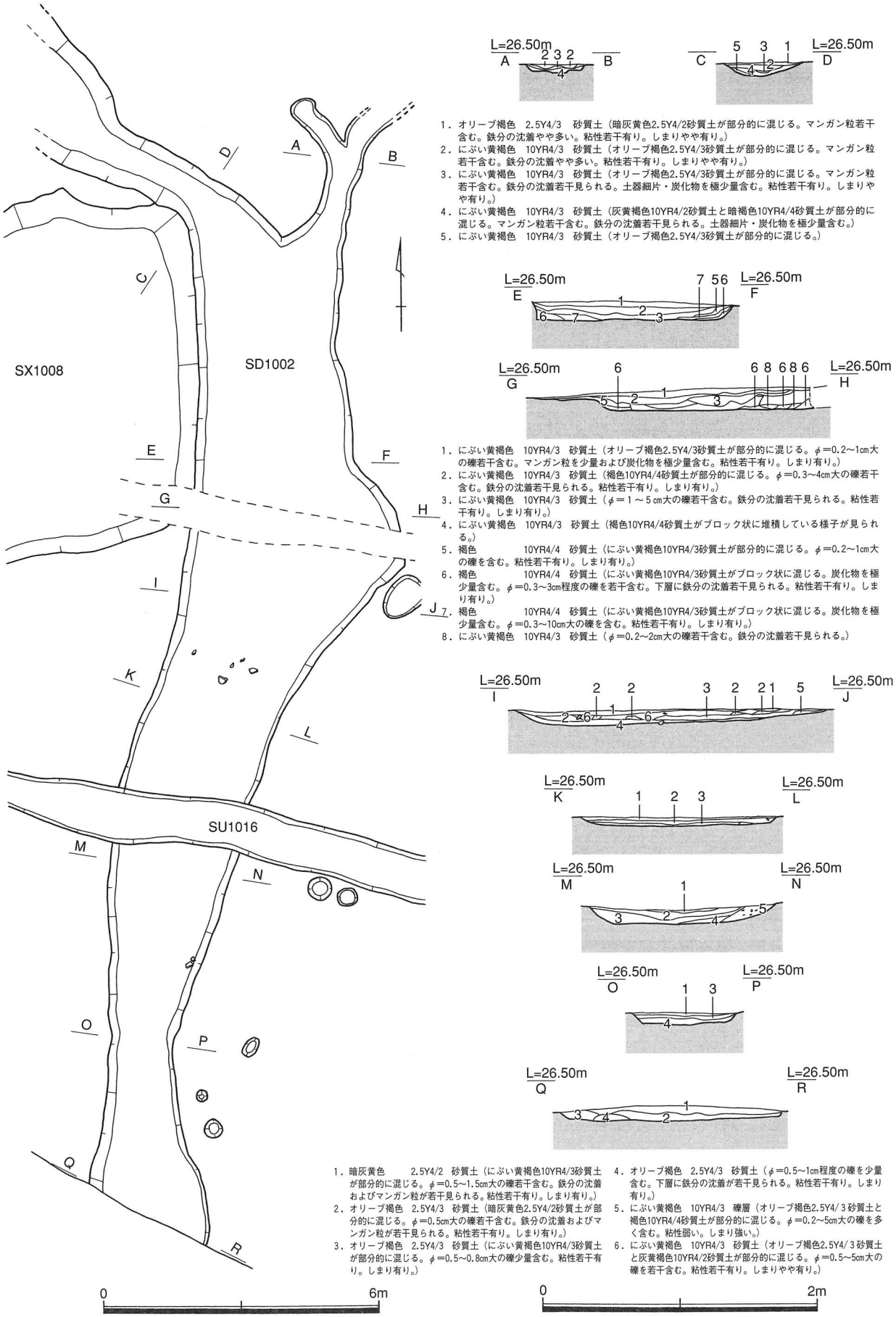
出土遺物

土師質土器片等が出土しているが、いずれも小片のため実測可能な遺物は無かった。詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。



1．オリーブ褐色　2.5Y4/3　砂質土（φ＝0.5～1cm程度の小礫を一面に含む。）
2．黒褐色　2.5Y3/2　砂質土（砂岩礫および炭化物を少量含む。）

第15図　SD1001平・断面図



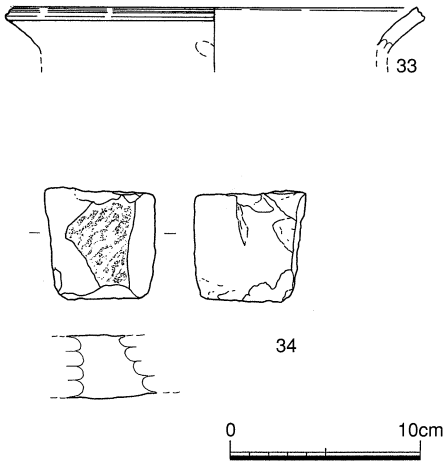
第16図　SD1002平・断面図

SD1002（溝２）（第16図）

調査区南部、H～L-3・４グリッドで検出された南北に延びる溝状遺構である。断面形は浅いＤ字状を呈するが、上面は削平されているものと思われる。南側は一部調査区外に延びており、規模は不明である。

出土遺物（第17図）

33は弥生土器の甕口縁部である。原位置は遊離しているものと考えられる。34は平瓦である。詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。



第17図　SD1002出土遺物

SK1001（土坑１）（第18図）

T-8グリッド、調査区北部東側で出土した楕円形状の平面形を呈する土坑である。長軸方向は南北である。

規模は長軸100cm、短軸60cm、深さ19cmである。遺構内埋土は１層である。土師質土器片等が出土したが、いずれも小片であるため、実測可能なものは１点だけである。

出土遺物（第19図）

35は土師質土器の小皿である。小片のため詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。

SK1002（土坑２）（第18図）

Q-8グリッド、調査区北部東側で出土した長楕円形状の平面形を呈する土坑である。長軸方向は東西である。規模は長軸130cm、短軸45cm、深さ23cmである。遺構内埋土は１層である。

出土遺物

土師質土器片等が出土しているが、いずれも小片のため実測可能な遺物は無かった。詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。

SK1003（土坑３）（第18図）

O・P-7グリッド、調査区中央部東側で出土した方形状の平面形を呈する土坑である。長軸方向は南北である。規模は長軸110cm、短軸80cm、深さ25cmである。遺構内埋土は３層に分層される。土師質土器片等が出土したが、いずれも小片であるため、実測可能なものは１点だけである。

出土遺物（第20図）

36は土師質土器の小皿である。底部は回転糸切りである。小片のため詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。

SK1004（土坑４）（第18図）

O-7グリッド、調査区中央部東側で出土した不整形な四角形状の平面形を呈する土坑である。長軸方向は東西である。規模は長軸136cm、短軸74cm、深さ31cmである。遺構内埋土は２層に分層される。土師質土器片等が出土したが、いずれも小片であるため、実測可能なものは３点だけである。

出土遺物（第21図）

37～39は土師質土器である。37は皿底部、38・39は小皿である。37・39の底部は回転糸切りである。小片のため詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。

SK1005（土坑５）（第18図）

O-7グリッド、調査区中央部東側で出土した隅丸長方形状の平面形を呈する土坑である。長軸方向は東西である。規模は長軸106cm、短軸60cm、深さ25cmである。遺構内埋土は３層に分層される。

出土遺物

土師質土器片等が出土しているが、いずれも小片のため実測可能な遺物は無かった。詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。

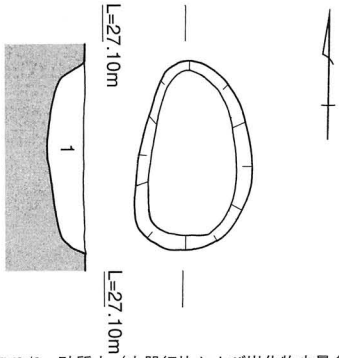
SK1006（土坑６）（第18図）

O-7グリッド、調査区中央部東側で出土した隅丸方形状の平面形を呈する土坑である。長軸方向は東西である。規模は長軸64cm、短軸55cm、深さ32cmである。遺構内埋土は２層に分層される。

出土遺物

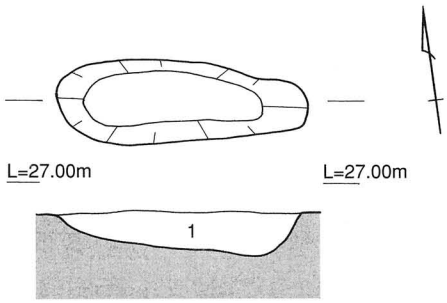
土師質土器片等が出土しているが、いずれも小片のため実測可能な遺物は無かった。詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。

SK1001



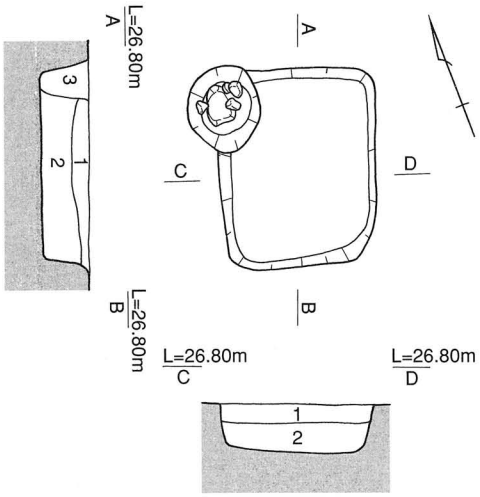
1．黒褐色　2.5Y3/2　砂質土（土器細片および炭化物少量含む。）

SK1002



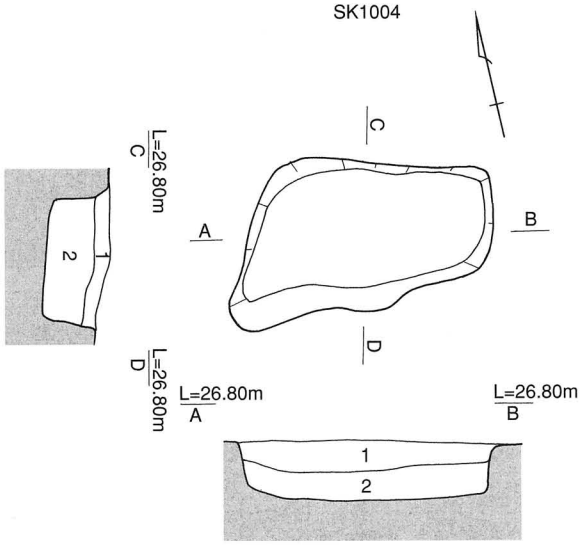
1．黒褐色　2.5Y3/2　砂質土（土器細片・炭化物および砂岩礫を一面に含む。）

SK1003



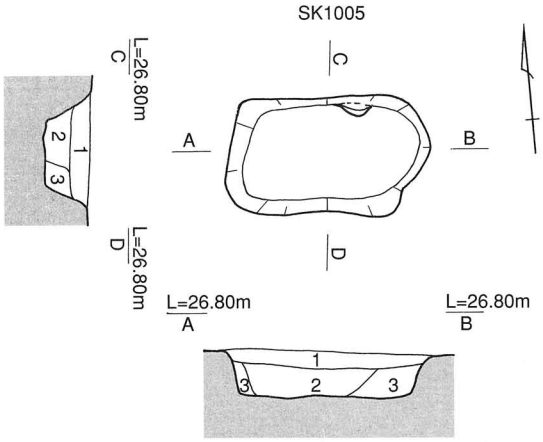
1．黒褐色　2.5Y3/2　砂質土（土器細片・炭化物および砂岩礫を少量含む。）
2．オリーブ褐色　2.5Y4/3　砂質土（1層が混入。しまり良し。）
3．黒褐色　2.5Y3/2　砂質土（土器細片を少量含む。）

SK1004



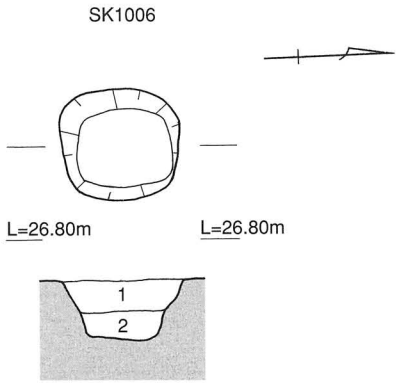
1．黒褐色　2.5Y3/2　砂質土（土器細片・炭化物および砂岩礫を少量含む。）
2．オリーブ褐色　2.5Y4/3　砂質土（1層が混入。）

SK1005



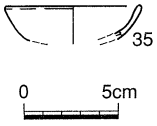
1．黒褐色　2.5Y3/2　砂質土（土器細片・炭化物および砂岩礫を少量含む。）
2．黒褐色　2.5Y3/2　砂質土（土器細片・炭化物をわずかに含む。しまり良し。）
3．オリーブ褐色　2.5Y4/3　砂質土（1層がわずかに混入。）

SK1006

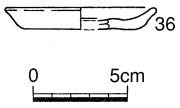


1．黒褐色　2.5Y3/2　砂質土（炭化物および砂岩礫を少量含む。）
2．オリーブ褐色　2.5Y4/3　砂質土（1層が混入。）

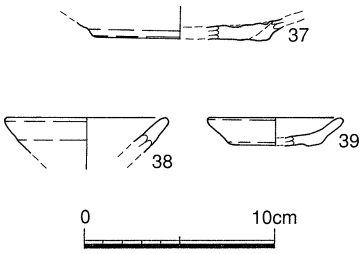
第18図　SK1001～1006平・断面図



第19図　SK1001出土遺物



第20図　SK1003出土遺物



第21図　SK1004出土遺物

SK1007（土坑７）（第22図）

O-8グリッド、調査区中央部東側で出土した円形の平面形を呈する土坑である。規模は長軸116cm、短軸105cm、深さ56cmである。土坑中心には常滑焼の大甕が体部下半を埋めた状態で正位に据えられていた。甕は土坑を掘削した土で周囲を固定され、埋土は３層に分層される。検出時には口縁～体部上半部が破砕していたが、甕内部にはほとんどの破片が残存しており、口縁部なども甕内底面に崩落していたことから、甕内部は空洞あるいは液体が充填されていたものと考えられる。SK1007は日常生活のための飲料水等の貯蔵目的の遺構と考えられる。出土遺物等から時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。

出土遺物（第23図）

40～44は土師質土器である。40・41は杯、42～44は皿である。41～44の底部切り離しは回転糸切りである。45は白磁の壺の体部と思われるが、小片のため詳細は不明である。46は土坑に据えられていた常滑焼の大甕である。口縁部～肩部にかけて淡緑色の自然釉がかかる。体部の押印文は５段に帯状連続施文され、成形工程に対応して施される。形態の特徴から12世紀第３四半期を中心とした年代が求められる。47は丸瓦である。

SK1008（土坑８）（第22図）

N・O-7グリッド、調査区中央部東側で出土した長方形状の平面形を呈する土坑である。長軸方向は東西である。規模は長軸226cm、短軸124cm、深さ18cmである。遺構内埋土は１層である。

出土遺物（第24図）

土師質土器片・瓦器等が出土しているが、いずれも小片のため実測可能な遺物は２点である。48は土師質土器皿、49は瓦器椀である。詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。

SK1009（土坑９）（第22図）

N-8グリッド、調査区中央部東側で出土したやや不整な隅丸方形状の平面形を呈する土坑である。規模は長軸66cm、短軸66cm、深さ26cmである。遺構内埋土は１層である。

出土遺物

土師質土器片等が出土しているが、いずれも小片のため実測可能な遺物は無かった。詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。

SK1010（土坑10）（第22図）

M-7グリッド、調査区中央部東側で出土した長楕円形状の平面形を呈する土坑である。長軸方向は東西である。規模は長軸86cm、短軸56cm、深さ32cmである。遺構内埋土は２層に分層される。

出土遺物

土師質土器片等が出土しているが、いずれも小片のため実測可能な遺物は無かった。詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。

SK1011（土坑11）（第22図）

N-6グリッド、調査区中央部東側で出土した長楕円形状の平面形を呈する土坑である。長軸方向は南北である。規模は長軸104cm、短軸56cm、深さ34cmである。遺構内埋土は１層である。

出土遺物

土師質土器片等が出土しているが、いずれも小片のため実測可能な遺物は無かった。詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。

SK1012（土坑12）（第22図）

N-4グリッド、調査区中央部西側で出土した不整形な楕円形状の平面形を呈する土坑である。長軸方向は南北である。規模は長軸158cm、短軸76cm、深さ38cmである。遺構内埋土は２層に分層される。

出土遺物

土師質土器片等が出土しているが、いずれも小片のため実測可能な遺物は無かった。詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。

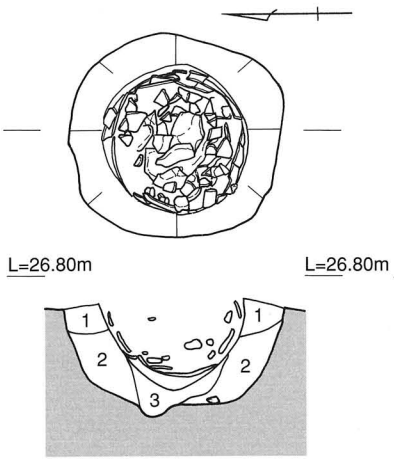
SK1013（土坑13）（第22図）

K-5グリッド、調査区南部中央で出土した楕円形状の平面形を呈する土坑である。長軸方向は南北である。規模は長軸105cm、短軸75cm、深さ50cmである。遺構内埋土は４層に分層される。

出土遺物（第25図）

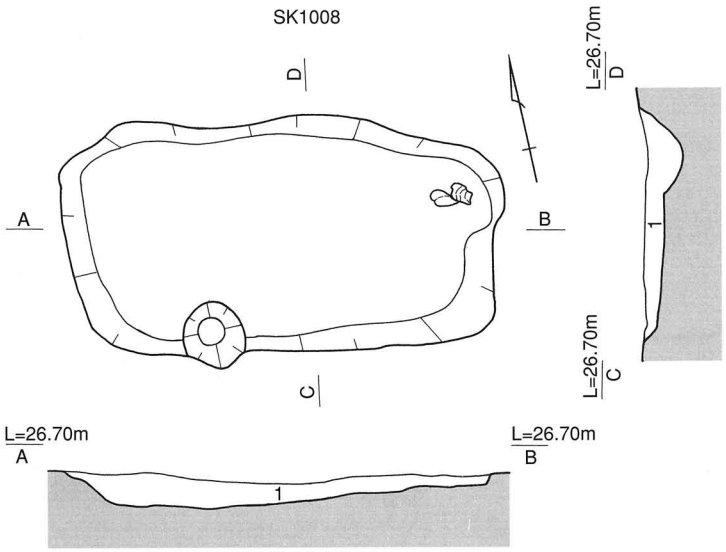
土師質土器片等が出土したが、いずれも小片のため実測可能な遺物は３点である。50は龍泉窯系青磁碗の口縁部である。51は瓦器椀である。52は土師質土器の杯底部である。底部切り離しは回転糸切りである。詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。

SK1007



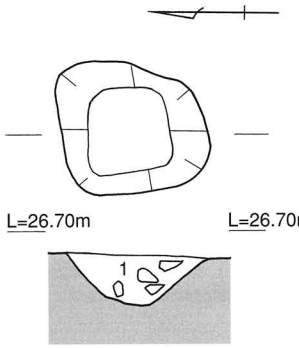
1．黒褐色　2.5Y3/2　砂質土（オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土が部分的に混じる。明黄褐色砂岩礫・炭化物を少量含む。）
2．オリーブ褐色　2.5Y4/3　砂質土（黒褐色2.5Y3/2砂質土が部分的に混じる。）
3．オリーブ褐色　2.5Y4/3　砂質土（黒褐色2.5Y3/2砂質土が部分的に混じる。土器細片・炭化物をわずかに含む。粘性やや強い。）

SK1008



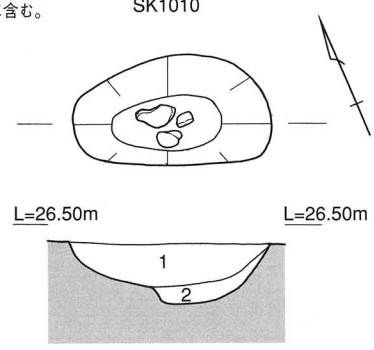
1．黒褐色　2.5Y3/2　砂質土（土器細片・炭化物・砂岩礫およびϕ＝10cm程度の礫を数個含む。）

SK1009



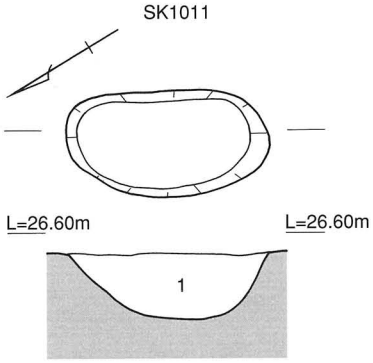
1．黒褐色　2.5Y3/2　砂質土（土器細片・炭化物を少量含みϕ＝10cm程度の礫を5～10個含む。）

SK1010



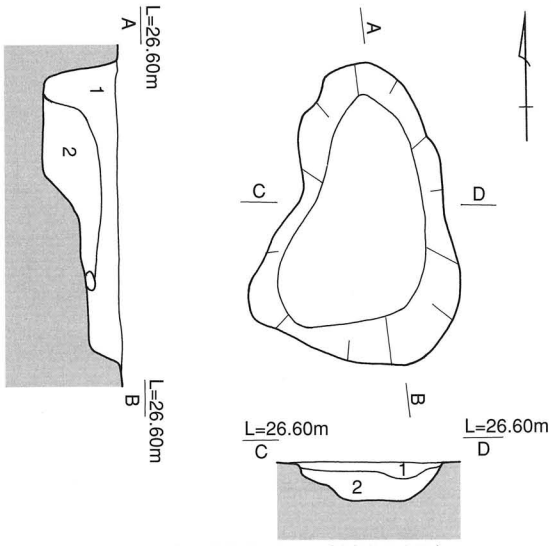
1．黒褐色　2.5Y3/2　砂質土（土器細片・炭化物および砂岩礫をまばらに含む。）
2．オリーブ褐色　2.5Y4/3　砂質土（炭化物を中央部に帯状に含む。）

SK1011



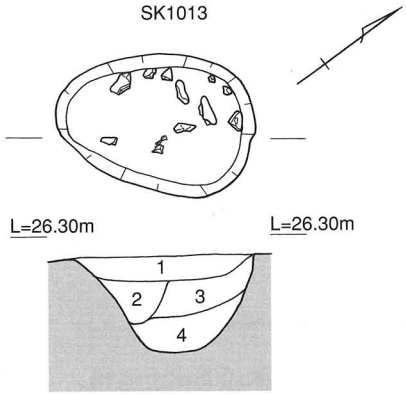
1．黒褐色　2.5Y3/2　砂質土（土器細片・炭化物および砂岩礫をまばらに含む。）

SK1012



1．黒褐色　2.5Y3/2　砂質土（明黄褐色砂岩礫および炭化物を少量含む。ϕ＝5cm程度の礫を数個含む。）
2．黒褐色　2.5Y3/2　砂質土（オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土が部分的にブロック状に混じる。ϕ＝1cm程度の礫を数個含む。）

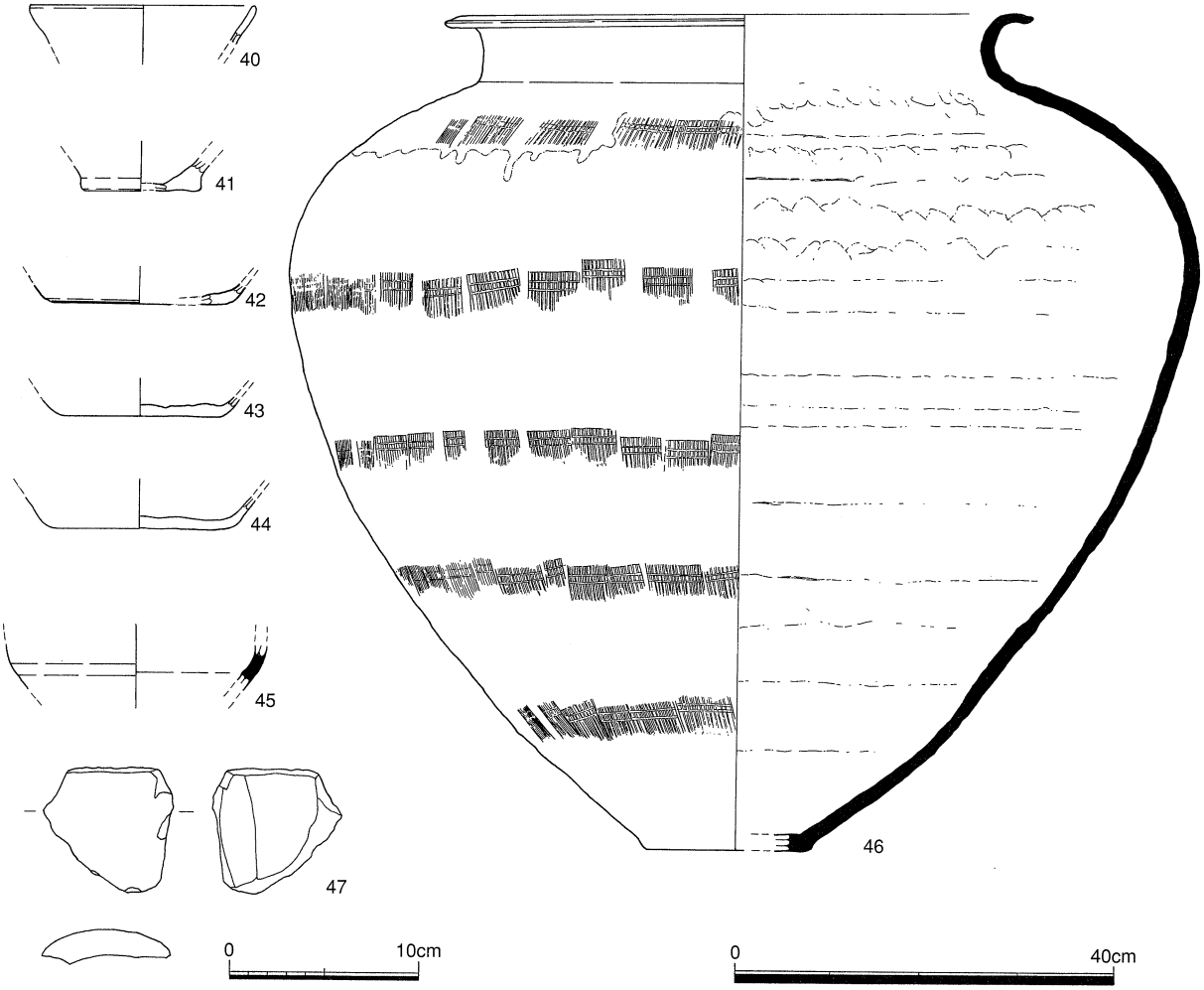
SK1013



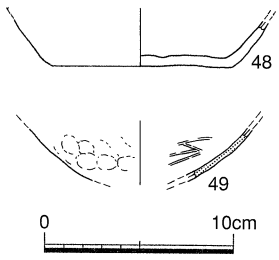
1．暗褐色　10YR3/3　砂質土（にぶい黄褐色10YR4/3砂質土と灰黄褐色10YR4/2砂質土を部分的に含む。土器細片・炭化物を若干含む。粘性若干有り。しまり有り。）
2．暗褐色　10YR3/3　砂質土（暗褐色10YR3/4砂質土が部分的に混じる。土器細片・炭化物わずかに含む。ϕ＝0.5～4cm大の礫をやや多く含む。粘性若干有り。しまり有り。）
3．暗褐色　10YR3/3　砂質土（黒褐色10YR3/2砂質土が部分的に混じる。土器細片・炭化物を含む。ϕ＝0.5～4cm大の礫をやや多く含む。粘性若干有り。しまり有り。）
4．黒褐色　10YR3/2　砂質土（暗褐色10YR3/3砂質土が部分的に混じる。ϕ＝0.5～6cm大の礫をやや多く含む。下層に土器片が1個見られる。粘性若干有り。しまり有り。）

0　1m

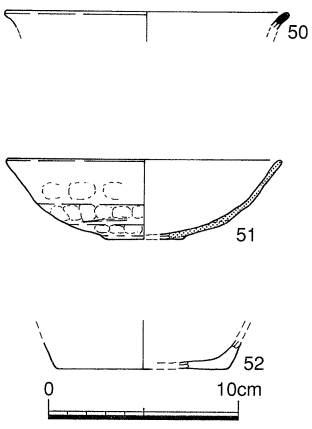
第22図　SK1007～1013平・断面図



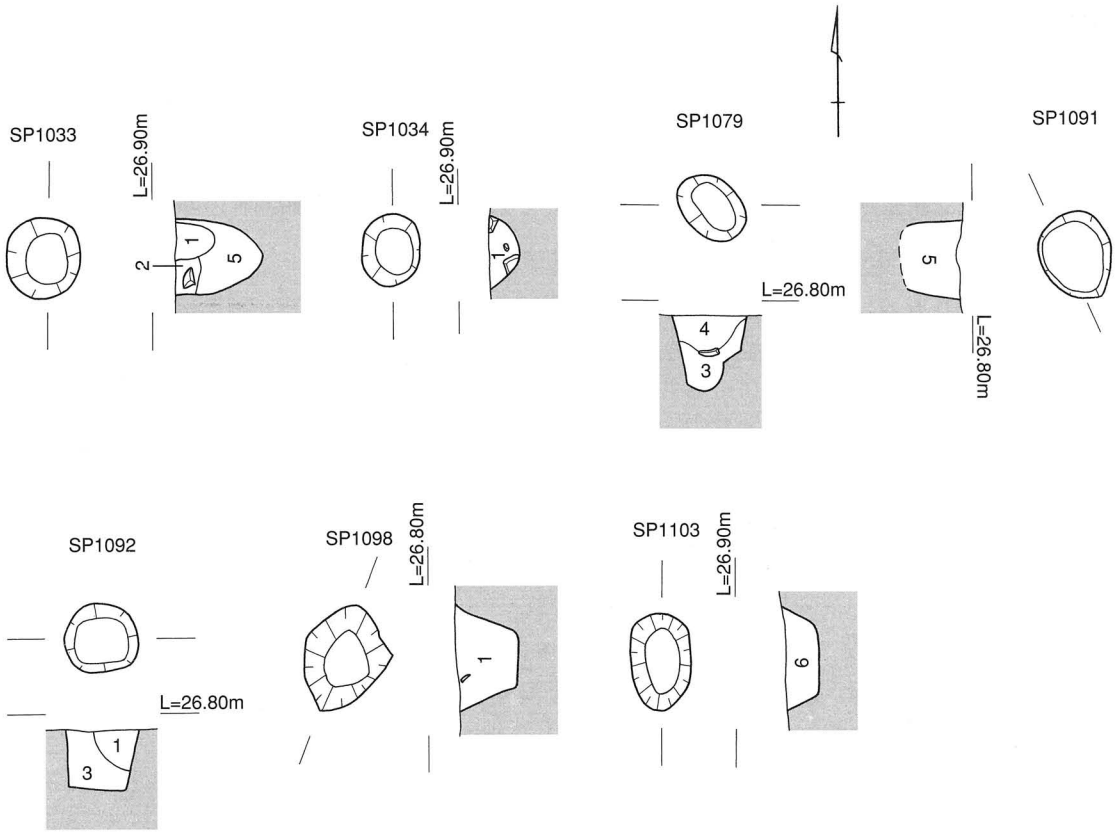
第23図　SK1007出土遺物



第24図　SK1008出土遺物



第25図　SK1013出土遺物



1．暗褐色　10YR3/4　砂質土（φ＝1～10cm大までの砂礫および土器細片・炭化物を含む。粘性やや弱い。）
2．暗褐色　10YR3/3　砂質土（φ＝1～10cm大までの砂礫および土器細片・炭化物を含む。粘性やや弱い。）
3．にぶい黄褐色　10YR4/3　砂質土（φ＝3～10cm大の砂礫および土器細片・炭化物を含む。粘性やや弱い。）
4．黒褐色　2.5Y2/3　砂質土（小礫および土器細片含む。粘性有り。）
5．オリーブ褐色　2.5Y4/4　砂質土（小礫含む。粘性有り。）
6．オリーブ褐色　2.5Y4/3　砂質土（砂礫および炭化物を含む。粘性有り。）

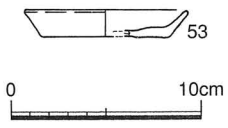
第26図　SP1033・1034・1079・1091・1092・1098・1103平・断面図

SP1033（柱穴33）（第26図）

Q-8グリッド、直径40cmの円形を呈する。SP内埋土は3層に分層される。土師質土器片等が出土したが、いずれも小片であるため、実測可能なものは1点だけである。

出土遺物（第27図）

53は土師質土器の小皿である。底部は回転糸切りである。小片のため詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。



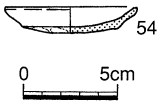
第27図　SP1033出土遺物

SP1034（柱穴34）（第26図）

Q-8グリッド、直径37cmの円形を呈する。SP内埋土は1層である。瓦器・土師質土器片等が出土したが、いずれも小片であるため、実測可能なものは1点だけである。

出土遺物（第28図）

54は瓦器小皿である。時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。



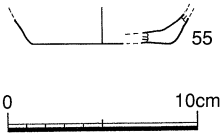
第28図　SP1034出土遺物

SP1079（柱穴79）（第26図）

Q-9グリッド、長軸38cm、短軸25cmの楕円形を呈する。SP内埋土は2層に分層される。瓦器・土師質土器片等が出土したが、いずれも小片であるため、実測可能なものは1点だけである。

出土遺物（第29図）

55は土師質土器の杯底部で底部切り離しは回転糸切りである。時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。



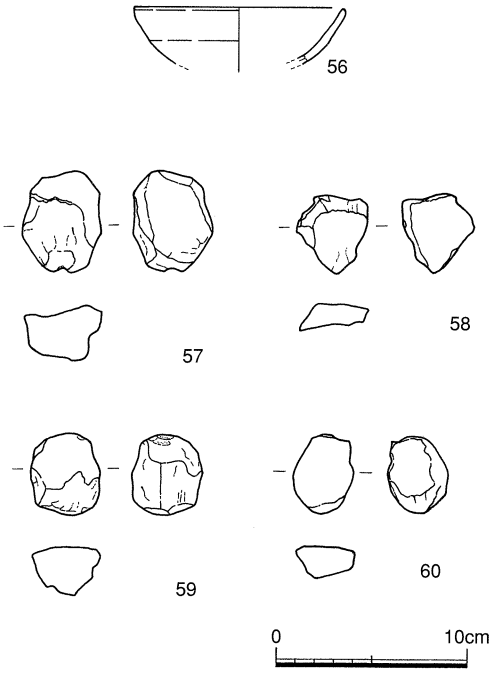
第29図　SP1079出土遺物

SP1091（柱穴91）（第26図）

Q-7グリッド、長軸42cm、短軸35cmのほぼ円形を呈する。SP内埋土は1層である。土師質土器片等が出土したが、いずれも小片であるため詳細は不明である。

出土遺物（第30図）

56は土師質土器の椀と思われる。小片のため詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。57～60は鞴の羽口の破片である。内側は被熱のため暗灰色に変色している。



第30図　SP1091出土遺物

SP1092（柱穴92）（第26図）

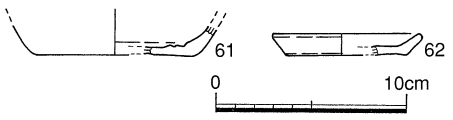
Q-7グリッド、長軸38cm、短軸35cmのほぼ円形を呈する。SP内埋土は2層に分層される。土師質土器片等が出土したが、いずれも小片であるため詳細は不明である。

出土遺物（第31図）

61は土師質土器杯、62は土師質土器小皿である。小片のため詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。

SP1098（柱穴98）（第26図）

Q-7グリッド、長軸60cm、短軸50cmの不整な楕円形状を呈する。SP内埋土は1層である。土師質土器片等が出土したが、いずれも小片である。



第31図　SP1092出土遺物

出土遺物

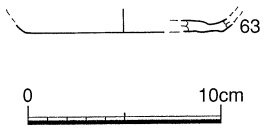
土師質土器片等が出土しているが、いずれも小片のため実測可能な遺物は無かった。詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。

SP1103（柱穴103）（第26図）

P-6・7グリッド、長軸60cm、短軸32cmの楕円形を呈する。SP内埋土は1層である。土師質土器片等が出土したが、いずれも小片であるため詳細は不明である。

出土遺物（第32図）

63は土師質土器の皿底部である。底部切り離しは回転糸切りである。時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。



第32図　SP1103出土遺物

SP1106（柱穴106）（第33図）

P・Q-7グリッド、一部他のSPと切り合う。直径40cmの円形を呈する。SP内埋土は1層である。瓦器・土師質土器片等が出土したが、いずれも小片である。

出土遺物

土師質土器片等が出土しているが、いずれも小片のため実測可能な遺物は無かった。詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。

SP1151（柱穴151）（第33図）

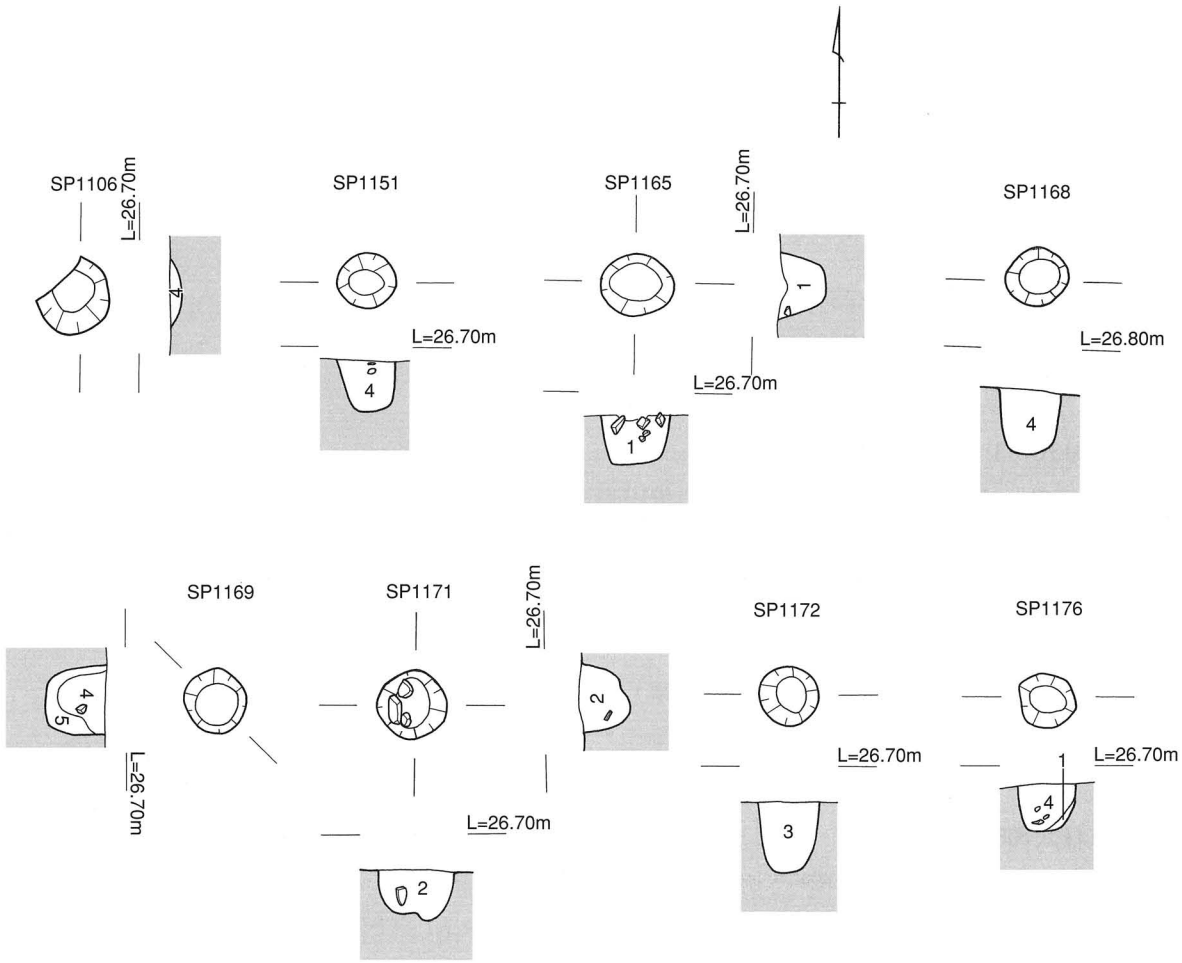
P-8グリッド、直径30cmの円形を呈する。SP内埋土は1層である。瓦器・土師質土器片等が出土したが、いずれも小片である。

出土遺物

土師質土器片等が出土しているが、いずれも小片のため実測可能な遺物は無かった。詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。

SP1165（柱穴165）（第33図）

P-7グリッド、長軸40cm、短軸32cmの楕円形を呈する。SP内埋土は1層である。瓦器・土師質土器片等が出土したが、いずれも小片であるため、実測可能なものは1点だけである。



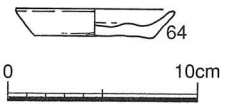
1．暗褐色　10YR3/4　砂質土（φ＝1～10cm大までの砂礫および土器細片・炭化物を含む。粘性やや弱い。）
2．暗褐色　10YR3/3　砂質土（φ＝1～10cm大までの砂礫および土器細片・炭化物を含む。粘性やや弱い。）
3．暗褐色　10YR3/3　砂質土（底部にφ＝5cm大の土器片および土器細片・炭化物を含む。粘性やや弱い。）
4．にぶい黄褐色　10YR4/3　砂質土（φ＝3～10cm大の砂礫および土器細片・炭化物を含む。粘性やや弱い。）
5．褐色　10YR4/4　砂質土（土器細片・炭化物を多く含む。粘性やや弱い。）

0　1m

第33図　SP1106・1151・1165・1168・1169・1171・1172・1176平・断面図

出土遺物（第34図）

64は土師質土器小皿である。底部切り離しは回転糸切りである。時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。



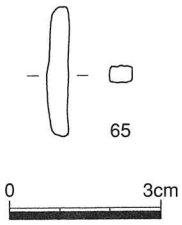
第34図　SP1165出土遺物

SP1168（柱穴168）（第33図）

P-7グリッド、長軸40cm、短軸32cmの楕円形を呈する。SP内埋土は1層である。土師質土器片・鉄片等が出土したが、いずれも小片であるため、実測可能なものは1点だけである。

出土遺物（第35図）

65は鉄釘である。



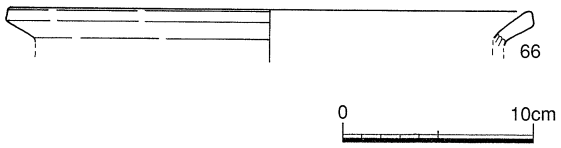
第35図　SP1168出土遺物

SP1169（柱穴169）（第33図）

P-7グリッド、直径36cmの円形を呈する。SP内埋土は2層に分層される。土師質土器片・鉄片等が出土したが、いずれも小片であるため、実測可能なものは1点だけである。

出土遺物（第36図）

66は土師質土器の鍋口縁部である。



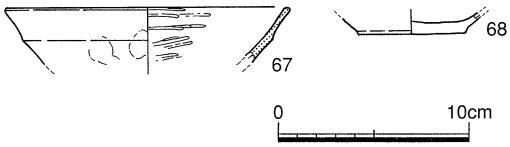
第36図　SP1169出土遺物

SP1171（柱穴171）（第33図）

P-7グリッド、直径40cmの円形を呈する。SP内埋土は1層である。瓦器片・土師質土器片等が出土したが、いずれも小片であるため、実測可能なものは2点だけである。

出土遺物（第37図）

67は和泉系瓦器椀である。68は土師質土器杯の底部である。小片のため詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。



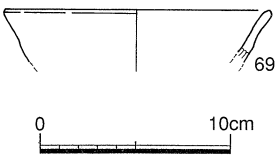
第37図　SP1171出土遺物

SP1172（柱穴172）（第33図）

O-7グリッド、直径32cmの円形を呈する。SP内埋土は1層である。瓦器片・土師質土器片等が出土したが、いずれも小片であるため、実測可能なものは1点だけである。

出土遺物（第38図）

69は土師質土器皿である。小片のため詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。



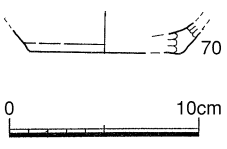
第38図　SP1172出土遺物

SP1176（柱穴176）（第33図）

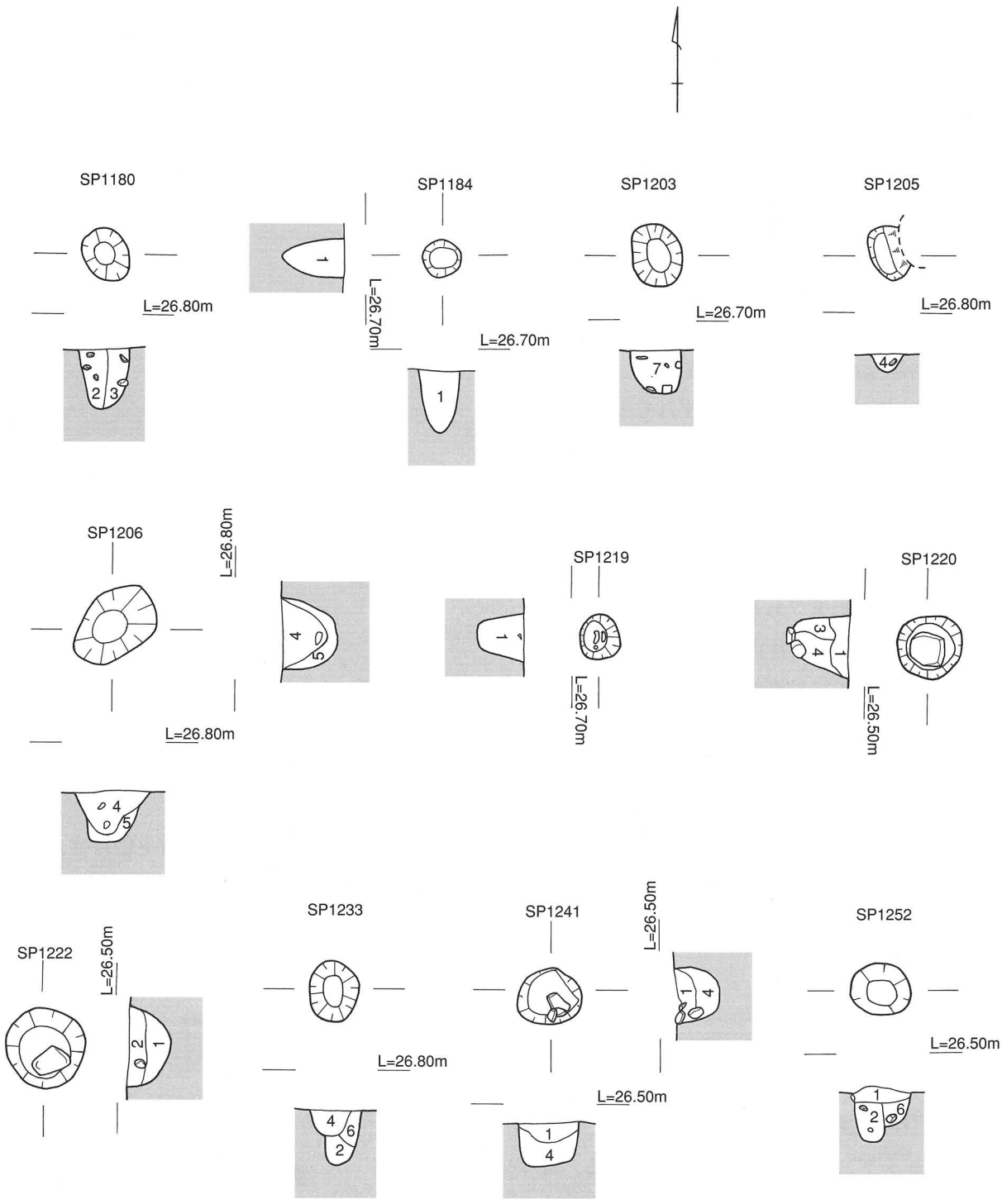
P-7グリッド、直径30cmの円形を呈する。SP内埋土は1層である。瓦器片・土師質土器片等が出土したが、いずれも小片であるため、実測可能なものは1点だけである。

出土遺物（第39図）

70は土師質土器杯の底部である。小片のため詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。



第39図　SP1176出土遺物



1．暗褐色　10YR3/4　砂質土（φ＝1～10cm大までの砂礫および土器細片・炭化物を含む。粘性やや弱い。）
2．暗褐色　10YR3/3　砂質土（φ＝1～10cm大までの砂礫および土器細片・炭化物を含む。粘性やや弱い。）
3．暗褐色　10YR3/3　砂質土（底部にφ＝5cm大の土器片および土器細片・炭化物を含む。粘性やや弱い。）
4．にぶい黄褐色　10YR4/3　砂質土（φ＝3～10cm大の砂礫および土器細片・炭化物を含む。粘性やや弱い。）
5．褐色　10YR4/4　砂質土（土器細片・炭化物を多く含む。粘性やや弱い。）
6．褐色　10YR4/4　砂質土（φ＝10cm程度の礫を含む。粘性やや弱い。）
7．黒褐色　2.5Y3/2　砂質土（φ＝10cm大の砂礫およびφ＝5cm大の土器片・土器細片を含む。粘性弱い。）

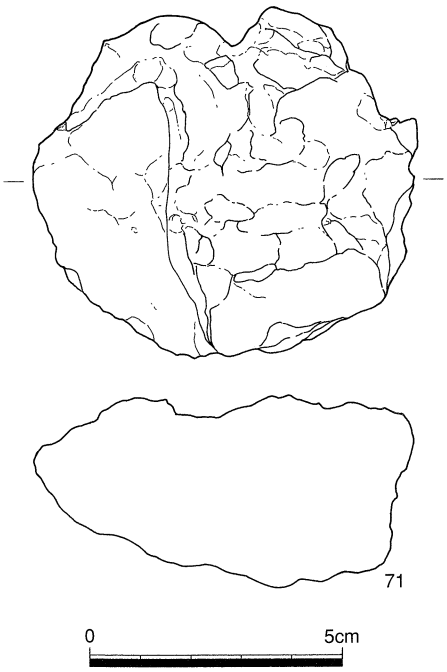
第40図　SP1180・1184・1203・1205・1206・1219・1220・1222・1233・1241・1252平・断面図

SP1180（柱穴180）（第40図）

P-6・7グリッド、直径30cmの円形を呈する。SP内埋土は1層である。瓦器片・土師質土器片等が出土したが、いずれも小片であるため、実測可能なものは1点だけである。

出土遺物（第41図）

71は鉄滓（スラグ）である。近隣に鍛冶に関連する遺構の存在が示唆される。



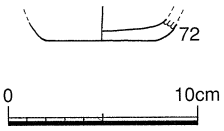
第41図　SP1180出土遺物

SP1184（柱穴184）（第40図）

O-6グリッド、直径26cmの円形を呈する。SP内埋土は1層である。瓦器片・土師質土器片等が出土したが、いずれも小片であるため、実測可能なものは1点だけである。

出土遺物（第42図）

72は土師質土器杯の底部である。小片のため詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。



第42図　SP1184出土遺物

SP1203（柱穴203）（第40図）

O-7グリッド、長軸40cm、短軸32cmの楕円形を呈する。SP内埋土は1層である。瓦器片・土師質土器片等が出土したが、いずれも小片であるため、実測可能なものは1点だけである。

出土遺物（第43図）

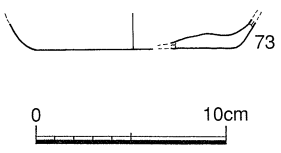
73は土師質土器皿である。底部切り離しは回転糸切りである。小片のため詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。

SP1205（柱穴205）（第40図）

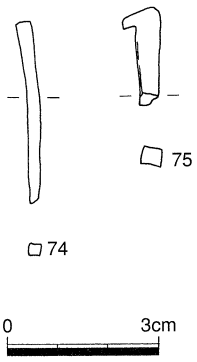
O-7グリッド、一部他のSPと切り合う。直径約30cmの円形を呈する。SP内埋土は1層である。土師質土器片・鉄片等が出土したが、いずれも小片であるため、実測可能なものは2点だけである。

出土遺物（第44図）

74・75は鉄釘である。



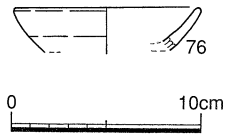
第43図　SP1203出土遺物



第44図　SP1205出土遺物

SP1206（柱穴206）（第40図）

O-7グリッド、長軸58cm、短軸37cmの楕円形状を呈する。SP内埋土は2層に分層される。瓦器片・土師質土器片等が出土したが、いずれも小片であるため、実測可能なものは1点だけである。



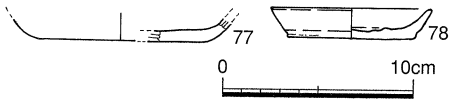
第45図　SP1206出土遺物

出土遺物（第45図）

76は土師質土器小皿である。小片のため詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。

SP1219（柱穴219）（第40図）

N・O-8グリッド、直径30cmの円形を呈する。SP内埋土は1層である。瓦器片・土師質土器片等が出土したが、いずれも小片であるため、実測可能なものは2点だけである。



第46図　SP1219出土遺物

出土遺物（第46図）

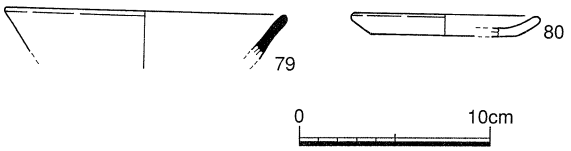
77は土師質土器皿底部である。78は土師質土器小皿である。底部切り離しは回転糸切りである。小片のため詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。

SP1220（柱穴220）（第40図）

N・O-8グリッド、直径30cmの円形を呈する。SP内埋土は3層である。SP基底部には20cm程度の礫がみられるが、柱痕は確認できない。瓦器片・土師質土器片等が出土したが、いずれも小片であるため、実測可能なものは2点だけである。

出土遺物（第47図）

79は龍泉窯系青磁碗である。80は土師質土器小皿である。小片のため詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。



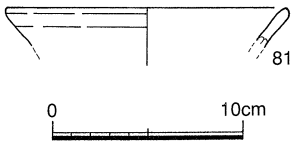
第47図　SP1220出土遺物

SP1222（柱穴222）（第40図）

N-8グリッド、直径50cmの円形を呈する。SP内埋土は2層に分層される。SP基底部には20cm程度の礫がみられるが、柱痕は確認できない。瓦器片・土師質土器片等が出土したが、いずれも小片であるため、実測可能なものは1点だけである。

出土遺物（第48図）

81は土師質土器杯である。小片のため詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。



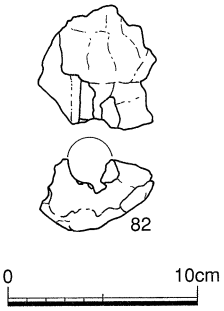
第48図　SP1222出土遺物

SP1233（柱穴233）（第40図）

O-6グリッド、長軸40cm、短軸30cmの楕円形を呈する。SP内埋土は3層に分層される。瓦器片・土師質土器片等が出土したが、いずれも小片であるため、実測可能なものは1点だけである。

出土遺物（第49図）

82は鞴の羽口の破片である。内面には黒色に溶融した滓が付着している。近隣に鍛冶関連の遺構が存在しているものと考えられる。



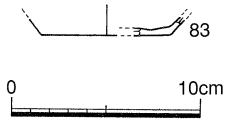
第49図　SP1233出土遺物

SP1241（柱穴241）（第40図）

N-6グリッド、長軸38cm、短軸36cmの楕円形を呈する。SP内埋土は2層に分層される。瓦器片・土師質土器片等が出土したが、いずれも小片であるため、実測可能なものは1点だけである。

出土遺物（第50図）

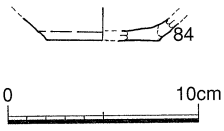
83は土師質土器杯の底部である。底部切り離しは回転糸切りである。小片のため詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。



第50図　SP1241出土遺物

SP1252（柱穴252）（第40図）

M-5グリッド、長軸38cm、短軸32cmでほぼ円形を呈する。SP内埋土は3層に分層される。瓦器片・土師質土器片等が出土したがいずれも小片であるため、実測可能なものは1点だけである。



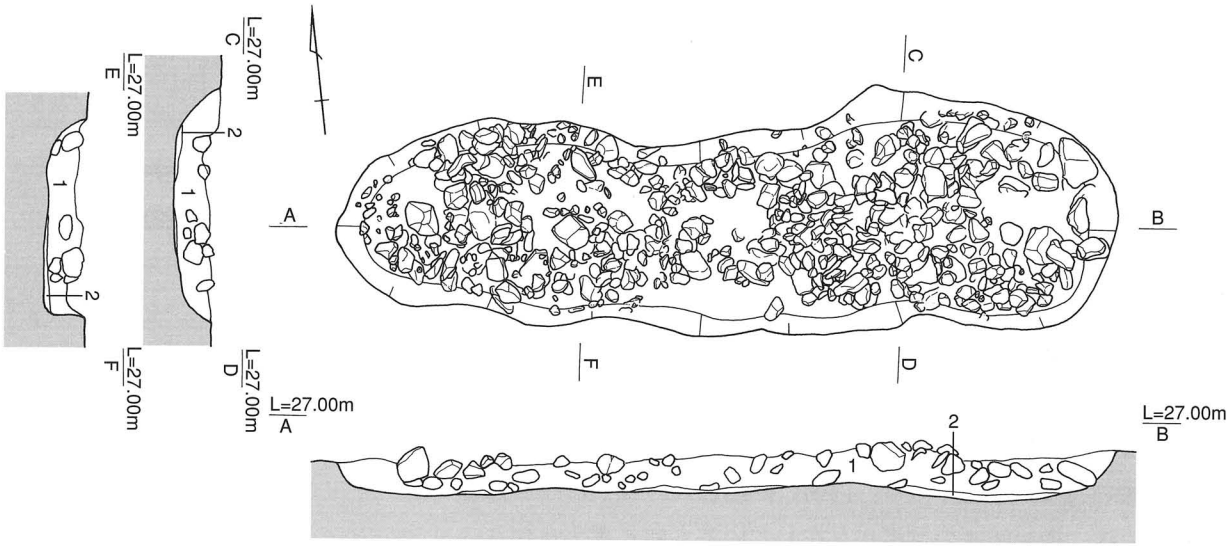
第51図　SP1252出土遺物

出土遺物（第51図）

84は土師質土器杯の底部である。底部切り離しは回転糸切りである。小片のため詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。

SU1002（集石遺構2）（第52図）

S-6・7グリッド、調査区北部中央、SA1002の北側に位置する集石遺構である。長楕円形状の平面形を呈し、規模は長軸4.10m、短軸1.24m、深さ0.2mで東西方向に延びる。遺構内は拳～人頭大程度の砂岩礫で充填される。SA1002に沿うように検出されており、屋敷境等の区画目的の遺構と考えられるが、建物等の構造物の基礎の可能性も残る。瓦器片・土師質土器片・須恵質土器片等が出土したが、いずれも小片であるため、実測可能なものは1点だけである。

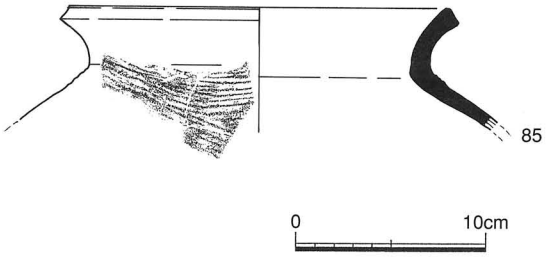


1．にぶい黄褐色　10YR4/3　砂質土（灰黄褐色10YR4/2砂質土が部分的に混じる。上層にφ＝5～30cm大の礫を多量に含む。下層にφ＝0.5～10cm大の礫を含む。粘性若干有り。しまり強い覆土。）
2．褐色　10YR4/4　砂質土（φ＝0.5～7cm大の礫多く含む。粘性若干有り。しまりやや強い。）

第52図　SU1002平・断面図

出土遺物（第53図）

85は東播系須恵質土器である。魚住系の甕とみられ、体部外面に斜めタタキ目（樹枝文）がみられる。小片のため詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。



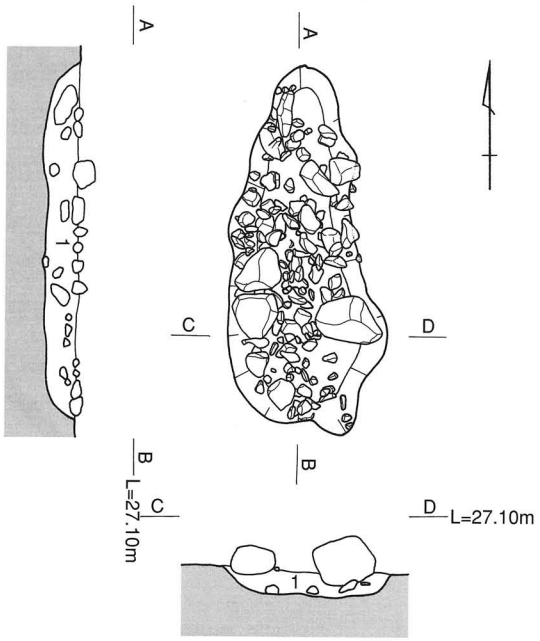
第53図　SU1002出土遺物

SU1003（集石遺構３）（第54図）

R-7グリッド、調査区北部中央、SA1002の東側に位置する集石遺構である。やや不整形な長楕円形状の平面形を呈し、規模は長軸1.88m、短軸0.86m、深さ0.19mで南北方向に延びる。検出状況から遺構内は拳大程度の礫を充填した後、人頭大程度の砂岩礫を列状に並べていた可能性がある。SU1002と同様、SA1002に沿うように検出されており、屋敷境等の区画目的の遺構と考えられるが、建物等の構造物の基礎の可能性も残る。遺構内からは瓦器片・土師質土器片等が出土したが、いずれも小片であるため、実測可能なものは１点だけである。

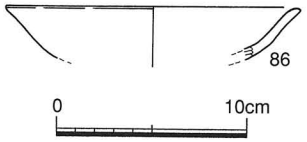
出土遺物（第55図）

86は土師質土器皿である。小片のため詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。



1．黒褐色　2.5Y3/2　砂質土（明黄褐色10YR6/6砂質土が10%混じる。砂岩礫および土器細片・炭化物をまばらに含む。しまり良し。）

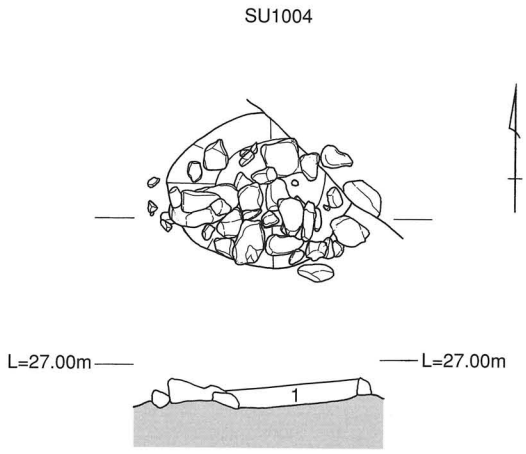
第54図　SU1003平・断面図



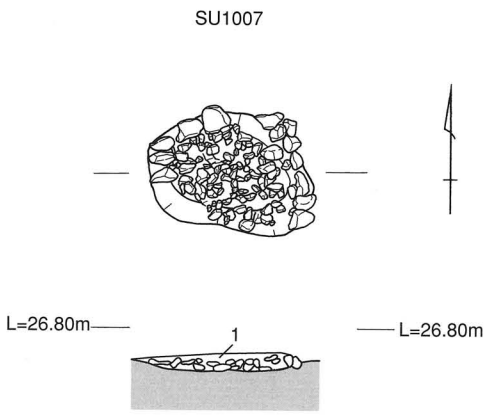
第55図　SU1003出土遺物

SU1004（集石遺構４）（第56図）

Q-7グリッド、調査区北部中央、SA1002の東側に位置する集石遺構である。SO1001（炭窯）に北東部分が一部切られる。楕円形状の平面形を呈し、規模は現存で長軸1.66m、短軸0.83mで掘り方はほとんどない。拳～人頭大程度の砂岩礫が敷き詰められ、何らかの構造物の基礎の可能性も残る。遺構内からは瓦器片・土師質土器片等が出土したが、いずれも小片であるため、実測可能なものは４点である。



1．黒褐色　2.5Y3/1　砂質土（φ＝0.5～3cm程度の木炭を多量に含む。土器細片および砂岩礫をまばらに含む。しまり良し。）

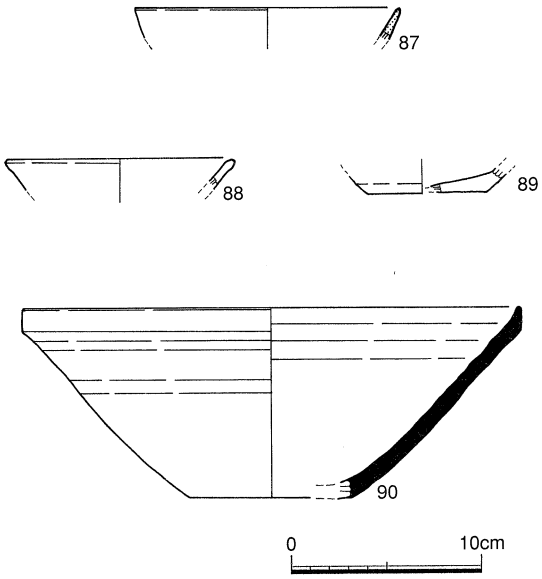


1．黒褐色　2.5Y3/2　砂質土（φ＝１cm程度の砂岩礫をやや多く含む。しまり良し。）

第56図　SU1004・1007平・断面図

出土遺物（第57図）

87は瓦器椀である。88・89は土師質土器杯である。89の底部は回転糸切りである。90は東播系のこね鉢である。口縁端部は上方に拡張され尖るが、口縁端部の拡張・肥厚は小さい。小片のため詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀末～13世紀前半頃と思われる。



第57図　SU1004出土遺物

SU1007（集石遺構７）（第56図）

P-7グリッド、調査区北部中央に位置する集石遺構である。楕円形状の平面形を呈し、規模は現存で長軸82cm、短軸60cm、深さ４cmである。やや崩れているが、拳大程度の砂岩礫を方形状に組み、区画された内側に直径２～５cm程度の砂岩小礫が敷き詰められる。礎石建物等、何らかの構造物の基礎の可能性があるが、詳細は不明である。周辺の状況から、時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。

出土遺物

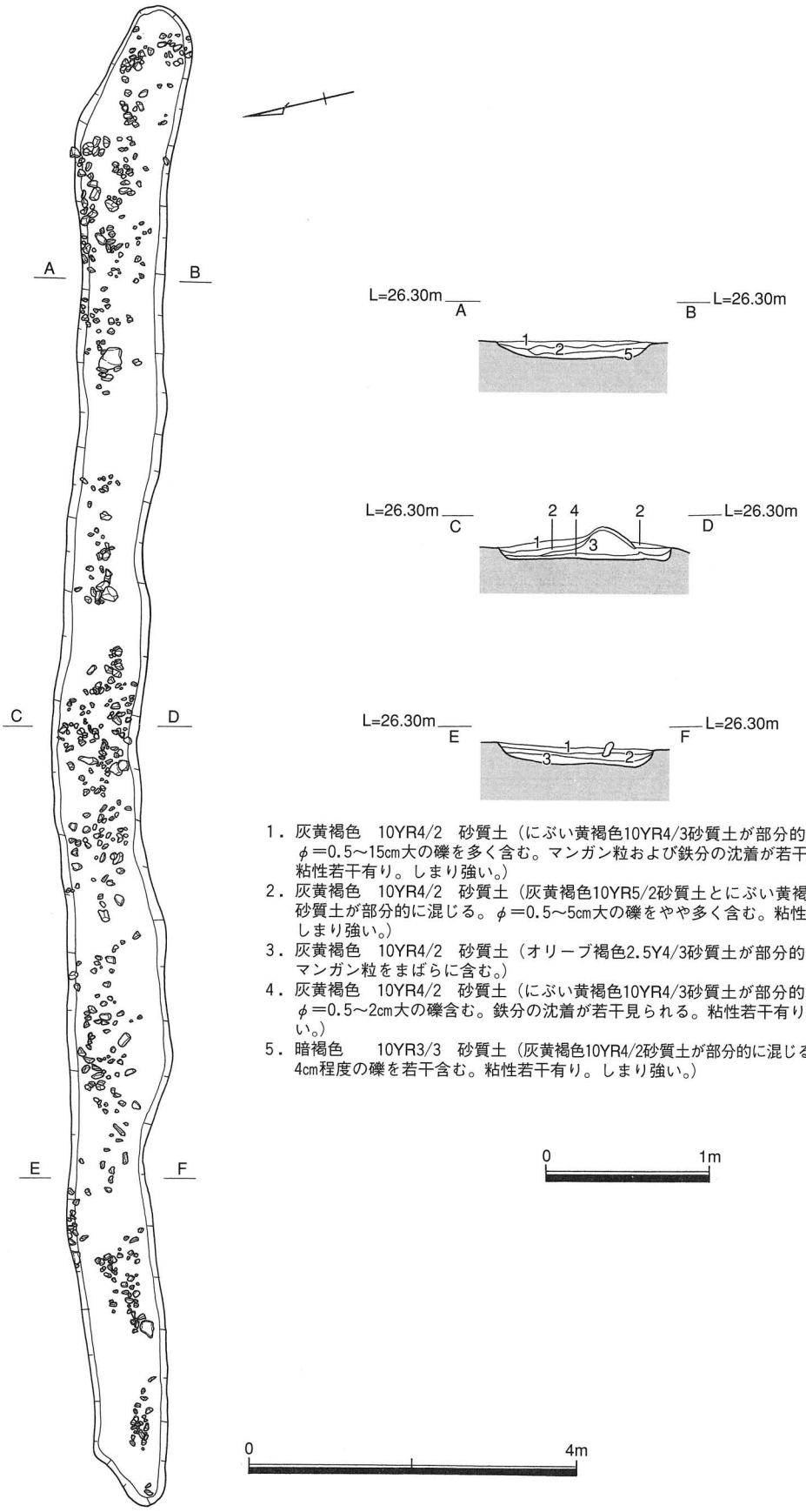
遺構内からは瓦器片・土師質土器片等が出土したが、いずれも小片であるため、実測可能なものは無かった。

SU1008（集石遺構８）（第58図）

I・J-2～６グリッド、調査区南部中央を東西方向に延びる溝状の集石遺構である。規模は長さ17.80m、幅は1.0m前後で深さは10cm程度である。拳～人頭大程度の砂岩礫が敷き詰められるが、規則性は見い出せない。何らかの構造物の基礎の可能性も残るが、SA1001の南側を平行に延びており、屋敷境等の区画目的の遺構と考えられる。遺構内からは磁器片・瓦器片・土師質土器片・瓦等が出土した。

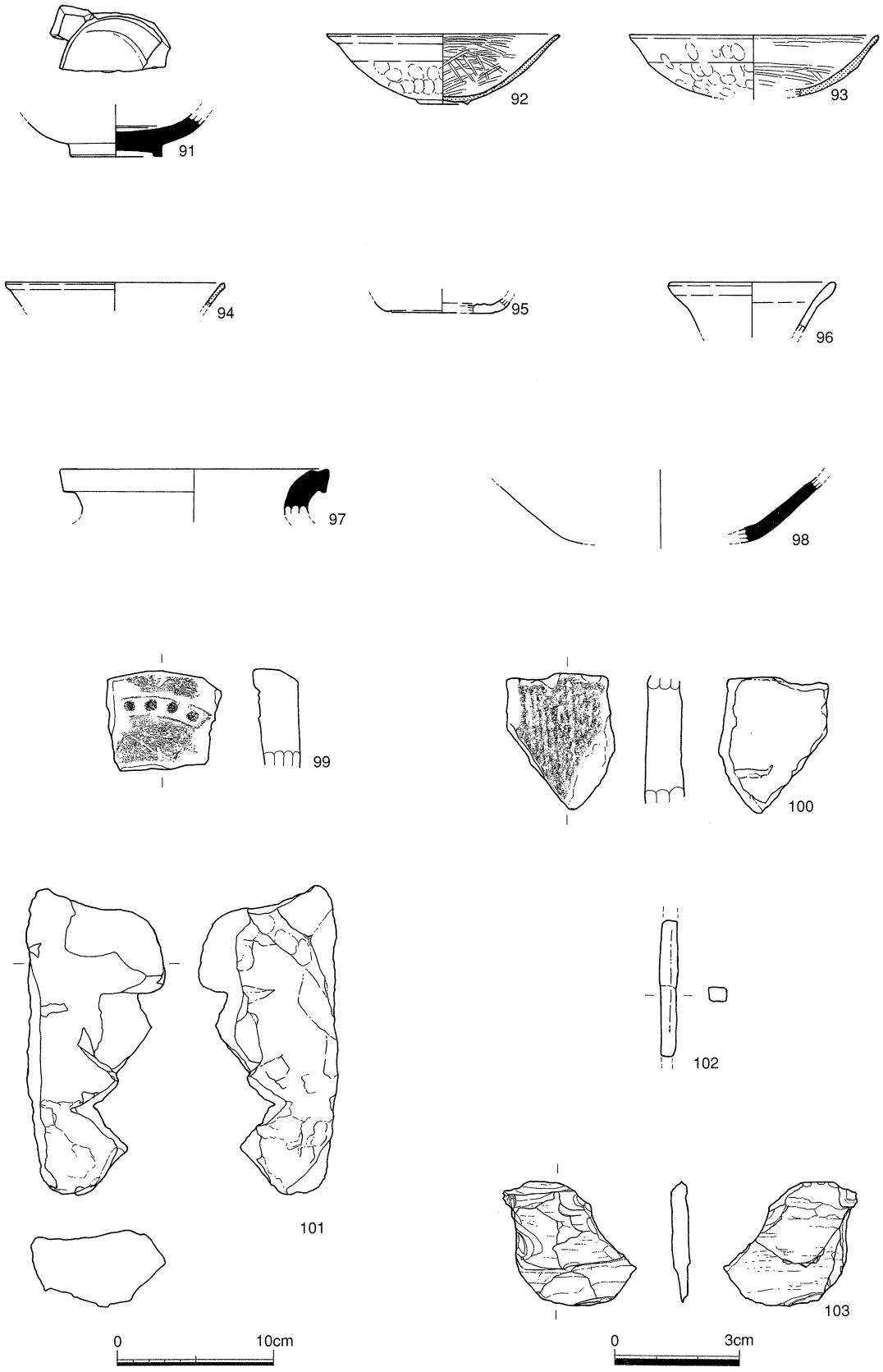
出土遺物（第59図）

91は龍泉窯系青磁碗である。見込みに沈線が１条施される。92～94は和泉系瓦器椀である。95・96は土師質土器である。95は杯で底部は回転糸切りである。96は鉢と思われるが、詳細は不明である。97・98は東播系須恵質土器である。97は甕口縁部、98はこね鉢である。99・100は瓦である。101は磚瓦と思われる。102は鉄釘である。103は弥生時代の片岩の石庖丁と思われる。多様な遺物が出土しているが、時期的には概ね12世紀末～13世紀前半頃と思われる。

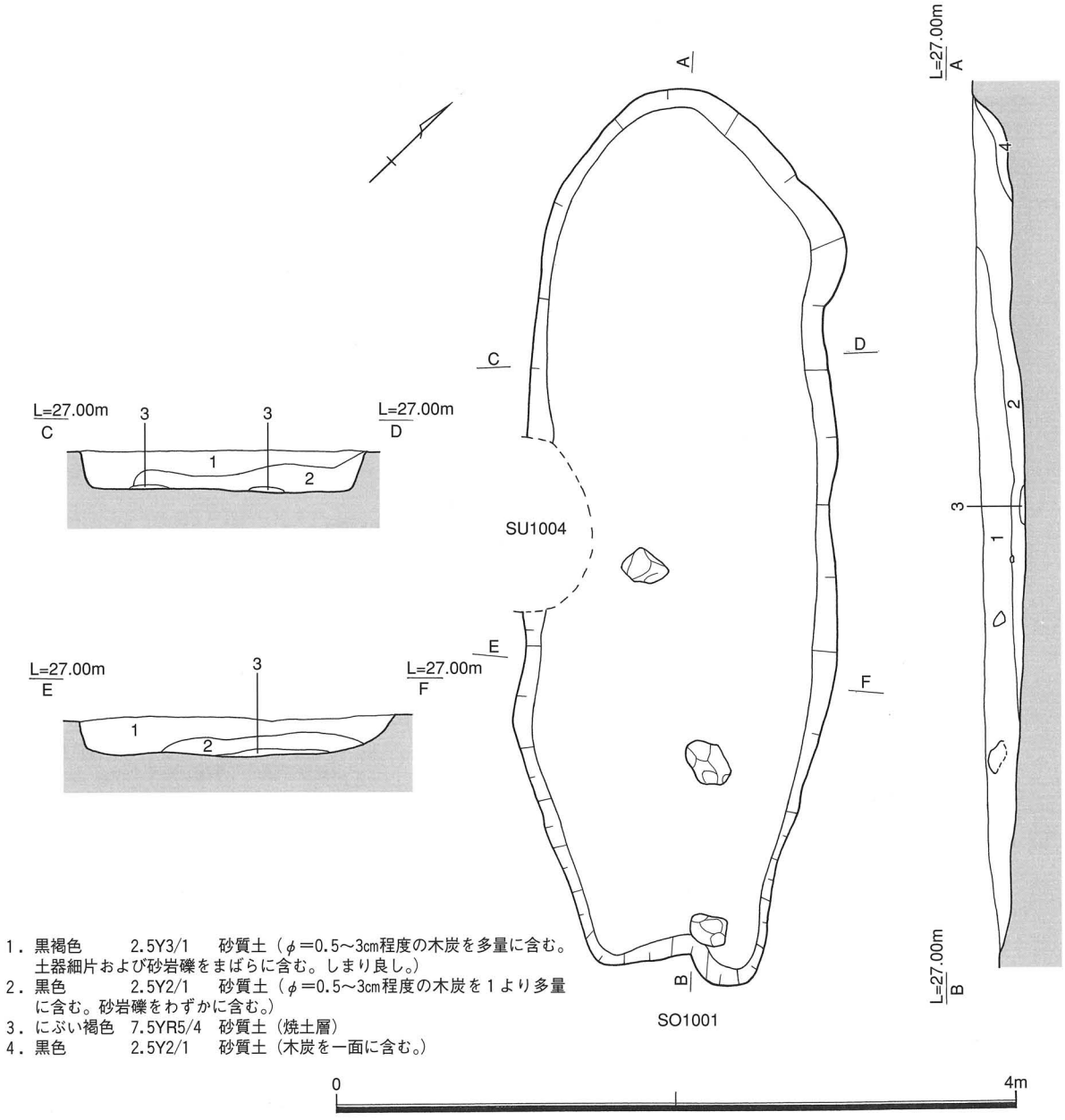


1．灰黄褐色　10YR4/2　砂質土（にぶい黄褐色10YR4/3砂質土が部分的に混じる。φ＝0.5～15㎝大の礫を多く含む。マンガン粒および鉄分の沈着が若干見られる。粘性若干有り。しまり強い。）
2．灰黄褐色　10YR4/2　砂質土（灰黄褐色10YR5/2砂質土とにぶい黄褐色10YR4/3砂質土が部分的に混じる。φ＝0.5～5㎝大の礫をやや多く含む。粘性若干有り。しまり強い。）
3．灰黄褐色　10YR4/2　砂質土（オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土が部分的に混じる。マンガン粒をまばらに含む。）
4．灰黄褐色　10YR4/2　砂質土（にぶい黄褐色10YR4/3砂質土が部分的に混じる。φ＝0.5～2㎝大の礫含む。鉄分の沈着が若干見られる。粘性若干有り。しまり強い。）
5．暗褐色　　10YR3/3　砂質土（灰黄褐色10YR4/2砂質土が部分的に混じる。φ＝0.5～4㎝程度の礫を若干含む。粘性若干有り。しまり強い。）

第58図　SU1008平・断面図



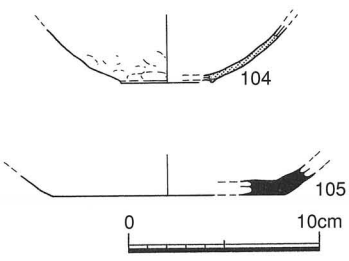
第59図　SU1008出土遺物



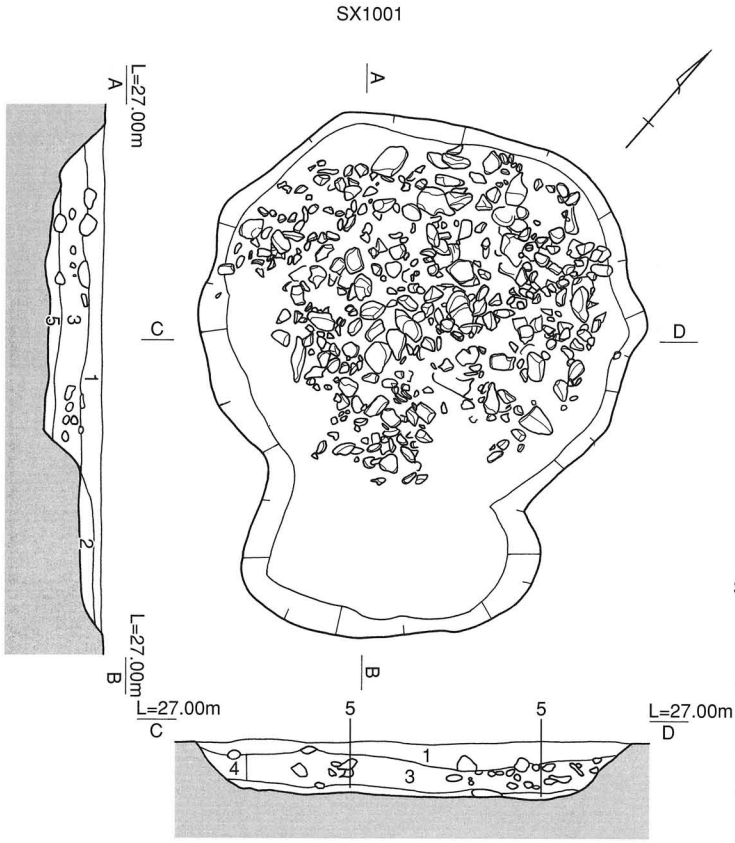
第60図　SO1001平・断面図

SO1001（炭窯）（第60図）

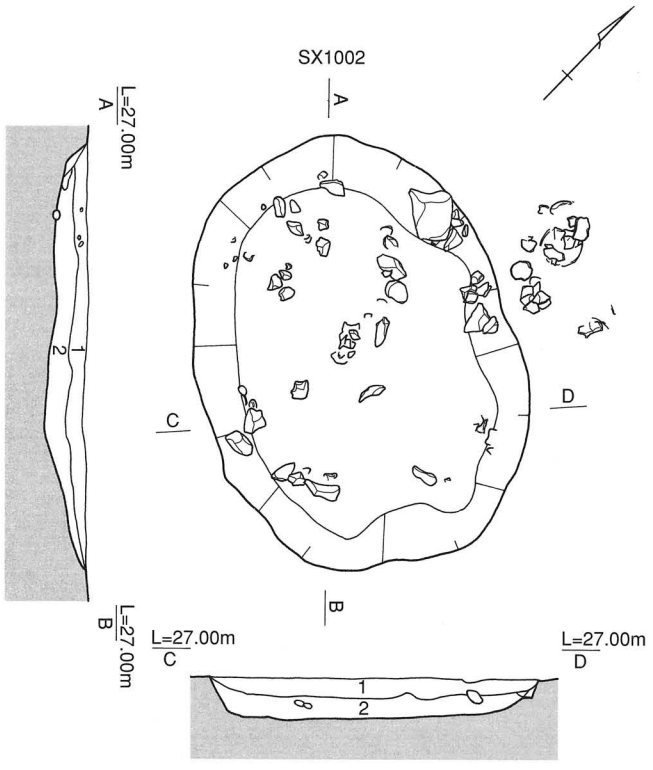
Q・R-7・8グリッド、調査区北部中央、SA1002の東側に位置する。長楕円形状の平面形を呈し、規模は長軸4.88m、短軸1.74m、深さ0.26mで、主軸方向はN-45°-Wである。南から北へ傾斜するように掘り込まれ、埋土は多量の炭化物、炭化木等が遺存していた。基底面には全体にわたり、焼土の拡がりが確認された。基底面および遺構周囲にはSP等の付随する遺構は検出されなかった。検出状況から焚口部は南側と思われる。遺構内からは瓦器片・土師質土器片等が数点出土したが、いずれも小片であるため、実測可能なものは2点だけである。



第61図　SO1001出土遺物



SX1001
1．黒褐色　10YR3/2　砂質土（炭化物およびマンガン粒をまばらに含む。砂岩礫を上面にわずかに含む。しまり良し。）
2．黄褐色　2.5Y5/3　砂質土（鉄分を多く含む。下面にも厚さ0.5～1cm程度の鉄分の堆積が見られる。）
3．黒褐色　2.5Y3/2　礫層（φ＝1～20cm程度の礫および土器片を含む。）
4．黒褐色　10YR3/2　砂質土（炭化物をまばらに含む。焼土をわずかに含む。）
5．灰黄色　2.5Y6/2　砂質土（下面に厚さ0.5cm程度の鉄分の堆積がみられる。）



SX1002
1．黒褐色　10YR3/2　砂質土（φ＝1cm程度の砂岩礫および土器片と炭化物をわずかに含む。）
2．黒褐色　10YR3/2　砂質土（1に比べ砂性がやや強い。砂岩礫および土器細片と炭化物をわずかに含む。）

第62図　SX1001・1002平・断面図

出土遺物（第61図）

104は和泉系瓦器椀である。高台断面は三角形状を呈する。105は東播系須恵質土器の鉢である。小片のため詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀後半～13世紀前半頃と思われる。

SX1001（不明遺構１）（第62図）

S-8グリッド、調査区北部東側、SA1002の北東に位置する遺構である。不整な楕円形状の平面形を呈し、規模は長軸2.68m、短軸2.28m、深さは30cmである。遺構内埋土中には拳～人頭大程度の砂岩礫が多量に含まれていた。遺構内からは瓦器片・土師質土器片等が出土したが、いずれも小片であるため、実測可能なものは５点である。

出土遺物（第63図）

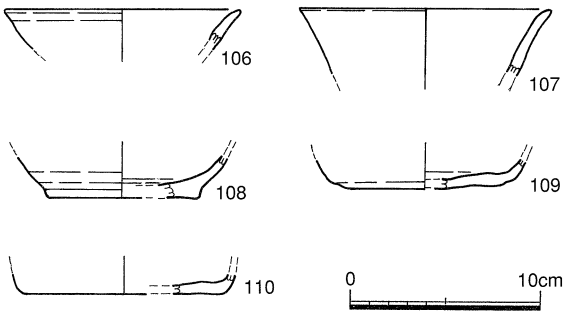
106～110は土師質土器である。106～108は杯、109・110は皿と思われる。底部の切り離しは回転糸切りである。小片のため詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀末～13世紀前半頃と思われる。

SX1002（不明遺構２）（第62図）

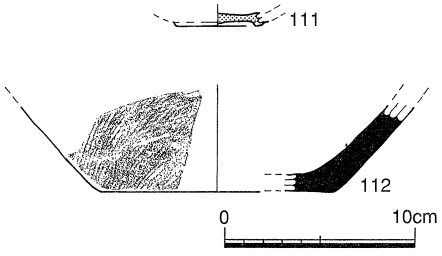
R・S-7グリッド、調査区北部東側、SX1001の南に位置する遺構である。楕円形状の平面形を呈し、規模は長軸1.92m、短軸1.72m、深さは20cmである。遺構内埋土は２層に分層され、拳～人頭大程度の砂岩礫が含まれていた。遺構内からは瓦器片・土師質土器片等が出土したが、いずれも小片であるため、実測可能なものは２点である。

出土遺物（第64図）

111は瓦器椀である。高台断面は四角形状を呈する。112は東播系須恵質土器の鉢と思われる。小片のため詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀末～13世紀前半頃と思われる。



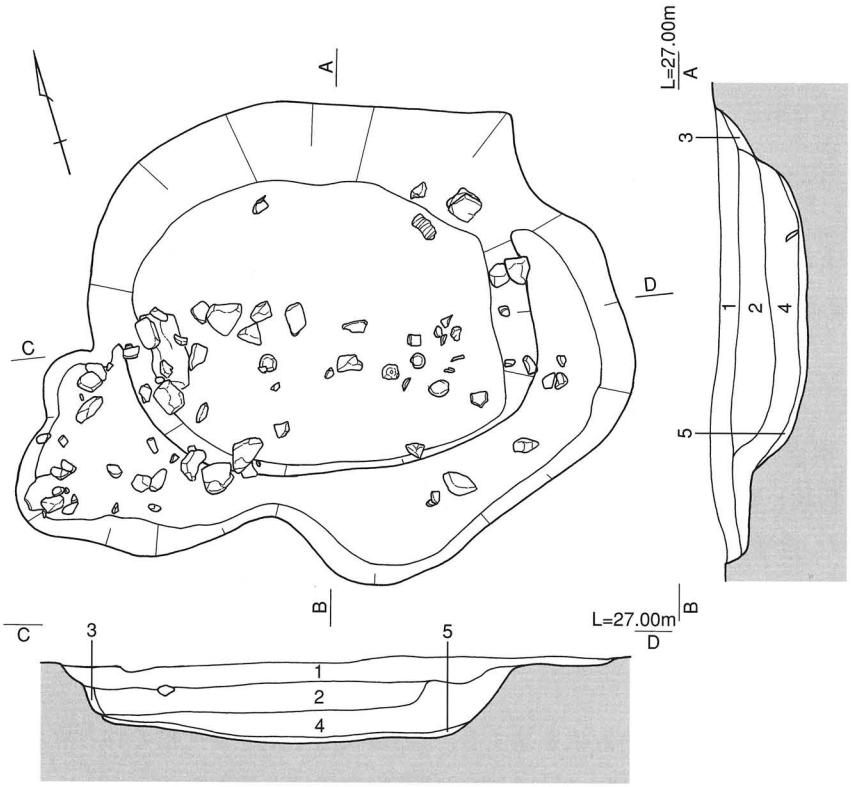
第63図　SX1001出土遺物



第64図　SX1002出土遺物

SX1003（不明遺構３）（第65図）

R-8グリッド、調査区北部東側、SX1002の南に位置する遺構である。不整形な楕円形状の平面形を呈し、南側はテラス状になっている。規模は長軸2.80m、短軸2.40m、深さは42cmである。遺構内埋土は５層に分層され、拳～人頭大程度の砂岩礫が含まれていた。遺構内からは青磁片・瓦器片・土師質土器片等が出土している。



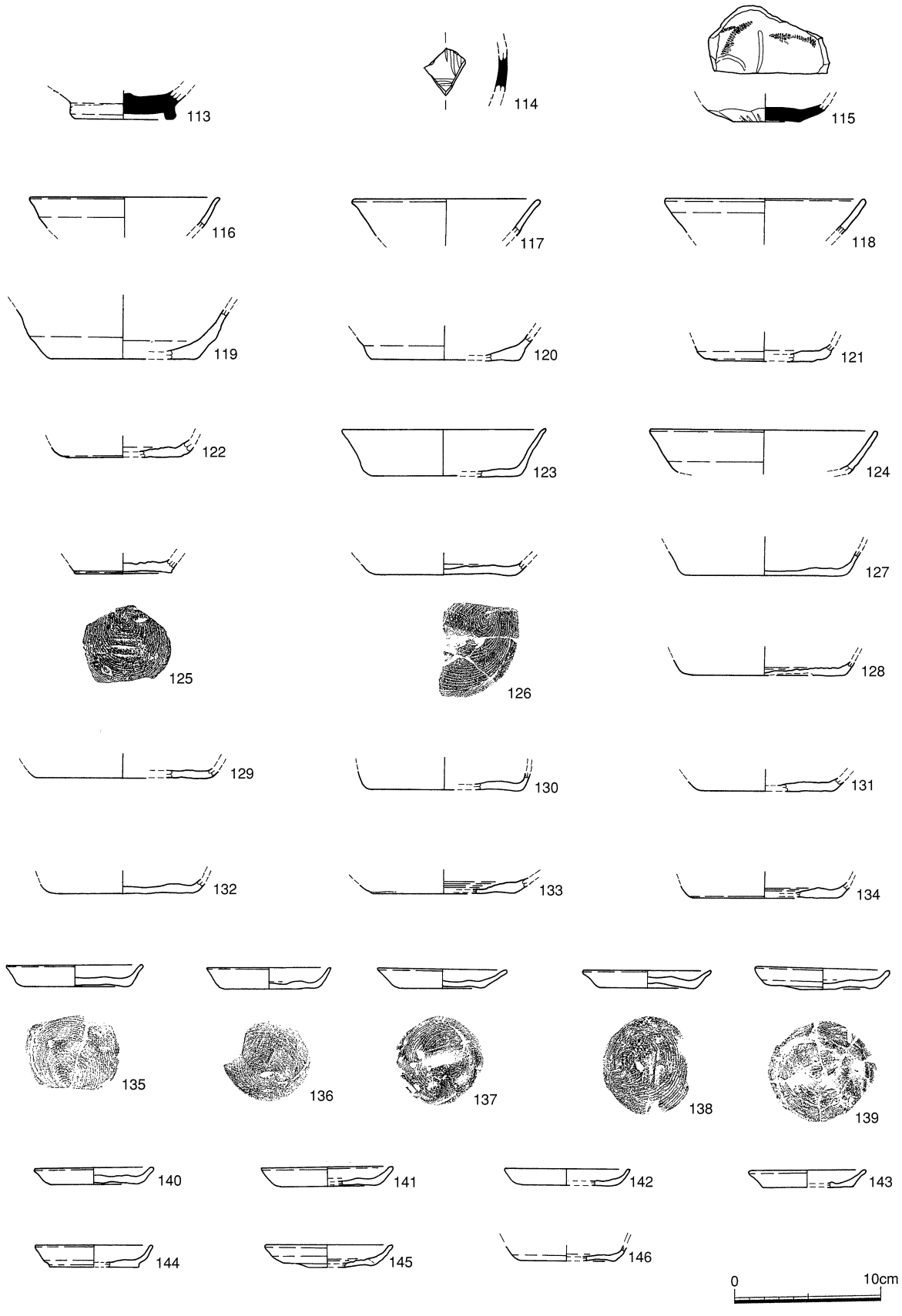
SX1003
1．黒褐色　10YR3/2　砂質土（土器細片および炭化物をまばらに含む。しまりやや悪い。）
2．黒褐色　10YR3/2　砂質土（土器細片および炭化物をまばらに含む。粘性やや有り。しまりやや悪い。）
3．黒褐色　10YR3/2　砂質土（炭化物を含む。明黄褐色10YR6/6砂質土がブロック状に10%程度混じる。しまり良し。）
4．黒褐色　10YR3/1　砂質土（土器細片をまばらに含む。）
5．にぶい黄色　2.5Y6/3　砂質土（下面に厚さ0.5～1cmで鉄分の堆積がみられる。）

0　2m

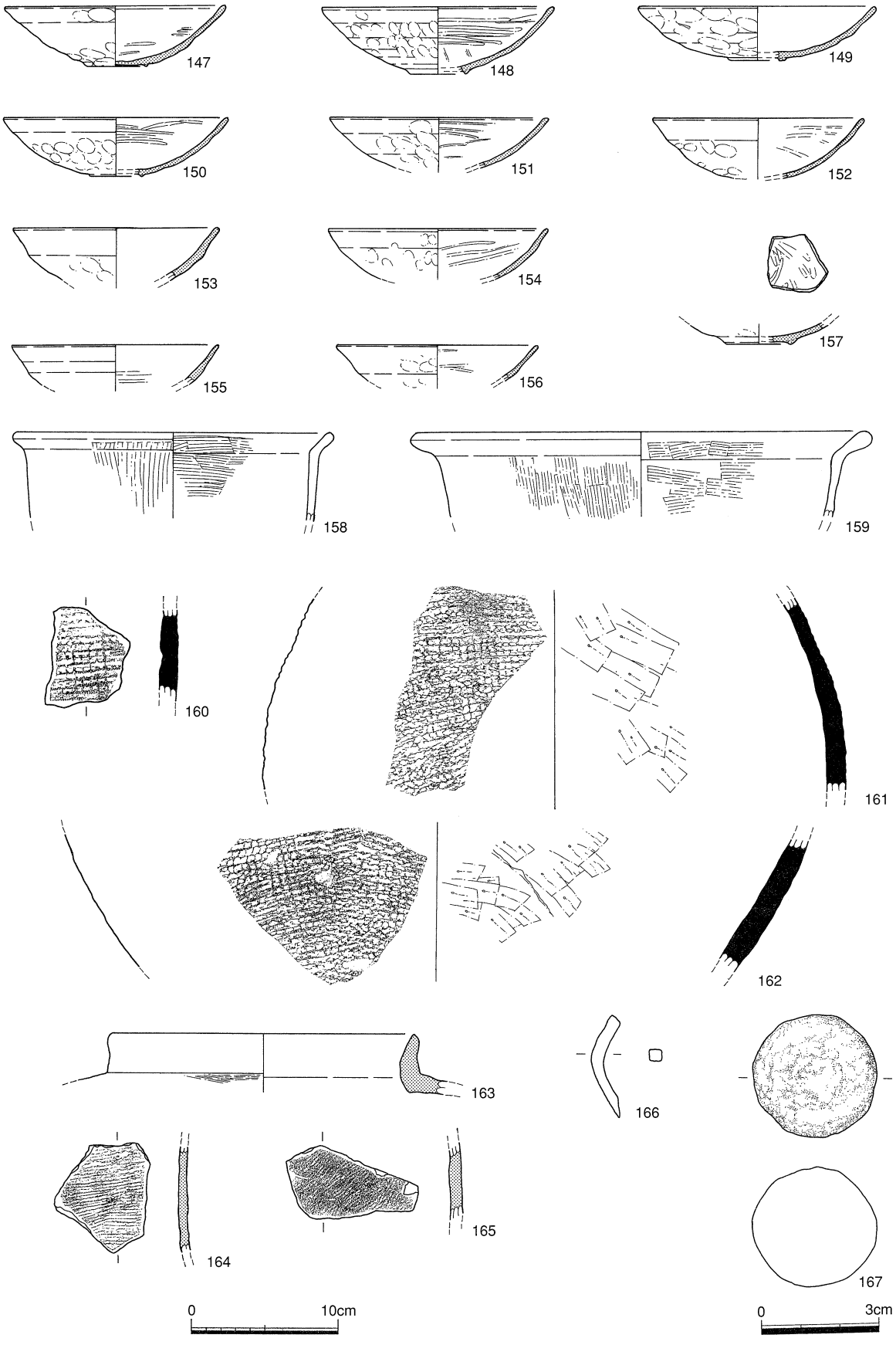
第65図　SX1003平・断面図

出土遺物（第66・67・68図）

113～115は輸入磁器である。113は白磁の壺底部である。高台断面は四角形状を呈する。114は同安窯系の青磁碗と思われる。115は同安窯系の青磁皿である。116～146は土師質土器である。116～122は杯、123～134は皿、135～146は小皿である。147～157は和泉系の瓦器椀である。器体外面にヘラミガキは無く、高台・器高とも退化傾向が見られる。158・159は土師質土器鍋である。160～162は東播系須恵質土器である。外面に格子状のタタキが施されており、亀山系の甕と思われる。163～165は瓦質土器である。163は釜、164・165は鉢と思われる。小片のため詳細は不明であるが、外面に平行タタキがみられる。166は鉄釘である。167は石製投弾とみられる。砂岩の円礫を球形に加工している。168は弥生時代後期

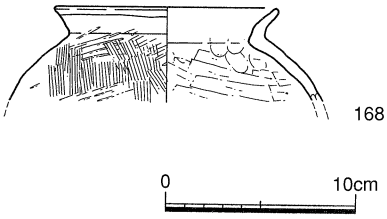


第66図　SX1003出土遺物１



第67図　SX1003出土遺物 2

とみられる甕である。瓦器椀等の出土遺物から、時期的には概ね12世紀末～13世紀前半頃と思われる。



第68図　SX1003出土遺物３

SX1005（不明遺構５）（第69図）

M・N-6グリッド、調査区中央部に位置し、SA1001と切り合う。長方形状の平面形を呈し、南側はテラス状になっている。規模は長軸4.60m、短軸1.38m、深さは100cmである。遺構内埋土は３層に分層され、拳～人頭大程度の砂岩礫が含まれていた。遺構内からは瓦器片・土師質土器片等が出土している。

出土遺物（第70図）

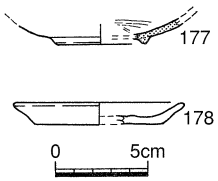
169～173は土師質土器である。169は杯、170は皿、171～173は小皿である。底部の切り離しは回転糸切りである。174・175は和泉系の瓦器椀である。176は東播系須恵質土器である。魚住系の甕とみられ、体部外面に平行タタキがみられる。小片のため詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀末～13世紀前半頃と思われる。

SX1006（不明遺構６）（第71図）

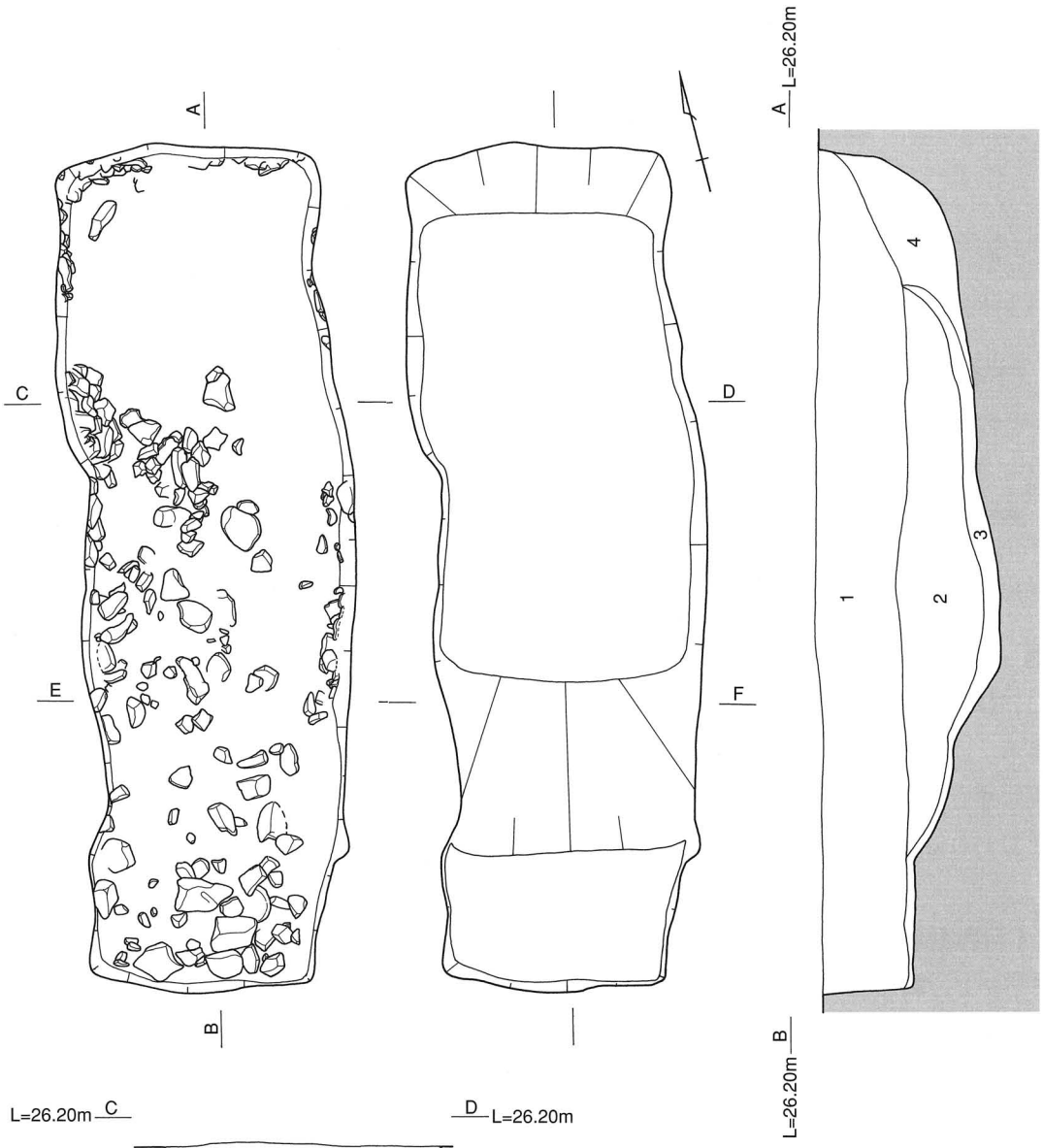
O-6グリッド、調査区中央部西側に位置する遺構である。不整形な長方形状の平面形を呈し、南側はすぼまり、断面形はテラス状になっている。規模は長軸3.10m、短軸1.64m、深さは76cmである。遺構内埋土は４層に分層される。遺構内からは瓦器片・土師質土器片等が出土しているが、小片のため実測可能なものは２点だけである。

出土遺物（第72図）

177は和泉系の瓦器椀である。178は土師質土器の小皿である。小片のため詳細は不明であるが、時期的には概ね12世紀末～13世紀前半頃と思われる。



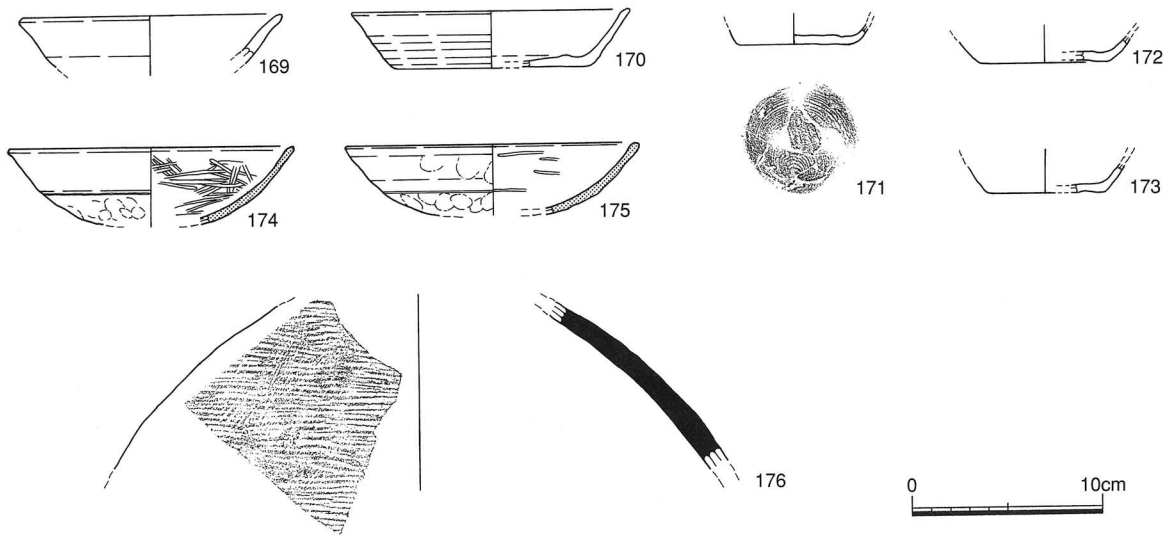
第72図　SX1006出土遺物



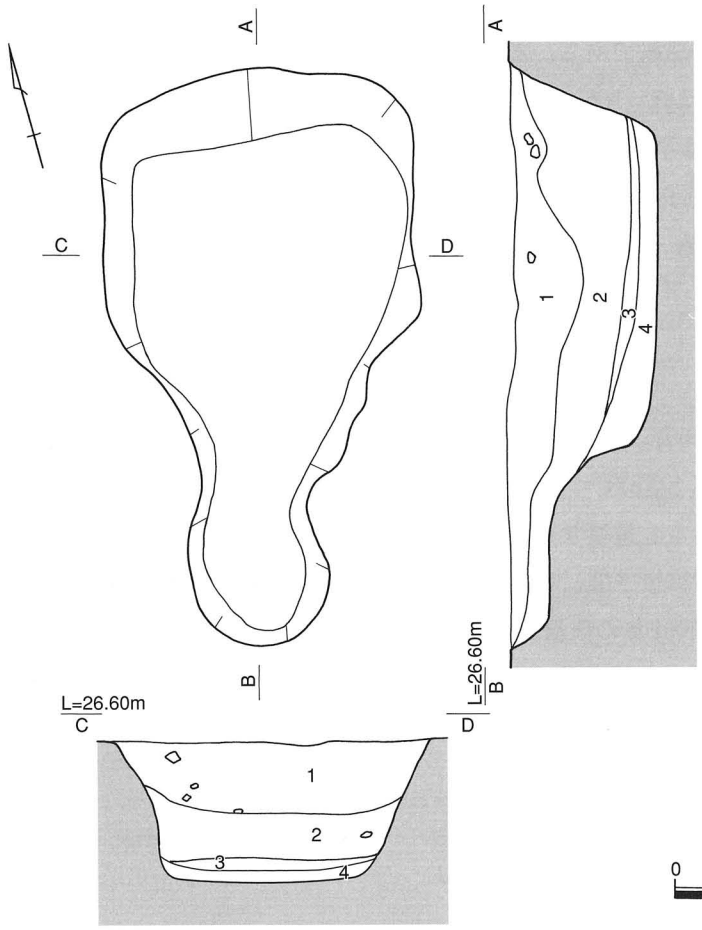
SX1005
1．黒褐色　10YR3/1　砂質土（φ＝2～10cmの礫を少量含み砂岩礫および土器細片を少量含む。）
2．黒褐色　10YR3/1　砂質土（φ＝2～10cmの礫を1より多量に含む。）
3．暗灰黄色　2.5Y5/2　砂質土（底部に鉄分が沈澱。）
4．オリーブ褐色　2.5Y4/4　砂質土（粘性やや有り。）

0　4m

第69図　SX1005平・断面図



第70図　SX1005出土遺物



SX1006
1．黒褐色　2.5Y3/2　砂質土（明黄褐色の砂岩礫およびϕ＝1～10cm程度の礫を少量含む。）
2．オリーブ褐色　2.5Y4/3　砂質土（部分的に黒褐色2.5Y3/2砂質土がブロック状に混じる。土器細片およびϕ＝2cm程度の礫をわずかに含む。）
3．黒色　2.5Y2/1　砂質土（焼土層。炭化物含む。）
4．黒褐色　2.5Y3/2　砂質土（炭化物をわずかに含む。粘性ややあり。）

第71図　SX1006平・断面図

SX1007（不明遺構７）（第73図）

J・K・L-6・７グリッド、調査区南部、SA1001の南東に位置する遺構である。東側部分は後世の攪乱により消失しているが、隅丸方形状の平面形を呈するものと考えられる。規模は現存で、長軸10.0m、短軸6.0m、深さ50cmである。遺構北側には人頭大の砂岩角礫が列状に並べられていた。また遺構北東隅には人頭大の砂岩礫を９個用いて階段状に組まれた石組が検出された。階段状の石組は内法幅で30cmを測る。遺構内埋土は13層に分層され、遺構最下層には鉄分の沈着も確認される。階段状の石組は、土層の観察および護岸とも考えられる遺構北側の石列の検出状況とも併せて、引水用の水路と捉えうることから、SX1007は貯水池のような池状遺構であった可能性がある。

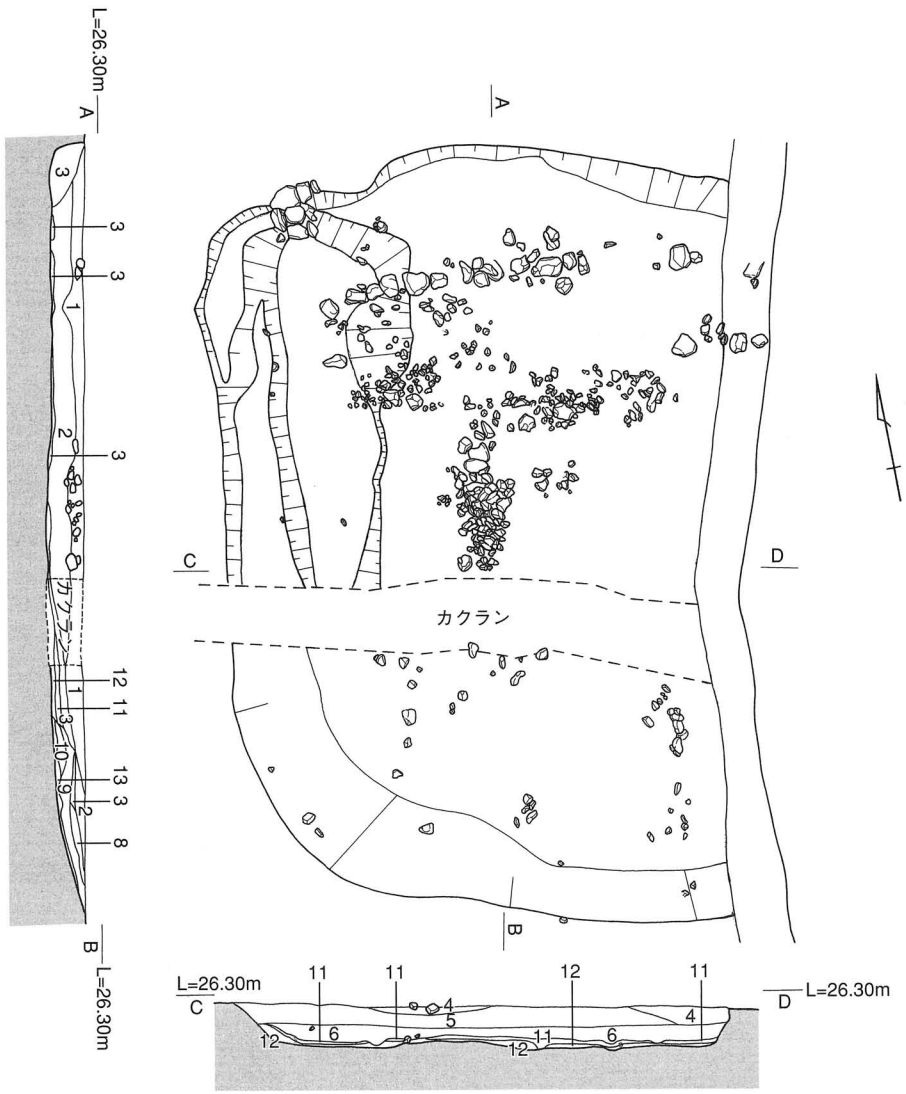
遺構内からは青磁片・瓦器片・土師質土器片・須恵質土器片・瓦片・鉄製品・鉄滓等、多様な遺物が出土しており、小片も含めると2000点を超える。これらの遺物は遺構廃絶時に廃棄されたものと思われる。

出土遺物（第74～80図）

179～289は土師質土器である。179～212は杯である。213～259は皿である。260～286は小皿である。287・288は釜、289は鍋である。290・291は須恵質土器である。290は壺底部と思われる。291は東播系の甕体部と思われる。292は瓦片で外面に布目が見られる。293は白磁の端反の碗である。見込みおよび体部内面に沈線が巡る。294～296は青磁碗である。294・295は龍泉窯系、296は同安窯系である。297～306は和泉系の瓦器である。297～304は椀、305・306は小皿である。307～320は瓦である。307は軒平で瓦当には唐草文が施されている。321は不明土製品、322は滑石製の石鍋である。鍔下に穿孔がある。323～372は鉄器・鉄製品である。323は刀子（小刀）である。324は刀子である。325～363は鏃・釘類である。364～370は不明鉄製品である。371・372は鉄滓（スラグ）である。SX1007の廃絶時期は出土遺物から、概ね13世紀前半頃と思われる。

SX1008（不明遺構８）（第81図）

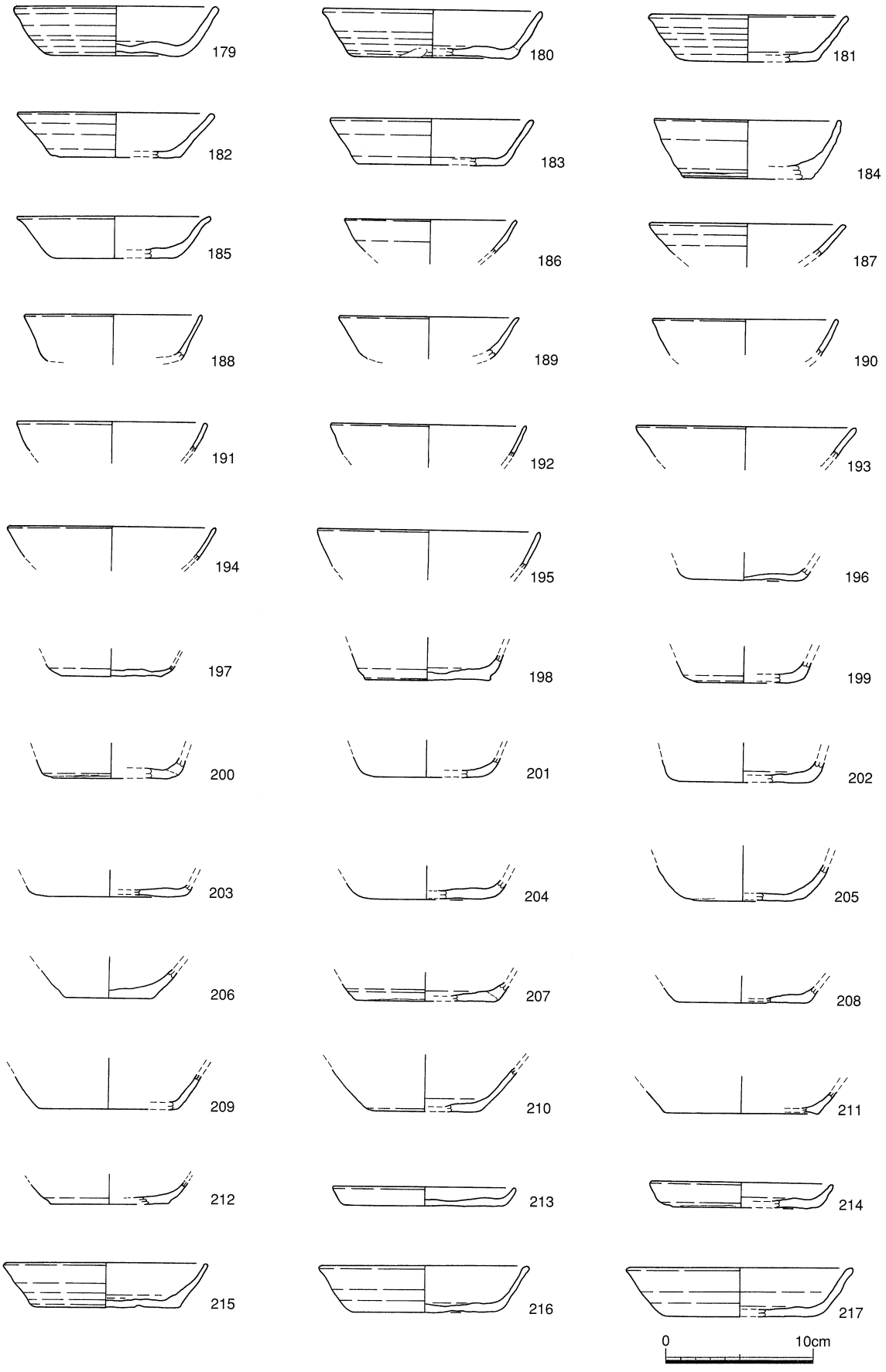
K・L・M-3・４グリッド、調査区南部、SA1001の南西に位置する遺構で、SX1007と対を成すようなあり方で出土している。東側部分はSD1002に接する。隅丸方形状の平面形を呈し、規模は現存で、長軸9.0m、短軸6.0m、深さ58cmである。遺構北東隅には人頭大の砂岩角礫４個が列状に並べられていた。遺構内埋土は８層に分層され、遺構最下層には鉄分の沈着も確認される。土層の観察および護岸とも考えられる遺構北東隅の石列、SD1002との位置関係とも併せて、SX1008はSX1007と同様、貯水池のような池状遺構であった可能性がある。遺構内からは青磁片・瓦器片・土師質土器片・須恵質土器片・瓦片・鉄製品・鉄滓等、多様な遺物が出土しており、これらの遺物は遺構廃絶時に廃棄されたものと思われる。



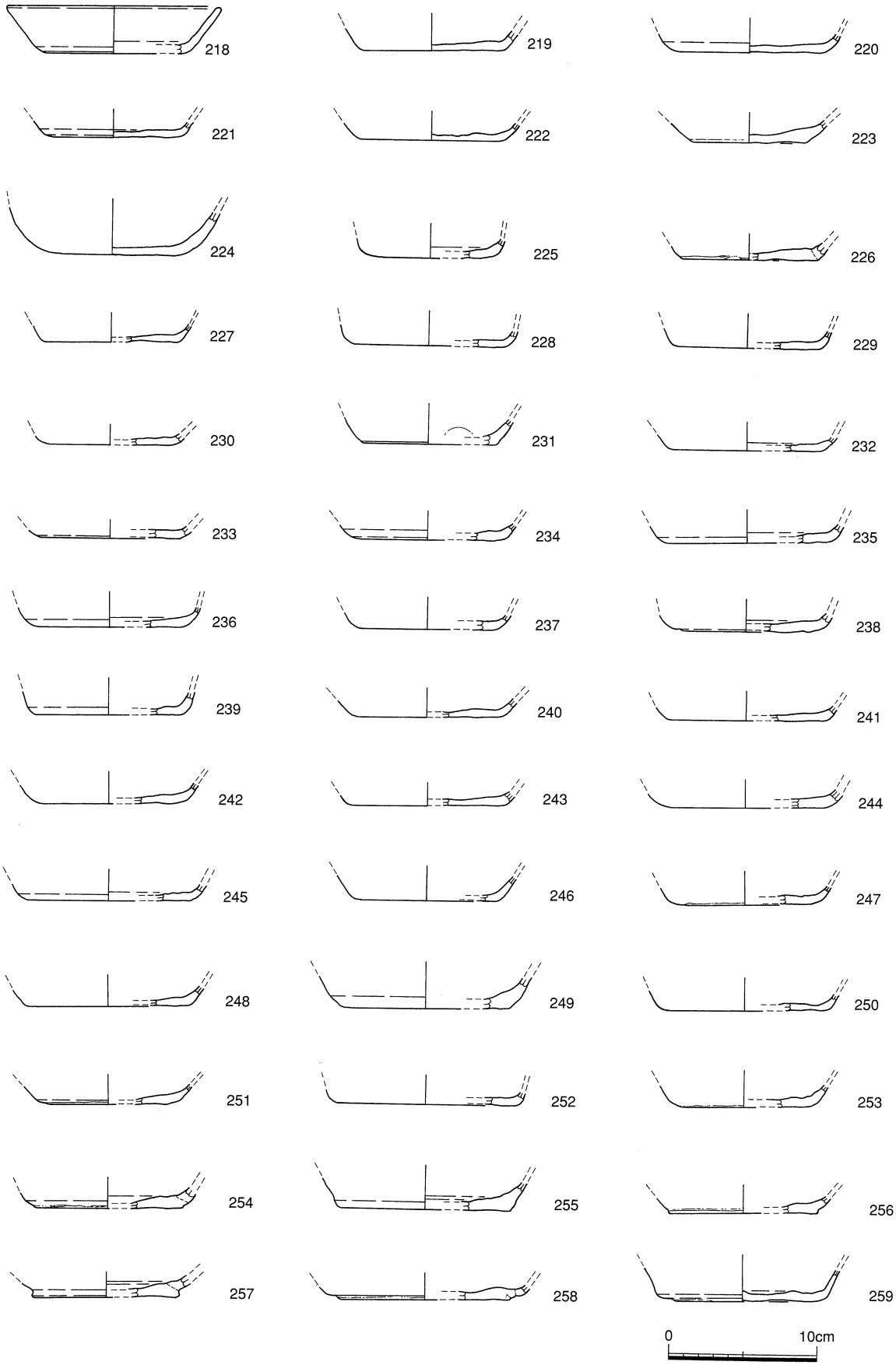
SX1007

1. 黒褐色　2.5Y3/2　砂質土（明黄褐色砂岩礫および土器細片を少量含む。ϕ＝2～15cmの礫を一面に含む。）
2. 黒褐色　2.5Y3/2　砂質土（明黄褐色砂岩礫および土器細片を一面に含む。）
3. オリーブ褐色　2.5Y4/3　砂質土（下面に厚さ0.5～1㎝程度で鉄分の沈澱がみられる。）
4. にぶい黄褐色　10YR4/3　砂質土（灰黄褐色10YR4/2砂質土を部分的に含む。ϕ＝0.3～5cm大の礫を多量に含む。鉄分の沈澱が少量見られる。粘性弱い。しまり有り。）
5. にぶい黄褐色　10YR4/3　砂質土（灰黄褐色10YR4/2砂質土を部分的に含む。ϕ＝0.3～5cm大の礫を含む。鉄分の沈澱が少量みられる。粘性弱い。しまり有り。）
6. にぶい黄褐色　10YR4/3　砂質土（ϕ＝0.3～3cm大の礫を含む。鉄分の沈澱が少量みられる。粘性まれに有り。しまり有り。）
7. にぶい黄褐色　10YR4/3　砂質土（褐色10YR4/4砂質土と鉄分を少量含む。ϕ＝0.3～3㎝大の礫若干みられる。粘性まれに有り。しまり有り。）
8. にぶい黄褐色　10YR4/3　砂質土（褐色10YR4/4砂質土とϕ＝0.3～2cm大の礫を含む。鉄分の沈着が少量みられる。粘性まれに有り。しまり有り。）
9. にぶい黄褐色　10YR4/3　砂質土（灰黄褐色10YR4/2砂質土が部分的に混じる。ϕ＝0.3～1.5cm大の礫やや多く含む。）
10. 暗褐色　10YR3/4　砂質土（灰黄褐色10YR4/2砂質土とにぶい黄褐色10YR4/3砂質土を部分的に含む。鉄分の沈着若干有り。ϕ＝2㎝大の礫を少量含む。粘性若干有り。しまり有り。）
11. にぶい黄褐色　10YR4/3　砂質土（褐色10YR4/4砂質土が部分的に混じる。土器細片・炭化物を少量含む。ϕ＝0.2～4cm大の礫を少量含む。粘性若干有り。）
12. 褐色　10YR4/4　砂質土（にぶい黄褐色10YR4/3砂質土を部分的に含む。土器細片・炭化物を少量含む。ϕ＝0.2～4cm大の礫を少量含む。鉄分の沈着が若干みられる。粘性若干有り。）
13. 褐色　10YR4/4　砂質土（にぶい黄褐色10YR4/3砂質土を含む。ϕ＝0.3～7㎝大の礫を若干含む。鉄分の沈着が若干みられる。）

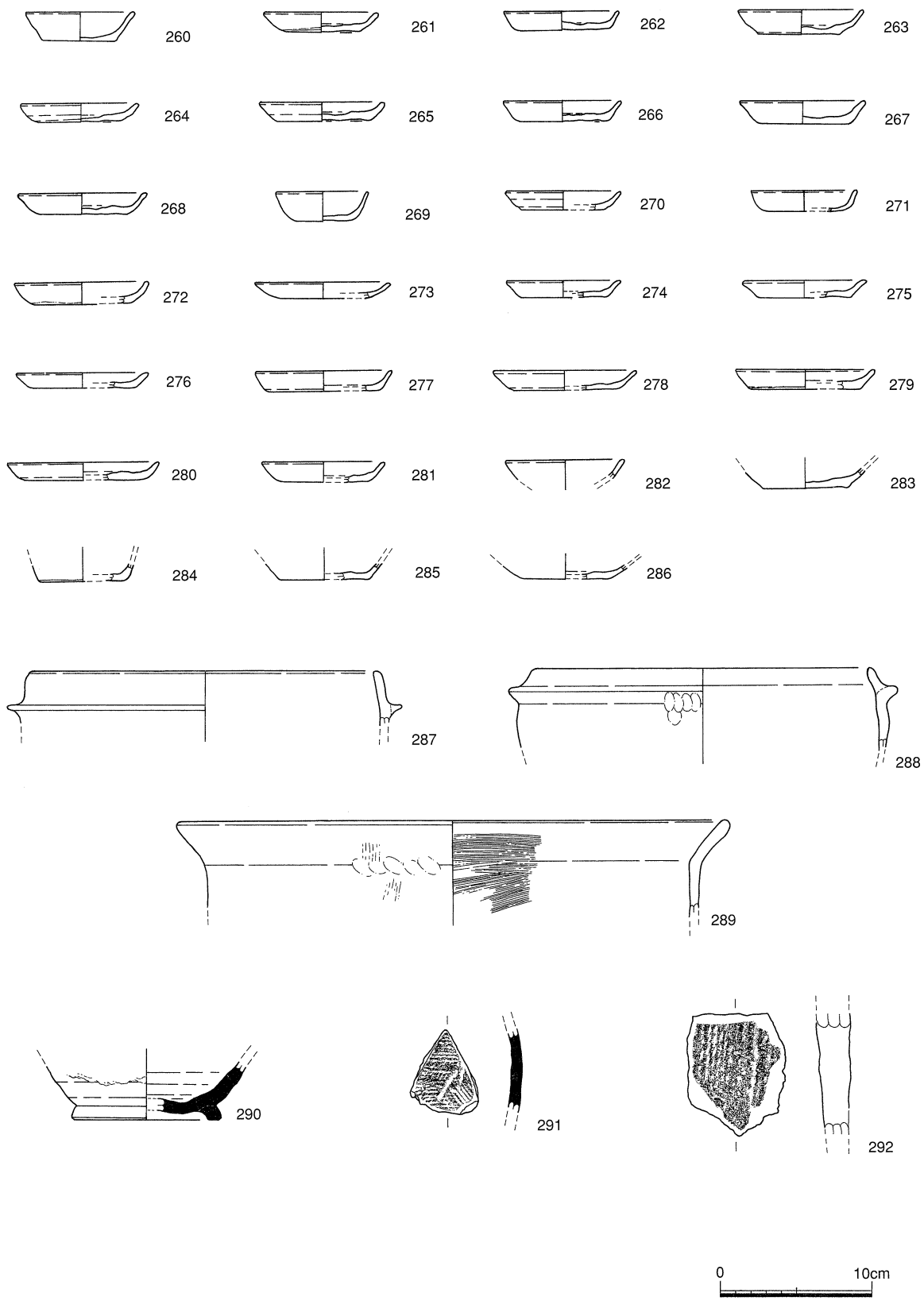
第73図　SX1007平・断面図



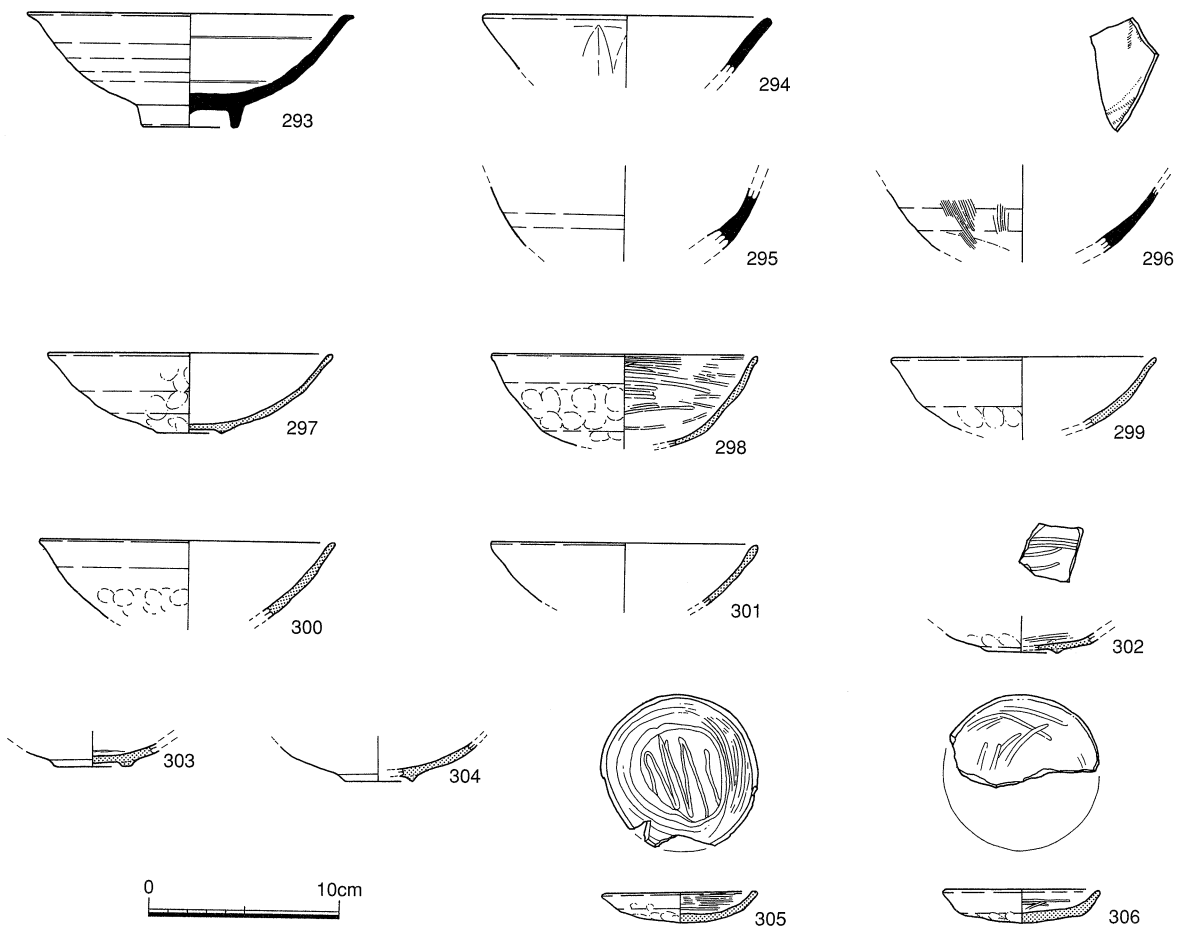
第74図　SX1007出土遺物 1



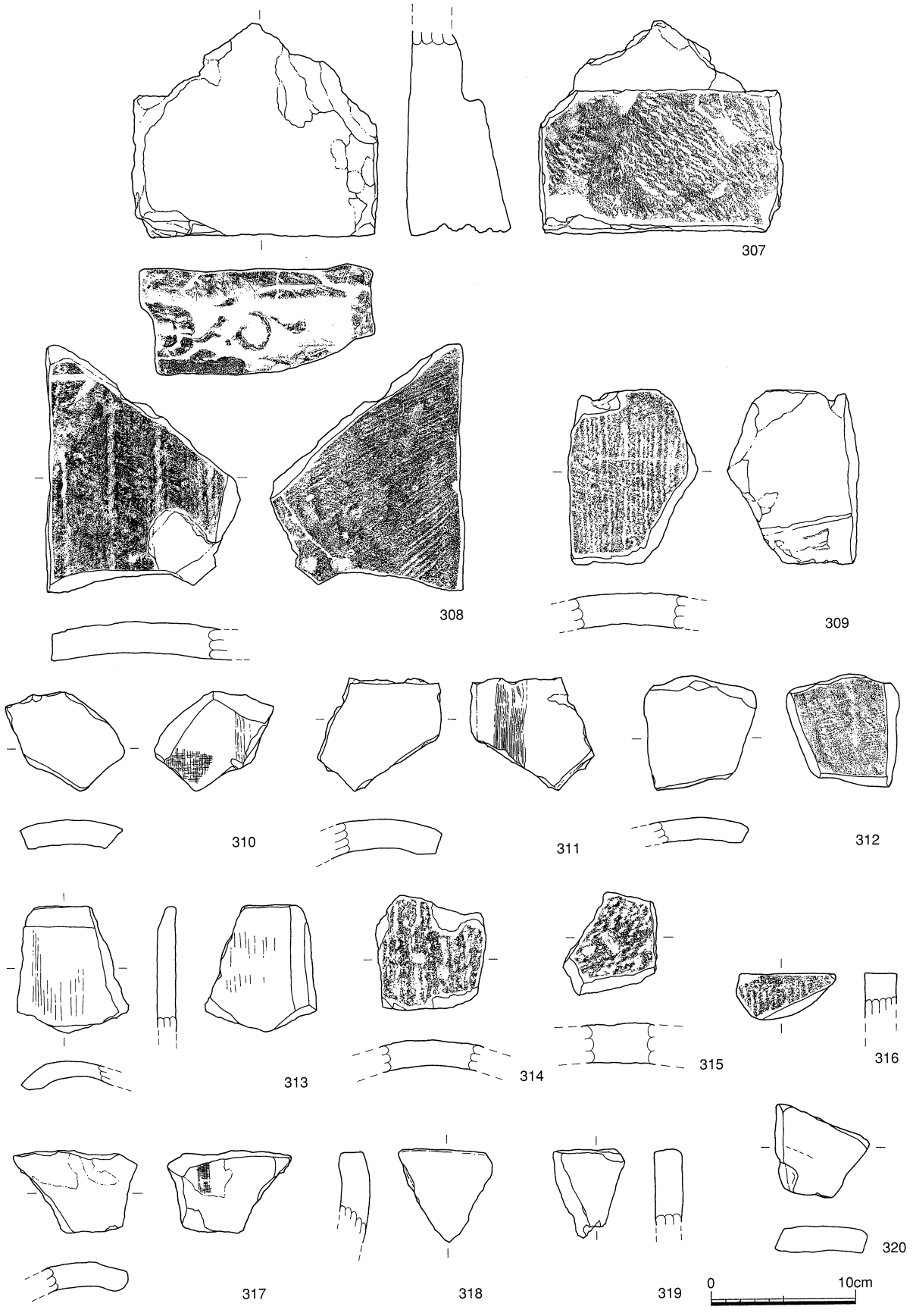
第75図　SX1007出土遺物 2



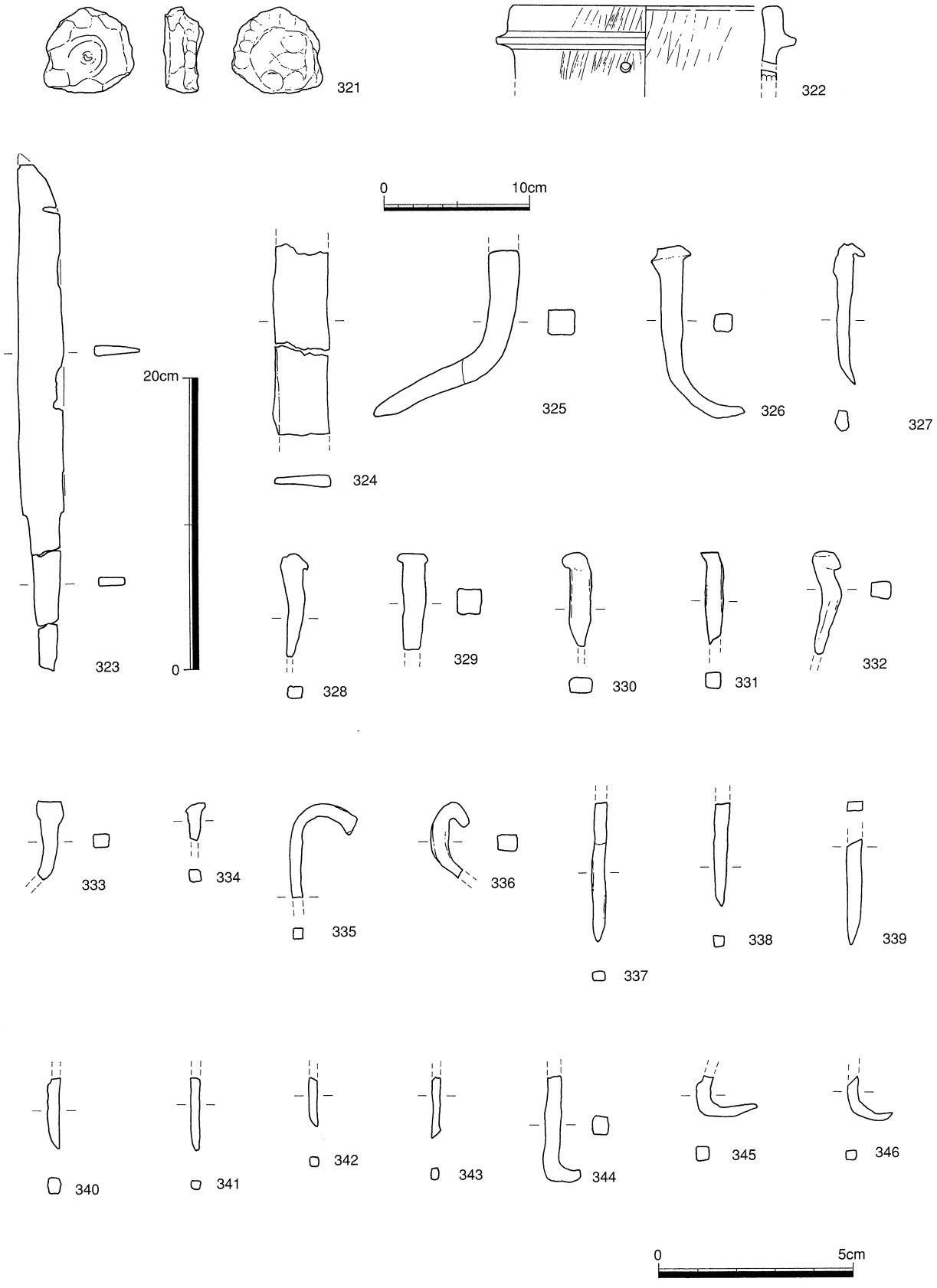
第76図　SX1007出土遺物 3



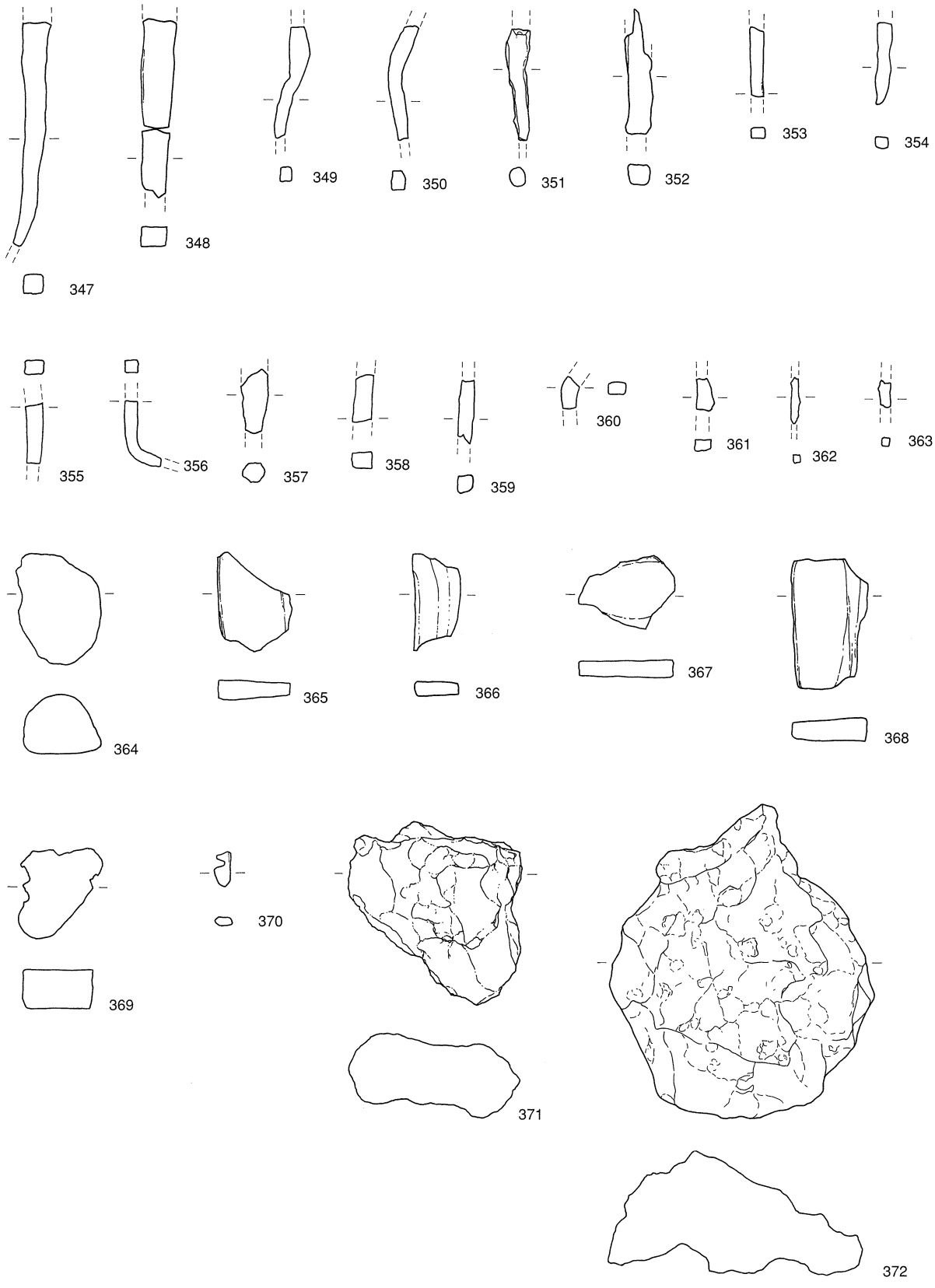
第77図　SX1007出土遺物 4



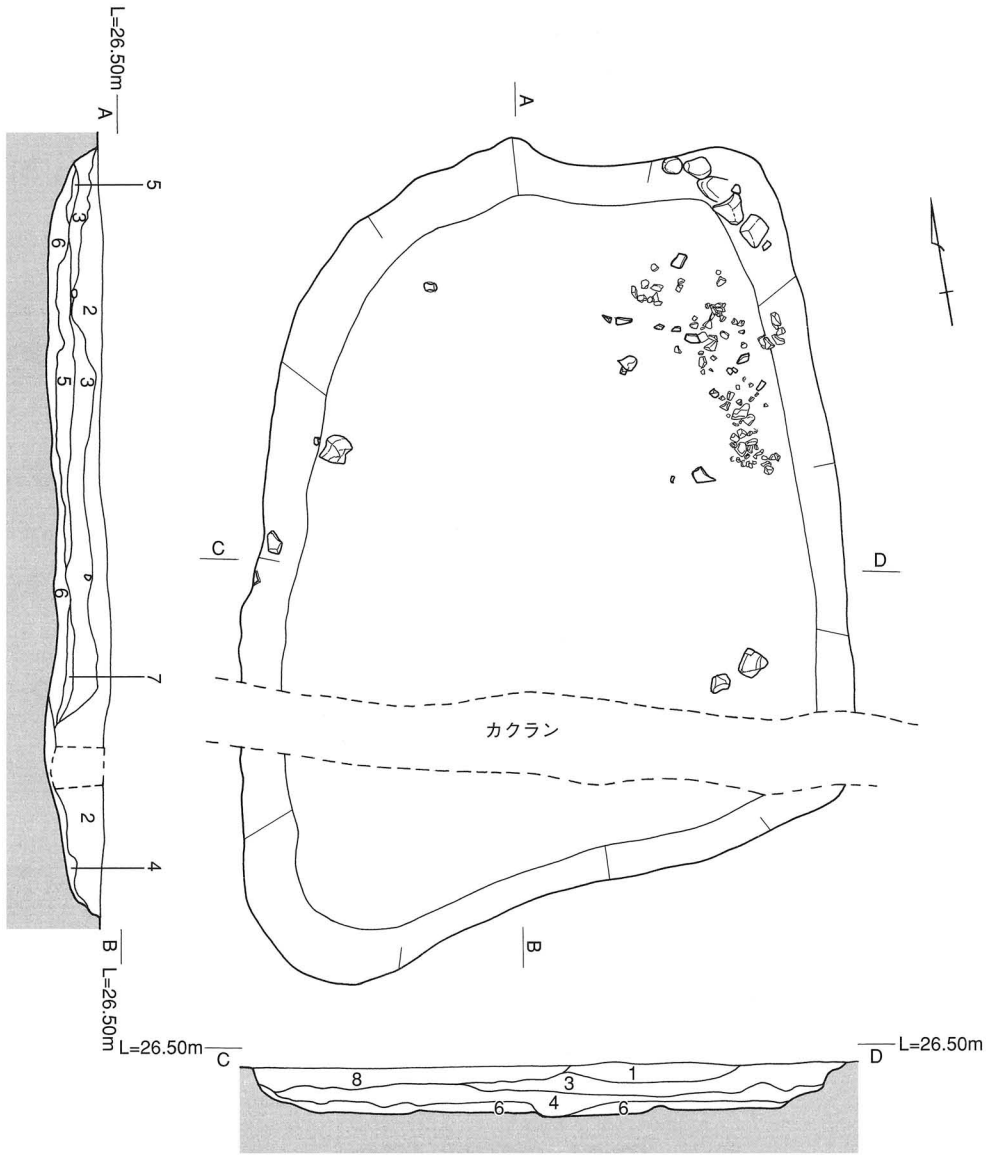
第78図　SX1007出土遺物 5



第79図　SX1007出土遺物 6



第80図　SX1007出土遺物 7



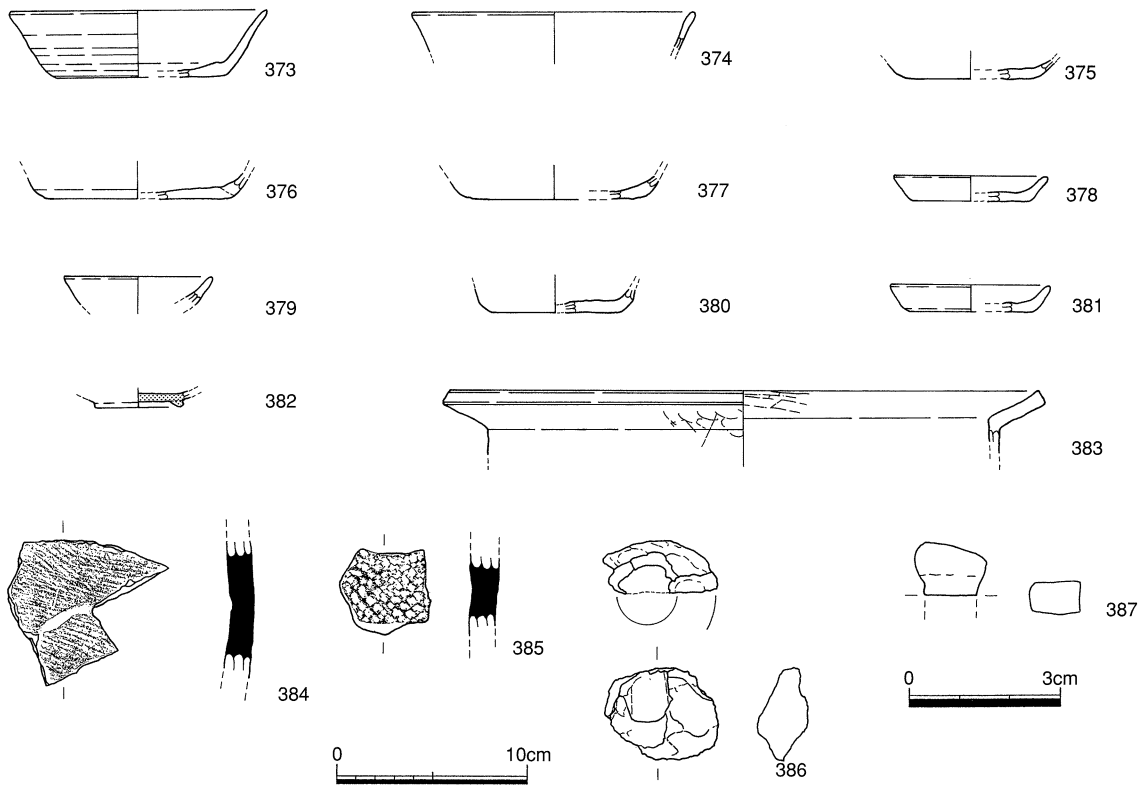
SX1008

1．黒褐色　2.5Y3/2　砂質土（オリーブ褐色2.5Y4/3砂質土が部分的にブロック状に混じる。包含層の上面と同じレベルから入っており客土・カクランの土とも考えられる。ϕ＝3～5㎝程度の礫をまばらに含む。土器細片を極少量含む。）
2．黒褐色　2.5Y3/2　シルト（粘性有り。しまり有り。）
3．黒褐色　2.5Y3/2　砂質土（明黄褐色の砂岩礫を一面に含む。土器細片・炭化物を極少量含む。）
4．黄灰色　2.5Y5/1　砂質土（全面に鉄分を50%程度含む。）
5．暗褐色　10YR3/4　シルト（粘性有り。しまり有り。）
6．黄褐色　2.5Y5/6　砂質土（下面に厚さ0.5㎝程度の鉄分の沈殿層がみられる。）
7．黒褐色　2.5Y3/2　砂質土（明黄褐色の砂岩礫を一面に含む。上面に切れ切れに鉄分の沈澱層有り。）
8．オリーブ褐色　2.5Y4/3　砂質土（土器細片をわずかに含む。ϕ＝5～10㎝程度の礫を一面に含む。）

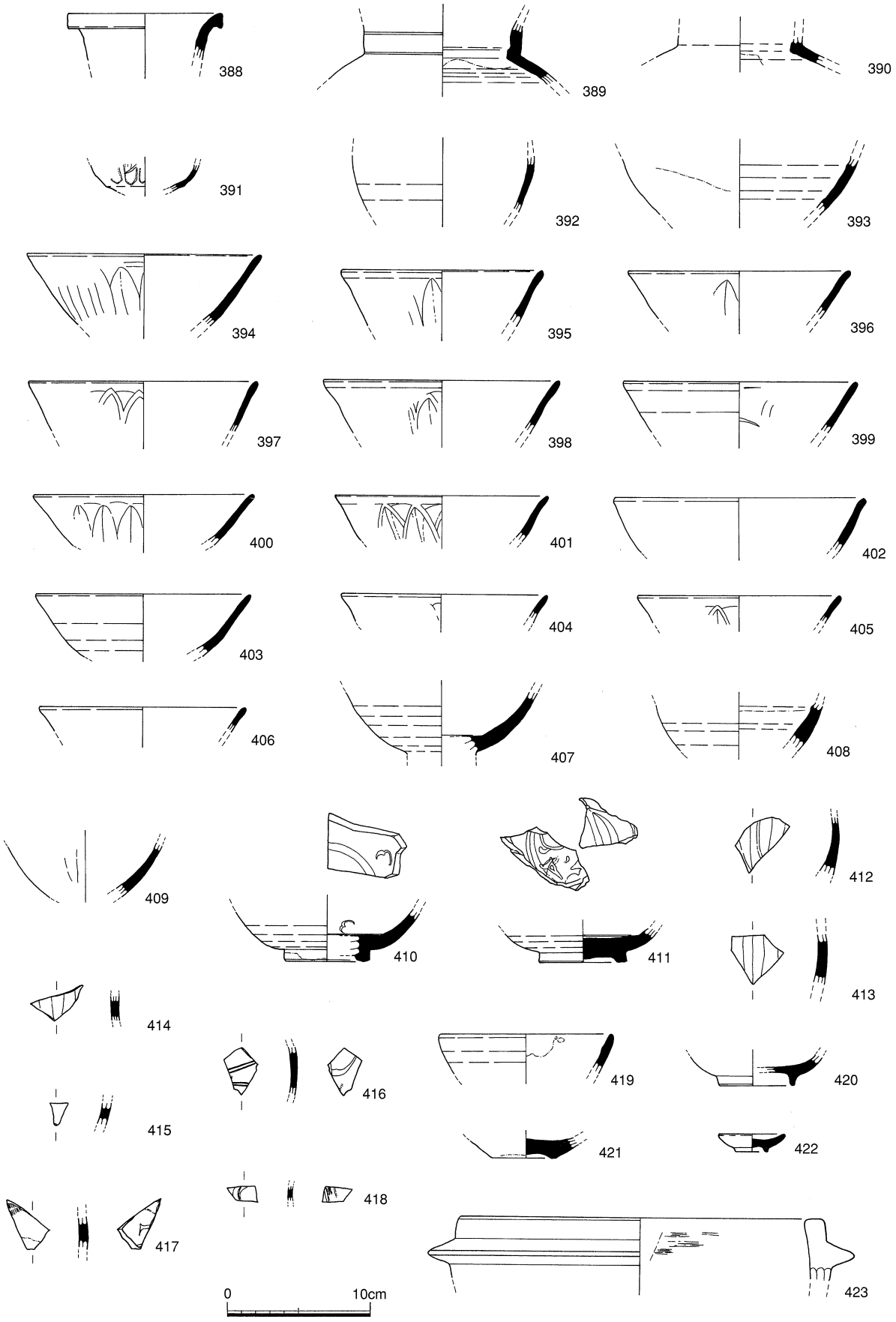
第81図　SX1008平・断面図

出土遺物（第82図）

373～381は土師質土器である。373～375は杯、376・377は皿、378～381は小皿である。底部の切り離しは回転糸切りである。382は瓦器椀の底部である。383は土師質土器の鍋である。384・385は東播系須恵質土器の甕体部と思われる。384は魚住系、385は亀山系である。386は鞴の羽口である。387は不明鉄製品である。これらの出土遺物からSX1008の廃絶時期は、概ね13世紀前半頃と思われる。



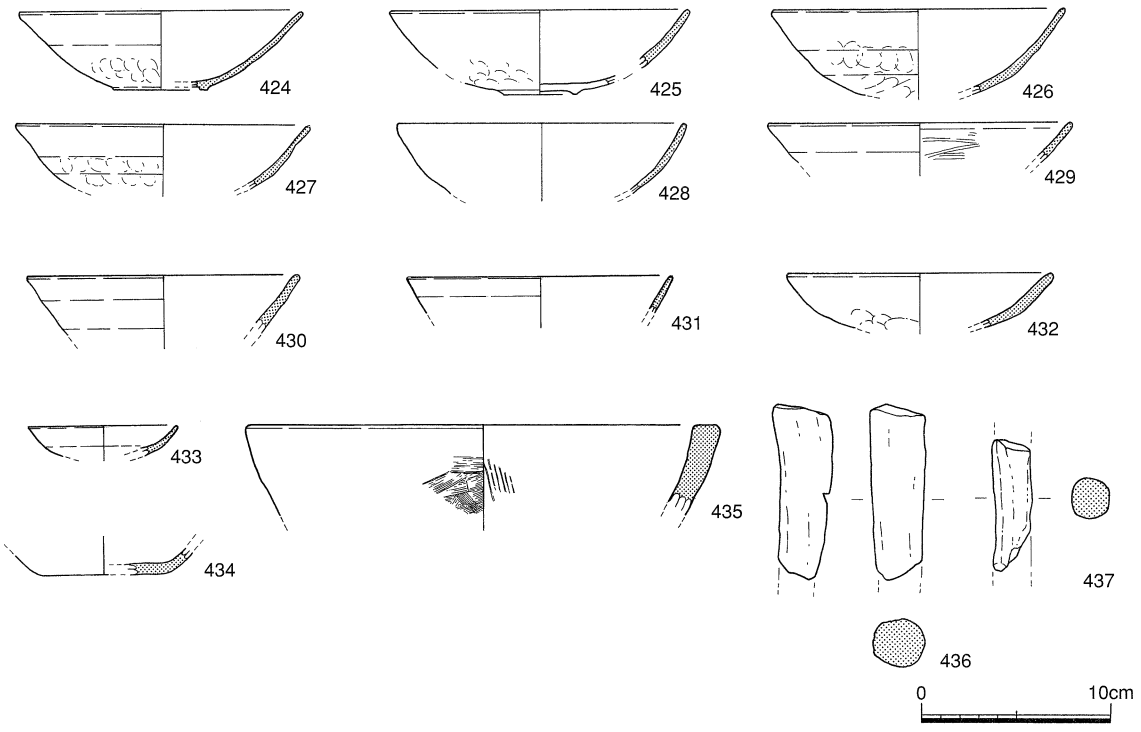
第82図　SX1008出土遺物



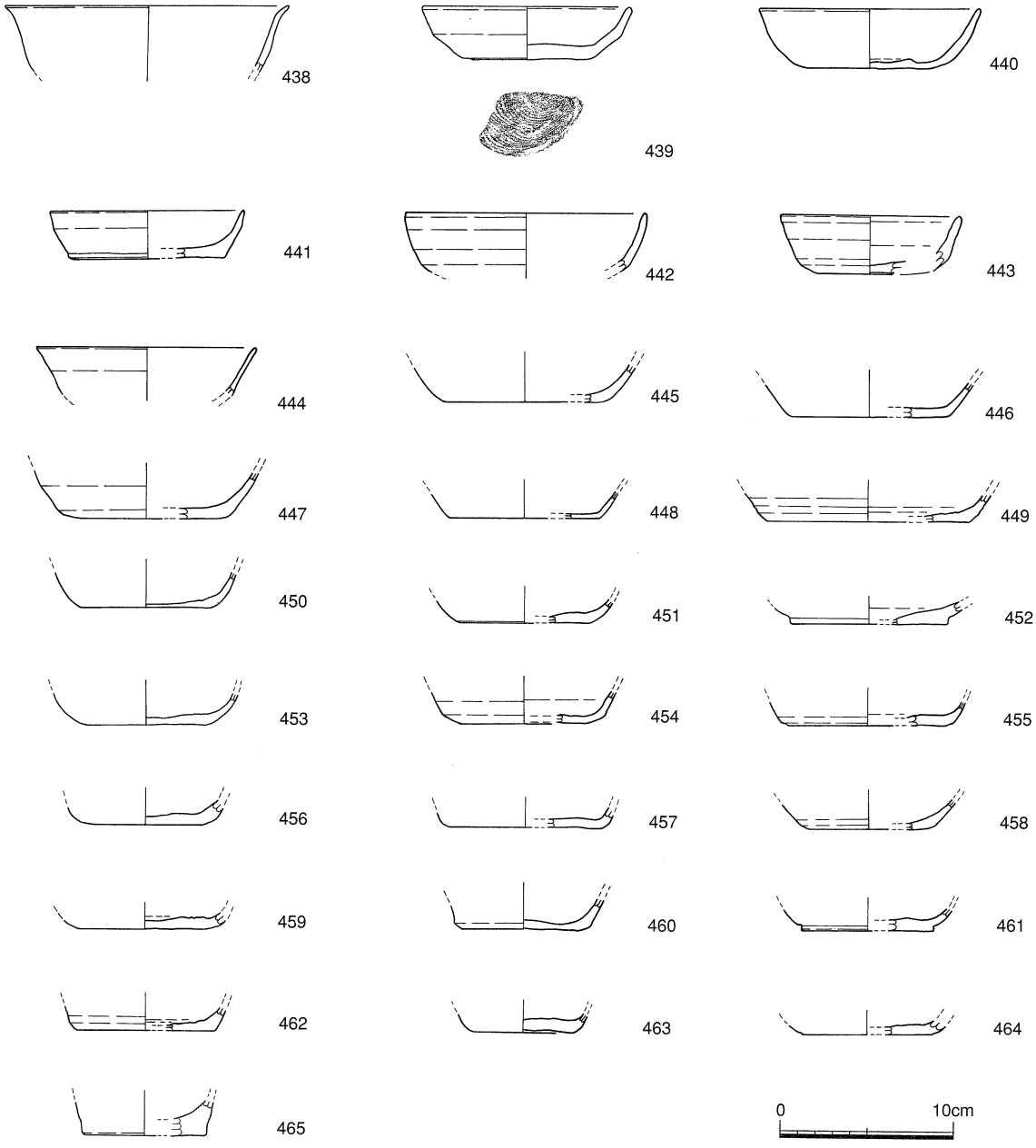
第83図　包含層出土遺物 1

包含層出土遺物（第83～94図）

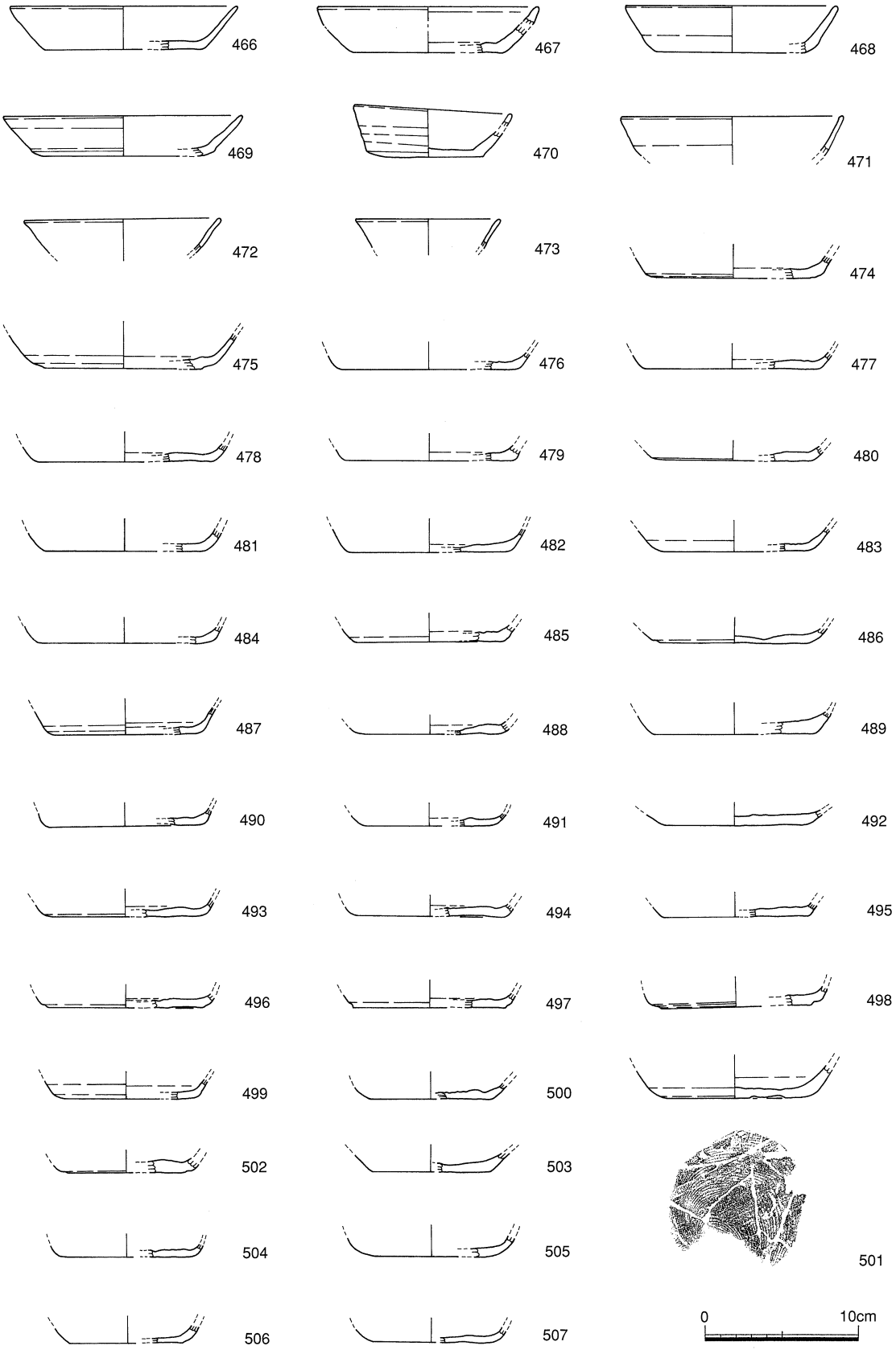
遺構内以外にも多くの遺物が出土している。包含層出土遺物には弥生時代後期～室町時代後半頃まで時期幅が見られるが、主体となる時期は鎌倉時代後半頃、12世紀後半～13世紀後半頃となっている。388～390・392・393は白磁の壺である。391は白磁の合子である。394～418は青磁でいずれも碗である。417・418は同安窯系、それ以外は龍泉窯系である。419～422は国産陶・磁器である。423は滑石製石鍋である。424～434は瓦器である。いずれも和泉系と思われる。424～432は椀、433は小皿である。434は皿と思われる。435～437は瓦質土器である。435は擂鉢である。436・437は釜の脚である。438は土師質土器椀である。439～465は土師質土器杯である。466～512は土師質土器皿である。513～529は土師質土器小皿である。底部の切り離しは回転糸切りである。530～533は土師質土器釜である。532は口縁部・体部が直線的に屈曲する。534～538は土師質土器鍋である。539は土師質土器羽釜の鍔部である。540～544は土師質土器釜の脚部である。545～562は東播系の須恵質土器である。545～550は甕である。545～549は魚住系、550は亀山系と思われる。551～562は鉢で、558・560は片口鉢である。563～572は瓦である。表面には粗い布目が見られる。573はチャートの剥片である。端部がやや潰れており、火打ち石と思われる。574は石製投弾と思われる。砂岩の円礫を球形に加工している。575は扁平な砂岩円礫である。周縁に敲打痕がみられ敲石と思われる。576は須恵器の杯身である。577は須恵器の高杯脚部である。時期的には6世紀後半頃と思われる。578は須恵器の杯と思われる。時期的には9世紀頃と思われる。579～670は鉄器・鉄製品である。579・580は刀子、581は鑿などの工具類と思われる鉄製品である。582～670は鉄釘である。671～675は不明鉄製品、676～684は鉄滓（スラグ）である。



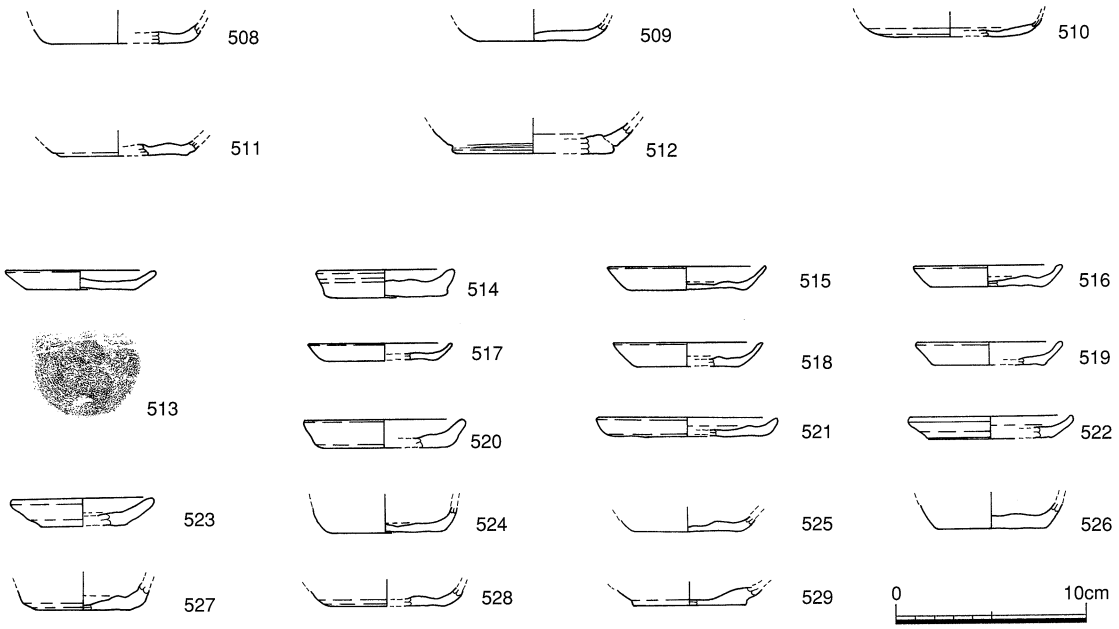
第84図　包含層出土遺物2



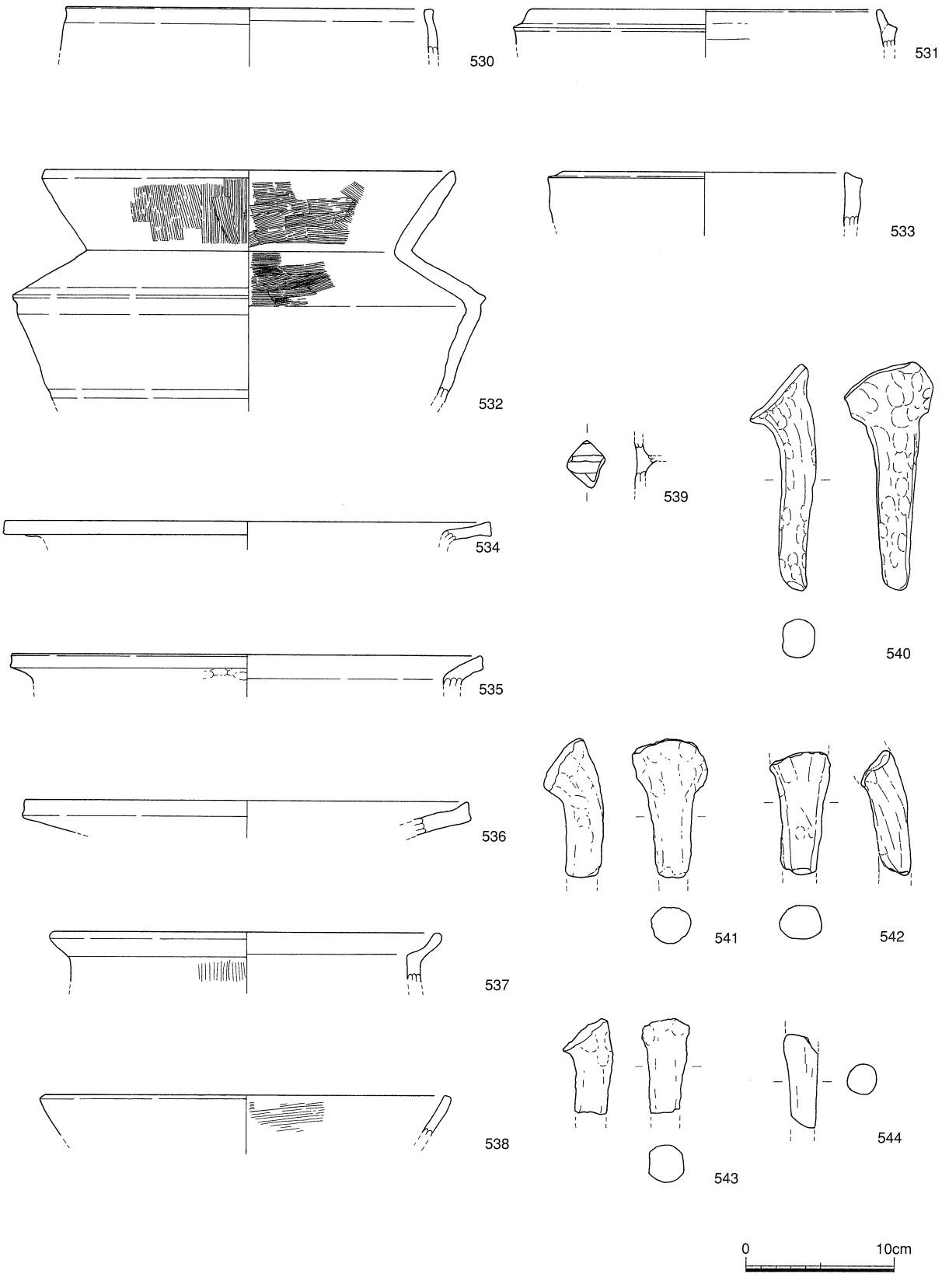
第85図　包含層出土遺物 3



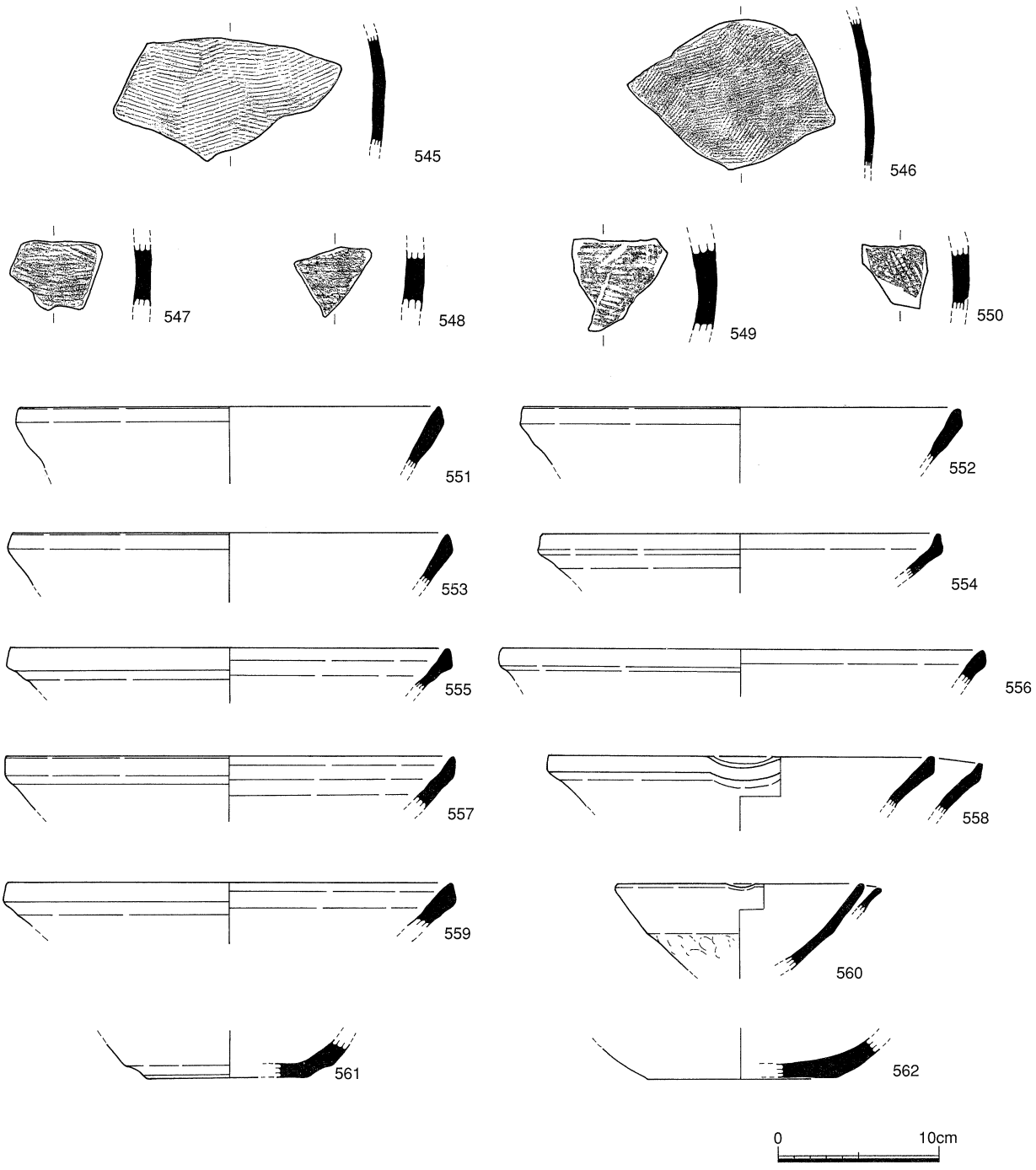
第86図　包含層出土遺物 4



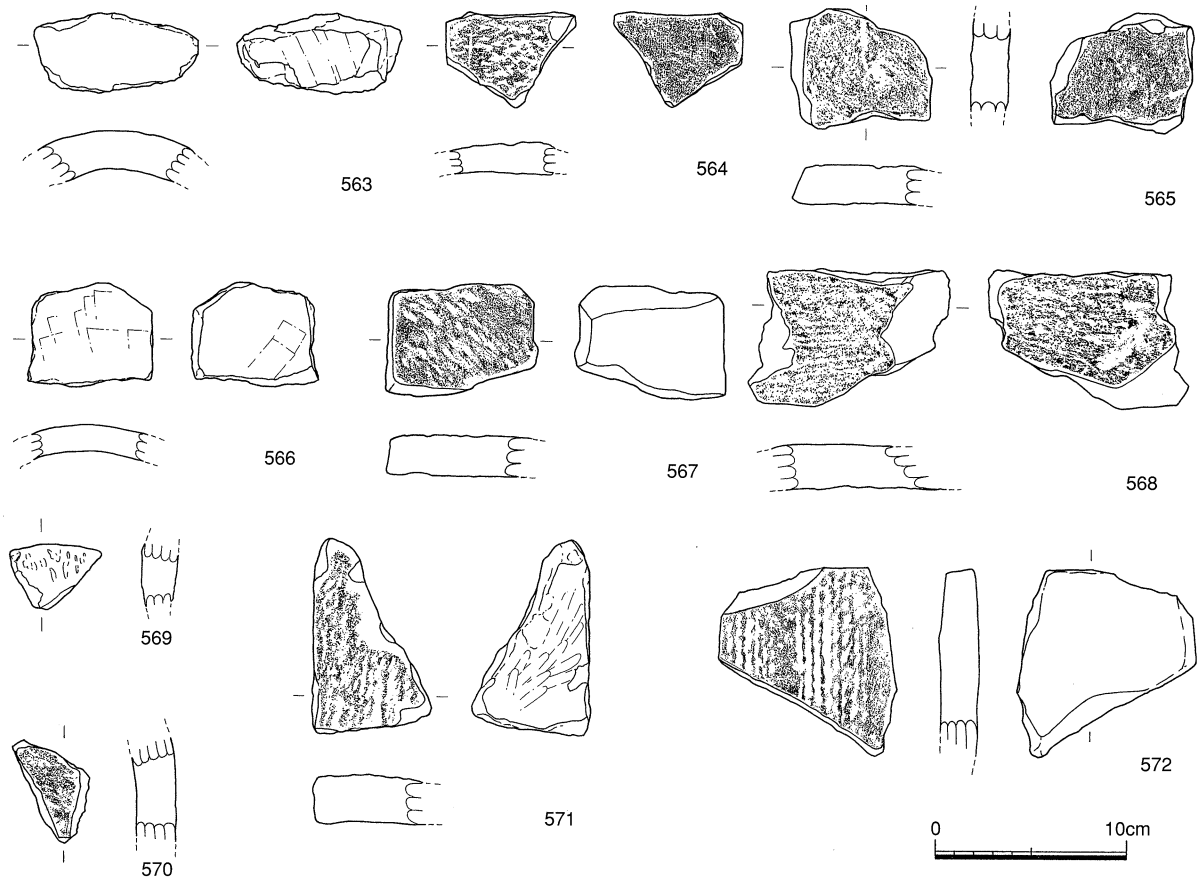
第87図　包含層出土遺物５



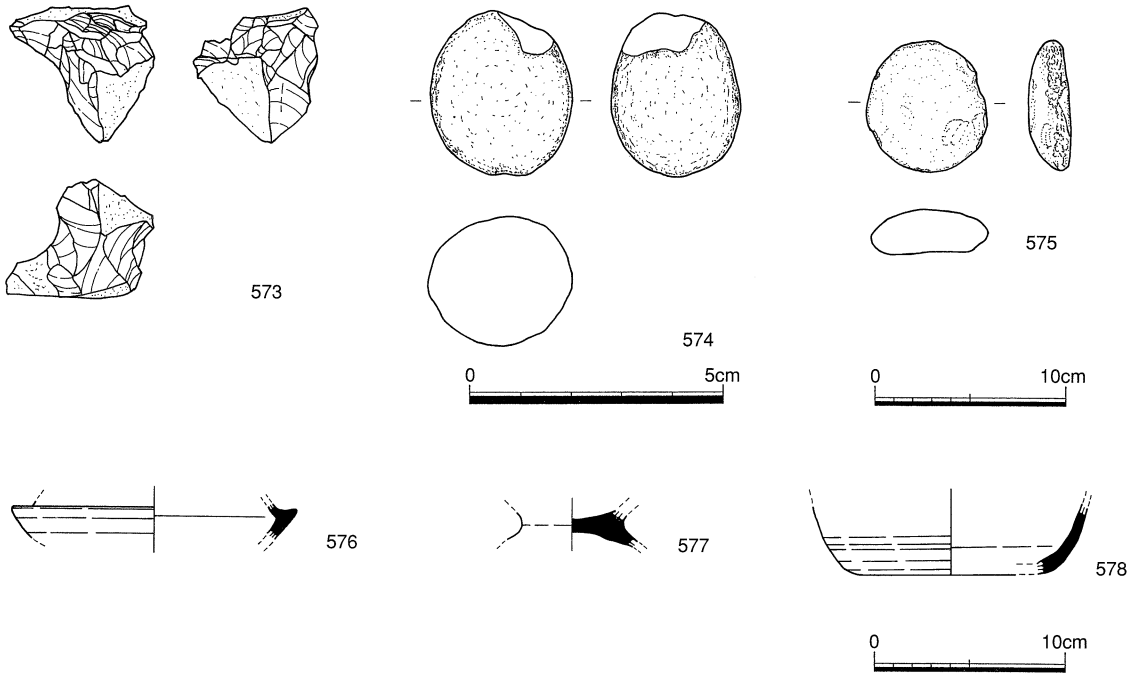
第88図　包含層出土遺物 6



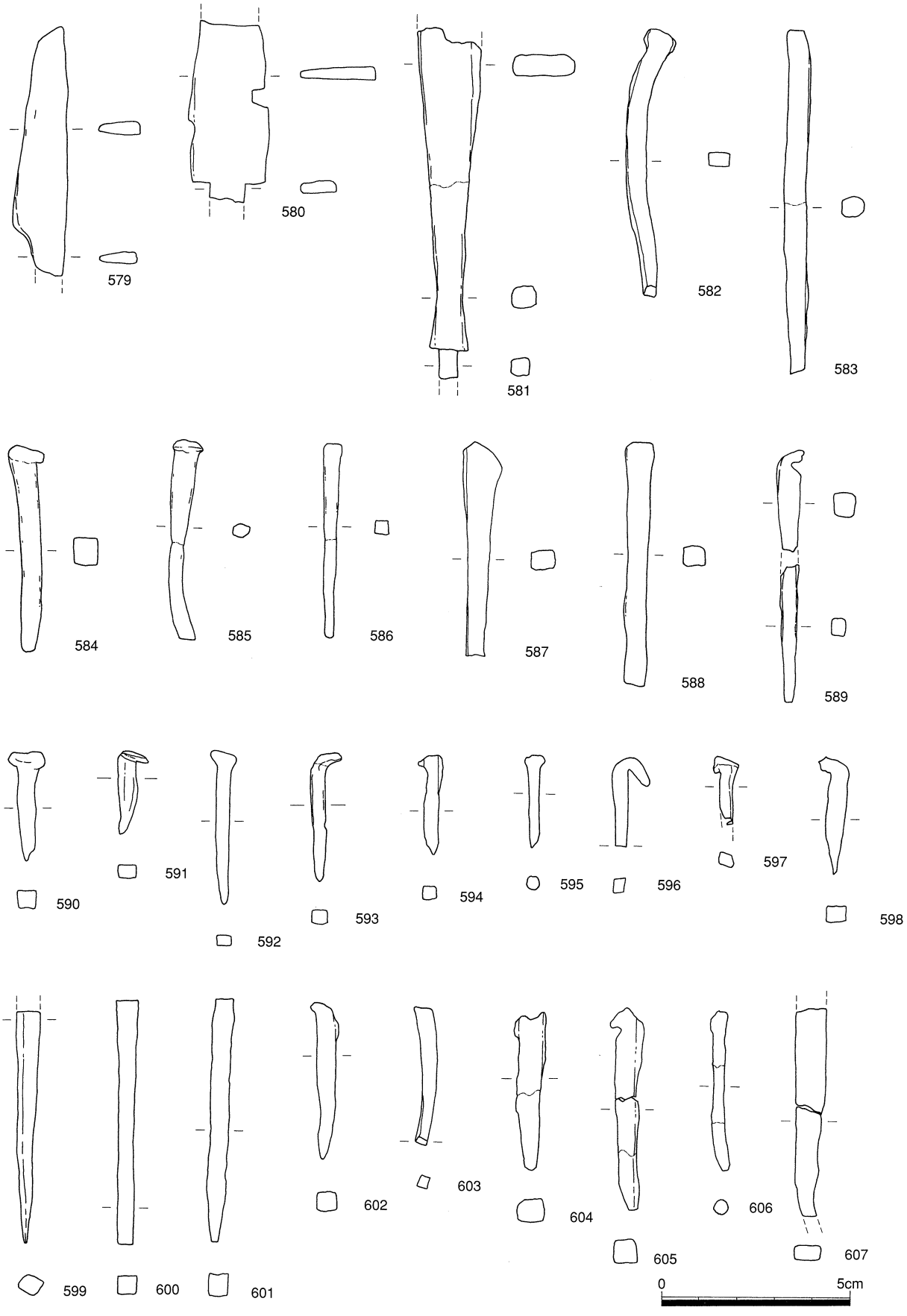
第89図　包含層出土遺物 7



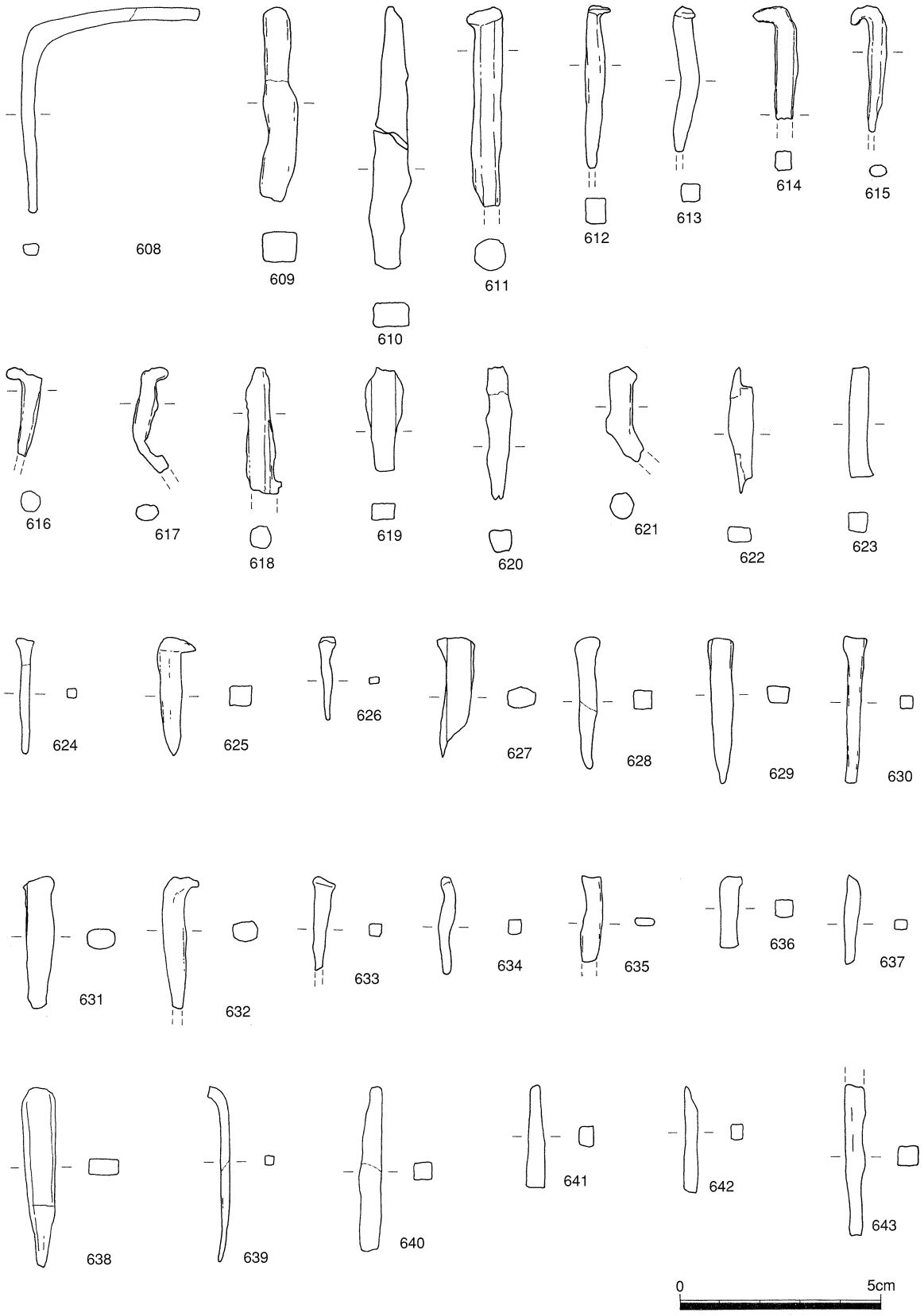
第90図　包含層出土遺物 8



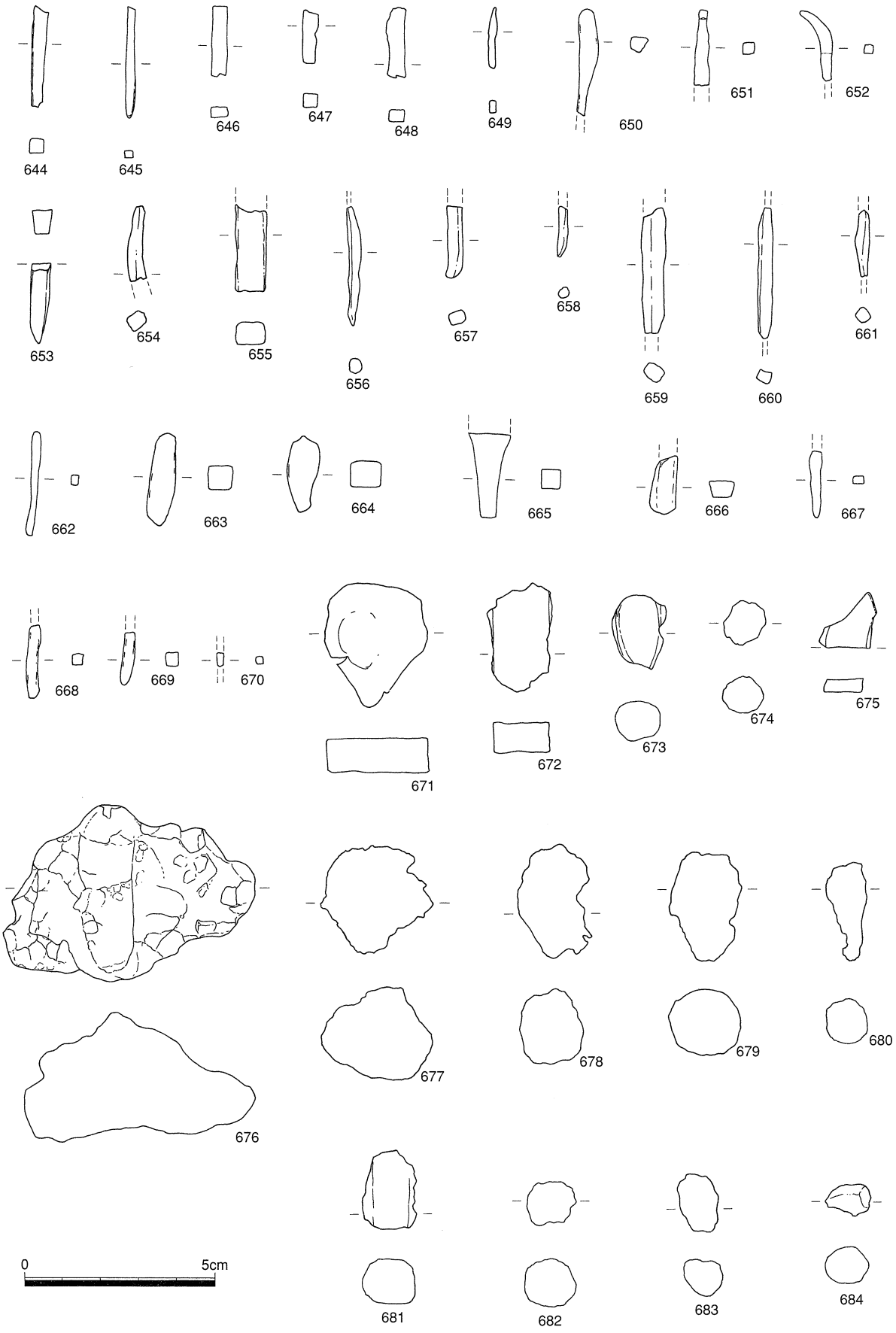
第91図　包含層出土遺物 9



第92図　包含層出土遺物10



第93図　包含層出土遺物11



第94図　包含層出土遺物12

（4）まとめ

調査地点は、浄土寺が所在していたとされる伝承や浄土寺という地名も残る場所ではあるが、文献資料等にはその記載はみられず、伽藍配置・規模はもとより所在地や存続時期等は一切不明であった。

調査の結果、12世紀後半～13世紀前半頃を中心として集落が展開していたことが確認された。本調査区内からは、3棟の掘立柱建物跡（SA1001～1003）が確認できた。この3棟はほぼ同時期に並存していたものと考えられる。このほか、SA1001の南側で東西に対を成すように出土した池状遺構（SX1007・1008）、また境等の区画機能を持つと思われる集石遺構（SU1008）などが確認された。

池状遺構としたSX1007・1008はSA1001の南側で東西に対を成すように出土しており、庭園を意識した配置と捉えることもできる。この遺構が伝承の浄土寺に関連するものと考えるならば、寺院内に造営された庭園であった可能性も残る。

SA1001の南側に東西に延びる集石遺構は、暗渠などの水利施設あるいは何らかの構造物の基礎と思われる。遺構の広がりは東側が密になっており、調査区外東側あるいは北側の阿讃山脈南麓の尾根方面に集落が展開している可能性がある。今回の調査では、寺の存在を直接的に示す遺構・遺物は確認できなかったが、遺構・遺物の出土状況から寺院あるいは寺院に関連する付帯施設、もしくは門前市のような集落であったことも考えられる。調査区内からは、鉄釘類などの製品の出土や鉄滓・羽口等の鍛冶・鋳造関連の遺物も出ており、近隣に生産遺構あるいは寺院の造営に関わった集団の存在も示唆される。

今回の調査では、これまで不明であった「浄土寺」の様相が窺えられるものと期待された。しかし、遺構の出土は希薄であったため、具体相を明らかにするには至らなかった。調査区南側の地点において区画目的と考えられる集石遺構が検出されたが、寺院に直接的に結びつく遺構や伽藍配置は不明である。しかしながら、白磁・青磁等の輸入磁器が一定量まとまってみられることから、一般的な集落とは異なる施設・集落が展開していた可能性が示唆されるが、寺院の存在の積極的な裏付けを欠く。

また調査区北東部からは若干の弥生土器が出土した。時期的には弥生時代後期前半頃と思われ、調査区の北側あるいは東側に集落が展開する可能性がある。

浄土寺遺跡
第1表　出土遺構一覧表

SA1001

遺構名	グリッド	平面形態	断面形態	長軸（cm）	短軸（cm）	深度（cm）	備　考
SA1001	L～N-4～6	四角形状		920	840	平均深度 26	
EP-1	N-6	円形	U字状	30	30	30	
EP-2	N-6	円形	四角形状	30	28	20	
EP-3	N-5	楕円形状	四角形状	48	42	18	
EP-4	N-5	楕円形状	浅いD字状	59	45	15	
EP-5	N-5	円形	U字状	30		30	
EP-6	N-4·5	円形	D字状	34	32	20	
EP-7	N-6	円形	D字状	35	34	24	
EP-8	N-6	円形	浅いD字状	44	42	15	
EP-9	N-5	円形	D字状	46	42	26	
EP-10	N-5	楕円形状	D字状	43	39	22	
EP-11	N-4	楕円形状	U字状	53	36	35	
EP-12	M-6	円形	D字状	45	40	30	
EP-13	M-6	円形	U字状	40	38	38	
EP-14	M-5	円形	逆台形	46	43	26	
EP-15	M-5	楕円形状	四角形状	42	36	30	
EP-16	N-4	楕円形状	D字状	38	30	24	
EP-17	M-6	円形	U字状	38	36	28	
EP-18	M-5·6	円形	不整形	44	42	35	
EP-19	M-5	円形	D字状	36	35	28	
EP-20	M-5	円形	四角形状	42	42	29	
EP-21	M-4	楕円形状	D字状	38	32	30	
EP-22	L-6	円形	D字状	32	32	14	
EP-23	L-5	楕円形状	浅いD字状	37	28	13	
EP-24	L·M-5	楕円形状	D字状	45	42	16	
EP-25	M-4	円形	D字状	36	34	29	
EP-26	M-4	円形	U字状	36	34	42	

SA1002

遺構名	グリッド	平面形態	断面形態	長軸（cm）	短軸（cm）	深度（cm）	備　考
SA1002	Q·R-5～7	四角形状		680	570	平均深度 22.3	
EP-1	R-5	楕円形状	U字状	52	36	26	
EP-2	R-6	楕円形状	不整形	56	45	26	
EP-3	R-6	円形	逆台形状	42	38	31	
EP-4	R-7	円形	D字状	38	36	22	
EP-5	R-6	楕円形状	不整形	40	30	24	
EP-6	R-6	円形	D字状	34	32	27	
EP-7	R-7	円形	不整形	35	32	13	
EP-8	R-5	円形	逆台形状	40	35	22	
EP-9	R-6	円形	U字状	32	30	31	
EP-10	R-6	円形	D字状	34	32	20	
EP-11	R-7	円形	D字状	44	40	28	
EP-12	Q-6	楕円形状	D字状	36	30	18	
EP-13	Q-6	円形	不整形	28	28	22	
EP-14	Q-7	円形	D字状	28	28	16	

SA1003

遺構名	グリッド	平面形態	断面形態	長軸（cm）	短軸（cm）	深度（cm）	備　考
SA1003	P·Q-6～8	四角形状		550	530	平均深度 27.7	
EP-1	Q-7	楕円形状	U字状	48	36	44	
EP-2	Q-7	円形	四角形状	38	32	27	
EP-3	Q-8	円形	D字状	48	38	20	
EP-4	Q-7	楕円形状	逆台形状	52	40	19	
EP-5	Q-7	円形	D字状	40	38	33	
EP-6	P·Q-7	円形	四角形状	36	28	30	
EP-7	P-6	円形	逆台形状	32	30	15	
EP-8	P-7	楕円形状	U字状	44	34	36	
EP-9	P-7	円形	U字状	46	44	38	
EP-10	P-6	楕円形状	逆台形状	63	46	22	
EP-11	P-7	円形	不整形	44	38	30	
EP-12	P-7	円形	D字状	36	33	24	

SD

遺構名	グリッド	平面形態	断面形態	長軸（cm）	短軸（cm）	深度（cm）	備　考
SD1001	L-7	不整楕円形	D字状	270	138	42	
SD1002 A-B	M-4	細長い溝状	浅いD字状	850	44	6	
SD1002 C-D	L・M-4	細長い溝状	逆台形状		56	10	
SD1002 E-F	L-4	不整楕円形	D字状		146	13	
SD1002 G-H	K-4・5	不整楕円形	D字状		210	16	
SD1002 I-J	K-4・5	細長い溝状	浅いD字状		226	11	
SD1002 K-L	J-3・4	細長い溝状	浅いD字状		142	7	
SD1002 M-N	J-3・4	細長い溝状	浅いD字状		133	11	
SD1002 O-P	I-3・4	細長い溝状	浅いD字状		73	8	
SD1002 Q-R	H-3・4	細長い溝状	浅いD字状		160	11	

SK

遺構名	グリッド	平面形態	断面形態	長軸（cm）	短軸（cm）	深度（cm）	備　考
SK1001	T-8	楕円形状	浅いD字状	100	60	19	
SK1002	Q-8	長楕円形状	浅いD字状	130	45	23	
SK1003	O・P-7	方形状	四角形状	110	80	25	
SK1004	O-7	不整形な四角形状	四角形状	136	74	31	
SK1005	O-7	隅丸長方形状	逆台形状	106	60	25	
SK1006	O-7	隅丸方形状	逆台形状	64	55	32	
SK1007	O-8	円形	D字状	116	105	56	
SK1008	N・O-7	長方形状	浅いD字状	226	124	18	
SK1009	N-8	不整形な隅丸方形状	D字状	66	66	26	
SK1010	M-7	長楕円形状	不整形	86	56	32	
SK1011	N-6	長楕円形状	D字状	104	56	34	
SK1012	N-4	不整形な楕円形状	不整形	158	76	38	
SK1013	K-5	楕円形状	D字状	105	75	50	
SK1014	S-7	四角形状	四角形状	104	64	24	一部削平。弥生。
SK1015	S-9	楕円形状	逆台形状	64	42	14	弥生。
SK1016	T-8	楕円形状	不整形	94	52	20	弥生。
SK1017	T-7	楕円形状	四角形状	96	74	28	弥生。
SK1018	S-7	楕円形状	逆台形状	73	57	24	弥生。
SK1019	S-7	楕円形状	逆台形状	74	58	16	弥生。

SP

遺構名	グリッド	平面形態	断面形態	長軸（cm）	短軸（cm）	深度（cm）	備　考
SP1001	V-10	半円形状	D字状	30		16	
SP1002	V-10	半円形状	逆台形状	25		16	
SP1003	U-6	円形	逆台形状	36		26	
SP1004	U-6	円形	U字状	34		28	
SP1005	U-6	円形	逆台形状	40		24	
SP1006	U-6	円形	逆台形状	36		21	
SP1007	U-9	円形	逆台形状	36		19	
SP1008	U-9	円形	U字状	12		20	
SP1009	U-9	円形	四角形状	34		11	
SP1010	U-9	円形	D字状	29		21	
SP1011	T-9	円形	逆台形状	30		21	
SP1012	T-9	円形	不整形	30		13	
SP1013	T-9	楕円形状	D字状	30		24	
SP1014	T-8	楕円形状	逆台形状	36		18	
SP1015	S-8	円形	逆台形状	30		18	
SP1016	S-9	円形	逆台形状	43		39	
SP1017	S-8	円形	U字状	35		31	
SP1018	S-8	円形	逆台形状	35		14	
SP1019	S-8	円形	逆台形状	30		13	
SP1020	S-7	円形	D字状	36		26	
SP1021	R-9	円形	D字状	30		26	

遺構名	グリッド	平面形態	断面形態	長軸（cm）	短軸（cm）	深度（cm）	備　考
SP1022	R-9	円形	D字状	37		26	
SP1023	R-9	円形	D字状	30		18	
SP1024	R-9	円形	D字状	22		15	
SP1025	R-9	円形	D字状	24		22	
SP1026	R-9	円形	D字状	42		26	
SP1027	Q-9	円形	D字状	36		20	
SP1028	Q-9	円形	D字状	30		21	
SP1029	Q-9	円形	D字状	44		25	
SP1030	R-9	円形	U字状	30		30	
SP1031	R-7	円形	D字状	28		20	
SP1032	R-7	円形	U字状	24		26	
SP1033	Q-8	円形	U字状	40		46	
SP1034	Q-8	円形	D字状	37		17	
SP1035	Q-8	円形	D字状	35		18	
SP1036	Q-8	円形	D字状	36		14	
SP1037	Q-9	円形	逆台形状	40		18	
SP1038	Q-8·9	円形	D字状	30		21	
SP1039	Q-8	円形	U字状	26		27	
SP1041	R-7	楕円形状	D字状	42		16	
SP1047	R-6	円形	D字状	30	16	18	
SP1056							欠番。
SP1057							欠番。
SP1058							欠番。
SP1059							欠番。
SP1060							欠番。
SP1061	Q-7	円形	D字状	36		19	
SP1062	Q-6	円形	D字状	28		21	
SP1063	R-7	円形	逆台形状	40		18	
SP1064	R-6	円形	D字状	36		24	
SP1065	R-6	円形	D字状	36		25	
SP1066	R-5	円形	浅いD字状	53		10	
SP1067	R-6	楕円形状	不整形	36		14	
SP1068	Q-6	円形	D字状	28		21	
SP1069	Q-6	円形	逆台形状	34		12	
SP1070	Q-6	楕円形状	不整形	30		20	
SP1071	Q-6	円形	逆台形状	34		24	
SP1072	Q-6	円形	逆台形状	32		6	
SP1073	Q-6	円形	逆台形状	35		8	
SP1074	Q-6	円形	浅いD字状	32		7	
SP1075	Q-6	円形	U字状	25		24	
SP1077	Q-9	半円形状	D字状	38		28	トレンチに切られる。
SP1078	Q-9	円形	D字状	35		23	
SP1079	Q-9	楕円形状	不整形	38	25	39	
SP1080	Q-8	円形	D字状	35		28	
SP1081	Q-8·9	楕円形状	D字状	35		28	
SP1082	Q-9	円形	D字状	32		25	
SP1083	Q-9	半円形状	四角形状	40			側溝に切られる。
SP1084	Q-9	楕円形状	逆台形状	32		26	
SP1085	Q-9	円形	D字状	26		24	
SP1086	Q-6	円形	浅いD字状	24		12	
SP1089	Q-7	円形	D字状	32	30	20	
SP1090	Q-7	円形	四角形状	32		21	
SP1091	Q-7	ほぼ円形	D字状	42	35	28	
SP1092	Q-7	ほぼ円形	逆台形状	38	35	30	
SP1093	Q-6	楕円形状	四角形状	50		22	
SP1094	Q-6	円形	D字状	34		32	
SP1095	Q-6	円形	D字状	38		24	
SP1097	Q-7	円形	D字状	35		26	
SP1098	Q-7	不整楕円形状	逆台形状	58	42	33	
SP1100	Q-7	円形	D字状	30	30	23	
SP1101	Q-7	円形	不整形	30		26	
SP1102	P-7	円形	U字状	29		34	
SP1103	P-6·7	楕円形状	逆台形状	60	32	18	
SP1104	Q-8	円形	不整形	56		36	
SP1105	Q-8	楕円形状	不整形	25		26	
SP1106	P·Q-7	円形	浅いD字状	40		6	
SP1107	P-9	半円形状	D字状	28		28	

遺構名	グリッド	平面形態	断面形態	長軸（cm）	短軸（cm）	深度（cm）	備　考
SP1108	P-9	円形	D字状	24		16	
SP1109	P-9	円形	四角形状	34		20	
SP1110	P-9	円形	U字状	22		30	
SP1111	P-9	円形	D字状	26		18	
SP1112	P-8	円形	D字状	18		16	
SP1113	P-8	円形	D字状	20		17	
SP1114	P-8	円形	U字状	16		22	
SP1115							欠番。
SP1116	P-8	円形	D字状	30		28	
SP1117	P-8	円形	D字状	28		17	
SP1118	P-8	円形	D字状	30		30	
SP1119	P-8	円形	U字状	24		27	
SP1120	P-9	円形	不整形	42		36	
SP1121	P-9	楕円形状	D字状	40		33	
SP1122	P-8	円形	浅いD字状	31		14	
SP1123	P-8	円形	D字状	30		23	
SP1124	P-8	円形	逆台形状	26		21	
SP1125	P-8	円形	U字状	28		44	
SP1126	P-8	円形	D字状	30		20	
SP1127	P-8	円形	D字状	30		30	
SP1128	P-8	円形	U字状	33		32	
SP1129	P-8	円形	U字状	30		34	
SP1130	P-8	円形	U字状	25		37	
SP1131	P-8	円形	U字状	20		38	
SP1132	P-8	円形	D字状	32		32	
SP1133	P-8･9	円形	D字状	34		24	
SP1134	P-8	円形	逆台形状	30		34	
SP1135	P-8	円形	浅いD字状	30		12	
SP1136	P-8	円形	四角形状	30		24	
SP1137	P-8	円形	D字状	30		26	
SP1138	O-8	円形	D字状	30		22	
SP1139	O-8	円形	不整形	34		32	
SP1140	O-8	円形	D字状	40		40	
SP1141	O-8	円形	逆台形状	28		20	SP1140に切られる。
SP1142	O-8	円形	D字状	30		28	
SP1143	O-8	円形	D字状	29		18	
SP1144	O-8	円形	D字状	36		26	
SP1145	O-8	円形	四角形状	24		21	
SP1146	O-8	円形	浅いD字状	31		14	
SP1147	O-8	楕円形状	不整形	40		33	
SP1148	O-8	円形	四角形状	26		34	
SP1149	O-8	円形	逆台形状	40		19	
SP1150	P-8	円形	D字状	36		18	
SP1151	P-7	円形	逆台形状	30	28	26	
SP1153	Q-7	楕円形状	不整形	34		28	
SP1154	P-7	円形	D字状	24		16	
SP1155	P-7	円形	D字状	20		14	
SP1157	P-7	円形	四角形状	32		31	
SP1159	P-7	円形	不整形	26		18	
SP1160	P-6	円形	浅いD字状	30		11	
SP1161	P-6	円形	不整形	20		12	
SP1162	P-6	円形	不整形	26		15	
SP1163	P･Q-6	円形	四角形状	40		36	
SP1164	P-6	円形	D字状	28		16	
SP1165	P-7	楕円形状	D字状	40	32	26	
SP1167	P-7	円形	D字状	35		26	
SP1168	P-7	楕円形状	U字状	40	32	34	
SP1169	P-7	円形	D字状	36		32	
SP1170	O-7	円形	浅いD字状	50		15	
SP1171	P-7	円形	不整形	40		26	
SP1172	O-7	円形	U字状	32		38	
SP1174	P-7	楕円形状	不整形	52		40	
SP1175	P-7	円形	U字状	25		33	
SP1176	P-7	円形	D字状	30		24	
SP1177	P-7	円形	四角形状	25		30	
SP1178	P-6･7	円形	D字状	30		20	
SP1179	P-6･7	円形	U字状	28		30	

遺構名	グリッド	平面形態	断面形態	長軸（cm）	短軸（cm）	深度（cm）	備　考
SP1180	P-6･7	円形	U 字状	30		38	
SP1181	P-6	円形	U 字状	32		32	
SP1182	P-7	円形	U 字状	46		46	
SP1183	P-6	円形	逆台形状	27		22	
SP1184	O-6	円形	U 字状	26		38	
SP1185	P-6	円形	浅い D 字状	50		18	
SP1186	L-4	楕円形状	逆台形状	48		24	
SP1187	L-5	円形	D 字状	40		24	
SP1188							欠番。
SP1189	P-6	円形	D 字状	31		18	
SP1190	P-6	円形	D 字状	28		25	
SP1191	P-6	隅丸長方形状	不整形	58		24	
SP1192	P-6	円形	浅い D 字状	32		12	
SP1193	P-6	円形	D 字状	30		23	
SP1194	P-6	楕円形状	U 字状	45		53	
SP1195	P-5	円形	逆台形状	34		36	
SP1196	O-6	円形	D 字状	30		32	
SP1197	O-6	円形	不整形	28		20	
SP1198	O-6	円形	D 字状	35		22	
SP1199	O-5	円形	不整形	33		20	
SP1200	O-5	円形	四角形状	32		10	
SP1201	O-6	楕円形状	D 字状	43		30	
SP1202	O-6	楕円形状	D 字状	31		22	
SP1203	O-7	楕円形状	D 字状	40	32	26	
SP1204	O-7	楕円形状	D 字状	42		14	
SP1205	O-7	円形	D 字状	30		12	
SP1206	O-7	楕円形状	D 字状	58	37	34	
SP1207	O-7	円形	不整形	33		24	
SP1208	O-7	円形	U 字状	32		38	
SP1209	O-7	円形	D 字状	34		13	
SP1210	N-7	円形	D 字状	37		27	
SP1211	O-6	円形	不整形	34		24	
SP1212	O-6	円形	D 字状	33		20	
SP1213	O-6	隅丸方形状	四角形状	28		9	
SP1214	O-6	楕円形状	逆台形状	32		14	
SP1215	O-6	円形	逆台形状	34		15	
SP1216	N-6	楕円形状	浅い D 字状	46		14	
SP1217	N-6･7	楕円形状	逆台形状	40		27	
SP1218	N-7	円形	U 字状	32		30	
SP1219	N･O-8	円形	逆台形状	30		30	
SP1220	N･O-8	円形	逆台形状	30		34	
SP1221	N-8	円形	D 字状	26		16	
SP1222	N-8	円形	D 字状	50		25	
SP1223	N-7	円形	U 字状	26		32	
SP1224	N-8	円形	D 字状	48		22	
SP1225	M-8	円形	浅い D 字状	30		12	
SP1226	M-8	楕円形状	D 字状	40		26	
SP1227	M-7	楕円形状	不整形	28		16	
SP1228	M-7	円形	不整形	26		13	
SP1229	M-7	円形	不整形	40		20	
SP1230	M-7	円形	D 字状	28		20	
SP1231	M-7	円形	D 字状	28		14	
SP1232	M･L-7	円形	D 字状	50		25	
SP1233	O-6	楕円形状	不整形	40	30	35	
SP1234	M-7	円形	不整形	45		36	
SP1235	L-7	楕円形状	不整形	38		38	
SP1236	N-7	楕円形状	逆台形状	42		32	
SP1237	N-6	円形	浅い D 字状	30		10	
SP1238	N-7	楕円形状	不整形	52		24	
SP1239	N-6	楕円形状	浅い D 字状	30		8	
SP1240	N-6	楕円形状	不整形	34		9	
SP1241	N-6	楕円形状	D 字状	38	36	26	
SP1242	N-5	円形	不整形	30		20	
SP1243	N-5	円形	U 字状	26		30	
SP1244	N-5	円形	D 字状	35		21	
SP1245	N-4	円形	D 字状	40		26	
SP1246	N-5	円形	四角形状	34		24	

遺構名	グリッド	平面形態	断面形態	長軸（cm）	短軸（cm）	深度（cm）	備　考
SP1247	N-5	円形	U字状	30		38	
SP1248	M-5	円形	D字状	28		28	
SP1249	M-6	円形	D字状	28		15	
SP1250	M-6	円形	D字状	20		30	
SP1251	M-6	円形	D字状	34		20	
SP1252	M-5	ほぼ円形	不整形	38	32	36	
SP1253	M-6	円形	不整形	33		25	
SP1254	M-6	円形	浅いD字状	38		14	
SP1255	M-6	円形	D字状	31		28	
SP1256	N-4	円形	U字状	38		40	
SP1257	N-4	円形	U字状	24		35	
SP1258	N-4	円形	U字状	30		52	
SP1259	N-4	楕円形状	D字状	55		36	
SP1260	M-4	楕円形状	D字状	48		28	
SP1261	M-4	不整楕円形状	逆台形状	63		33	
SP1262	M-4	円形	U字状	25	22	25	
SP1263	M-4	円形	不整形	35		19	
SP1264	M-4	円形	逆台形状	36		23	
SP1265							欠番。
SP1266							欠番。
SP1267	L-5	楕円形状	浅いD字状	46		16	
SP1268	L-6	円形	D字状	28		16	
SP1269	L-5	円形	D字状	42		20	
SP1270							欠番。
SP1271	K-5	円形	不整形	36		18	
SP1272							欠番。
SP1273	M-4	円形	逆台形状	56		18	
SP1274	I-3	楕円形状	浅いD字状	78		12	
SP1275	I-3	円形	D字状	40		27	
SP1276	J-4	円形	逆台形状	53		18	
SP1277	J-4	円形	D字状	44		22	
SP1278	I-4	楕円形状	D字状	43		28	
SP1279	I-4	円形	D字状	23		20	
SP1280	I-4	円形	浅いD字状	40		16	
SP1281	H-6	楕円形状	浅いD字状	39		13	
SP1282	H-6	円形	逆台形状	51		27	

SU

遺構名	グリッド	平面形態	断面形態	長軸（cm）	短軸（cm）	深度（cm）	備　考
SU1001							欠番。
SU1002	S-6･7	長楕円形状	浅いD字状	410	124	20	
SU1003	R-7	不整楕円形状	浅いD字状	188	86	19	
SU1004	Q-7	楕円形状	浅いD字状	116	82	6	
SU1005							欠番。
SU1006							欠番。
SU1007	P-7	楕円形状	浅いD字状	82	60	4	
SU1008	I･J-2～6	長楕円形状	逆台形状	182	120		

SO

遺構名	グリッド	平面形態	断面形態	長軸（cm）	短軸（cm）	深度（cm）	備　考
SO1001	Q･R-7･8	長楕円形状	逆台形状	520	187	22	

SX

遺構名	グリッド	平面形態	断面形態	長軸（m）	短軸（m）	深度（cm）	備　考
SX1001	S-8	不整楕円形状	D字状	2.68	2.28	30	
SX1002	R･S-7	楕円形状	D字状	1.92	1.72	20	
SX1003	R-8	不整形な楕円形状	D字状	2.8	2.4	42	
SX1004	Q･R-7･8	隅丸長方形状	逆台形状	4.88	1.74	26	
SX1005	M･N-6	長方形状	D字状	4.6	1.38	100	
SX1006	O-4	不整形な長方形状	テラス状	3.1	1.64	76	
SX1007	J～L-6･7	隅丸方形状	逆台形状	10.0	6.0	50	
SX1008	K～M-3･4	隅丸方形状	逆台形状	9.0	6.0	58	

第２表　出土遺物観察表
弥生土器

報告書掲載番号	遺　構	出土地点	層　位	器　種	残存率	口　径（cm）	体　部最大径（cm）	底　径（cm）	頸部（脚柱）径（cm）	器高・残存高（cm）	その他の法量（cm）	部位	形　態	調　整	含有物組　成	色　調	備　考
1	SK1014	S-7	覆土	弥生土器甕	口縁部1/2と底部完形	15.5	16.8	1.7	12.8	22.0		口縁～底部	尖り気味の底部で僅かに平底をとどめる。体部内彎しながら立ち上がり、口縁部でくの字に外反し端部を丸く収める。	外面：タタキ(2条/cm)のちハケ(12条/cm)。内面：口縁部ハケ(12条/cm)のちユビオサエのちナデ。体底部ハケ(12条/cm)のちユビオサエ。	石英・雲母・結晶片岩・赤色斑粒	外面：にぶい黄橙内面：にぶい黄橙	焼成良好。外面底部に煤付着。接合痕有り。
2	SK1014	S-7	覆土	弥生土器甕	ほぼ完形	14.7		4.4	12.6	26.0		口縁～底部	やや丸底。体部緩やかに内彎しながら立ち上がり、口縁部でくの字に外反し端部を四角く収める。	外面：口縁部～体上部タタキ(2条/cm)。体下部タタキ(2条/cm)のちハケ(13条/1.5cm)。内面：口縁部ハケ(9条/cm)。体部ケズリのちナデ。	長石・雲母・赤色斑粒	外面：にぶい橙内面：にぶい橙	焼成良好。外面に黒斑有り。
3	SK1014	S-7	覆土	弥生土器甕	全体1/3	11.8	12.5		10.4	8.0		口縁～体部	体部内彎しながら立ち上がり、口縁部で短く外反し、端部を尖り気味に収める。	外面：口縁部ナデ。体部タタキ（２条/cm)。内面：口縁部ナデ。体部ヘラケズリ(幅1.2cm以上）のちナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙内面：橙	
4	SK1014	S-7	覆土	弥生土器甕	体部1/4		17.2			15.4		体部	体部内彎しながら立ち上がる。	外面：タタキ(4条/cm)のちナデ。内面：ケズリ(幅1.4cm以上)。	石英・赤色斑粒	外面：橙内面：明黄褐	焼成良好。
5	SK1014	S-7	覆土	弥生土器甕	全体1/4		19.9	5.0		14.8		体部～底部	平底。体部下位から体部最大径に向かって緩やかに内彎しながら立ち上がる。	外面：ミガキ。内面：ケズリのちユビオサエのちナデ。	石英・長石	外面：明褐内面：明褐	焼成やや不良。内面、底部に黒斑有り。
6	SK1014	S-7	覆土	弥生土器鉢	全体9/10	20.8	21.6	2.5		8.4		口縁～底部	丸底。体部内彎気味に立ち上がり、口縁端部で内側に拡張する。	外面：タタキ（3条/cm)。内面：ハケ（９条/cm)。	石英・赤色斑粒	外面：橙内面：橙	焼成良好。
7	SK1014	S-7	覆土	弥生土器鉢	ほぼ完形	22.2	23.2	2.4		7.0		口縁～底部	丸底。体部内彎気味に立ち上がり、口縁端部肥厚して、内側に拡張する。	外面：口縁部ハケ（７条/cm)。底部ナデ。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙内面：明黄褐	焼成やや不良。
8		東側側溝	包含層	弥生土器壺	頸部1/6				15.8	7.4		頸部～体部	体部内彎気味に立ち上がり、頸部でやや直立する。	外面：頸部ナデ。体部ハケ（８条/cm)。内面：頸部ハケ（７条/cm)。体部ナデ。強いユビナデ。	長石・雲母・赤色斑粒	外面：橙内面：橙	接合痕有り。
9		S-7･R-8	包含層	弥生土器甕	体部1/4	16.0	28.2		15.0	12.0		口縁～体部	体部内彎しながら立ち上がる。口縁部で外反し、端部を四角く収め、僅かに下方につまみ出す。	外面：口縁部ユビオサエのちハケ(12条/cm)。体部タタキ（４条/cm)。内面：口縁部ナデ。体部ハケ（12条/cm)。	石英・雲母・結晶片岩	外面：にぶい橙内面：にぶい橙	外面に黒斑有り。接合痕有り。
10		S-7	包含層	弥生土器甕	全体1/9	16.8		4.6	14.2	33.5		口縁～底部	平底。体部外上方へ延びる。体部中位に最大径を持つ。口縁部で大きく外反し、端部を上方につまみ出し、方形状に収める。	外面：口縁部ナデ。頸部ナデ。ハケ(16条/1.4cm以上)。体部ナデ。摩滅のため調整不明。底部ハケ（５条/cm)。内面：口縁部ナデ。体部上部ナデ。体部下部ケズリ(幅1.2cm以上)。	石英・雲母	外面：明赤褐内面：明褐	焼成不良。外底面に煤付着。
11		P-8	客土	弥生土器甕	口縁部1/7	19.8			17.6	2.1		口縁部	頸部は直立する。口縁部は短く外反し、端部を肥厚し四角く収める。	外面：ナデ。内面：ナデ。	石英・雲母・結晶片岩・赤色斑粒	外面：浅黄橙内面：橙	焼成良好。外面に黒斑有り。接合痕有り。
12		S-7	包含層	弥生土器甕	全体1/10以下	15.5			13.2	5.7		口縁～体部	体部内彎しながら立ち上がる。口縁部で外反し、端部を四角く収め、僅かに上につまみ上げる。	外面：口縁部ヨコナデ。体部タタキ（３条/cm)のちナデ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ハケ(10条/1.6cm)。	石英・長石	外面：明赤褐内面：明赤褐	
13		R-7	包含層	弥生土器甕	頸部1/8				12.8	2.9		頸部～体部	体部内傾して立ち上がり、口縁部で外反する。	外面：ナデ。ハケ(8条/cm)。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：にぶい褐内面：にぶい赤褐	
14		S-7	包含層	弥生土器甕	体部1/6		19.0			15.0		体部	体部内彎しながら立ち上がる。	外面：摩滅が著しいため調整不明瞭。ナデ。内面：摩滅が著しいため調整不明瞭。ケズリ。ユビオサエ。	石英・雲母・結晶片岩・赤色斑粒	外面：橙内面：黄橙	
15		R-7	包含層	弥生土器甕	体部1/3		29.0			15.0		体部	体部内彎しながら立ち上がる。	外面：タタキ（３条/cm)のちハケ（９条/cm)。全体的に摩滅気味。内面：ケズリのちナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙内面：灰黄褐	
16		R-6	客土	弥生土器甕	底部1/1			2.1		7.1		体部～底部	小さな平底。体部内彎しながら立ち上がる。	外面：タタキ(４条/cm)のちナデ。底部ナデ。内面：ケズリ（幅1.1cm以上)。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：にぶい黄褐内面：にぶい黄褐	
17		R-8	包含層	弥生土器甕	底部2/3			3.0		5.3		体下部～底部	小さな平底。体部外上方へ延びる。	外面：体部タタキ(３条/cm)のちナデ。底部ナデ。内面：ケズリのちナデ。ユビオサエ。	長石・雲母	外面：にぶい橙内面：橙	焼成良好。外面に黒斑有り。
18			包含層	弥生土器高杯脚部	不明					3.6		脚柱部	体部斜め外上方に延びる。脚部外下方へ延びる。	外面：ユビオサエのちナデ。内面：ユビオサエのちナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙内面：橙	焼成良好。
19	No27トレンチ		包含層	弥生土器高杯脚部	不明					4.2		脚柱部	脚部外下方に延びる。	外面：ナデのちユビオサエ。内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：にぶい橙内面：にぶい橙	焼成やや不良。
20			包含層	弥生土器鉢	口縁部1/5	17.6				6.4		口縁～底部	丸底。体部内彎気味に立ち上がり、口縁端部を尖り気味に収める。	外面：ナデ。底部タタキのちナデ。内面：板ナデ。	石英・長石	外面：明褐、明赤褐内面：明赤褐	焼成やや不良。
21		M-8	包含層	弥生土器鉢	口縁部1/14	25.5				3.7		口縁部	体部外上方へ緩やかに内彎しながら立ち上がり、口縁端部を四角く収める。	外面：ナデ。内面：ナデ。	長石・雲母	外面：橙内面：黄灰	焼成不良。

SA（土器）

報告書掲載番号	遺　構	出土地点	層　位	器　種	残存率	口　径（cm）	体　部最大径（cm）	底　径（cm）	頸部（脚柱）径（cm）	器高・残存高（cm）	その他の法量（cm）	部位	形　態	調　整	含有物組　成	色　調	備　考
22	SA1001 EP-12	M-6	覆土	土師質土器杯	全体1/4	12.8		7.8		3.2		口縁～底部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・雲母・結晶片岩・赤色斑粒	外面：浅黄橙内面：にぶい黄橙	焼成良好。内面に黒斑有り。

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	器種	残存率	口径(cm)	体部最大径(cm)	底径(cm)	頸部(脚柱)径(cm)	器高・残存高(cm)	その他の法量(cm)	部位	形態	調整	含有物組成	色調	備考
23	SA1001			陶器 大谷焼 乗燭	全体 1/2	8.1		3.4		2.0		口縁～ 底部	底部やや上げ底。体部外上方に開き、端部をつまみ上げ、丸く収める。底部露胎。	外面：ナデのち施釉。底部回転糸切り。 内面：ナデのち施釉。	石英・雲母	釉：鉄釉グレイみのブラウン 胎：にぶい赤褐	焼成良好。全体に砂子をふった様に見られる。
24	SA1001			陶器 大谷焼 灯明皿	完形	8.1		4.0	脚部 4.0	3.6	高台高 2.1	口縁～ 底部	脚部断面方形に直立し、体部斜め上方へ開き端部をつまみ上げる。高台部下半より露胎。	外面：口縁部凹線1条。ナデのち施釉。底部回転糸切り。 内面：ナデのち施釉。	石英	釉：鉄釉くらいグレイみのブラウン 胎：にぶい赤褐	焼成良好。全体に砂子をふった様に見られる。
25	SA1001			陶器 大谷焼 灯明皿	ほぼ 完形	8.3		3.6	脚部 3.8	3.2	高台高 1.4	口縁～ 底部	脚部断面台形に開き、体部斜め上方へ開き端部をつまみ上げる。皿部下部より露胎。	外面：口縁部凹線1条。ナデのち施釉。底部回転糸切り。 内面：ナデのち施釉。	緻密	釉：鉄釉くらいグレイみのブラウン 胎：にぶい赤褐	焼成良好。全体に砂子をふった様に見られる。
26	SA1002	R-7	覆土	土師質 土器 皿	底部 1/4			9.6		0.8		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：にぶい橙 内面：にぶい橙	焼成良好。外面底部に黒斑有り。
27	SA1003	P-7	覆土	土師質 土器 杯	底部 1/4			10.2		1.3		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：にぶい橙 内面：にぶい橙	焼成やや不良。
28	SA1003	P-7	覆土	土師質 土器 小皿	底部 1/4	8.9		7.3		1.2		口縁～ 底部	体部外上方へ外反しながら短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。摩滅のため調整不明瞭。 内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
29	SA1003	P-7	覆土	土師質 土器 小皿	全体 1/2	8.1		6.4		1.3		口縁～ 底部	体部外上方へ短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：にぶい橙	焼成良好。
30	SA1003	P-7	覆土	土師質 土器 小皿	全体 1/5	7.4		5.8		1.7		口縁～ 底部	体部外上方へ内彎気味に開き、口縁端部を尖り気味に収める。体部と底部との境不明瞭。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：にぶい橙 内面：橙	焼成良好。
31	SA1003	Q-7	覆土	土師質 円盤状 高台小皿	完形	6.7		4.2		2.3		口縁～ 底部	平底。体部内彎しながら外上方へ開き、口縁端部を尖り気味に収める。	外面：ナデ。底部回転ヘラ切りのちナデ。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：浅黄橙 内面：浅黄橙	焼成良好。

SD（土器）

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	器種	残存率	口径(cm)	体部最大径(cm)	底径(cm)	頸部(脚柱)径(cm)	器高・残存高(cm)	その他の法量(cm)	部位	形態	調整	含有物組成	色調	備考
33	SD1002	L-4	覆土	弥生土器 甕	口縁部 1/37	21.2	22.1			2.5		口縁部	口縁部外反しながら開き、端部を方形状に収め、やや上下に拡張する。	外面：口縁部凹線2条。ナデのちユビオサエ。 内面：ナデ。	石英・雲母・結晶片岩・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
34	SD1002	J-3・4	覆土	平瓦	不明						縦 5.9 横 5.9 厚さ 3.5	不明		外面：ナデ。 内面：タタキ。単位不明。	石英・雲母・黒色斑粒	外面：灰 内面：灰	焼成良好。

SK（土器）

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	器種	残存率	口径(cm)	体部最大径(cm)	底径(cm)	頸部(脚柱)径(cm)	器高・残存高(cm)	その他の法量(cm)	部位	形態	調整	含有物組成	色調	備考
35	SK1001	S-8	覆土	土師質 土器 小皿	口縁部 1/6	7.2				1.7		口縁～ 体部	体部外上方に内彎しながら立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ヨコナデ。 内面：ヨコナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：黄橙 内面：黄橙	焼成良好。
36	SK1003	O・R-7	覆土	土師質 土器 小皿	全体 1/2	8.0		6.0		1.1		口縁～ 底部	体部外上方へ外反しながら短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・雲母・結晶片岩・赤色斑粒	外面：浅黄橙 内面：橙	焼成良好。
37	SK1004	O-7	覆土	土師質 土器 皿	底部 1/5			9.0		0.7		底部	体部斜め上方へ開く。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。接合痕有り。
38	SK1004	O-7	覆土	土師質 土器 小皿	口縁部 1/5	8.5				1.8		口縁～ 体部	体部外上方へ外反しながら立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
39	SK1004	O-7	覆土	土師質 土器 小皿	全体 1/4	7.0		4.2		1.5		口縁～ 底部	体部外上方へ外反しながら短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：にぶい黄橙 内面：にぶい黄橙	焼成良好。
40	SK1007	O-8	覆土	土師質 土器 杯	口縁部 1/11	11.9				2.1		口縁～ 体部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。 内面：ナデ。	長石・赤色斑粒	外面：浅黄橙 内面：浅黄橙 一部にぶい橙有り。	焼成やや不良。
41	SK1007 周辺	O-8	覆土	土師質 土器 杯	底部 1/8			6.2		1.8		底部	体部外上方に延びる。円盤状の高台を呈する。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	長石・雲母・赤色斑粒	外面：にぶい橙 内面：にぶい黄橙	焼成やや不良。
42	SK1007 周辺	O-8	覆土	土師質 土器 皿	底部 1/9			9.4		1.1		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：灰黄褐	焼成不良。
43	SK1007	O-8	覆土	土師質 土器 皿	底部 1/5			8.6		1.2		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
44	SK1007	O-8	覆土	土師質 土器 皿	全体 1/2			9.0		1.7		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：浅黄橙 内面：浅黄橙	焼成良好。
45	SK1007 周辺	O-8	覆土	白磁 壺	全体 1/10以下					2.4		体部	体部外上方へ内彎気味に立ち上がる。	外面：ロクロナデのち施釉。 内面：ロクロナデ。無釉。	黒色斑粒	釉：あかるいグレイ 胎：灰白	焼成良好。釉は薄目に施釉。
46	SK1007・ No 5 トレンチ	O-8	客土	陶器 常滑焼 甕	全体 9/10	43.2	72.2	12.5	40.5	68.7	最大口径 46.6	口縁～ 底部	底部平底。体部外上方に開き、体部上部に最大径を持つ。口縁はひねり返し端部を尖り気味に収める。	外面：ナデのちタタキ(格子状タタキ5段。19条/3.2×5.3cm)自然釉。 内面：ナデ。自然釉。	石英	外面：にぶい赤褐 内面：灰白	焼成良好。口縁から肩部にかけてオリーブグリーンの自然釉。
47	SK1007	O-8	覆土	丸瓦	不明						縦 6.7 横 7.0 厚さ 1.4	不明		外面：ナデ。 内面：ナデ。	長石・赤色斑粒	外面：灰黄 内面：灰黄	焼成不良。
48	SK1008	N・O-7	覆土	土師質 土器 皿	全体 6/10			9.4		2.5		体部～ 底部	体部外上方に直線的に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	器種	残存率	口径(cm)	体部最大径(cm)	底径(cm)	頸部(脚柱)径(cm)	器高・残存高(cm)	その他の法量(cm)	部位	形態	調整	含有物組成	色調	備考
49	SK1008	N・O-7	覆土	瓦器椀	全体1/20					3.1		体部	体部外上方へ内彎しながら延びる。	外面：ユビオサエ。内面：ミガキ。	石英	外面：黒褐内面：黒褐	焼成良好。
50	SK1013	K-5	覆土	青磁碗	口縁部1/20	14.9				0.8		口縁部	口縁部外反しながら開き、端部を丸く収める。	外面：ロクロナデのち施釉。内面：ロクロナデのち施釉。	緻密	釉：オリーブ胎：灰白	龍泉窯系。焼成良好。
51	SK1013	K-5	覆土	瓦器椀	全体1/4	14.5		4.2		4.2	高台高 0.2	口縁～底部	体部外上方へ緩やかに内彎しながら立ち上がり、口縁部で僅かに外反し、端部を丸く収める。	外面：口縁部ナデ。体部ユビオサエのちナデ。内面：摩滅のため調整不明。	石英・赤色斑粒	外面：黄橙内面：黄橙	焼成やや不良。被熱により変色(炭素燕発)。
52	SK1013	K-5	覆土	土師質土器杯	底部1/4			9.0		1.5		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙内面：橙	焼成良好。

SP（土器）

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	器種	残存率	口径(cm)	体部最大径(cm)	底径(cm)	頸部(脚柱)径(cm)	器高・残存高(cm)	その他の法量(cm)	部位	形態	調整	含有物組成	色調	備考
53	SP1033	Q-8	覆土	土師質土器小皿	全体1/3	8.6		6.6		1.4		口縁～底部	体部外上方へ外反しながら短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙内面：橙	焼成良好。
54	SP1034	Q-8	覆土	瓦器小皿	口縁部1/5	7.0		5.0		1.3		口縁～底部	体部外上方へ外反しながら短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。体部と底部との境不明瞭。	外面：ナデ。底部ユビオサエ。ナデ。内面：ナデ。	長石・雲母	外面：灰内面：灰	焼成やや不良。
55	SP1079	Q-9	覆土	土師質土器杯	底部1/7			7.6		1.5		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	長石・雲母	外面：にぶい黄橙内面：にぶい橙	焼成やや不良。
56	SP1091	Q-7	覆土	土師質土器椀	口縁部1/10以下	11.2				2.9		口縁～体部	体部外上方へ内彎気味に立ち上がり、口縁端部をやや尖り気味に収める。	外面：ナデ。内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒・黒色斑粒	外面：浅黄橙内面：浅黄橙	焼成良好。
57	SP1091	Q-7	覆土	鞴羽口	不明						縦 5.4 横 4.2 厚さ 2.9	不明			赤色斑粒・黒色斑粒	外面：浅黄橙内面：浅黄橙	焼成やや不良。被熱のため酸化及び還元して暗灰色に変色。
58	SP1091	Q-7	覆土	鞴羽口	不明						縦 4.2 横 3.7 厚さ 1.4	不明			赤色斑粒・黒色斑粒	外面：橙内面：にぶい黄褐	焼成やや不良。被熱のため酸化及び還元して暗灰色に変色。
59	SP1091	Q-7	覆土	鞴羽口	不明						縦 4.4 横 3.7 厚さ 2.5	不明			赤色斑粒・黒色斑粒	外面：橙内面：橙	焼成やや不良。被熱のため酸化及び還元して暗灰色に変色。
60	SP1091	Q-7	覆土	鞴羽口	不明						縦 4.2 横 3.2 厚さ 1.7	不明			赤色斑粒・黒色斑粒	外面：橙内面：淡橙	焼成やや不良。被熱のため酸化及び還元して暗灰色に変色。
61	SP1092	Q-7	覆土	土師質土器杯	底部1/5			8.4		1.5		底部	体部外上方に延びる。	外面：表面剥離のため調整不明瞭。ナデ。底部切り離し不明。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙内面：橙	焼成良好。
62	SP1092	Q-7	覆土	土師質土器小皿	底部1/5	7.7		6.0		1.1		口縁～底部	体部外上方へ短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：にぶい黄橙内面：橙	焼成やや不良。
63	SP1103	P-6・7	覆土	土師質土器皿	底部1/4			10.0		0.4		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・結晶片岩・赤色斑粒	外面：橙内面：橙	焼成やや不良。
64	SP1165	P-7	覆土	土師質土器小皿	全体1/4	8.4		6.2		1.4		口縁～底部	体部外上方へ短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・結晶片岩・赤色斑粒	外面：浅黄橙内面：橙	焼成良好。
66	SP1169	P-7	覆土	土師質土器鍋	口縁部1/18	27.4				1.7		口縁部	口縁部外反し、端部を方形状に収める。	外面：ヨコナデ。内面：ヨコナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：にぶい黄褐内面：にぶい黄褐	焼成良好。内、外面に黒斑有り。
67	SP1171	O-7	覆土	瓦器椀	口縁部1/12	14.9				2.9		口縁～体部	体部外上方へ緩やかに内彎しながら立ち上がり、口縁部で僅かに外反し、端部を丸く収める。	外面：ユビオサエのちナデ。内面：ミガキ(幅1mm)。	石英・雲母・黒色斑粒	外面：灰黄内面：灰黄	和泉系。焼成良好。
68	SP1171	O-7	覆土	土師質土器杯	底部1/3			5.8		0.8		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・雲母・結晶片岩・赤色斑粒	外面：橙内面：橙	焼成良好。
69	SP1172	O-7	覆土	土師質土器皿	口縁部1/10	14.0				2.7		口縁～体部	口縁部やや外反し、端部を丸く収める。	外面：ナデ。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙内面：橙	焼成良好。
70	SP1176	P-7	覆土	土師質土器杯	底部1/3			8.0		1.6		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙内面：橙	焼成良好。
72	SP1184	O-6	覆土	土師質土器杯	底部1/3			6.0		1.2		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：黄橙内面：黄橙	焼成良好。
73	SP1203	O-7	覆土	土師質土器皿	底部1/6			10.6		2.0		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙内面：橙	焼成良好。
76	SP1206	O-7	覆土	土師質土器小皿	口縁部1/10	9.8				2.4		口縁～体部	体部外上方へ直線的に開き、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙内面：にぶい橙	焼成良好。
77	SP1219	N-8	覆土	土師質土器皿	底部1/3			9.0		1.1		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：にぶい橙内面：橙	焼成良好。
78	SP1219	N-8	覆土	土師質土器小皿	全体1/2	8.3		6.6		1.6		口縁～底部	体部外上方へ緩やかに内彎しながら短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙内面：橙	焼成良好。
79	SP1220	N-8	覆土	青磁碗	口縁部1/14	14.8				2.2		口縁部	体部外上方に直線的に立ち上がる。口縁部で僅かに外反し端部を丸く収める。	外面：ロクロナデのち施釉。内面：ロクロナデのち施釉。	緻密	釉：グレイみの黄胎：灰白	焼成良好。龍泉窯系。
80	SP1220	N-8	覆土	土師質土器小皿	全体1/8	9.7		7.4		1.1		口縁～底部	体部外上方に緩やかに開き、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙内面：橙	焼成やや不良。
81	SP1222	N-8	覆土	土師質土器杯	口縁部1/12	14.6				2.0		口縁部	体部外上方に直線的に立ち上がる。口縁部でやや肥厚し端部を丸く収める。	外面：ナデ。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：淡黄内面：浅黄橙	焼成良好。

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	器種	残存率	口径(cm)	体部最大径(cm)	底径(cm)	頸部(脚柱)径(cm)	器高・残存高(cm)	その他の法量(cm)	部位	形態	調整	含有物組成	色調	備考
82	SP1233	O-6	覆土	鞴羽口	不明						外径φ=7.6 内径φ=2.5	不明		外面：ナデ。 内面：ナデ。	長石・赤色斑粒	外面：灰黄 内面：褐灰	焼成不良。黒色に溶融した滓が付着。
83	SP1241	N-6	覆土	土師質土器 杯	底部 1/4			6.8		0.9		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・結晶片岩	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
84	SP1252	M-5	覆土	土師質土器 杯	底部 1/5			6.0		0.9		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：浅黄橙	焼成良好。 接合痕有り。

SU（土器）

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	器種	残存率	口径(cm)	体部最大径(cm)	底径(cm)	頸部(脚柱)径(cm)	器高・残存高(cm)	その他の法量(cm)	部位	形態	調整	含有物組成	色調	備考
85	SU1002	S-6·7	覆土	須恵質土器 甕	口縁部 1/4	20.0			17.0	6.3		口縁～体部	口縁部屈曲して、やや外反して開き、口縁端部を方形状に収め、僅かに上下に拡張する。	外面：口縁部ナデ。体部タタキ(7条/2.1cm以上)。 内面：ナデ。剥離のため調整不明。	、 石英	外面：浅黄橙 内面：浅黄橙	東播系。焼成不良の為、白くなっている。
86	SU1003	R-7	覆土	土師質土器 皿	口縁部 1/6	15.5				2.8		口縁～体部	体部内彎気味に開き、口縁部で外反して、端部を丸く収める。	外面：ナデ。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：黄橙 内面：黄橙	焼成やや不良。
87	SU1004	東SX先行トレンチより	覆土	瓦器 椀	口縁部 1/17	14.0				1.7		口縁部	口縁部外上方へ開き、端部を丸く収める。	外面：ナデ。 内面：ナデ。	長石・雲母	外面：黄灰 内面：黄灰	焼成不良。
88	SU1004	Q-7	覆土	土師質土器 杯	口縁部 1/10	12.0				1.6		口縁部	口縁部僅かに外反し、端部を丸く収める。	外面：ナデ。 内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成やや不良。
89	SU1004	Q-7	覆土	土師質土器 杯	底部 1/5	5.8				1.2		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。板目。 内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：にぶい橙 内面：にぶい橙	焼成やや不良。
90	SU1004	Q-7	覆土	須恵質土器 こね鉢	全体 1/2	26.2		8.5		10.0		口縁～底部	体部外上方に直線的に立ち上がる。口縁端部の張り出しは小さく、やや上方へつまみ上げる。	外面：ナデ。 内面：ナデ。	石英・結晶片岩・	外面：黄灰 内面：黄灰	東播系。焼成良好。
91	SU1008	J-2·3·4·5 I-5·6	覆土	青磁 碗	底部 1/2			6.0		2.7	高台高 0.8	体部～底部	体部外上方へ内彎しながら延びる。削り出し高台で、削りは浅く、断面方形状に収める。高台内露胎。	外面：ロクロナデのち施釉。畳付けまで施釉。 内面：ロクロナデのち施釉。見込みに沈線有り。	長石	釉：グレイみの黄 胎：灰	龍泉窯系。焼成良好。
92	SU1008	J-2·3·4·5 I-5·6	覆土	瓦器 椀	全体 1/4	14.8		3.0		4.5	高台高 0.2	口縁～底部	体部外上方へ緩やかに内彎しながら立ち上がり、口縁部で僅かに外反し、端部を丸く収める。貼り付け高台でハの字に開き、断面三角形に収める。	外面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエのちナデ。底部ナデ。 内面：ミガキ。	石英	外面：灰白 内面：灰白	和泉系。焼成良好。
93	SU1008	J-2·3·4·5 I-5·6	覆土	瓦器 椀	全体 1/5	16.0				4.0		口縁～体部	体部やや内彎しながら立ち上がり、口縁端部をやや尖り気味に収める。	外面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエのちナデ。 内面：ヘラミガキ。	石英・黒色斑粒	外面：灰白 内面：灰白	和泉系。焼成良好。
94	SU1008	J-2·3·4·5 I-5·6	覆土	瓦器 椀	口縁部 1/14	14.2				1.5		口縁部	体部外上方に直線的に立ち上がる。口縁部で僅かに外反し端部を丸く収める。	外面：ナデ。 内面：ナデ。	長石	外面：灰白 内面：灰白	和泉系 焼成やや不良。
95	SU1008	J-2·3·4·5 I-5·6	覆土	土師質土器 杯	底部 1/4			7.8		0.9		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：にぶい橙	焼成良好。
96	SU1008	J-2·3·4·5 I-5·6	覆土	土師質土器 鉢	口縁部 1/6	10.5				3.1		口縁～体部	体部外上方に直線的に立ち上がる。口縁部で外反し、端部を肥厚し丸く収める。	外面：ナデ。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
97	SU1008	J-2·3·4·5 I-5·6	覆土	須恵質土器 甕	全体 1/20	17.1				2.9		口縁部	口縁部緩やかに外反し、端部僅かに上下に拡張して、角張って収める。	外面：ナデ。自然釉。 内面：ナデ。自然釉。	長石・雲母	釉：くらいグレイ 胎：灰	東播系。焼成やや不良。
98	SU1008	J-2·3·4·5 I-5·6	覆土	須恵質土器 こね鉢	全体 1/8					4.1		体部	体部外上方に直線的に延びる。	外面：ナデ。 内面：ナデ。	石英	外面：灰 内面：灰	東播系。焼成良好。
99	SU1008	J-2·3·4·5 I-5·6	覆土	軒丸瓦	不明						縦　6.4 横　7.5 厚さ 3.0	瓦当部		外面：左巻三つ巴連珠文。 内面：ナデ。	石英・結晶片岩	外面：にぶい黄橙 内面：にぶい黄橙	焼成やや不良。
100	SU1008	J-2·3·4·5 I-5·6	覆土	平瓦	不明						縦　8.7 横　7.0 厚さ 2.5	不明		外面：ナデ。 内面：タタキ(2条/cm)。	石英・赤色斑粒・黒色斑粒	外面：オリーブ黒 内面：オリーブ黒	焼成良好。
101	SU1008	J-2·3·4·5 I-5·6	覆土	土製品 磚瓦	不明						縦 20.0 横　8.0 厚さ 6.0	不明		外面：タタキと思われるが摩滅が著しいため不明瞭。 内面：摩滅が著しいため調整不明。	石英	外面：灰白 内面：灰白	焼成やや不良。

SO（土器）

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	器種	残存率	口径(cm)	体部最大径(cm)	底径(cm)	頸部(脚柱)径(cm)	器高・残存高(cm)	その他の法量(cm)	部位	形態	調整	含有物組成	色調	備考
104	SO1001	Q-7·8	覆土	瓦器 椀	全体 1/8			4.8		3.0	高台高 0.1	体部～底部	体部外上方へ緩やかに内彎しながら立ち上がる。貼り付け高台でハの字に開き、断面逆三角形状が退化している。	外面：ユビオサエ。ナデ。 内面：摩滅のため不明。	石英	外面：褐灰 内面：褐灰	和泉系。焼成良好。
105	SO1001	Q-7·8	覆土	須恵質土器 鉢	底部 1/8			12.4		1.6		底部	平底。体部外上方へ延びる。	外面：ヨコナデ。底面調整不明。 内面：ナデ。	石英	外面：褐灰 内面：褐灰	東播系。焼成良好。

SX（土器）

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	器種	残存率	口径(cm)	体部最大径(cm)	底径(cm)	頸部(脚柱)径(cm)	器高・残存高(cm)	その他の法量(cm)	部位	形態	調整	含有物組成	色調	備考
106	SX1001	S-8	覆土	土師質土器 杯	口縁部 1/10	12.3				2.1		口縁部	体部外上方に立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。 内面：ナデ。	石英・雲母	外面：黄橙 内面：黄橙	焼成良好。

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	器種	残存率	口径(cm)	体部最大径(cm)	底径(cm)	頸部(脚柱)径(cm)	器高・残存高(cm)	その他の法量(cm)	部位	形態	調整	含有物組成	色調	備考
107	SX1001	S-8	覆土	土師質土器杯	口縁部1/7	13.3				3.7		口縁部	体部外上方に立ち上がり、口縁部で僅かに外反し、口縁端部を尖り気味に収める。	外面：ヨコナデ。 内面：ヨコナデ。	赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
108	SX1001	S-8	覆土	土師質土器杯	底部3/10			8.1		2.2		底部	体部外上方に延びる。	外面：ヨコナデ。底部回転糸切り。 内面：ヨコナデ。	長石・雲母・赤色斑粒・黒色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成やや不良。
109	SX1001	S-8	覆土	土師質土器皿	底部3/4	11.0		8.1		1.7		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：黄橙 内面：黄橙	焼成やや不良。
110	SX1001	S-8	覆土	土師質土器皿	底部1/4			10.6		1.0		底部	体部外上方に延びる。	外面：ヨコナデ。底部回転糸切り。 内面：ヨコナデ。	石英・赤色斑粒	外面：にぶい黄橙 内面：橙	焼成良好。
111	SX1002	R·S-7	覆土	瓦器椀	底部3/4			4.6		0.7		底部	貼り付け高台でハの字に開き、断面四角形状に収める。	外面：ナデ。 内面：ナデ。表面摩滅している。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：黄橙 内面：黄橙	和泉系。焼成良好。
112	SX1002	R·S-7	覆土	須恵質土器鉢	底部1/6			12.4		4.5		底部	体部外上方に延びる。	外面：体部タタキ（幅11条/3.1cm）。底部ナデ。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：褐灰 内面：灰	東播系。焼成やや不良。
113	SX1003	R-8	覆土	白磁壺	底部9/10			7.2		1.9	高台高1.0	底部	体部外上方へ開く。削り出し高台でハの字に開き断面方形に収め、にぶい面取りを行う。高台内、畳付露胎。	外面：ロクロナデのち施釉。 内面：ロクロナデのち施釉。	緻密	釉：オリーブ黄 胎：灰白	焼成良好。
114	SX1003	R-8	覆土	青磁碗	破片							不明		外面：ロクロナデのち施釉。 内面：ロクロナデのち施釉。片彫り。	長石・雲母・黒色斑粒	釉：グレイみのオリーブグリーン 胎：灰白	同安窯系。焼成良好。
115	SX1003	R-8	覆土	青磁皿	底部1/2			4.6		1.2		底部	体部外上方に開く。平底で、底部釉掻き取り露胎。	外面：ケズリのち施釉。 内面：ケズリのち施釉。櫛描文。ヘラによる片彫り。	黒色斑粒	釉：グレイみの黄 胎：灰白	同安窯系。焼成良好。
116	SX1003	R-8	覆土	土師質土器杯	口縁部1/6	13.0				2.2		口縁～体部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁部僅かに外反し、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。 内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
117	SX1003	R-8	覆土	土師質土器杯	口縁部1/9	12.7				2.7		口縁～体部	体部外上方に外反しながら立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。 内面：ナデ。	赤色斑粒	外面：にぶい橙 内面：にぶい橙	焼成良好。
118	SX1003	R-8	覆土	土師質土器杯	口縁部1/6	13.6				2.4		口縁～体部	体部外上方に立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。 内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：にぶい橙 内面：にぶい橙	焼成良好。
119	SX1003	R-8	覆土	土師質土器杯	底部1/5			9.8		3.5		体部～底部	体部外上方に内彎しながら立ち上がる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
120	SX1003	R-8	覆土	土師質土器杯	底部1/3			10.2		1.9		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：浅黄橙	焼成良好。
121	SX1003	R-8	覆土	土師質土器杯	底部1/4			6.4		1.2		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：にぶい橙 内面：にぶい橙	焼成良好。
122	SX1003	R-8	覆土	土師質土器杯	底部1/3			8.4		1.1		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
123	SX1003	R-8	覆土	土師質土器皿	全体1/5	13.9		10.2		3.2		口縁～底部	平底。体部外上方に僅かに外反しながら立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：摩滅のため調整不明。底部回転糸切り。摩滅のため調整不明瞭。 内面：摩滅のため調整不明。	石英・赤色斑粒	外面：黄橙 内面：黄橙	焼成やや不良。
124	SX1003	R-8	覆土	土師質土器皿	全体1/8	15.4				2.9		口縁～体部	体部外上方に直線的に立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ヨコナデ。 内面：ヨコナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：にぶい橙	焼成良好。
125	SX1003	R-8	覆土	土師質土器皿	底部1/1			6.6		0.9		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：にぶい黄橙 内面：にぶい黄橙	焼成良好。
126	SX1003	R-8	覆土	土師質土器皿	底部1/4			10.2		0.9		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
127	SX1003	R-8	覆土	土師質土器皿	全体1/2			10.8		1.7		体部～底部	平底。体部外上方に直線的に短く立ち上がる。	外面：ヨコナデ。底部回転糸切り。 内面：ヨコナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
128	SX1003	R-8	覆土	土師質土器皿	底部1/6			10.6		1.0		底部	体部外上方に開く。底部剥離がある。	外面：ロクロナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	雲母	外面：浅黄橙 内面：浅黄橙	焼成良好。
129	SX1003	R-8	覆土	土師質土器皿	底部1/5			11.8		0.7		底部	体部外上方に延びる。	外面：ヨコナデ。底部回転糸切り。 内面：ヨコナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
130	SX1003	R-8	覆土	土師質土器皿	底部1/5			10.6		1.1		底部	体部外上方に延びる。	外面：ヨコナデ。底部回転糸切り。 内面：ヨコナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
131	SX1003	R-8	覆土	土師質土器皿	底部1/10			9.0		0.9		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	雲母・結晶片岩・赤色斑粒	外面：にぶい橙 内面：黄橙	焼成やや不良。
132	SX1003	R-8	覆土	土師質土器皿	底部1/3			9.6		0.7		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部切り離し不明。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：浅黄橙 内面：浅黄橙	焼成良好。
133	SX1003	R-8	覆土	土師質土器皿	底部1/6			10.0		0.6		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
134	SX1003	R-8	覆土	土師質土器皿	底部1/5			10.2		1.0		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：にぶい橙 内面：橙	焼成やや不良。
135	SX1003	R-8	覆土	土師質土器小皿	全体3/4	9.2		7.5		1.5		口縁～底部	体部外上方に直線的に短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：にぶい橙 内面：にぶい橙	焼成やや不良。
136	SX1003	R-8	覆土	土師質土器小皿	全体1/2	8.4		6.4		1.4		口縁～底部	体部外上方に直線的に短く立ち上がり、口縁端部を尖り気味に収める。	外面：ヨコナデ。底部回転糸切り。 内面：ヨコナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
137	SX1003	R-8	覆土	土師質土器小皿	全体4/5	8.9		5.8		1.3		口縁～底部	僅かに上げ底。体部外上方に直線的に短く立ち上がり、口縁端部を尖り気味に収める。	外面：ヨコナデ。底部回転糸切り。 内面：ヨコナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	器種	残存率	口径(cm)	体部最大径(cm)	底径(cm)	頸部(脚柱)径(cm)	器高・残存高(cm)	その他の法量(cm)	部位	形態	調整	含有物組成	色調	備考
138	SX1003	R-8	覆土	土師質土器小皿	全体ほぼ1/1	8.7		6.7		1.2		口縁～底部	上げ底。体部外上方に直線的に短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：にぶい橙 内面：にぶい橙	焼成良好。
139	SX1003	R-8	覆土	土師質土器小皿	ほぼ完形	9.1		6.9		1.6		口縁～底部	体部外上方に内彎しながら短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。底部に歪み有り。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
140	SX1003	R-8	覆土	土師質土器小皿	底部4/5	8.0		6.3		1.1		口縁～底部	体部外上方に僅かに外反しながら短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒・黒色斑粒	外面：にぶい橙 内面：橙	焼成やや不良。
141	SX1003	R-8	覆土	土師質土器小皿	全体1/2	9.0		6.6		1.3		口縁～底部	体部外上方に内彎しながら短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
142	SX1003	R-8	覆土	土師質土器小皿	全体1/3	8.6		6.6		1.1		口縁～底部	体部外上方に内彎しながら短く立ち上がり、口縁端部を尖り気味に収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：浅黄橙 内面：浅黄橙	焼成良好。
143	SX1003	R-8	覆土	土師質土器小皿	全体1/4	7.9		6.2		1.2		口縁～底部	体部外上方に直線的に短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ヨコナデ。底部回転糸切り。 内面：ヨコナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
144	SX1003	R-8	覆土	土師質土器小皿	全体1/5	8.0		6.2		1.5		口縁～底部	体部外上方に内彎しながら短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ヨコナデ。底部回転糸切り。 内面：ヨコナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：にぶい橙	焼成良好。
145	SX1003	R-8	覆土	土師質土器小皿（灯明皿）	全体1/2	8.7		6.1		1.7		口縁～底部	体部外反気味に短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：浅黄橙 内面：浅黄橙	焼成良好。内外面に黒斑有り。接合痕有り。
146	SX1003	R-8	覆土	土師質土器小皿	底部1/3			6.6		1.1		底部	体部外上方に内彎しながら立ち上がる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
147	SX1003	R-8	覆土	瓦器椀	全体1/2	15.0		4.1		4.1	高台高 0.3	口縁～底部	体部外上方へ緩やかに内彎しながら立ち上がり、口縁端部を丸く収める。貼り付け高台で断面三角形状が退化している。	外面：ナデのちユビオサエ。高台貼り付け痕有り。 内面：ナデのちミガキ（幅1㎜）。	石英・雲母	外面：灰 内面：灰	和泉系。焼成良好。
148	SX1003	R-8	覆土	瓦器椀	全体3/10	15.8		4.8		4.6	高台高 0.4	口縁～底部	体部外上方へ緩やかに内彎しながら立ち上がり、口縁端部を丸く収める。貼り付け高台で断面三角形に収める。	外面：ユビオサエ。ナデ。 内面：ヘラミガキ。	長石・雲母	外面：黄灰 内面：黄灰	和泉系。焼成良好。
149	SX1003	R-8	覆土	瓦器椀	全体1/3	16.0		3.8		3.7	高台高 0.2	口縁～底部	体部外上方へ緩やかに内彎しながら立ち上がり、口縁端部を丸く収める。貼り付け高台で断面逆台形状に収める。	外面：ナデのちユビオサエ。爪跡有り。 内面：ナデ。	石英・雲母	外面：黒褐 内面：淡黄	和泉系。焼成良好。
150	SX1003	R-8	覆土	瓦器椀	全体1/3	15.3		3.6		4.0	高台高 0.1	口縁～底部	体部外上方へ緩やかに内彎しながら立ち上がり、口縁端部を丸く収める。貼り付け高台で断面三角形状が退化している。	外面：口縁部ヨコナデ。体部ユビオサエ。 内面：ヘラミガキ。	石英	外面：褐灰 内面：褐灰	和泉系。焼成やや不良。
151	SX1003	R-8	覆土	瓦器椀	口縁部1/3	15.0				3.4		口縁～体部	体部外上方へ緩やかに内彎しながら立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ユビオサエのちナデ。 内面：口縁部ナデ。体部ヘラミガキ。	石英	外面：黄灰 内面：黄灰	和泉系。焼成良好。
152	SX1003	R-8	覆土	瓦器椀	全体2/5	14.2				4.1		口縁～体部	体部外上方へ緩やかに内彎しながら立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ユビオサエのちナデ。 内面：ヘラミガキ。	石英・長石	外面：灰 内面：灰	和泉系。焼成良好。
153	SX1003	R-8	覆土	瓦器椀	口縁部1/13	14.0				3.9		口縁～体部	体部外上方に僅かに内彎しながら立ち上がり、口縁端部を若干肥厚させて丸く収める。	外面：ユビオサエのちナデ。 内面：ナデ。	石英	外面：黄灰 内面：にぶい黄橙	和泉系。焼成良好。
154	SX1003	R-8	覆土	瓦器椀	全体1/5	15.0				4.5		口縁～体部	体部外上方へ緩やかに内彎しながら立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ユビオサエのちナデ。 内面：ヘラミガキ。	長石・雲母	外面：黄灰 内面：黄灰	和泉系。焼成良好。
155	SX1003	R-8	覆土	瓦器椀	口縁部1/10以下	14.0				2.7		口縁～体部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁部僅かに外反し、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。 内面：ナデ。ミガキ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：暗灰・灰白 内面：暗灰・灰白	和泉系。焼成良好。
156	SX1003	R-8	覆土	瓦器椀	口縁部1/8	13.6				2.4		口縁～体部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ユビオサエのちナデ。 内面：ナデのちミガキ（幅1㎜）。	石英	外面：暗灰 内面：灰白	和泉系。焼成良好。
157	SX1003	R-8	覆土	瓦器椀	全体1/10			4.2		1.4	高台高 0.5	底部	体部斜め上方へ開く。貼り付け高台で断面逆台形状が退化している。	外面：ユビオサエ。ナデ。底部ナデ。 内面：ヘラミガキ。	長石・雲母	外面：灰白 内面：灰白	和泉系。焼成良好。
158	SX1003	R-8	覆土	土師質土器鍋	口縁部1/8	21.4	22.0			5.9		口縁～体部	体上部直立して立ち上がり、口縁部で僅かに外反し、口縁端部を丸く収める。	外面：口縁部ヨコナデ。体部ハケ（6条/1.7cm）。 内面：ハケ（6条/1.7cm）。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：明赤褐 内面：明赤褐	焼成良好。口縁部煤付着。外面に黒斑有り。
159	SX1003	R-8	覆土	土師質土器鍋	口縁部1/6	30.4	31.6			6.0		口縁～体部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁部僅かに外反し、口縁端部を肥厚し方形状に収める。	外面：口縁部ナデ。体部ハケ（5条/cm）。 内面：ハケ（4条/cm）。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：淡黄 内面：淡黄	焼成良好。
160	SX1003	R-8	覆土	須恵質土器甕	破片						縦 6.2 横 5.3 厚さ 1.1	不明		外面：格子状のタタキ。 内面：ナデ。	石英・結晶片岩・赤色斑粒	外面：灰白 内面：灰	東播系。亀山系。焼成やや不良。
161	SX1003	R-8	覆土	須恵質土器甕	体部1/24					13.3		体部	体部外上方に内彎しながら立ち上がる。	外面：格子状タタキ（2条/cm）。 内面：ケズリ（幅1.8cm）。	石英・雲母・黒色斑粒	外面：灰 内面：灰	東播系。亀山系。焼成良好。
162	SX1003	R-8	覆土	須恵質土器甕	体部1/6					9.2		体部	体部外上方に延びる。	外面：格子状タタキ（2条/cm）。 内面：ケズリ（幅1.4cm）。	石英・雲母・黒色斑粒	外面：灰白 内面：灰	東播系。亀山系。焼成良好。
163	SX1003	R-8	覆土	瓦質土器釜	口縁部1/10	20.7			21.4			口縁～体部	口縁部屈曲して、直線的に立ち上がり、端部を尖り気味に収める。	外面：口縁部ナデ。体部タタキ。 内面：ナデ。	石英・雲母・黒色斑粒	外面：灰白・暗灰 内面：灰白・暗灰	焼成不良。
164	SX1003	R-8	覆土	瓦質土器鉢	不明						縦 7.5 横 6.5 厚さ 0.7	不明		外面：ハケ（4条/cm）。 内面：剥離が著しいため調整不明。	石英	外面：黒 内面：黒	焼成良好。
165	SX1003	R-8	覆土	瓦質土器鉢	破片							不明		外面：タタキ（4条/cm）。 内面：ナデ。	石英	外面：暗灰 内面：暗灰	焼成良好。

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	器種	残存率	口径(cm)	体部最大径(cm)	底径(cm)	頸部(脚柱)径(cm)	器高・残存高(cm)	その他の法量(cm)	部位	形態	調整	含有物組成	色調	備考
168	SX1003	R-8	覆土	弥生土器甕	体部1/6	11.7			10.2	4.9		口縁～体部	体部緩やかに内彎しながら口縁部に向かって立ち上がり、口縁部は僅かに外反しながら短く開き、口縁端部を丸く収める。	外面：口縁部ナデ。体部タタキ（3条/0.9cm）のちハケ（8条/cm）。内面：口縁部ナデ。体部ケズリ（幅0.8cm）のちユビオサエ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
169	SX1005	M・N-6	覆土	土師質土器杯	口縁部1/6	13.7				2.6		口縁～体部	体部外上方へ直線的に開き、口縁部を外反させる。口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
170	SX1005	M・N-6	覆土	土師質土器皿	全体1/6	14.6		10.0		3.0		口縁～底部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁端部を尖り気味に収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒・黒色斑粒	外面：浅黄橙 内面：橙	焼成良好。
171	SX1005	M・N-6	覆土	土師質土器小皿	全体7/10			6.0		1.1		底部	体部外上方に延びる。	外面：ヨコナデ。底部回転糸切り。内面：ヨコナデ。	石英・赤色斑粒	外面：浅黄橙 内面：浅黄橙	焼成良好。
172	SX1005	M・N-6	覆土	土師質土器小皿	底部1/3			6.7		1.3		体部～底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：にぶい橙 内面：にぶい橙	焼成良好。
173	SX1005	M・N-6	覆土	土師質土器小皿	全体6/10			6.2		1.5		体部～底部	体部外上方に延びる。	外面：ヨコナデ。底部回転糸切り。内面：ヨコナデ。	石英・長石・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
174	SX1005	M・N-6	覆土	瓦器椀	全体1/5	15.0				4.1		口縁～体部	体部外上方へ緩やかに内彎しながら立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：口縁部ナデ。体部ユビオサエ。ナデ。底部回転糸切り。内面：ヘラミガキ。	雲母・赤色斑粒	外面：褐灰 内面：黒褐	和泉系。焼成良好。接合痕有り。
175	SX1005	M・N-6	覆土	瓦器椀	口縁部1/2	15.2				5.2		口縁～体部	体部外上方へ緩やかに内彎しながら立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ユビオサエのちナデ。内面：ミガキ（幅1mm）。	石英・雲母	外面：黄灰 内面：灰	和泉系。焼成良好。
176	SX1005	M・N-6	覆土	須恵質土器甕	破片					11.6		不明		外面：タタキ（11条/3.3cm以上）。内面：ナデ。	石英	外面：褐灰 内面：灰白	東播系。焼成良好。
177	SX1006	O-4	覆土	瓦器椀	底部1/5			4.8		1.4	高台高 0.4	底部	体部斜め上方へ開く。貼り付け高台で断面三角形状に収める。	外面：ナデ。内面：ヘラミガキ。	雲母・黒色斑粒	外面：灰白 内面：黄灰	焼成やや不良。
178	SX1006	O-4	覆土	土師質土器小皿	全体1/6	8.9		6.8		1.2		口縁～底部	体部外上方に外反しながら短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ヨコナデ。底部回転糸切り。内面：ヨコナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
179	SX1007	J・K・L-6・7	覆土	土師質土器杯	全体2/3	13.7		8.6		3.4		口縁～底部	上げ底。体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒・黒色斑粒	外面：にぶい橙 内面：浅黄橙	焼成良好。
180	SX1007	J・K・L-6・7	覆土	土師質土器杯	全体2/3	14.7		10.8		3.3		口縁～底部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁端部を丸く収める。底部僅かに上げ底。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：浅黄橙	焼成良好。接合痕有り。
181	SX1007	J・K・L-6・7	覆土	土師質土器杯	全体1/3	13.4		9.2		3.2		口縁～底部	体部外上方に直線的に立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：浅黄橙 内面：浅黄橙	焼成良好。
182	SX1007	J・K・L-6・7	覆土	土師質土器杯	全体1/3	13.3		8.8		3.0		口縁～底部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
183	SX1007	J・K・L-6・7	覆土	土師質土器杯	底部1/2	13.8		10.2		3.1		口縁～底部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：にぶい橙 内面：にぶい橙	焼成やや不良。
184	SX1007	J・K・L-6・7	覆土	土師質土器杯	底部1/7	12.6		9.0		4.0		口縁～底部	体部外上方へ内彎しながら立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	長石・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成やや不良。
185	SX1007	遺構南側	覆土	土師質土器杯	口縁部1/4	12.9		8.6		2.9		口縁～底部	体部外上方へ内彎しながら立ち上がり、口縁部で外反し、端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：にぶい橙 内面：にぶい橙	焼成不良。
186	SX1007	J-6	覆土	土師質土器杯	口縁部1/9	11.7				2.3		口縁～体部	体部外上方へ内彎しながら立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：黄橙 内面：黄橙	焼成良好。
187	SX1007	J・K・L-6・7	覆土	土師質土器杯	口縁部1/6	13.2				2.2		口縁～体部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
188	SX1007	J・K・L-6・7	覆土	土師質土器杯	全体1/6	11.9				3.1		口縁～体部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ヨコナデ。内面：ヨコナデ。	石英・赤色斑粒	外面：黄橙 内面：黄橙	焼成良好。
189	SX1007	J・K・L-6・7	覆土	土師質土器杯	全体1/10	12.2				2.9		口縁～体部	体部外上方へ直線的に開き、口縁部で若干外反する。口縁端部をやや尖り気味に収める。	外面：ヨコナデ。摩滅気味。内面：ヨコナデ。摩滅気味。	石英・赤色斑粒	外面：浅黄橙 内面：浅黄橙	焼成良好。
190	SX1007	J-6	覆土	土師質土器杯	口縁部1/10	12.4				2.5		口縁～体部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：黄橙 内面：浅黄橙	焼成良好。
191	SX1007	J-6	覆土	土師質土器杯	口縁部1/9	12.7				2.0		口縁～体部	体部外上方へ内彎しながら立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：黄橙 内面：黄橙	焼成良好。
192	SX1007	J-6	覆土	土師質土器杯	口縁部1/9	13.2				2.2		口縁～体部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：黄橙 内面：黄橙	焼成良好。
193	SX1007	J・K・L-6・7	覆土	土師質土器杯	口縁部1/4	14.8				2.3		口縁～体部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁部で僅かに外反し、端部を丸く収める。	外面：ヨコナデ。内面：ヨコナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
194	SX1007	J・K・L-6・7	覆土	土師質土器杯	口縁部1/5	14.0				2.3		口縁～体部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：摩滅のため調整不明。内面：摩滅のため調整不明。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
195	SX1007	J-6	覆土	土師質土器杯	口縁部1/12	15.0				2.5		口縁～体部	体部外上方へ内彎しながら立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：浅黄橙 内面：橙	焼成やや不良。
196	SX1007	J-6	覆土	土師質土器杯	底部1/10			7.8		0.9		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成不良。
197	SX1007	遺構南側	覆土	土師質土器杯	底部1/4			6.8		0.8		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部摩滅のため調整不明。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
198	SX1007	遺構南側	覆土	土師質土器杯	底部1/3			8.4		1.8		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部摩滅のため調整不明。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	器種	残存率	口径(cm)	体部最大径(cm)	底径(cm)	頸部(脚柱)径(cm)	器高・残存高(cm)	その他の法量(cm)	部位	形態	調整	含有物組成	色調	備考
199	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器 杯	底部1/5			7.0		1.6		体部～底部	体部外上方に延びる。体部と底部との境不明瞭。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
200	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器 杯	底部1/6			8.0		1.2		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：浅黄橙 内面：浅黄橙	焼成良好。接合痕有り。
201	SX1007	J-6	覆土	土師質土器 杯	底部1/5			7.0		1.4		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
202	SX1007	遺構北側	覆土	土師質土器 杯	底部1/5			9.0		1.4		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：にぶい黄橙	焼成良好。
203	SX1007	J-6	覆土	土師質土器 杯	底部1/5			8.8		0.9		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
204	SX1007	遺構南側	覆土	土師質土器 杯	底部1/3			9.2		1.4		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
205	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器 杯	底部1/4			6.2		2.5		体部～底部	体部外上方へ内彎しながら立ち上がる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：明赤褐 内面：橙	焼成良好。
206	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器 杯	全体1/4			5.8		2.1		体部～底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・雲母・結晶片岩・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
207	SX1007	J-6	覆土	土師質土器 杯	底部1/8			9.6		1.0		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。接合痕有り。
208	SX1007	遺構南側	覆土	土師質土器 杯	底部1/5			9.0		1.0		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒・黒色斑粒	外面：浅黄橙 内面：浅黄橙	焼成良好。
209	SX1007	J-6	覆土	土師質土器 杯	底部1/5			9.2		2.4		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
210	SX1007	J-6	覆土	土師質土器 杯	底部1/10			8.0		3.1		体部～底部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁部で若干外反する。体部と底部との境不明瞭。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成不良。
211	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器 杯	底部1/6			10.4		1.5		体部～底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部調整不明。内面：ナデ。	石英・雲母・結晶片岩・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
212	SX1007	遺構北側	覆土	土師質土器 杯	底部1/6			8.0		1.5		体部～底部	体部外上方へ内彎しながら延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	長石・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成やや不良。
213	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器 Ⅲ	全体1/2	12.4		11.0		1.2		口縁～底部	体部外上方に直線的に短く立ち上がり、口縁端部を僅かに尖り気味に収める。	外面：ヨコナデ。底部回転糸切り。内面：ヨコナデ。	石英・長石・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
214	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器 Ⅲ	全体1/4	12.3		9.2		1.7		口縁～底部	体部外上方へ内彎しながら短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・雲母・結晶片岩・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
215	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器 Ⅲ	全体1/2	13.6		9.8		3.0		口縁～底部	体部外上方へ内彎しながら立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部摩滅のため調整不明。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：浅黄橙 内面：橙	焼成良好。
216	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器 Ⅲ	全体1/2	14.0		10.0		3.2		口縁～底部	体部外上方へ内彎しながら立ち上がり、口縁端部を肥厚し丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：明黄褐 内面：橙	焼成良好。
217	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器 Ⅲ	全体1/4	15.0		9.6		3.3		口縁～底部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：灰白 内面：浅黄橙	焼成良好。内面、底部に黒斑有り。
218	SX1007	J-6	覆土	土師質土器 Ⅲ	口縁部1/10	14.3		9.6		3.2		口縁～底部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：橙・にぶい黄橙 内面：にぶい褐	焼成やや不良。
219	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器 Ⅲ	口縁部9/10			9.5		1.5		底部	体部外上方に延びる。	外面：ヨコナデ。底部回転糸切り。内面：ヨコナデ。	石英・赤色斑粒	外面：黄橙 内面：黄橙	焼成良好。
220	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器 Ⅲ	底部1/2			9.8		1.3		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
221	SX1007	J-6	覆土	土師質土器 Ⅲ	底部1/1			8.5		1.0		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部摩滅のため調整不明。内面：ナデ。	石英・雲母・結晶片岩・赤色斑粒	外面：浅黄橙 内面：橙	焼成良好。
222	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器 Ⅲ	全体1/2			9.8		1.2		体部～底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
223	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器 Ⅲ	底部2/5			8.0		1.6		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	長石・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成不良。
224	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器 Ⅲ	底部2/3			9.0		2.9		体部～底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・結晶片岩・赤色斑粒	外面：にぶい橙 内面：にぶい橙	焼成良好。
225	SX1007	J-6	覆土	土師質土器 Ⅲ	底部1/10			9.0		1.3		底部	体部外上方に延びる。体部と底部との境不明瞭。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成不良。
226	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器 Ⅲ	底部1/4			9.2		0.8		底部	体部外上方へ開く。底部に持ち上げた跡有り。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：黄橙 内面：浅黄橙	焼成良好。接合痕有り。
227	SX1007	K-6·7	覆土	土師質土器 Ⅲ	底部3/5			9.0		1.1		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：黄橙 内面：黄橙	焼成やや不良。
228	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器 Ⅲ	底部1/6			10.2		1.1		底部	体部外上方に延びる。	外面：ヨコナデ。底部回転糸切り。内面：ヨコナデ。	石英・赤色斑粒	外面：黄橙 内面：黄橙	焼成良好。
229	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器 Ⅲ	底部1/8			9.6		1.2		底部	体部外上方に延びる。	外面：ヨコナデ。底部回転糸切り。内面：ヨコナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
230	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器 Ⅲ	底部1/7			8.4		0.8		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成不良。
231	SX1007	遺構南側	覆土	土師質土器 Ⅲ	底部1/10			9.2		1.8		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	長石・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成不良。
232	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器 Ⅲ	底部1/8			10.0		1.0		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：黄橙 内面：黄橙	焼成良好。

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	器種	残存率	口径（cm）	体部最大径（cm）	底径（cm）	頸部（脚柱）径（cm）	器高・残存高（cm）	その他の法量（cm）	部位	形態	調整	含有物組成	色調	備考
233	SX1007	J-6	覆土	土師質土器皿	底部1/6			9.6		0.9		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
234	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器皿	底部1/10			10.4		1.1		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成やや不良。
235	SX1007	遺構南側	覆土	土師質土器皿	底部1/9			11.2		1.1		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：にぶい橙 内面：にぶい褐	焼成良好。
236	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器皿	底部1/6			10.0		1.3		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部摩滅のため調整不明。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
237	SX1007	遺構南側	覆土	土師質土器皿	底部1/8			11.2		1.0		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：浅黄橙 内面：橙	焼成良好。
238	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器皿	底部1/9			8.8		1.0		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
239	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器皿	底部1/15			10.0		1.5		体部～底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
240	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器皿	底部1/2			10.0		1.3		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：浅黄橙	焼成良好。
241	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器皿	底部1/5			10.8		0.8		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
242	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器皿	底部1/8			9.2		1.4		底部	体部外上方に延びる。体部と底部との境不明瞭。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：にぶい黄橙 内面：にぶい黄橙	焼成不良。外底面に板目圧痕有り。
243	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器皿	底部1/2			10.2		0.9		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
244	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器皿	底部1/4			10.8		1.2		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：浅黄橙 内面：浅黄橙	焼成良好。
245	SX1007	J-6	覆土	土師質土器皿	底部1/11			11.2		1.1		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部調整不明。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：浅黄橙	焼成良好。
246	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器皿	底部1/3			9.0		1.7		体部～底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒・黒色斑粒	外面：浅黄橙 内面：浅黄橙	焼成やや不良。
247	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器皿	底部1/3			9.0		1.1		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
248	SX1007	遺構北側	覆土	土師質土器皿	底部1/6			11.0		1.3		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：にぶい橙 内面：淡赤橙	焼成良好。
249	SX1007	遺構南側	覆土	土師質土器皿	底部1/10			11.4		2.2		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：にぶい黄橙 内面：明黄褐	焼成良好。
250	SX1007	J-6	覆土	土師質土器皿	底部1/7			11.0		1.1		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。摩滅のため調整不明瞭。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：浅黄橙 内面：橙	焼成良好。
251	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器皿	底部1/4			8.6		1.3		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成不良。
252	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器皿	底部1/10			12.2		0.9		底部	体部外上方に延びる。	外面：ヨコナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
253	SX1007	J-6	覆土	土師質土器皿	底部1/10			9.4		1.5		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成やや不良。
254	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器皿	底部1/4			9.8		1.0		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：浅黄橙 内面：浅黄橙	焼成良好。外面に黒斑有り。接合痕有り。
255	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器皿	底部1/13			11.6		1.9		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部摩滅のため調整不明。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
256	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器皿	底部1/12			10.0		1.1		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成不良。
257	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器皿	底部1/6			10.0		0.9		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。摩滅のため調整不明瞭。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。接合痕有り。
258	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器皿	底部1/7			11.6		0.8		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：浅黄橙 内面：浅黄橙	焼成良好。接合痕有り。
259	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器皿	底部1/2			9.5		2.1		体部～底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・雲母・結晶片岩・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
260	SX1007	遺構北側	覆土	土師質土器小皿	全体8/10	7.1		4.9		1.9		口縁～底部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：剥離が激しく調整不明。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
261	SX1007	J-6	覆土	土師質土器小皿	底部1/2	7.5		5.4		1.3		口縁～底部	体部外上方へ内彎しながら短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。摩滅のため調整不明瞭。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
262	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器小皿	全体9/10	7.6		6.0		1.2		口縁～底部	体部外上方に直線的に短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ヨコナデ。摩滅気味。底部回転糸切り。 内面：ヨコナデ。	石英・赤色斑粒	外面：浅黄橙 内面：浅黄橙	焼成良好。
263	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器小皿	全体8/10	8.2		5.4		1.5		口縁～底部	体部外上方に内彎しながら立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ヨコナデ。底部回転糸切り。 内面：ヨコナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
264	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器小皿	全体2/3	7.8		5.6		1.2		口縁～底部	体部外上方へ内彎しながら短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。摩滅のため調整不明瞭。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：浅黄橙 内面：浅黄橙	焼成良好。
265	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器小皿	ほぼ完形	8.3		6.4		1.2		口縁～底部	体部外上方へ内彎しながら短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：にぶい橙 内面：にぶい橙	焼成やや不良。

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	器種	残存率	口径(cm)	体部最大径(cm)	底径(cm)	頸部(脚柱)径(cm)	器高・残存高(cm)	その他の法量(cm)	部位	形態	調整	含有物組成	色調	備考
266	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器小皿	全体1/2	7.7		6.0		1.4		口縁～底部	体部外上方へ直線的に短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・雲母・結晶片岩・赤色斑粒	外面：浅黄橙内面：橙	焼成良好。
267	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器小皿	ほぼ完形	8.2		6.2		1.5		口縁～底部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙内面：橙	焼成良好。
268	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器小皿	全体4/5	8.4		6.0		1.4		口縁～底部	体部外上方へ直線的に短く立ち上がり、口縁端部を尖り気味に収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒・黒色斑粒	外面：浅黄橙内面：浅黄橙	焼成良好。
269	SX1007	遺構南側	覆土	土師質土器小皿	全体1/3	6.0		3.8		1.9		口縁～底部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁端部をやや尖り気味に収める。	外面：ヨコナデ。底部調整不明。内面：ヨコナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙内面：橙	焼成良好。
270	SX1007	J-6	覆土	土師質土器小皿	口縁部1/5	7.5		5.6		1.2		口縁～底部	体部外上方へ内彎しながら短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ヨコナデ。底部回転糸切り。内面：ヨコナデ。	雲母・赤色斑粒・黒色斑粒	外面：黄橙内面：橙	焼成良好。
271	SX1007	J-6	覆土	土師質土器小皿	口縁部1/7	6.9		5.0		1.4		口縁～底部	体部外上方へ内彎しながら短く立ち上がり、口縁部で僅かに外反し、端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙内面：橙	焼成良好。
272	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器小皿	全体1/4	8.7		6.6		1.4		口縁～底部	体部外上方へ内彎しながら立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：浅黄橙内面：橙	焼成良好。
273	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器小皿	全体1/4	8.9		5.6		1.0		口縁～体部	体部外上方へ短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙内面：橙	焼成良好。
274	SX1007	遺構北側	覆土	土師質土器小皿	底部1/5	7.5		5.7		1.1		口縁～底部	体部外上方へ直線的に短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：橙内面：橙	焼成良好。
275	SX1007	遺構北側	覆土	土師質土器小皿	全体1/5	8.0		6.2		1.1		口縁～底部	体部外上方へ外反しながら短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：にぶい橙内面：にぶい橙	焼成良好。
276	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器小皿	全体1/4	8.7		6.8		1.0		口縁～底部	体部外上方へ短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・雲母・結晶片岩・赤色斑粒	外面：橙内面：にぶい橙	焼成良好。
277	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器小皿	全体1/3	9.0		7.4		1.3		口縁～底部	体部外上方へ直線的に短く立ち上がり、口縁端部を尖り気味に収める。	外面：ナデ。底部摩滅のため調整不明。内面：ナデ。	石英・雲母・結晶片岩・赤色斑粒	外面：橙内面：橙	焼成良好。
278	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器小皿	底部1/4	9.3		6.8		1.2		口縁～底部	体部外上方へ直線的に短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙内面：にぶい橙	焼成良好。
279	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器小皿	全体1/6	9.0		7.4		1.3		口縁～底部	体部外上方へ短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・雲母・結晶片岩・赤色斑粒	外面：明赤褐内面：明赤褐	焼成良好。
280	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器小皿	全体1/4	9.9		7.4		1.2		口縁～底部	体部外上方へ短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・雲母・結晶片岩・赤色斑粒	外面：橙内面：橙	焼成良好。
281	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器小皿	底部1/5	8.0		6.0		1.9		口縁～底部	体部外上方へ内彎しながら短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	赤色斑粒	外面：浅黄橙内面：浅黄橙	焼成不良。
282	SX1007	遺構南側	覆土	土師質土器小皿	口縁部1/3	7.8						口縁～体部	体部外上方へ内彎しながら立ち上がり、口縁端部を尖り気味に収める。	外面：ヨコナデ。内面：ヨコナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙内面：橙	焼成良好。
283	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器小皿	底部2/3			5.6		1.3		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙内面：橙	焼成良好。
284	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器小皿	底部1/4			5.8		1.1		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：橙内面：橙	焼成不良。
285	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器小皿	底部1/5			6.0		1.1		体部～底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。摩滅のため調整不明瞭。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙内面：橙	焼成良好。
286	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器小皿	底部1/3			5.8		0.9		底部	体部斜め上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：橙内面：橙	焼成やや不良。
287	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器羽釜	口縁部1/23	23.0				3.6	鍔径 26.2	口縁～体部	体部直線的に立ち上がり、口縁部は内傾しながら短く立ち上がる。口縁端部を肥厚し丸く収める。鍔部は断面三角形の短い鍔が水平に付く。	外面：ナデ。鍔部貼り付け。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：にぶい橙内面：にぶい橙	焼成良好。接合痕有り。
288	SX1007	J-6	覆土	土師質土器羽釜	口縁部1/10以下	22.2				4.9	鍔径 25.7	口縁～体部	体部直線的に立ち上がり、口縁部は内傾しながら短く立ち上がる。口縁端部を丸く収める。鍔部は断面半円形の短い鍔が水平に付く。	外面：口縁部ナデ。体部ユビオサエのちナデ。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒・黒色斑粒	外面：にぶい橙内面：浅黄橙	焼成やや不良。外面に煤付着。端部を折り返し鍔を作り出し、口縁部貼り付け。接合痕有り。
289	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質土器鍋	全体1/20	36.2	36.7			6.4		口縁～体部	体部直線的に立ち上がり、口縁部で若干外反する。口縁端部をやや肥厚し丸く収める。	外面：ハケ。ユビオサエ。内面：口縁部ヨコナデ。体部ハケ(9条/cm)。	石英・結晶片岩・赤色斑粒	外面：にぶい黄橙内面：明黄褐	焼成良好。
290	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	須恵質土器壺	底部1/2			9.4		3.5		体部～底部	体部外上方へ開く。貼り付け高台でハの字に開き、断面四角形状に収める。	外面：ナデ。内面：ナデ。接合痕有り。	石英・雲母・黒色斑粒	外面：灰内面：灰白	焼成良好。
291	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	須恵質土器甕	破片						縦 5.6 横 4.5 厚さ 0.7	不明		外面：タタキ(5条/cm)。内面：ナデ。	石英	外面：黒内面：オリーブ褐	東播系。焼成良好。
292	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	土師質瓦	破片						縦 8.1 横 6.5 厚さ 2.0	不明		外面：縄席文タタキ。内面：ナデ。	石英・結晶片岩	外面：褐灰内面：褐灰	焼成良好。
293	SX1007	K-6	覆土	白磁碗	口縁部1/9	17.0		5.1		6.0	高台高 1.2	口縁～底部	体部外上方に内彎しながら立ち上がり、端反の口縁で、口縁端部を尖り気味に収める。削り出し高台で高台は高く直立し、断面は逆台形状に収める。貼付け、高台内露胎。	外面：ケズリのち施釉。内面：ケズリのち施釉。沈線2ヶ所有り。灰釉。	石英・雲母・黒色斑粒	釉：グレイみの黄胎：灰白	瀬戸系。焼成良好。

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	器種	残存率	口径(cm)	体部最大径(cm)	底径(cm)	頸部(脚柱)径(cm)	器高・残存高(cm)	その他の法量(cm)	部位	形態	調整	含有物組成	色調	備考
294	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	青磁碗	口縁部1/8	15.0				3.0		口縁～体部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁部で外反し、口縁端部を丸く収める。	外面：ロクロナデのち施釉。鏑蓮弁文。内面：ロクロナデのち施釉。釉は厚めに施されている。	緻密	釉：グレイみのオリーブグリーン 胎：灰白	龍泉窯系。焼成良好。
295	SX1007	K·L-6·7	覆土	青磁碗	全体1/7					3.3		口縁～体部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁部で外反。	外面：ロクロナデのち施釉。内面：ロクロナデのち施釉	黒色斑粒	釉：グレイみのオリーブグリーン 胎：灰白	龍泉窯系。焼成良好。
296	SX1007	K-6	覆土	青磁碗	全体1/10					3.5		体部	体部外上方に内彎しながら立ち上がる。	外面：ケズリのち施釉。一部露胎。櫛目文。内面：ナデのち施釉。釉は薄い。ジグザグ櫛目描き。	長石・雲母	釉：グレイみのオリーブ 胎：灰白	同安窯系。焼成良好。
297	SX1007	J-6	覆土	瓦器椀	底部1/2	14.9		3.4		4.2	高台高 0.2	口縁～底部	体部外上方へ緩やかに内彎しながら立ち上がり、口縁端部を丸く収める。貼り付け高台で断面三角形状に収める。	外面：ユビオサエのちナデ。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	和泉系。焼成不良。被熱のため酸化、変色(炭素燕発)。
298	SX1007	遺構北側	覆土	瓦器椀	全体1/4	13.9				4.8		口縁～体部	体部外上方へ内彎しながら立ち上がり、口縁部で僅かに外反し、端部を丸く収める。	外面：口縁部ナデ。体部ユビオサエ。内面：ミガキ。	石英	外面：灰 内面：灰	和泉系。焼成良好。
299	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	瓦器椀	全体1/5	13.8				3.8		口縁～体部	体部外上方へ内彎しながら立ち上がり、口縁部で僅かに外反し、端部を丸く収める。	外面：口縁部ナデ。体部ユビオサエのちナデ。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	和泉系。焼成良好。
300	SX1007	遺構北側	覆土	瓦器椀	全体1/4	15.4				4.2		口縁～体部	体部外上方へ緩やかに内彎しながら立ち上がり、口縁部で僅かに外反し、端部を丸く収める。	外面：口縁部ナデ。体部ユビオサエのちナデ。内面：ミガキ。摩滅のため調整不明瞭。	石英・赤色斑粒	外面：灰白 内面：灰白	和泉系。焼成良好。
301	SX1007	遺構北側	覆土	瓦器椀	口縁部1/9	14.0				3.2		口縁～体部	体部外上方へ内彎しながら立ち上がり、口縁端部で肥厚し丸く収める。	外面：ナデ。内面：ナデ。	長石	外面：灰黄 内面：灰黄	和泉系。焼成やや不良。
302	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	瓦器椀	底部1/4			3.8		1.2		底部	体部外上方へ内彎しながら立ち上がる。貼り付け高台でハの字に開き、断面逆三角形に収める。	外面：ユビオサエ。内面：ミガキ。	石英	外面：灰 内面：灰	和泉系。焼成良好。
303	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	瓦器椀	底部2/3			4.0		1.3	高台高 0.4	底部	体部外上方へ開く。貼り付け高台でハの字に開き、断面逆台形に収める。	外面：摩滅のため調整不明。内面：ナデ。	石英	外面：灰 内面：灰	和泉系。焼成やや不良。内面に重ね焼きの痕跡。
304	SX1007	遺構北側	覆土	瓦器椀	底部1/3			3.4		2.0	高台高 0.4	体部～底部	体部外上方へ開く。貼り付け高台でハの字に開き、断面三角形に収める。	外面：ナデ。内面：不明。	長石・赤色斑粒	外面：灰白 内面：灰白	和泉系。焼成不良。
305	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	瓦器小皿	ほぼ完形	8.1		6.0		1.6		口縁～底部	体部外上方へ内彎しながら立ち上がり、口縁端部を丸く収める。体部と底部との境不明瞭。	外面：口縁部ナデ。底部ユビオサエのちナデ。内面：口縁部平行ヘラミガキ。底部ジグザグヘラミガキ（幅1.5mm以上）。	石英	外面：灰黄 内面：黄灰	和泉系。焼成良好。
306	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	瓦器小皿	全体1/2	8.2		6.4		1.8		口縁～底部	体部外上方へ短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。体部と底部との境は不明瞭。	外面：口縁部ナデ。底部ユビオサエのちナデ。内面：ナデ。ミガキ（幅1mm以上）。	石英	外面：明黄褐 内面：黄灰	和泉系。焼成良好。
307	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	軒平瓦	不明						縦 14.8 横 17.0 厚さ 7.3	瓦当部		外面：ナデ。唐草文。内面：タタキ(2条/cm)。	石英・雲母	外面：灰白 内面：灰白	焼成良好。唐草文。
308	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	平瓦	不明						縦 17.2 横 13.2 厚さ 2.1	不明		外面：タタキ。ナデ。内面：縄蓆文タタキ。	石英・赤色斑粒	外面：明黄褐 内面：灰	焼成良好。
309	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	平瓦	不明						縦 12.2 横 9.1 厚さ 2.3	不明		外面：ナデ。内面：タタキ(3条/cm)。	石英・結晶片岩・黒色斑粒	外面：灰 内面：淡黄・灰	焼成良好。
310	SX1007	J-6	覆土	丸瓦	不明						縦 7.2 横 8.2 厚さ 1.8	不明		外面：ナデ。内面：ナデ。一部布目痕。	長石・雲母	外面：にぶい黄 内面：にぶい黄	焼成不良。
311	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	瓦	破片						縦 7.9 横 8.6 厚さ 2.8	不明		外面：ナデ。不明。内面：ナデ。一部布目痕。	石英・結晶片岩	外面：にぶい黄橙 内面：にぶい黄橙	焼成やや不良。
312	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	瓦	破片						縦 7.9 横 7.8 厚さ 1.5	不明		外面：ナデ。内面：ナデ。布目痕。	石英	外面：にぶい黄 内面：にぶい黄	焼成やや不良。
313	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	瓦	破片						縦 8.8 横 7.7 厚さ 1.3	不明		外面：板ナデ。内面：ケズリのちナデ。	石英・雲母・赤色斑粒・黒色斑粒	外面：黄灰 内面：黄灰に灰白が混じる	焼成やや不良。
314	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	瓦	破片						縦 8.0 横 7.7 厚さ 1.8	不明		外面：タタキ(3条/cm)。内面：ナデ。	石英	外面：灰白 内面：淡黄	焼成良好。
315	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	瓦	破片						縦 7.2 横 6.5 厚さ 2.9	不明		外面：タタキ(2条/cm)。内面：ナデ。	石英	外面：灰 内面：灰	焼成良好。
316	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	瓦	破片						縦 3.3 横 6.8 厚さ 2.2	不明		外面：タタキ。内面：ナデ。	石英・長石	外面：淡黄 内面：淡黄	焼成やや不良。
317	SX1007	J-6	覆土	丸瓦	破片						縦 5.8 横 8.3 厚さ 1.7	不明		外面：ナデ。内面：ナデ。一部布目痕。	長石・雲母・赤色斑粒	外面：にぶい黄橙 内面：にぶい黄橙	焼成不良。
318	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	瓦	破片						縦 6.6 横 6.5 厚さ 2.1	不明		外面：摩滅のため調整不明。内面：摩滅のため調整不明。	石英・結晶片岩	外面：明黄褐 内面：明黄褐	
319	SX1007	遺構北側	覆土	平瓦	破片						縦 6.2 横 5.0 厚さ 2.0	不明		外面：摩滅のため調整不明。内面：摩滅のため調整不明。	石英・黒色斑粒	外面：灰白 内面：淡黄	焼成良好。
320	SX1007	遺構北側	覆土	瓦	破片						縦 6.5 横 6.6 厚さ 1.8	不明		外面：ナデ。内面：ナデ。	長石・雲母	外面：灰黄 内面：灰黄	焼成不良。
321	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	不明土製品	不明						縦 5.8 横 6.3 厚さ 2.7	不明		表面：ナデ。裏面：ユビオサエ。ナデ。爪痕有り。穿孔有り。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：にぶい橙 内面：にぶい橙	焼成良好。

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	器種	残存率	口径(cm)	体部最大径(cm)	底径(cm)	頸部(脚柱)径(cm)	器高・残存高(cm)	その他の法量(cm)	部位	形態	調整	含有物組成	色調	備考
373	SX1008	K·L·M-3·4	覆土	土師質土器杯	口縁部1/10	13.5		9.2		3.5		口縁～底部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁部で僅かに外反し、端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成やや不良。
374	SX1008	L·M-3	覆土	土師質土器杯	口縁部1/16	14.8				2.0		口縁～体部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁部で僅かに外反し、端部を肥厚し丸く収める。	外面：摩滅のため調整不明。 内面：摩滅のため調整不明。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
375	SX1008	K·L·M-3·4	覆土	土師質土器杯	底部1/6			7.1		1.0		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：明黄褐 内面：橙	焼成良好。
376	SX1008	L-4	覆土	土師質土器皿	底部1/4			9.6		1.1		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：浅黄橙 内面：浅黄橙	焼成良好。 接合痕有り。
377	SX1008	K·L·M-3·4	覆土	土師質土器皿	底部1/4			8.4		1.1		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成不良。
378	SX1008	K·L·M-3·4	覆土	土師質土器小皿	全体1/4	8.1		6.2		1.3		口縁～底部	体部外上方へ直線的に短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	雲母・黒色斑粒	外面：にぶい橙 内面：灰白	焼成やや不良。
379	SX1008	K·L·M-3·4	覆土	土師質土器小皿	口縁部1/6	7.8				1.4		口縁部	体部外上方へ直線的に短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成やや不良。
380	SX1008	K·L·M-3·4	覆土	土師質土器小皿	底部1/5			6.8		1.2		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成やや不良。
381	SX1008	L-4	覆土	土師質土器小皿	全体1/4	8.4		6.4		1.4		口縁～底部	体部外上方へ短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・雲母・結晶片岩・赤色斑粒	外面：灰白 内面：灰白	焼成良好。
382	SX1008	K·L·M-3·4	覆土	瓦器椀	底部7/10			4.6		0.8	高台高 0.3	底部	体部外上方へ開く。貼り付け高台でハの字に開き、断面四角形状に収める。	外面：摩滅のため調整不明。 内面：摩滅のため調整不明。	石英	外面：にぶい黄橙 内面：褐灰	焼成やや不良。
383	SX1008	K·L·M-3·4	覆土	土師質土器鍋	口縁部1/22	31.0			27.0	3.4		口縁～体部	口縁部内彎しながら外上方へ開き、端部を方形に収める。	外面：口縁部ナデ。体部ナデのちユビオサエ。 内面：板ナデ。	石英・雲母・結晶片岩	外面：にぶい黄橙 内面：にぶい黄橙	焼成良好。
384	SX1008	L-4	覆土	須恵質土器甕	破片						縦 7.7 横 8.5 厚さ 1.3	不明		外面：タタキ(4条/cm)。 内面：ナデ。	石英・結晶片岩	外面：灰白 内面：灰白	東播系。 魚住系。 焼成良好。
385	SX1008	L-4	覆土	須恵質土器甕	破片						縦 4.5 横 4.9 厚さ 1.6	不明		外面：格子状のタタキ。 内面：ナデ。	長石・雲母	外面：黄灰 内面：褐灰	東播系。 亀山系。 焼成良好。
386	SX1008	K·L·M-3·4	覆土	輪羽口	不明						縦 4.9 横 5.1 厚さ 2.9	不明		外面：調整不明。鉄分付着。 内面：羽口の内部木目。	石英・赤色斑粒	外面：灰褐 内面：にぶい橙	焼成良好。

包含層（土器）

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	器種	残存率	口径(cm)	体部最大径(cm)	底径(cm)	頸部(脚柱)径(cm)	器高・残存高(cm)	その他の法量(cm)	部位	形態	調整	含有物組成	色調	備考
388		I-3	包含層	白磁壺	口縁部1/9	10.8			8.6	3.3		口縁～頸部	頸部から口縁にかけてやや外反し、口縁下端部を拡張している。	外面：ロクロナデのち施釉。 内面：ロクロナデのち施釉。	緻密	釉：グレイみの黄緑 胎：灰白	焼成良好。釉は厚い。
389		P-9	包含層	白磁壺	頸部1/6				11.1	4.5		頸部～体部	頸部直立して、口縁にかけてやや外反する。	外面：ロクロナデのち施釉。 内面：ロクロナデのち施釉。体部露胎。	緻密	釉：黄みの白 胎：灰白	焼成良好。
390	No27トレンチ		客土	白磁壺	頸部1/12				8.8	1.5		頸部～体部	頸部直立し、体部外下方に延びる。	外面：ロクロナデのち施釉。 内面：ロクロナデのち施釉。一部露胎。	緻密	釉：黄みの白 胎：灰白	焼成良好。
391			包含層	白磁合子	全体1/9					1.9		底部に近い体部	体部内彎しながら外上方に延びる。	外面：ロクロナデのち施釉。菊花文。 内面：ロクロナデのち施釉。	緻密	釉：緑みの白 胎：灰白	焼成良好。
392		O-7	包含層	白磁壺	全体1/10					3.9		体部	体部外上方へ内彎しながら立ち上がる。	外面：ロクロナデのち施釉。 内面：ロクロナデ。	緻密	釉：グレイみの黄緑 胎：灰白	焼成良好。
393		Q-9·10	客土	白磁壺	破片						縦 4.2 横 2.7 厚さ 0.6	不明		外面：ロクロナデのち施釉。 内面：ロクロナデ。	緻密	釉：黄みの白 胎：灰白	焼成良好。
394		P-7·8	客土	青磁碗	全体1/5	16.4				5.0		口縁～体部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁部で若干外反し端部を丸く収める。	外面：ロクロナデのち施釉。鎬蓮弁文。 内面：ロクロナデのち施釉。	緻密	釉：グレイみの黄緑 胎：灰白	龍泉窯系。焼成良好。
395		P-8	客土	青磁碗	口縁部1/14	14.0				4.0		口縁～体部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁部で若干肥厚し端部を丸く収める。	外面：ロクロナデのち施釉。鎬蓮弁文。 内面：ロクロナデのち施釉。	緻密	釉：グレイみの黄緑 胎：灰白	龍泉窯系。焼成良好。
396		P-8	客土	青磁碗	口縁部1/21	15.6				3.3		口縁～体部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁部で若干外反し端部を丸く収める。	外面：ロクロナデのち施釉。鎬蓮弁文。 内面：ロクロナデのち施釉。	緻密	釉：グレイみの黄 胎：灰白	龍泉窯系。焼成良好。
397	No5トレンチ		包含層	青磁碗	口縁部1/12	16.1				3.5		口縁～体部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ロクロナデのち施釉。蓮弁文。 内面：ロクロナデのち施釉。	緻密	釉：グレイみのオリーブグリーン 胎：灰白	焼成良好。釉は厚い。
398		東側側溝	包含層	青磁碗	口縁部1/20	16.5				3.8		口縁～体部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁部で若干外反し端部を丸く収める。	外面：ロクロナデのち施釉。鎬蓮弁文。 内面：ロクロナデのち施釉。	緻密	釉：グレイみのオリーブ 胎：灰白	焼成良好。
399	No25トレンチ		包含層	青磁碗	口縁部1/16	16.2				3.5		口縁～体部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ロクロナデのち施釉。 内面：ロクロナデのち施釉。片彫り。ヘラ状工具による施文。	緻密	釉：あかるいオリーブみのグレイ 胎：灰白	龍泉窯系。焼成良好。
400		P-8	客土	青磁碗	全体1/8	15.4				3.5		口縁～体部	体部外上方へ直線的に開き、口縁部で僅かに外反し、端部を丸く収める。	外面：ロクロナデのち施釉。鎬蓮弁文。 内面：ロクロナデのち施釉。	緻密	釉：グレイみのオリーブ 胎：灰白	龍泉窯系。焼成良好。
401	No5トレンチ		客土	青磁碗	口縁部1/10	14.9				3.2		口縁～体部	体部外上方へ緩やかに内彎しながら立ち上がり、口縁部で若干外反し、端部を丸く収める。	外面：ロクロナデのち施釉。鎬蓮弁文。 内面：ロクロナデのち施釉。	緻密	釉：グレイみの黄緑 胎：灰白	龍泉窯系。焼成良好。

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	器種	残存率	口径 (cm)	体部最大径 (cm)	底径 (cm)	頸部(脚柱)径 (cm)	器高・残存高 (cm)	その他の法量 (cm)	部位	形態	調整	含有物組成	色調	備考
402		O-8	客土	青磁碗	口縁部 1/30	17.8				3.9		口縁～体部	体部外上方へ直線的に開き、口縁部で僅かに外反し、端部を丸く収める。	外面：ロクロナデのち施釉。内面：ロクロナデのち施釉。	緻密	釉：グレイみの黄 胎：褐灰	龍泉窯系。焼成良好。釉は薄い。
403		L-8	包含層	青磁碗	全体 1/8	15.0				4.5		口縁～体部	体部外上方へ緩やかに内彎しながら立ち上がり、口縁部で僅かに外反し、端部を丸く収める。	外面：ロクロナデのち施釉。内面：ロクロナデのち施釉。	緻密	釉：オリーブ 胎：灰黄	龍泉窯系。焼成良好。
404			客土	青磁碗	口縁部 1/18	14.5				1.9		口縁～体部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁部で若干外反し端部を丸く収める。	外面：ロクロナデのち施釉。蓮弁文。内面：ロクロナデのち施釉。	緻密	釉：グレイみのオリーブグリーン 胎：灰白	龍泉窯系。焼成良好。
405		P-8	客土	青磁碗	口縁部 1/21	14.0				2.0		口縁～体部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁部で若干肥厚し端部を丸く収める。	外面：ロクロナデのち施釉。鎬蓮弁文。内面：ロクロナデのち施釉。	緻密	釉：グレイみのオリーブ 胎：灰白	龍泉窯系。焼成良好。
406		P-8	客土	青磁碗	口縁部 1/16	14.4				1.8		口縁部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁部で若干肥厚し端部を丸く収める。	外面：ロクロナデのち施釉。内面：ロクロナデのち施釉。	緻密	釉：グレイみの黄緑 胎：灰白	龍泉窯系。焼成良好。
407			包含層	青磁碗	全体 1/8			3.0		4.6		底部に近い体部	体部内彎しながら立ち上がる。	外面：ロクロナデのち施釉。内面：ロクロナデのち施釉。見込みに沈線。	緻密	釉：オリーブ 胎：灰白	龍泉窯系。焼成良好。
408		J-6	包含層	青磁碗	体部 1/6					3.2		体部	体部外上方に延びる。	外面：ロクロナデのち施釉。内面：ロクロナデのち施釉。	緻密	釉：グレイみの黄緑 胎：灰白	龍泉窯系。焼成良好。
409		N-8	包含層	青磁碗	全体 1/16					3.8		体部	体部外上方へ内彎しながら立ち上がる。	外面：ロクロナデのち施釉。蓮弁文。内面：ロクロナデのち施釉。	緻密	釉：グレイみの黄緑 胎：灰白	龍泉窯系。焼成良好。
410		P-8	包含層	青磁碗	全体 1/8			6.0		3.7	高台高 0.9	体部～底部	体部外上方へ内彎しながら立ち上がる。削り出し高台で浅く直立し、断面を方形状に収める。畳付は無釉。	外面：ロクロナデのち施釉。内面：ロクロナデのち施釉。ヘラ状工具による施文有り。	緻密	釉：グレイみのオリーブグリーン 胎：灰白	龍泉窯系。焼成良好。
411		調査区南側	包含層	青磁碗	底部 1/1			6.0		2.1	高台高 0.7	底部	体部外上方へ内彎しながら立ち上がる。削り出し高台で直立し、断面を方形状に収める。畳付から高台内は掻き取りのため無釉。	外面：ロクロナデのち施釉。内面：ロクロナデのち施釉。見込みにヘラ状工具による片彫り。圏線内に唐草文。草花文。飛雲文。	緻密	釉：グレイみのオリーブグリーン 胎：灰白	龍泉窯系。焼成良好。
412		P-8	包含層	青磁碗	破片						縦 4.0 横 3.8 厚さ 1.3	不明		外面：ロクロナデのち施釉。鎬蓮弁文。内面：ロクロナデのち施釉。	緻密	釉：グレイみのオリーブグリーン 胎：黄灰	龍泉窯系。焼成良好。
413		K-7	包含層	青磁碗	破片						縦 3.7 横 3.7 厚さ 1.0	不明		外面：ロクロナデのち施釉。鎬蓮弁文。内面：ロクロナデのち施釉。	緻密	釉：グレイみの黄 胎：灰白	龍泉窯系。焼成良好。
414	No27 トレンチ		客土	青磁碗	破片						縦 2.5 横 3.6 厚さ 0.5	不明		外面：ロクロナデのち施釉。鎬蓮弁文。内面：ロクロナデのち施釉。	緻密	釉：グレイみのオリーブグリーン 胎：灰白	龍泉窯系。焼成良好。
415		M-8	客土	青磁碗	破片						縦 1.6 横 1.3 厚さ 0.6	不明		外面：ロクロナデのち施釉。内面：ロクロナデのち施釉。	緻密	釉：グレイみの黄緑 胎：灰白	龍泉窯系。焼成良好。
416			包含層	青磁碗	破片						縦 3.3 横 2.4 厚さ 0.6	不明		外面：ロクロナデのち施釉。内面：ロクロナデのち施釉。内外面にヘラ状工具による施文有り。	緻密	釉：グレイみの黄 胎：浅黄	龍泉窯系。焼成良好。
417	No26 トレンチ		客土	青磁碗	破片						縦 3.5 横 2.2 厚さ 0.6	不明		外面：ロクロナデのち施釉。一部露胎。櫛目文。内面：ロクロナデのち施釉。櫛目かき及びヘラによる施文。釉は薄い。	緻密	釉：グレイみの黄 胎：灰白	同安窯系。焼成良好。
418		L-4	包含層	青磁碗	破片						縦 1.2 横 2.2 厚さ 0.4	不明		外面：ロクロナデのち施釉。内面：ロクロナデのち施釉。	緻密	釉：グレイみの黄 胎：灰白	同安窯系。焼成良好。内、外面にヘラ、櫛状工具による施文有り。
419	No5 トレンチ		包含層	陶器 唐津焼 椀	口縁部 1/10	12.1				2.8		口縁～体部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ロクロナデのち施釉。内面：ロクロナデのち施釉。	緻密	釉：ブラウンみのグレイ 胎：灰黄褐	焼成良好。
420		Q-9･10	客土	陶器 瀬戸焼 椀	底部 1/5			5.8		2.2	高台高 0.7	底部	体部外上方へ内彎しながら立ち上がる。削り出し高台で直立し、断面を逆台形状に収める。やや高い。畳付のみ露胎。	外面：ロクロナデのち施釉。内面：ロクロナデのち施釉。高台内施釉。	緻密	釉：にぶい黄 胎：灰白	焼成良好。内、外面貫入顕著。
421		東側側溝	包含層	陶器 唐津焼 皿	底部 1/2			4.4		1.5		底部	体部外上方に延びる。底部ヘラ状のものによる削り出し。	外面：ナデ。無釉。内面：ナデ。施釉。内面に重ね焼きの砂目。	石英・雲母	釉：灰釉黄みのグレイ 胎：にぶい橙	焼成良好。砂目皿。
422			包含層	磁器 小皿	ほぼ完形	4.6		2.3		1.2	高台高 0.3	口縁～底部	体部外上方へ短く立ち上がる。削り出し高台で直立し、断面を台形状に収める。畳付は無釉。	外面：ロクロナデのち施釉。内面：ロクロナデのち施釉。	緻密	釉：黄みの白 胎：灰白	肥前系。焼成良好。
424		R-7	客土	瓦器 椀	全体 1/8	14.9		5.0		4.1	高台高 0.2	口縁～底部	体部外上方へ緩やかに開き、口縁部で僅かに外反し、端部を丸く収める。貼り付け高台でハの字に開き、断面逆台形状に収め、退化気味である。	外面：口縁部ナデ。体部ユビオサエのちナデ。内面：摩滅のため調整不明。	石英	外面：褐灰 内面：浅黄橙	和泉系。焼成良好。内、外面被熱により変色。
425		A-7 L=27.082m	第1遺構面直上	瓦器 椀	全体 1/5	15.8		3.8		4.5	高台高 0.2	口縁～底部	体部外上方へ緩やかに内彎しながら立ち上がり、口縁端部を丸く収める。貼り付け高台でハの字に開き、断面を逆台形状に収める。	外面：口縁部ナデ。体部ユビオサエ。底部ナデ。内面：調整不明。	石英	外面：灰白・暗黄灰 内面：黒褐	和泉系。焼成やや不良。
426			包含層	瓦器 椀	口縁部 1/8	15.3				4.5		口縁～体部	体部外上方へ緩やかに内彎しながら立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：口縁部ナデ。体部ユビオサエ。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：淡黄 内面：淡黄	和泉系。焼成良好。

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	器種	残存率	口径(cm)	体部最大径(cm)	底径(cm)	頸部(脚柱)径(cm)	器高・残存高(cm)	その他の法量(cm)	部位	形態	調整	含有物組成	色調	備考
427		N-7	客土	瓦器椀	口縁部1/4	15.4				3.4		口縁～体部	体部外上方へ緩やかに内彎しながら立ち上がり、口縁部で僅かに外反し、端部を丸く収める。	外面：ユビオサエのちナデ。内面：摩滅のため調整不明。	石英	外面：黒褐 内面：黒褐	和泉系。焼成良好。
428			包含層	瓦器椀	口縁部1/8	15.0				3.7		口縁～体部	体部外上方へ内彎しながら立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：摩滅のため調整不明。内面：摩滅のため調整不明。	石英・赤色斑粒	外面：灰白 内面：灰白	和泉系。焼成良好。
429		R-7･8	包含層	瓦器椀	口縁部1/13	16.0				2.1		口縁～体部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁部で若干肥厚し端部を丸く収める。	外面：ナデ。内面：ミガキ。	長石	外面：灰 内面：灰	和泉系。焼成やや不良。
430		調査区南側	包含層	瓦器椀	口縁部1/14	14.3				2.6		口縁～体部	体部外上方に直線的に立ち上がる。口縁部若干外反し、端部を丸く収める。	外面：ナデ。内面：ナデ。	石英・雲母・黒色斑粒	外面：灰白 内面：灰白	和泉系。焼成良好。
431	No26トレンチ		客土	瓦器椀	全体1/12	14.0				2.0		口縁～体部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：口縁部ナデ。体部ユビオサエのちナデ。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：褐灰 内面：褐灰	和泉系。焼成良好。
432	No26トレンチ		客土	瓦器椀	口縁部1/7	13.8				2.9		口縁～体部	体部外上方へ内彎しながら立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：口縁部ナデ。体部ナデのちユビオサエ。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：灰白 内面：灰白	和泉系。焼成やや不良。
433			客土	瓦器小皿	口縁部1/8	7.8				1.6		口縁～体部	体部内彎しながら立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：口縁部ナデ。体部ユビオサエのちナデ。内面：ナデ。	雲母	外面：黄灰 内面：黄灰	和泉系。焼成不良。
434		調査区南側	客土	瓦器皿	底部1/5			7.0		1.4		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	長石・赤色斑粒	外面：灰白 内面：灰白	和泉系。焼成やや不良。
435		調査区南側	包含層	瓦質土器擂鉢	口縁部1/12	24.8				4.8		口縁部	体部内彎しながら立ち上がる。口縁端部を方形状に収める。端面は平坦。	外面：ハケ(5条/0.7cm)。内面：ナデ。擂目有り。	長石・雲母	外面：灰 内面：灰	焼成やや不良。
436		P-8	客土	瓦質土器釜脚部	不明						長さ 9.3 幅 2.9	脚部		外面：ナデ。	長石・雲母	外面：にぶい黄橙 内面：にぶい黄橙	焼成やや不良。
437			包含層	瓦質土器釜脚部	不明						縦 6.9 横 2.1 厚さ 2.0	脚部		外面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：灰白 内面：灰白	焼成良好。
438		S-9	包含層	土師質土器椀	口縁部1/11	16.4				3.8		口縁～体部	体部外上方に直線的に立ち上がる。口縁部若干外反し、端部を丸く収める。	外面：ナデ。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：黄橙 内面：にぶい黄橙	焼成やや不良。
439		Q-7	客土	土師質土器杯	全体1/2	12.0		7.0		3.1		口縁～底部	体部内彎しながら立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：にぶい褐 内面：にぶい褐	焼成やや不良。
440			客土	土師質土器杯	全体1/2	12.8		7.0		3.5		口縁～底部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部ヘラ切り。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：浅黄橙 内面：浅黄橙	焼成やや不良。
441			包含層	土師質土器杯	底部1/2	11.2		9.0		2.8		口縁～底部	体部内彎しながら上方に立ち上がる。口縁端部を尖り気味に収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：にぶい黄橙 内面：にぶい橙	焼成やや不良。
442			客土	土師質土器杯	口縁部1/10	13.8				3.5		口縁～体部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
443			客土	土師質土器杯	全体1/2	10.4		5.5		3.4		口縁～底部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部ヘラ切り。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
444		R-7･8	包含層	土師質土器杯	口縁部1/11	12.6				2.7		口縁～体部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁部で若干外反し端部を丸く収める。	外面：ナデ。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
445		調査区南側	包含層	土師質土器杯	全体1/8			9.2		2.2		体部～底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
446		調査区南側	包含層	土師質土器杯	底部1/2			9.2		1.9		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：黄橙 内面：黄橙	焼成良好。
447		O-8	客土	土師質土器杯	底部1/5			9.2		2.8		体部～底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成不良。
448		調査区南側	包含層	土師質土器杯	底部1/8			8.6		1.5		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
449		R-7	客土	土師質土器杯	底部1/6			11.8		1.6		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
450	No26トレンチ		客土	土師質土器杯	全体1/4			7.6		2.1		体部～底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：浅黄橙 内面：浅黄橙	焼成良好。
451		R-7	客土	土師質土器杯	底部1/5			7.8		1.4		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成不良。
452	No26トレンチ		客土	土師質土器杯	底部1/3			8.9		1.3		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒・黒色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
453		O･P-8･9	客土	土師質土器杯	全体1/6			7.4		1.8		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
454		調査区南側	包含層	土師質土器杯	底部1/5			8.0		1.8		体部～底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：灰白 内面：灰白	焼成やや不良。
455	No25トレンチ		包含層	土師質土器杯	底部1/4			9.2		1.3		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。摩滅している。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
456	No28トレンチ		客土	土師質土器杯	底部1/4			6.6		1.0		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
457		R-9	客土	土師質土器杯	底部1/4			9.0		1.2		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英	外面：黄橙 内面：黄橙	焼成良好。
458		P-8	客土	土師質土器杯	底部1/6			6.4		1.7		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	長石・赤色斑粒	外面：浅黄橙 内面：浅黄橙	焼成不良。
459		O-8	客土	土師質土器杯	底部1/3	8.4				1.0		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：にぶい黄橙 内面：にぶい黄橙	焼成不良。

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	器種	残存率	口径(cm)	体部最大径(cm)	底径(cm)	頸部(脚柱)径(cm)	器高・残存高(cm)	その他の法量(cm)	部位	形態	調整	含有物組成	色調	備考
460			客土	土師質土器 杯	全体 8/10			6.8		1.8		体部～底部	体部外上方に延びる。体部と底部との境、不明瞭。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
461		P-8	客土	土師質土器 杯	底部 1/8			7.6		1.3		底部	平底。体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：明黄褐 内面：明黄褐	焼成良好。
462			包含層	土師質土器 杯	底部 1/5			8.0		1.3		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙・にぶい黄橙 内面：にぶい橙	焼成良好。
463		K-6	客土	土師質土器 杯	底部 1/3			5.8		1.0		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転ヘラ切り。 内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒・黒色斑粒	外面：浅黄橙 内面：浅黄橙	焼成やや不良。
464		R-7·8	包含層	土師質土器 杯	底部 1/3			7.4		0.8		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
465		P-8	客土	土師質土器 杯	底部 1/4			7.0		1.9		底部	平底。体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。弥生土器。
466		R-8	包含層	土師質土器 Ⅲ	全体 1/3	14.9		10.0		2.8		口縁～底部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：浅黄橙 内面：浅黄橙	焼成良好。
467		Q-5	包含層	土師質土器 Ⅲ	口縁部 1/8 底部 1/9	14.4		9.8		3.0		口縁～底部	体部やや内彎しながら立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部摩滅のため調整不明。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：にぶい黄橙 内面：にぶい黄橙	焼成良好。
468	No28 トレンチ		包含層	土師質土器 Ⅲ	全体 1/8	13.8		9.6		3.1		口縁～底部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
469			包含層	土師質土器 Ⅲ	底部 1/9	15.6		12.0		2.6		口縁～底部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁端部をやや尖り気味に収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	雲母	外面：にぶい橙 内面：浅黄橙	焼成不良。
470			客土	土師質土器 Ⅲ	口縁部 1/8 底部完形	10.4		7.7		3.5		口縁～底部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁端部を丸く収める。左右で傾きが異なる。	外面：ナデ。底部摩滅のため調整不明。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：浅黄橙	焼成良好。
471		R-7·8	包含層	土師質土器 Ⅲ	口縁部 1/10	14.4				2.5		口縁～体部	体部内彎しながら立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：にぶい橙 内面：にぶい橙	焼成良好。
472		O·P-8·9	客土	土師質土器 Ⅲ	全体 1/8	13.0				2.2		口縁～体部	体部外上方へ緩やかに内彎しながら立ち上がり、口縁部で僅かに外反し、端部を丸く収める。	外面：ナデ。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：浅黄橙 内面：浅黄橙	焼成良好。
473		P-8	客土	土師質土器 Ⅲ	口縁部 1/9	9.4				1.9		口縁部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。 内面：ナデ。	長石・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成不良。
474		調査区北側	包含層	土師質土器 Ⅲ	底部 1/5			10.0		1.4		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：にぶい橙 内面：浅黄橙	焼成良好。
475		R-7·8	包含層	土師質土器 Ⅲ	底部 1/5			10.4		2.3		体部～底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
476		R-9	客土	土師質土器 Ⅲ	底部 1/12			11.9		1.1		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
477		R-7	客土	土師質土器 Ⅲ	底部 1/6			11.4		1.1		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
478		R-7	包含層	土師質土器 Ⅲ	底部 1/6				11.4	1.1		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：黄橙 内面：黄橙	焼成良好。
479		R-7·8	包含層	土師質土器 Ⅲ	底部 1/9			11.0		1.0		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
480		R-7	客土	土師質土器 Ⅲ	底部 1/4			10.4		1.0		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成やや不良。
481		N-7	包含層	土師質土器 Ⅲ	底部 1/4			10.0		1.5		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
482		R-9	第1遺構面直上 L=25.847m	土師質土器 Ⅲ	全体 1/3			10.6		1.5		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：浅黄橙 内面：浅黄橙	焼成良好。
483			客土	土師質土器 Ⅲ	全体 1/5			9.6		1.6		体部～底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
484		R-6	客土	土師質土器 Ⅲ	底部 1/10			10.4		1.1		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
485	No26 トレンチ		客土	土師質土器 Ⅲ	底部 1/6			9.6		1.1		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：にぶい橙 内面：にぶい橙	焼成良好。
486			包含層	土師質土器 Ⅲ	底部 9/10			9.8		0.9		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
487		O-8	客土	土師質土器 Ⅲ	底部 1/3			9.8		1.8		体部～底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
488		P-8	包含層	土師質土器 Ⅲ	底部 1/6			9.2		0.8		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：にぶい橙 内面：浅黄橙	焼成良好。
489			客土	土師質土器 Ⅲ	底部 1/4			10.6		1.4		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	長石・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成不良。
490		K-7	客土	土師質土器 Ⅲ	底部 1/7			10.0		1.1		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成やや不良。
491		O·P-8·9	客土	土師質土器 Ⅲ	底部 1/6			8.2		0.8		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
492			包含層	土師質土器 Ⅲ	底部 1/8			9.0		1.1		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
493		R-8	包含層	土師質土器 Ⅲ	底部 1/4			9.8		0.9		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	器種	残存率	口径(cm)	体部最大径(cm)	底径(cm)	頸部(脚柱)径(cm)	器高・残存高(cm)	その他の法量(cm)	部位	形態	調整	含有物組成	色調	備考
494		S-7	包含層	土師質土器皿	底部1/4			9.6		0.8		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：にぶい橙内面：橙	焼成良好。
495		J-6	包含層	土師質土器皿	底部1/6			9.6		0.8		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙内面：橙	焼成良好。
496			客土	土師質土器皿	底部1/5			10.0		0.7		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙内面：橙	焼成良好。
497		O-8	客土	土師質土器皿	底部1/6			10.0		0.9		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英	外面：橙内面：橙	焼成良好。
498		P-8	客土	土師質土器皿	底部1/4			9.8		1.1		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部摩滅のため調整不明。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：明黄褐内面：明黄褐	焼成良好。
499		N-8	客土	土師質土器皿	底部1/7			9.2		1.4		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：にぶい橙内面：橙	焼成良好。
500		Q-9·10	客土	土師質土器皿	底部1/4			8.0		1.0		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：橙内面：にぶい橙	焼成不良。
501		Q-7	包含層	土師質土器皿	底部ほぼ完形			9.0		1.8		体部～底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：浅黄橙内面：灰白	焼成良好。
502	No10トレンチ		包含層	土師質土器皿	底部1/6			7.6		0.9		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：浅黄橙内面：浅黄橙	焼成やや不良。
503			客土	土師質土器皿	全体1/3			7.8		1.2		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・長石・赤色斑粒	外面：黄橙内面：黄橙	焼成良好。
504		O·P-8·9	客土	土師質土器皿	底部1/8			8.4		0.8		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙内面：にぶい黄橙	焼成良好。
505		I-5	包含層	土師質土器皿	底部1/11			9.4		1.2		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：にぶい黄橙内面：浅黄橙	焼成良好。
506	No26トレンチ		客土	土師質土器皿	全体1/4			7.6		1.1		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙内面：橙	焼成良好。
507	No25トレンチ		包含層	土師質土器皿	底部1/4			7.8		0.9		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙内面：橙	焼成良好。
508	No23トレンチ		遺構面直上	土師質土器皿	底部1/4			7.0		0.8		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：浅黄橙内面：浅黄橙	焼成良好。
509		調査区南側	包含層	土師質土器皿	底部1/4			5.4		0.9		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙内面：橙	焼成良好。
510		O-8	客土	土師質土器皿	底部1/3			7.8		0.8		底部	体部外上方に延びる。体部と底部との境、不明瞭。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙内面：橙	焼成良好。
511			客土	土師質土器皿	底部1/5			6.2		0.7		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：にぶい橙内面：にぶい橙	焼成不良。
512		L-7	包含層	土師質土器皿	底部1/5			8.0		1.3		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙内面：浅黄橙	焼成良好。接合痕有り。
513	No25トレンチ		包含層	土師質土器小皿	全体7/10	8.0		5.6		1.0		口縁～底部	体部外上方へ短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙内面：橙	焼成良好。
514		P-8	客土	土師質土器小皿	全体1/4	7.3		6.4		1.5		口縁～底部	体部短く立ち上がり、端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・雲母	外面：明灰黄内面：淡黄	焼成良好。
515		P-8	包含層	土師質土器小皿	全体1/2	8.4		6.4		1.2		口縁～底部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・長石・赤色斑粒	外面：橙内面：橙	焼成良好。
516		調査区北側	包含層	土師質土器小皿	全体3/4	7.8		6.0		1.1		口縁～底部	体部外上方へ短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：橙内面：橙	焼成やや不良。
517		Q-7	客土	土師質土器小皿	全体1/10	7.4		5.8		0.9		口縁～底部	体部短く立ち上がり、端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・長石	外面：橙内面：橙	焼成良好。
518		R-8	包含層	土師質土器小皿	全体1/4	7.8		5.2		1.3		口縁～底部	体部内彎しながら短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英	外面：にぶい橙内面：橙	焼成良好。
519		調査区北側	包含層	土師質土器小皿	口縁部1/5	7.6		6.0		1.2		口縁～底部	体部外上方へ短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：橙内面：橙、にぶい褐	焼成やや不良。
520		Q-9·10	客土	土師質土器小皿	全体1/3	8.4		6.4		1.5		口縁～底部	体部外上方へ短く立ち上がり、端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	長石・赤色斑粒	外面：にぶい橙内面：にぶい橙	焼成不良。
521	No26トレンチ		客土	土師質土器小皿	全体1/6	9.6		8.4		1.0		口縁～底部	体部外上方へ短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	長石・赤色斑粒	外面：橙内面：橙	焼成不良。
522		調査区南側	包含層	土師質土器小皿	口縁部1/9	8.4		6.6		1.2		口縁～底部	体部外上方へ短く立ち上がり、口縁端部を四角く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：にぶい黄橙内面：にぶい黄橙	焼成やや不良。
523		Q-7	客土	土師質土器小皿	全体1/6	7.4		4.6		1.5		口縁～底部	体部外上方へ直線的に短く立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・雲母・結晶片岩・赤色斑粒	外面：浅黄橙内面：にぶい橙	焼成良好。
524		Q-8	包含層	土師質土器小皿	底部1/3			5.8		1.3		底部	体部外上方に延びる。	外面：表面の剥離が著しいため調整不明。底部回転糸切りのちナデ。内面：ナデ。	石英・雲母・結晶片岩・赤色斑粒	外面：橙内面：浅黄橙	焼成良好。
525		調査区北側	包含層	土師質土器小皿	底部1/4			5.6		0.8		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：にぶい黄橙内面：にぶい黄橙	焼成やや不良。
526		K-7	包含層	土師質土器小皿	底部1/4			5.8		1.3		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：浅黄橙内面：浅黄橙	焼成良好。
527		P-8	客土	土師質土器小皿	底部1/12			5.6		1.4		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。内面：ナデ。	雲母・赤色斑粒	外面：にぶい橙内面：にぶい橙	焼成やや不良。

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	器種	残存率	口径(cm)	体部最大径(cm)	底径(cm)	頸部(脚柱)径(cm)	器高・残存高(cm)	その他の法量(cm)	部位	形態	調整	含有物組成	色調	備考
528		O·P-8·9	客土	土師質土器小皿	底部1/4			6.0		1.0		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
529		J-6	包含層	土師質土器小皿	底部1/4			6.0		0.9		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
530		東側側溝	包含層	土師質土器釜	口縁部1/16	24.8				3.1		口縁部	体部直立しながら立ち上がり、口縁で僅かに内傾し端部を四角く収める。	外面：ナデ。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：明褐 内面：明褐	焼成良好。
531		調査区南側	包含層	土師質土器羽釜	口縁部1/10以下	23.6				2.6	鍔径25.9	口縁部	体部直線的に立ち上がり、口縁部は若干内傾する。口縁端部は丸く収め、断面逆三角形の短い鍔が水平に付く。	外面：ナデ。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：灰 内面：暗灰	焼成やや不良。端部折り返し鍔を作り出し、口縁部貼り付け。 接合痕有り。
532		P-7·9	包含層	土師質土器釜	全体1/5	28.0			22.0	15.7		口縁～体部	体部外上方へ立ち上がり、体部上位で最大径をもち、くの字に屈曲して、口縁部で大きく外反し、端部を上方に尖り気味に収める。	外面：口縁部ハケ(13条/2cm)。体部ナデ。 内面：口縁部ハケ(9条/cm)。体上部ハケ(10条/cm)。体下部ナデ。	長石・雲母・赤色斑粒	外面：にぶい褐 内面：にぶい褐	焼成やや不良。搬入品（雲母が多い）。
533	No25トレンチ		客土	土師質土器釜	口縁部1/10	19.2				3.6		口縁部	体部は直立に立ち上がり、口縁端部は方形状に収める。	外面：ナデ。 内面：ナデ。	石英・長石・雲母・赤色斑粒	外面：にぶい赤褐 内面：にぶい橙	焼成やや不良。
534		N-7	客土	土師質土器鍋	口縁部1/24	33.0				1.2		口縁部	口縁部大きく外反し、端部を四角く収め、下方へ拡張する。	外面：ナデ。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：にぶい橙 内面：にぶい橙	焼成良好。
535		P-8	客土	土師質土器鍋	口縁部1/23	31.7			28.9	1.6		口縁部	口縁部外反し、端部を四角く収め、上方へ拡張する。	外面：口縁部ナデ。体部ユビオサエ。 内面：ナデ。	石英・雲母・結晶片岩	外面：にぶい黄褐 内面：にぶい橙	焼成良好。外面に黒斑有り。
536		M-8	客土	土師質土器鍋	口縁部1/23	30.0				1.4		口縁部	口縁部大きく外反し、端部を四角く収める。端部上方は欠損。	外面：ナデ。 内面：ナデ。ユビオサエのちナデ。	石英・雲母	外面：にぶい褐 内面：にぶい褐	焼成良好。
537		S-8	包含層	土師質土器鍋	口縁部1/16	26.0			24.0	3.4		口縁部	体部内彎しながら立ち上がる。口縁部で屈曲、内傾し、端部を丸く収める。	外面：口縁部ナデ。体部ハケ。 内面：ナデ。	石英・長石・雲母	外面：にぶい黄褐 内面：にぶい黄橙	焼成やや不良。
538			包含層	土師質土器鍋	口縁部1/18	27.8				2.8		口縁部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁端部を方形状に収める。	外面：ナデ。 内面：ナデ。ハケ(7条/1.4cm)。	石英・赤色斑粒	外面：にぶい褐 内面：にぶい黄褐	焼成良好。
539		K-7	客土	土師質土器羽釜	破片					3.2	縦 3.3 横 2.6 厚さ 1.2	鍔部	端部を折り返して鍔を作り、口縁部貼り付け。	外面：ナデ。 内面：ナデ。	石英・雲母・赤色斑粒	外面：褐灰 内面：灰白	焼成やや不良。
540			包含層	土師質土器釜脚部	脚部1/1						長さ15.3 幅 5.9	脚部		外面：ユビオサエのちナデ。	石英・雲母・赤色斑粒・黒色斑粒	外面：灰白 内面：灰白	焼成良好。
541			包含層	土師質土器釜脚部	不明						長さ 9.4 幅 4.5	脚部		外面：ユビオサエのちナデ。	石英・長石・雲母	外面：にぶい褐 内面：にぶい赤褐	焼成良好。
542		L-6	客土	土師質土器釜脚部	不明						長さ 8.4 幅 4.1	脚部		外面：板ナデ。ナデ。	石英・雲母・結晶片岩・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
543		調査区北側	包含層	土師質土器釜脚部	不明						長さ 6.5 幅 3.3	脚部		外面：ユビオサエのちナデ。	石英・結晶片岩・赤色斑粒	外面：にぶい赤褐 内面：にぶい赤褐	焼成良好。
544		J-6	包含層	土師質土器釜脚部	不明						長さ 6.3 幅 2.4	脚部		外面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：橙 内面：橙	焼成良好。
545		P-8	包含層	須恵質土器甕	破片						縦 7.7 横 14.3 厚さ 0.7	不明		外面：斜めタタキ。 内面：ナデ。	雲母	外面：灰白 内面：灰白	東播系。 魚住系。 焼成良好。
546		P-8	包含層	須恵質土器甕	破片						縦 9.3 横 12.9 厚さ 0.6	不明		外面：斜めタタキ。 内面：ナデ。	石英・雲母・黒色斑粒	外面：灰 内面：灰	東播系。 魚住系。 焼成良好。
547		P-8	包含層	須恵質土器甕	破片						縦 4.3 横 5.9 厚さ 0.9	不明		外面：タタキ。 内面：ナデ。	石英・黒色斑粒	外面：灰白 内面：灰白	東播系。 魚住系。 焼成良好。
548		P-8	包含層	須恵質土器甕	破片						縦 4.3 横 4.3 厚さ 1.2	不明		外面：格子目状タタキ。 内面：ナデ。	石英・長石・黒色斑粒	外面：灰白 内面：灰	東播系。 魚住系。 焼成良好。
549		調査区南側	包含層	須恵質土器甕	不明						縦 5.8 横 6.0 厚さ 1.6	不明		外面：タタキ(3条/cm)。 内面：ナデ。	石英・長石・雲母	外面：灰 内面：淡黄	東播系。 魚住系。 焼成やや不良。
550		P-8	包含層	須恵質土器甕	破片						縦 3.9 横 4.0 厚さ 1.0	不明		外面：格子目状タタキ。 内面：ナデ。	石英	外面：灰白 内面：灰白	東播系。 亀山系。 焼成良好。
551		P-8	包含層	須恵質土器こね鉢	口縁部1/24	26.2				3.8		口縁部	体部外上方に立ち上がる。口縁端部上方に若干拡張し、尖り気味に収める。	外面：ナデ。 内面：ナデ。	石英	外面：黄灰 内面：褐灰	東播系。焼成良好。
552		P-8	包含層	須恵質土器こね鉢	口縁部1/20	27.2				3.6		口縁部	体部外上方に立ち上がる。口縁端部上方に若干拡張し、尖り気味に収める。	外面：ナデ。 内面：ナデ。	石英	外面：黄灰 内面：褐灰	東播系。焼成良好。
553		O-8	包含層	須恵質土器こね鉢	口縁部1/20	27.2				3.2		口縁部	体部外上方に立ち上がる。口縁端部上方に若干拡張し、尖り気味に収める。	外面：ナデ。 内面：ナデ。	石英	外面：黄灰 内面：褐灰	東播系。焼成良好。
554	No27トレンチ		客土	須恵質土器こね鉢	口縁部1/21	24.8				2.8		口縁部	体部外上方へ直線的に立ち上がる。口縁部でやや内傾し、上方に拡張し、端部を尖らせる。	外面：ロクロナデ。 内面：ロクロナデ。	石英・黒色斑粒	外面：灰 内面：灰	東播系。焼成良好。
555	No27トレンチ		客土	須恵質土器こね鉢	全体1/10以下	27.4				2.6		口縁部	体部外上方へ直線的に立ち上がる。口縁部上方に若干拡張し、端部を丸く収める。	外面：ナデ。 内面：ナデ。	石英・雲母・黒色斑粒	外面：灰 内面：灰白	東播系。焼成良好。
556	No27トレンチ		客土	須恵質土器こね鉢	口縁部1/8	30.0				2.2		口縁部	体部外上方へ直線的に立ち上がる。口縁部上方に若干拡張し、端部を丸く収める。	外面：ナデ。 内面：ナデ。	石英・雲母・黒色斑粒	外面：灰・灰白 内面：灰白	東播系。焼成良好。
557		S-8	包含層	須恵質土器こね鉢	口縁部1/16	28.0				3.3		口縁部	体部外上方に立ち上がる。口縁端部上方に若干拡張し、尖り気味に収める。	外面：ナデ。 内面：ナデ。	長石・雲母	外面：灰 内面：灰	東播系。焼成やや不良。

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	器種	残存率	口径(cm)	体部最大径(cm)	底径(cm)	頸部(脚柱)径(cm)	器高・残存高(cm)	その他の法量(cm)	部位	形態	調整	含有物組成	色調	備考
558	No5トレンチ		包含層	須恵質土器片口鉢	口縁部1/16	24.0				3.5		口縁部	体部外上方へ直線的に立ち上がる。口縁端部上方にやや拡張し、先端部を尖らせる。端面はやや丸みをもつ。	外面：ロクロナデ。自然釉。 内面：ロクロナデ。自然釉。	石英	釉：くらいブラウンみのグレイ 胎：灰	東播系。焼成良好。
559	No25トレンチ		客土	須恵質土器こね鉢	口縁部1/22	27.6				3.2		口縁部	体部外上方へ直線的に立ち上がり、口縁部を若干肥厚させる。上方を若干拡張させ、端部を丸く収める。	外面：ナデ。 内面：ナデ。	石英・雲母	外面：灰 内面：灰	東播系。焼成良好。
560		R-7	客土	須恵質土器片口鉢	全体1/4	15.3				5.3		口縁～体部	体部やや内彎しながら立ち上がり、口縁端部を丸く収める。	外面：口縁部ナデ。体部ユビオサエのちナデ。 内面：ナデ。	石英	外面：褐灰 内面：褐灰	東播系。焼成良好。外面に黒斑有り。
561		調査区南側	包含層	須恵質土器こね鉢	底部1/8			10.5		2.3		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部ナデ。 内面：ナデ。	長石・雲母	外面：灰 内面：灰	東播系。焼成やや不良。
562		調査区南側	客土	須恵質土器こね鉢	底部1/8			11.6		2.4		底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部回転糸切り。 内面：ナデ。	石英	外面：灰 内面：灰	東播系。焼成良好。
563		調査区南側	包含層	丸瓦	不明						縦 4.2 横 8.7 厚さ 2.0	不明		外面：ナデ。 内面：ヘラケズリ。	石英・黒色斑粒	外面：灰白 内面：灰白	焼成良好。
564		K-7	包含層	瓦	不明						縦 5.2 横 6.8 厚さ 1.7	不明		外面：タタキ。 内面：布目痕。	石英	外面：灰白 内面：灰白	焼成良好。
565		R-6	客土	瓦	不明						縦 6.3 横 7.5 厚さ 2.1	不明		外面：タタキ。 内面：タタキ。	石英・黒色斑粒	外面：黄灰 内面：褐灰	焼成やや不良。
566	No 9トレンチ		客土	瓦	不明						縦 5.5 横 6.6 厚さ 1.4	不明		外面：板ナデ。 内面：板ナデ。	石英・結晶片岩・赤色斑粒	外面：灰白 内面：灰	焼成良好。
567	No26トレンチ		客土	瓦	不明						縦 6.0 横 8.0 厚さ 2.2	不明		外面：タタキ。 内面：ナデ。	石英・雲母・黒色斑粒	外面：灰白 内面：灰白 淡赤橙がかっている	焼成良好。
568		東側側溝	包含層	瓦	不明						縦 7.3 横 10.6 厚さ 2.3	不明		外面：タタキ。 内面：タタキ。	石英・長石	外面：灰 内面：浅黄橙	焼成不良。
569		P-8	客土	瓦	不明						縦 3.5 横 4.9 厚さ 1.9	不明		外面：タタキ。 内面：調整不明。	長石・赤色斑粒	外面：にぶい橙	焼成不良。
570			包含層	瓦	不明						縦 4.9 横 3.9 厚さ 2.2	不明		外面：タタキ。摩滅気味。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：黄橙 内面：黄橙	焼成良好。
571		T-9	包含層	平瓦	不明						縦 10.3 横 6.3 厚さ 2.5	不明		外面：ヘラナデ。 内面：タタキ(2条/cm)。	石英・黒色斑粒	外面：灰 内面：灰	焼成良好。
572			包含層	瓦	不明						縦 9.9 横 9.5 厚さ 2.2	不明		外面：タタキ(2条/cm)。 内面：ナデ。	石英	外面：灰 内面：灰	焼成良好。
576		P-8	客土	須恵器杯身	口縁部1/14		15.0			1.6		口縁部	立ち上がりは短く内傾し、受け部端部は丸く収まる。	外面：ナデ。 内面：ナデ。	石英・雲母・黒色斑粒	外面：灰 内面：灰	焼成良好。
577		調査区南側	包含層	須恵器高杯脚部	不明				5.3	1.9		脚部	体部外上方に延びる。脚部下方に開く。	外面：ナデ。底部ナデ。 内面：ナデ。	石英・赤色斑粒	外面：灰白 内面：灰白	焼成良好。
578		調査区南側	包含層	須恵器杯	底部1/11			9.6		3.5		体部～底部	体部外上方に延びる。	外面：ナデ。底部摩滅のため調整不明。 内面：ナデ。	石英・雲母・黒色斑粒	外面：灰白 内面：灰白	焼成良好。

SX（石器）

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	石材	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	その他の法量(cm)	残存率	部位	備考
167	SX1003			砂岩	石製投弾	3.1	3.2	3.1	40.9				

SU（石器）

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	石材	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	その他の法量(cm)	残存率	部位	備考
103	SU1008	遺構南側	覆土	結晶片岩	石庖丁	8.0	8.5	1.0	90.2				片岩剥片。

SA（石器）

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	石材	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	その他の法量(cm)	残存率	部位	備考
32	SA1003	Q-7		砂岩	砥石	8.0	9.9	2.9	333.3				表面に砥面。

包含層（石器）

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	石材	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	その他の法量(cm)	残存率	部位	備考
573		P-8	包含層	チャート	火打石	2.7	2.9	2.4	12.6				剥片。
574		P-7	包含層	砂岩	石製投弾	3.3	2.9	2.6	23.6				
575		S-7	包含層	砂岩	敲石	6.9	6.2	2.4	116.6				器体の周縁に敲打痕が認められる。特に右側側縁に強い敲打が見られる。

SX・包含層（石製品）

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	石材	器種	残存率	口径(cm)	体部最大径(cm)	底部(cm)	頸部(脚柱)径(cm)	器高・残存高(cm)	その他の法量(cm)	部位	形態	調整	色調	備考
322	SX1007	J·K·L-6·7	覆土	滑石	石鍋	口縁部1/4	18.5				5.1	鍔径20.6	口縁～体部	体部は直立に立ち上がり、口縁部で僅かに内傾する。口縁端部は方形状に収める。断面方形の短い鍔が水平に付く。	削り出し。 外面：整痕有り。 内面：整痕有り。	外面：褐灰 内面：褐灰	鍔下に穿孔し温石に転用。
423	No26トレンチ		客土	滑石	石鍋	口縁部1/12	25.6				4.2	鍔径30.0	口縁部	口縁部は僅かに内傾しながら、直線的に立ち上がる。口縁端部は方形状に収め、断面三角形の鍔が水平に付く。	削り出し。 外面：整痕有り。 内面：整痕有り。	外面：黄灰 内面：黄灰	内外面研磨。

SX（鉄器・鉄製品・鉄滓）

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	器種	長さ(cm)	幅（cm）	厚さ(cm)	重量(g)	その他の法量(cm)	残存率	部位	備考
166	SX1003	①②間ベルト		釘	2.8	0.3	0.3	3.7				一部欠損。
323	SX1007	遺構南側		小刀	身 34.9 茎 24.2 10.7	身3.1 茎1.8	身0.7 茎0.6	556.4				
324	SX1007			刀子	5.0	1.4	0.3	11.3				
325	SX1007			釘	4.2	3.7	0.7	22.9				鏃。 一部欠損。
326	SX1007	K-6		釘	4.5	0.6	0.5	10.6				
327	SX1007	L-6		釘	3.7	0.4	0.6	5.9				
328	SX1007	L-6		釘	2.7	0.4	0.3	3.0				一部欠損。
329	SX1007			釘	2.5	0.6	0.7	3.9				一部欠損。
330	SX1007	K-6		釘	2.5	0.6	0.4	4.4				一部欠損。
331	SX1007			釘	2.4	0.6	0.4	2.4				一部欠損。
332	SX1007	K-6		釘	2.7	0.5	0.4	3.8				一部欠損。
333	SX1007	K-6		釘	2.1	0.4	0.3	3.1				一部欠損。
334	SX1007	L-6		釘	1.0	0.3	0.3	0.4				一部欠損。
335	SX1007	遺構南側		釘	2.4	1.7	0.3	6.7				一部欠損。
336	SX1007			釘	2.0	1.0	0.5	3.4				鏃。 一部欠損。
337	SX1007			釘	3.6	0.4	0.4	4.5				一部欠損。
338	SX1007	K-6		釘	2.7	0.3	0.3	1.4				一部欠損。
339	SX1007	遺構南側		釘	2.7	0.4	0.3	2.0				一部欠損。
340	SX1007	L-6		釘	1.9	0.4	0.3	2.4				一部欠損。
341	SX1007			釘	1.9	0.3	0.3	2.9				一部欠損。
342	SX1007			釘	1.3	0.3	0.3	0.4				鏃。 一部欠損。
343	SX1007	L-6		釘	1.6	0.2	0.3	1.1				一部欠損。
344	SX1007	K-6		釘	2.8	0.4	0.5	10.3				一部欠損。
345	SX1007	L-6		釘	2.6	0.3	0.4	2.2				一部欠損。
346	SX1007	L-6		釘	1.8	0.2	0.5	0.8				一部欠損。
347	SX1007	K-6		釘	6.2	0.5	0.5	15.2				一部欠損。
348	SX1007	K-6		釘	4.1	0.7	0.5	17.3				一部欠損。
349	SX1007	K-6		釘	2.9	0.3	0.4	3.7				一部欠損。
350	SX1007	L-6		釘	3.0	0.4	0.5	6.1				一部欠損。
351	SX1007	遺構北側		釘	2.8	0.4	0.5	0.8				一部欠損。
352	SX1007	L-6		釘	3.2	0.6	0.5	6.4				一部欠損。
353	SX1007			釘	1.9	0.3	0.3	1.1				鏃。 一部欠損。
354	SX1007	遺構北側		釘	2.1	0.4	0.3	2.8				一部欠損。
355	SX1007			釘	1.6	0.4	0.4	3.2				鏃。 一部欠損。
356	SX1007			釘	1.7	0.9	0.3	1.2				鏃。 一部欠損。
357	SX1007	K-6		釘	1.7	0.6	0.5	3.3				一部欠損。
358	SX1007			釘	1.3	0.5	0.4	1.9				鏃。 一部欠損。
359	SX1007	L-6		釘	1.7	0.4	0.4	2.1				一部欠損。
360	SX1007			釘	0.8	0.4	0.3	1.3				鏃。 一部欠損。
361	SX1007	L-6		釘	0.9	0.4	0.3	0.6				一部欠損。
362	SX1007	L-6		釘	1.2	0.2	0.2	1.0				一部欠損。
363	SX1007	L-6		釘	0.7	0.2	0.2	0.5				一部欠損。
364	SX1007	遺構南側		鉄片	2.8	2.1	1.5	19.0				板状の鉄。
365	SX1007	遺構南側		鉄片	2.6	1.9	0.6	12.8				
366	SX1007			鉄片	1.5	1.2	0.4	2.6				
367	SX1007	遺構南側		鉄片	2.0	2.2	0.4	10.1				
368	SX1007			鉄片	3.4	1.9	0.6	10.8				
369	SX1007	K-7		不明鉄製品	2.3	1.8	1.0	19.2				
370	SX1007			不明鉄製品	0.9	0.4	0.2	0.5				
371	SX1007	遺構北側		鉄滓	4.7	4.4	1.9	41.9				
372	SX1007	遺構南側		鉄滓	8.1	6.7	3.2	152.3				
387	SX1008		上層中15cm	不明鉄製品	1.1	1.0	0.7	3.1				

SP（鉄製品・鉄滓）

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	器種	長さ(cm)	幅（cm）	厚さ(cm)	重量(g)	その他の法量(cm)	残存率	部位	備考
65	SP1168			釘	2.6	0.5	0.4	3.8				一部欠損。
71	SP1180			鉄滓	6.9	7.5	3.8	258.2				
74	SP1205			釘	3.6	0.5	0.3	5.6				一部欠損。
75	SP1205			釘	2.0	0.7	0.4	3.2				一部欠損。

SU（鉄製品）

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	器種	長さ(cm)	幅（cm）	厚さ(cm)	重量(g)	その他の法量(cm)	残存率	部位	備考
102	SU1008			釘	3.3	0.4	0.4	2.8				一部欠損。

包含層（鉄器・鉄製品・鉄滓）

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	その他の法量(cm)	残存率	部位	備考
579	No 5 トレンチ		包含層	刀子	6.6	A 1.1 B 1.0	0.4 0.3	13.1				
580			包含層	刀子	4.9	A 2.0 B 1.0	0.4 0.3	30.4				
581		P-8	包含層	鑿	9.4	A 1.7 B 0.7 C 0.5	0.6 0.6 0.5	55.7				
582		調査区南側	包含層	釘	7.1	1.2	0.6	28.5				一部欠損。
583	No27 トレンチ		包含層	釘	9.2	0.6	0.6	17.0				一部欠損。
584		K-7	遺構面直上	釘	5.5	0.6	0.7	26.3				一部欠損。
585		K-7	遺構面直上	釘	5.4	0.5	0.4	15.0				一部欠損。
586		K-7	遺構面直上	釘	5.2	0.4	0.4	15.4				一部欠損。
587		P-6	包含層	釘	5.7	1.1	0.6	18.4				一部欠損。
588		K-7	遺構面直上	釘	6.5	0.6	0.6	26.1				一部欠損。
589		東側側溝	包含層	釘	6.8	0.7	0.6	8.1				一部欠損。
590			包含層	釘	2.9	0.5	0.5	4.0				
591		K-7	遺構面直上	釘	2.2	0.5	0.4	3.9				
592		K-6	包含層	釘	4.2	0.7	0.4	8.8				
593		K-7	遺構面直上	釘	3.4	0.4	0.4	3.2				
594		第1遺構面	遺構面直上	釘	2.7	0.3	0.4	2.6				
595		O-8	包含層	釘	2.5	0.3	0.3	1.3				
596		K-6	包含層	釘	2.4	1.1	0.4	6.5				一部欠損。
597		L-7	遺構面直上	釘	1.8	0.4	0.4	1.6				一部欠損。
598		P-8	遺構面直上	釘	3.2	0.6	0.4	4.6				一部欠損。
599		P-8	包含層	釘	6.2	0.7	0.5	9.5				一部欠損。
600		P-8	遺構面直上	釘	6.5	0.5	0.5	15.9				一部欠損。
601	No 5 トレンチ		第 6 層	釘	6.5	0.5	0.6	15.9				一部欠損。
602		調査区南側	包含層	釘	4.2	0.5	0.5	3.6				一部欠損。
603		調査区南側	包含層	釘	3.7	0.6	0.3	4.3				一部欠損。
604		O-8	包含層	釘	4.2	0.7	0.6	5.8				一部欠損。
605		O-8	包含層	釘	5.4	0.7	0.6	10.6				一部欠損。
606		O-8	包含層	釘	4.2	0.3	0.4	5.4				一部欠損。
607		P-8	包含層	釘	5.5	0.7	0.4	8.3				刀子峯？
608		東側側溝	包含層	釘	5.1	4.4	0.5	25.8				一部欠損。
609		K-7	遺構面直上	釘	4.9	0.9	0.8	17.0				一部欠損。
610		P-7	包含層	釘	6.5	0.9	0.6	29.1				一部欠損。
611		調査区南側	包含層	釘	5.0	0.7	0.8	11.1				一部欠損。
612		K-7	遺構面直上	釘	4.1	0.5	0.7	10.4				一部欠損。
613		K-7	遺構面直上	釘	3.7	0.5	0.5	8.8				一部欠損。
614		K-3	包含層	釘	2.8	0.5	0.5	6.7				一部欠損。
615		P-8	包含層	釘	3.1	0.5	0.3	3.9				一部欠損。
616		P-8	包含層	釘	2.2	0.5	0.5	2.9				一部欠損。
617		調査区南側	包含層	釘	2.7	0.5	0.4	4.1				一部欠損。
618		O-7	包含層	釘	3.1	0.5	0.5	8.2				一部欠損。
619	No26 トレンチ		包含層	釘	2.6	0.6	0.4	4.8				一部欠損。
620		調査区南側	包含層	釘	3.3	0.6	0.6	5.3				一部欠損。
621		O-8	包含層	釘	2.4	0.6	0.6	3.6				一部欠損。
622			包含層	釘	3.2	0.4	0.6	2.8				一部欠損。
623			包含層	釘	2.7	0.7	0.6	4.7				一部欠損。
624		K-7	遺構面直上	釘	2.9	0.3	0.3	2.8				一部欠損。
625		K-7	遺構面直上	釘	3.0	0.6	0.5	8.1				一部欠損。
626			包含層	釘	2.1	0.3	0.2	1.4				一部欠損。
627	No27 トレンチ		包含層	釘	3.0	0.7	0.5	6.3				一部欠損。
628			包含層	釘	3.3	0.6	0.5	4.2				一部欠損。
629		東側側溝	包含層	釘	3.7	0.6	0.6	9.5				一部欠損。
630		O-7	包含層	釘	3.7	0.3	0.3	8.3				一部欠損。
631	No27 トレンチ		包含層	釘	3.3	0.7	0.5	8.3				一部欠損。
632		K-7	遺構面直上	釘	3.3	0.6	0.5	7.0				一部欠損。
633		調査区南側	包含層	釘	2.3	0.3	0.3	3.2				一部欠損。
634		N-8	包含層	釘	2.5	0.3	0.4	1.0				一部欠損。
635		調査区南側	包含層	釘	2.2	0.5	0.2	1.7				一部欠損。
636		N-8	包含層	釘	1.8	0.5	0.4	2.0				一部欠損。
637	No 5 トレンチ		包含層	釘	2.2	0.3	0.3	1.4				一部欠損。
638		D-8・N-8	包含層	釘	4.5	0.8	0.4	8.5				一部欠損。
639			包含層	釘	4.4	0.5	0.3	1.7				一部欠損。
640		N-8	包含層	釘	4.1	0.5	0.4	6.4				一部欠損。
641	No 5 トレンチ		包含層	釘	2.6	0.4	0.5	2.9				一部欠損。
642		調査区南側	包含層	釘	2.7	0.3	0.4	1.6				一部欠損。
643		調査区南側	包含層	釘	3.8	0.5	0.5	5.3				一部欠損。
644		K-6	包含層	釘	2.7	0.4	0.4	2.8				一部欠損。
645		K-6	包含層	釘	3.0	0.3	0.3	3.5				一部欠損。
646			包含層	釘	1.8	0.4	0.3	3.6				一部欠損。
647			包含層	釘	1.5	0.4	0.4	1.6				一部欠損。
648			包含層	釘	1.9	0.4	0.3	1.7				一部欠損。
649		P-8	遺構面直上	釘	1.6	0.2	0.3	1.1				一部欠損。
650		K-7	遺構面直上	釘	2.8	0.5	0.4	4.6				一部欠損。
651		N-8	包含層	釘	2.0	0.3	0.3	0.6				一部欠損。
652		調査区南側	包含層	釘	1.9	0.3	0.3	1.2				一部欠損。
653		調査区南側	包含層	釘	2.1	0.5	0.6	2.6				一部欠損。
654		R-9	包含層	釘	2.0	0.4	0.5	1.6				一部欠損。
655		調査区南側	包含層	釘	2.3	0.8	0.6	7.0				一部欠損。
656		調査区南側	包含層	釘	3.2	0.4	0.4	2.2				一部欠損。
657		P-8	包含層	釘	1.9	0.4	0.4	6.8				一部欠損。
658		N-8	包含層	釘	1.3	0.2	0.3	0.4				一部欠損。
659		P-8	包含層	釘	3.3	0.6	0.5	2.9				一部欠損。
660		調査区南側	包含層	釘	3.5	0.4	0.4	5.9				一部欠損。
661		P-8	包含層	釘	1.8	0.4	0.4	2.1				一部欠損。
662	No 5 トレンチ		包含層	釘	2.8	0.2	0.3	8.3				一部欠損。
663		D-8・N-8	包含層	釘	2.5	0.7	0.6	6.6				一部欠損。
664		S-9	遺構面直上	釘	2.0	0.8	0.8	4.1				一部欠損。
665	No28 トレンチ		包含層	釘	2.2	0.6	0.5	11.9				一部欠損。
666		D-8・N-8	包含層	釘	1.6	0.7	0.5	2.7				一部欠損。
667		R-6	遺構面直上	釘	1.8	0.3	0.2	0.9				一部欠損。
668		N-8	包含層	釘	1.9	0.3	0.3	0.8				一部欠損。
669		D-8・N-8	包含層	釘	1.4	0.3	0.4	1.2				一部欠損。

報告書掲載番号	遺構	出土地点	層位	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	その他の法量(cm)	残存率	部位	備考
670		調査区南側	包含層	釘	0.3	0.2	0.2	0.1				一部欠損。
671		K-7	遺構面直上	不明鉄製品	3.3	2.7	1.0	16.3				
672	No26トレンチ		包含層	不明鉄製品	2.9	1.4	0.8	16.0				
673			包含層	不明鉄製品	2.0	1.9	1.0	8.0				
674		J-6	包含層	不明鉄製品	1.2	1.1	1.1	4.3				
675		Q-9·10	包含層	不明鉄製品	1.5	1.6	0.4	3.2				
676		調査区南側	包含層	鉄滓	4.7	6.7	3.4	86.8				
677		P-8	包含層	鉄滓	2.8	3.0	2.5	28.9				
678		調査区南側	包含層	鉄滓	3.1	1.8	2.0	20.5				
679		L-7	遺構面直上	鉄滓	2.9	1.8	1.7	17.1				
680		調査区南側	包含層	鉄滓	2.6	1.1	1.2	7.2				
681		調査区南側	包含層	鉄滓	2.1	1.4	1.2	7.2				
682		調査区南側	包含層	鉄滓	1.2	1.3	1.3	5.9				
683		調査区南側	包含層	鉄滓	1.5	1.0	1.0	5.3				
684		調査区南側	包含層	鉄滓	0.8	1.2	1.0	1.4				

XI　浄土寺山古墳群

例　言

1　本章は四国横断自動車道建設に伴う浄土寺山古墳群の発掘調査報告書である。

2　所在地　鳴門市大麻町萩原字浄土寺53他

調査対象面積　890㎡

試掘面積　125㎡

本調査面積　890㎡

3　発掘調査期間及び報告書作成の実施期間は次の通りである。

発掘調査期間　平成12年４月１日～平成12年５月31日

報告書作成期間　平成15年４月１日～平成16年３月31日

4　遺物番号・挿図番号・図版番号は通し番号とした。遺物番号は本文・挿図・表・図版と一致する。

5　本遺跡の地理的・歴史的環境については、「Ⅱ　調査地点の立地と環境」を参照されたい。

1　調査の経過

（1）調査の経過（Ⅰ-第1図およびⅡ-第1・5・16図）

浄土寺山古墳群は阿讃山脈南麓の鳴門市大麻町萩原地区に位置し、以前から古墳群が密集する地域として周知されていた。事前の分布調査の際にも、阿讃山脈から張り出す尾根上に古墳の存在する可能性が指摘されていた。したがって、分布調査で推定された遺跡の範囲の内890㎡を調査対象面積として試掘調査を実施した。試掘調査は平成12年4月1日から実施され、人力掘削によるトレンチを125㎡実施した。試掘の結果、調査区北側において須恵器が集中して出土したため、本調査へ移行した。本調査は平成12年5月31日に終了した。

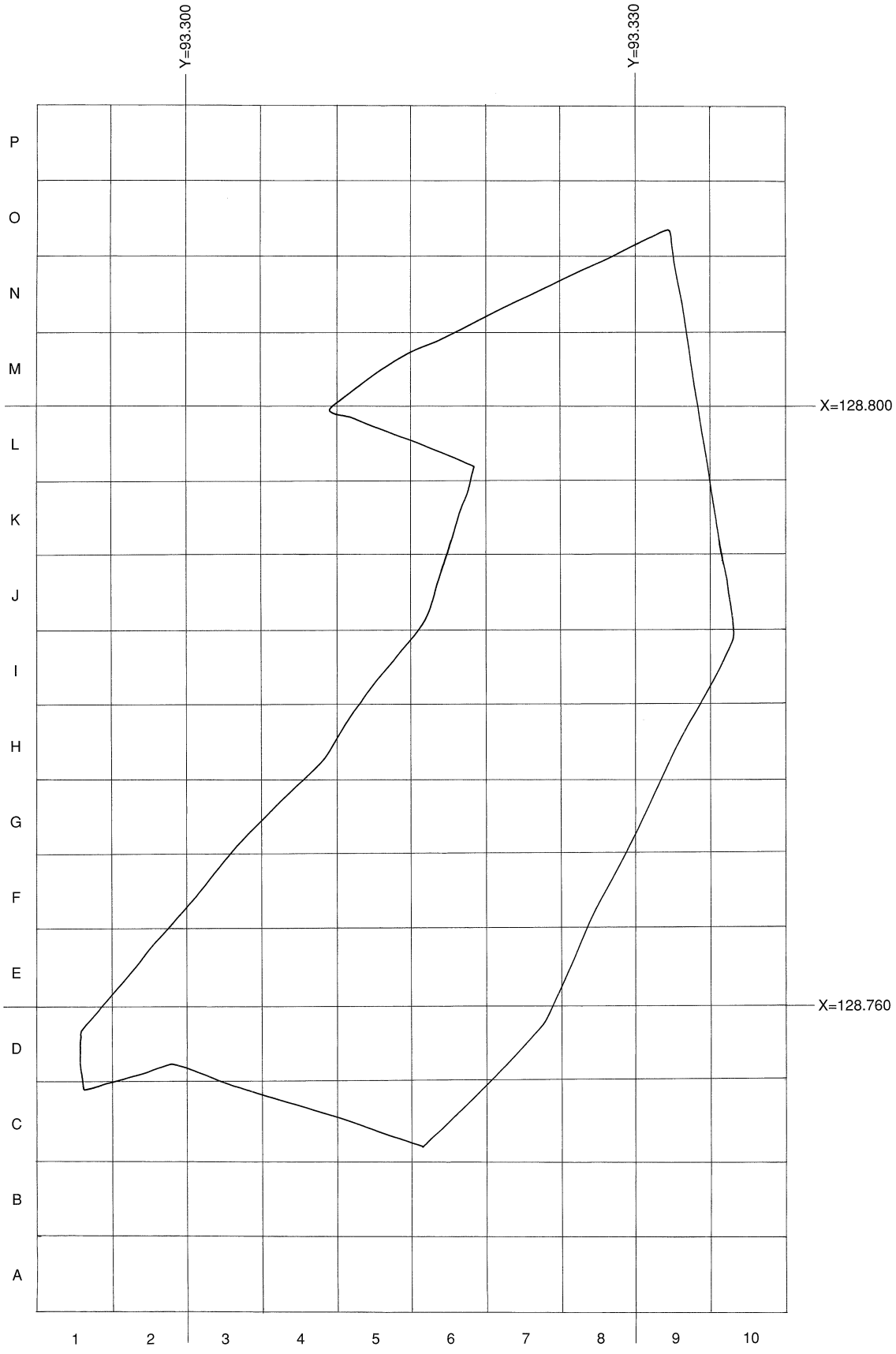
（2）発掘調査の方法（第1図）

調査を始めるにあたり、グリッドの配置に際しては、発掘統一基準にならい、第Ⅳ系国土座標を基準とし、5mメッシュを1グリッドとして調査対象地を包み込む形で設定した。南西隅を基準として北にA・B・C…、東に1・2・3…の順に記号・番号をふり、その組み合わせで各グリッド名を表すこととした。遺構記号・番号は検出時に順次決定した。

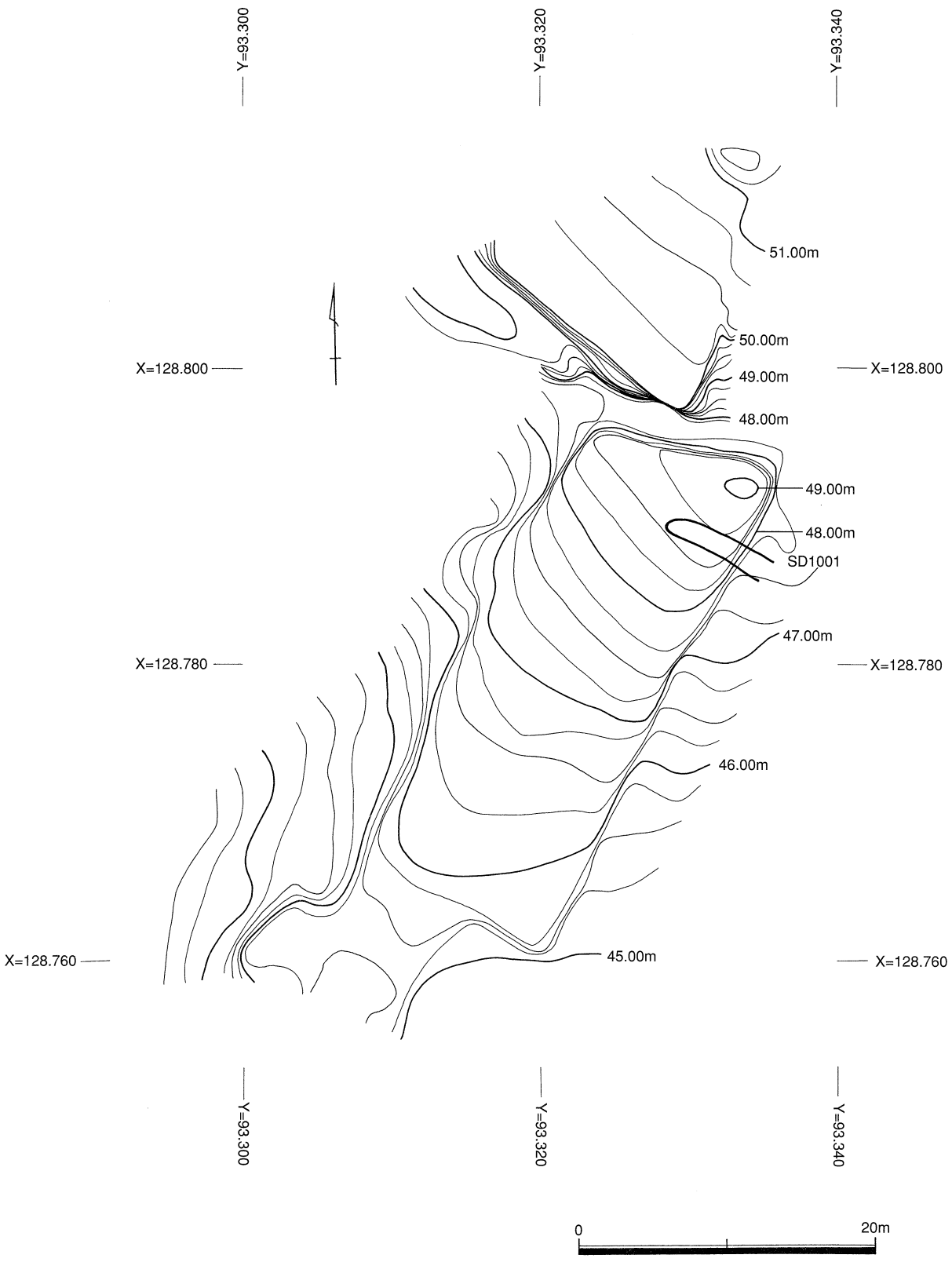
（3）調査日誌抄

2000年

4月3日　調査準備。
4月14日　調査地点平板地形測量（S＝1/200）開始。
4月18日　トレンチ掘削開始。土層図作成。写真撮影。
4月20日　試掘調査終了。須恵器集中出土したため、調査区の確定。890㎡本調査へ移行。
4月24日　人力掘削開始。
5月9日　SD等検出。
5月14日　遺構掘り下げ。須恵器出土。図面作成。
5月18日　遺構実測。写真撮影。
5月21日　遺構完掘。埋め戻し作業。整理作業。
5月22日　現場撤収。調査終了。


Y=93.300
Y=93.330
X=128.800
X=128.760
P
O
N
M
L
K
J
I
H
G
F
E
D
C
B
A
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10

第１図　グリッド配置図



第２図　地形平面・遺構配置図

Y=93.300
Y=93.320
Y=93.340
X=128.800
X=128.780
X=128.760
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
0
20m

第３図　トレンチ配置図

2　調査成果

（1）遺跡の位置（Ⅰ-第1図およびⅡ-第1・5・16図）

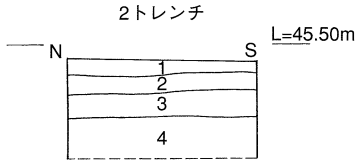
調査対象地は阿讃山脈南の板東谷川と樋殿谷川が形成する複合扇状地の東端、標高43～52mの低位段丘上に位置し、北から南への緩斜面となっている。当該地域は古墳の密集地として知られる。現況は畑地・山林となっており、地形の改変が著しい。

（2）基本層序（第2～4図）

トレンチ配置状況と土層堆積状況

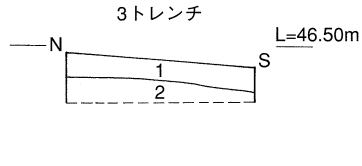
調査に際し、現況の地形測量を実施した。墳丘と思われる高まりを確認した後、試掘トレンチを設定し、掘削作業を行った。トレンチの設定については墳丘と思われる地点を中心に尾根筋に沿ってメイントレンチを設定し、それに直交するようにサブトレンチを設定し、試掘を実施した。その結果、調査区中央部東・西斜面において須恵器片が集中して出土する地点が確認されたため、遺物出土集中地点を中心に890m²の範囲を本調査へ移行した。

土層堆積状況は各トレンチとも類似しており、地点によって微差はあるが基本層序は以下の通りほぼ対応する。



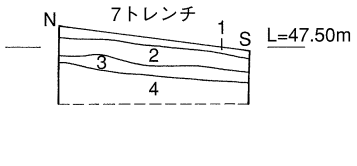
2トレンチ（東壁）

1．黒褐色　7.5YR3/2　シルト（しまりあり。粘性なし。植物根を少し含む。φ=10㎜程度の礫を3％含む。）
2．にぶい黄褐色　10YR4/3　シルト（しまりあり。粘性なし。植物根を多く含む。）
3．黄褐色　10YR5/6　シルト（しまりあり。粘性なし。植物根を少し含む。）
4．黄褐色　10YR5/6　シルト（しまりあり。粘性なし。φ=10～80㎜程度の礫を30％程度含む。）



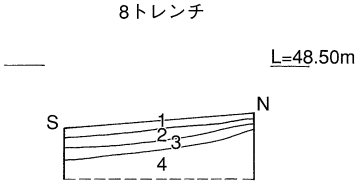
3トレンチ（東壁）

1．オリーブ褐色　2.5Y4/3　シルト（しまりなし。粘性なし。植物根を多く含む。φ=10㎜程度の礫を15％程度含む。）
2．明褐色　7.5YR5/8　シルト（しまり強し。粘性あり。植物根を少し含む。南端部下層に3～5㎝の亜円礫を20％程度含む。）



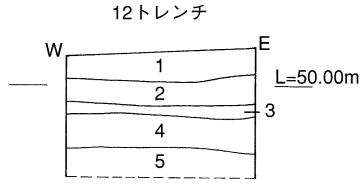
7トレンチ（東壁）

1．黒褐色　7.5YR3/2　シルト（しまりあり。粘性なし。植物根を多く含む。φ=10㎜程度の礫を3％程度含む。）
2．黄褐色　10YR5/8　シルト（しまりあり。粘性なし。植物根を少し含む。）
3．明黄褐色　10YR6/8　シルト（しまりあり。粘性少しあり。）
4．岩盤層（地山）



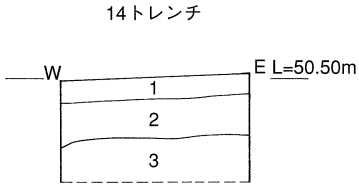
8トレンチ（西壁）

1．褐色　10YR4/4　シルト（しまりあり。粘性なし。植物根を多く含む。φ=10㎜程度の礫を3％程度含む。）
2．黄褐色　10YR5/6　シルト（しまりあり。粘性少しあり。植物根を少し含む。）
3．明黄褐色　10YR6/8　シルト（しまりあり。粘性あり。植物根を少し含む。）
4．岩盤層（地山）



12トレンチ（北壁）

1．黄褐色　2.5Y5/3　シルト（しまりなし。粘性なし。植物根を多く含む。）
2．にぶい黄色　2.5Y6/4　シルト（しまり強し。粘性なし。植物根を含む。φ=10㎜の礫を1％含む。）
3．明黄褐色　2.5Y6/6　シルト（しまり強し。粘性なし。植物根を若干含む。）
4．浅黄色　2.5Y7/3　シルト（しまり強し。粘性なし。植物根を少し含む。φ=10㎜の礫を3％含む。）
5．黄色　2.5Y7/8　シルト（しまり強し。粘性なし。）



14トレンチ（北壁）

1．黄褐色　2.5Y5/3　シルト（しまりなし。粘性なし。植物根を多く含む。）
2．にぶい黄色　2.5Y6/4　シルト（しまり強し。粘性なし。植物根を含む。φ=10㎜の礫を1％含む。）
3．浅黄色　2.5Y7/3　シルト（しまり強し。粘性なし。植物根を少し含む。φ=10㎜の礫を3％含む。）

第4図　模式柱状土層図

1．…黒褐色 7.5YR3/2 砂質土（表土、腐植土。）

2．…にぶい黄褐色 10YR4/3 砂質土（シルト質土。岩盤風化土、ϕ＝3～5㎝程度の礫を含む。部分的に灰黄褐色 10YR6/3 粘土が混じる。）

3．…黄褐色 10YR5/6 砂質土（シルト質土。岩盤風化土。）

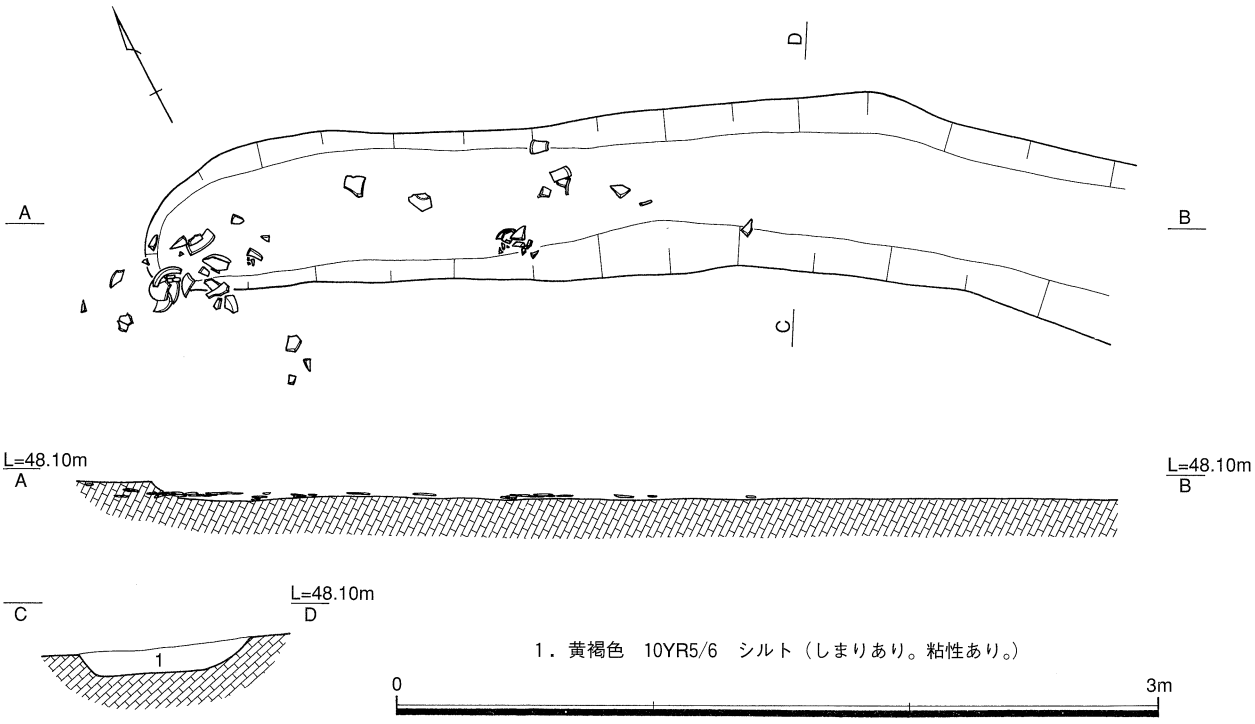
4．…地山（和泉層群岩盤層。）

（3）遺構と遺物

遺跡内における遺構配置は第2図に示すとおりである。北端から約20m南に下がった地点で、東西に延びる溝状遺構を確認した。西端は丸く区切られ、東端は開墾のためか途切れていた。

SD1001（溝状遺構1）（第5図）

長さ約4.1m、幅約1.2m、深さ10㎝の浅い溝状の遺構である。後世の開墾のためか大部分が削平を受け、遺存状態は良くない。おそらく古墳主体部に伴う周壕と思われるが、調査区内からは主体部を検出することはできなかった。

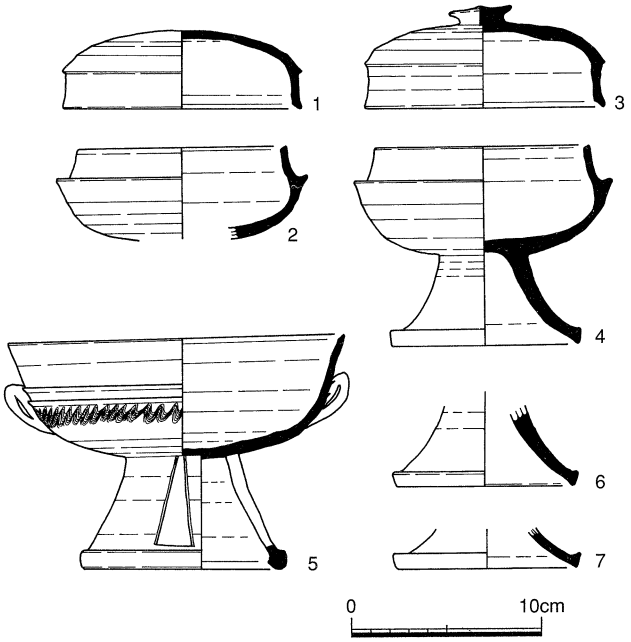


第5図　SD1001平・断面図

出土遺物（第６図）

溝状遺構西端部から有蓋高杯及び杯蓋を中心に、TK208段階と見られる須恵器片・土師器片が小片も含め67点出土した。杯等の身と蓋が合うものはない。

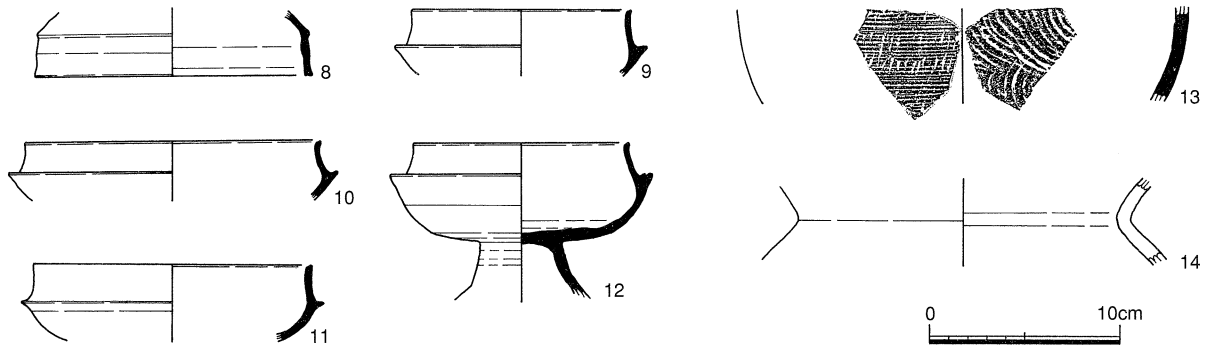
１は杯蓋で外面には明確な稜を持つ。２は杯身であるが、底部が欠損しているため高杯か杯か不明である。３は有蓋高杯の蓋と思われ、ツマミがあり、天井部は回転ヘラ削り、下部はヨコナデ。外面には明確な稜を持ち、口縁部はやや外反する。４は高杯で口縁部がやや内傾し、短い脚台を持つ。５は把手を両側に持つ高杯で、側面に波状文が施され、脚台部に長方形の透かしを４方向に持つ。６・７は高杯の脚部である。身と蓋が合うものはなく、祭祀等に使用された後、この溝に廃棄されたものと考えられる。



第６図　SD1001出土遺物

包含層出土遺物（第７図）

遺構から遊離した遺物を包含層出土遺物として扱った。８は杯蓋である。９から11は底部が欠損しているため高杯か杯か不明である。いずれも外面には明確な稜を持ち、端部は尖る。12は高杯である。脚部一部欠損するが、口縁部がやや内傾し、短い脚台を持つ。13は須恵器甕の体部である。14は弥生土器甕と思われる。



第７図　包含層出土遺物

（4）まとめ

本調査区内に古墳が築造されていたことについては、遺構・遺物の出土状況から、その存在が示唆されるが、今回の調査においては石室等の古墳主体部を確認することはできなかった。開墾時に大きく削平を受けてはいるものの、阿讃山麓の石室に通有的に利用される青緑色の結晶片岩が調査区に散在していることや、溝状遺構および出土遺物から考えて周辺に古墳が存在していたことが想定される。

浄土寺山古墳群
第1表　出土遺構一覧表
SD

遺構名	種　類	グリッド	平面形態	断面形態	長軸（m）	短軸（m）	深度（cm）	備　考
SD1001	溝状遺構	J-8・9	溝状	逆台形状	4.1	1.2	10	

第2表　出土遺物観察表
SD（土器）

報告書掲載番号	遺　構	出土地点	層　位	器　種	残存率	口　径（cm）	体　部最大径（cm）	底　径（cm）	頸部（脚柱）径（cm）	器高・残存高（cm）	その他の法量（cm）	部位	形　態	調　整	含有物組　成	色　調	備　考
1	SD1001			須恵器杯蓋	全体1/2	12.4				4.1		天井部～口縁	天井部は緩やかなカーブから屈曲して口縁に向かって直立し、端部を丸く収める。	外面：天井部回転ヘラケズリ。回転ナデ。内面：回転ナデ。	長石	外面：灰内面：灰	焼成良好。
2	SD1001			須恵器杯身	口縁～体部1/3	10.9	13.4			4.8		口縁～体部	体部内彎しながら立ち上がる。かえしはやや内傾し、端部を丸く収める。	外面：回転ナデ。底部回転ヘラケズリ。内面：回転ナデ。	長石	外面：灰内面：灰	焼成良好。部分的に自然釉がかかっている。
3	SD1001			須恵器杯蓋	ほぼ完形	12.6	12.8			5.4		天井部～口縁	天井部は緩やかなカーブから屈曲して口縁に向かって直立し、端部をやや外反し、丸く収める。	外面：摘みナデ。天井部ケズリ。口縁ナデ。内面：ナデ。	石英・長石	外面：灰内面：灰	焼成良好。
4	SD1001			須恵器高杯（有蓋）	ほぼ完形	11.2	13.6	9.8	4.7	10.5		完形	長く、内傾したかえしを持つ杯部に、「八」の字状に開く脚部をもつ。脚端部が上方に拡張する。	外面：杯部回転ナデ。回転ケズリ。　脚部回転ナデ。内面：回転ナデ。	長石	外面：灰内面：灰	焼成良好。
5	SD1001			須恵器高杯	全体3/4	17.8	18.2	10.4	5.9	12.4		口縁～脚	杯部外上方へ立ち上がり、口縁端部でやや外反し、端部を尖り気味に収める。杯体部中ほどに2ヵ所把手が付く。脚部4方向に長方形の穿孔がある。	外面：回転ナデ。杯部2条の突帯。櫛描波状文。内面：回転ナデ。	石英・長石	外　面：オリーブ黒内面：灰白	焼成良好。外面に自然釉有り。
6	SD1001			須恵器高杯脚	脚部1/2		9.8	9.3		4.3		脚部	脚部外下方に拡がり、端部を上下に拡張する。	外面：回転ナデ。内面：回転ナデ。	石英・長石	外面：灰白内面：灰	焼成良好。
7	SD1001			須恵器脚	脚部			9.4		2.1		脚部	脚端部をつまみ上げ、丸く収めている。	外面：ロクロナデ。内面：ロクロナデ。	石英・長石	外面：明黄褐内面：青灰	焼成良好。外面降灰。

包含層（土器）

報告書掲載番号	遺　構	出土地点	層　位	器　種	残存率	口　径（cm）	体　部最大径（cm）	底　径（cm）	頸部（脚柱）径（cm）	器高・残存高（cm）	その他の法量（cm）	部位	形　態	調　整	含有物組　成	色　調	備　考
8	No.8トレンチ	拡張部東		須恵器杯蓋	口縁部1/4	14.6				3.4		口縁	天井部のカーブから屈曲して口縁に向かって直立し、端部を四角く収める。	外面：回転ナデ。ケズリ。内面：回転ナデ。	石英	外面：灰内面：灰	焼成良好。外面に自然釉有り。
9				須恵器杯身	破片					3.5		口縁～体部	かえしは長く直立し、端部を丸く収める。	外面：ロクロナデ。内面：ロクロナデ。	石英・長石	外面：略オリーブ灰内面：灰白	焼成良好。
10	No.2トレンチ			須恵器杯身	口縁～体部1/10	15.6	17.4			3.1		口縁～体部	かえしは長くやや内傾し、端部を丸く収める。	外面：ロクロナデ。内面：ロクロナデ。	石英・長石	外面：オリーブ灰内面：オリーブ灰	焼成良好。
11				須恵器杯身	口縁～体部1/10	14.6	16.0			3.5		口縁～体部	かえしは長く直立し、端部を尖り気味に収める。	外面：ロクロナデ。内面：ロクロナデ。	石英・長石	外面：灰内面：灰	焼成良好。
12	No.8トレンチ	拡張部西		須恵器高杯（有蓋）	杯部1/2脚部3/4	11.4	13.9			8.3		口縁～脚上部	長く、直立したかえしを持つ杯部に、「八」の字状に開く脚部を持つ。	外面：杯部回転ナデ。ケズリ。脚部回転ナデ。内面：回転ナデ。	石英・長石	外面：オリーブ黒・灰内面：灰白	焼成良好。
13	No.2トレンチ			須恵器甕	体部1/10					5.1		体部		外面：タタキのちカキメ。内面：同心円文状当具痕。	石英・長石・黒色斑粒	外面：灰白内面：灰	焼成良好。
14	No14・15トレンチ			弥生土器甕	頸部				17.6	4.7		頸部	口縁部「く」字状に外反。	外面：ナデ。内面：ナデ。	石英・長石・チャート	外面：明黄褐内面：明黄褐	焼成良好。砂粒を多く含むが、片岩は見あたらない。

XII　西山田古墳群（I）

例　言

1　本章は四国横断自動車道建設に伴う西山田古墳群（Ⅰ）の発掘調査報告書である。

2　所在地　鳴門市大麻町萩原字チコノ谷1-2他

調査対象面積　2,710㎡

試掘面積　380㎡

本調査面積　800㎡

3　発掘調査期間及び報告書作成の実施期間は次の通りである。

発掘調査期間　平成12年６月１日～平成12年９月30日

報告書作成期間　平成15年４月１日～平成16年３月31日

4　遺物番号・挿図番号・図版番号は通し番号とした。遺物番号は本文・挿図・表・図版と一致する。

5　本遺跡の地理的・歴史的環境については、「Ⅱ　調査地点の立地と環境」を参照されたい。

1　調査の経過

（1）調査の経過（Ⅰ-第1図およびⅡ-第1・5・16図）

西山田古墳群（Ⅰ）は阿讃山脈南麓の鳴門市大麻町萩原地区に位置し、以前から古墳群が密集する地域として周知されていた。事前の分布調査の際にも阿讃山脈から張り出す尾根上に古墳の存在する可能性が指摘されていた。したがって分布調査で推定された遺跡の範囲の内2,710㎡を調査対象面積として試掘調査を実施した。試掘調査は平成12年6月1日より人力掘削によるトレンチを380㎡実施した。試掘の結果、調査区北部において円墳と思われる古墳1基および石室を確認したため、7月より800㎡の範囲を対象に本調査へ移行した。本調査は平成12年9月30日に終了した。

（2）発掘調査の方法（第1図）

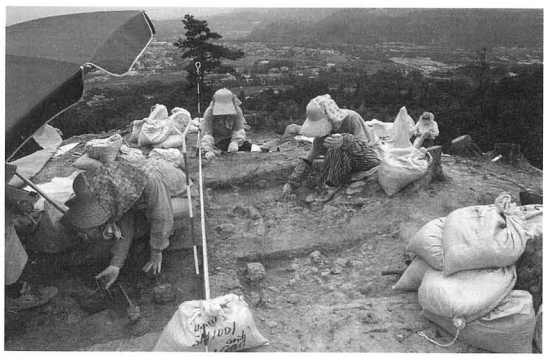
調査を始めるにあたり、グリッドの配置に際しては、発掘統一基準にならい、第Ⅳ系国土座標を基準とし、5mメッシュを1グリッドとして調査対象地を包み込む形で設定した。南西隅を基準として北にA・B・C…、東に1・2・3…の順に記号・番号をふり、その組み合わせで各グリッド名を表すこととした。遺構記号・番号は検出時に順次決定した。

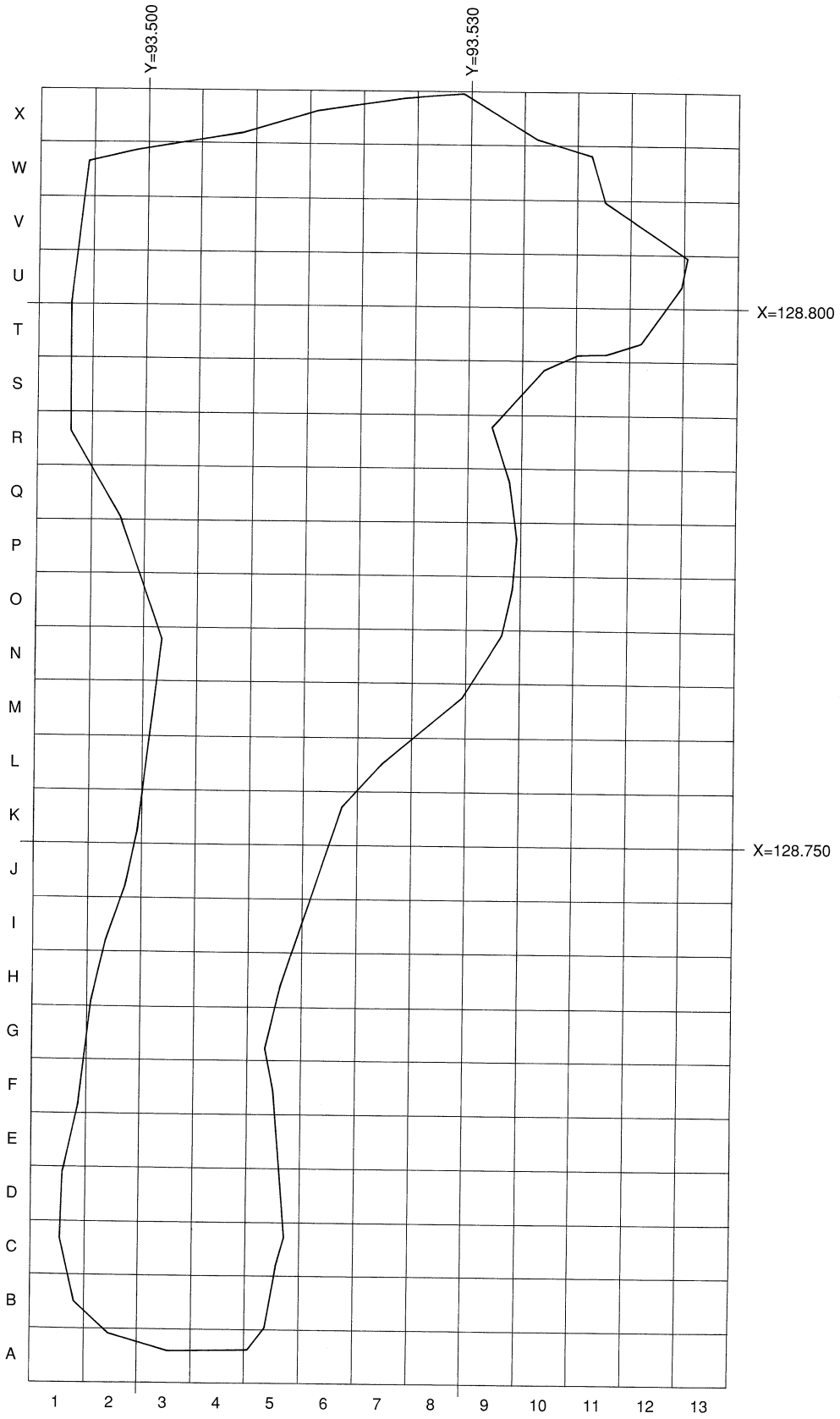
（3）調査日誌抄

西山田古墳群（Ⅰ）調査日誌抄

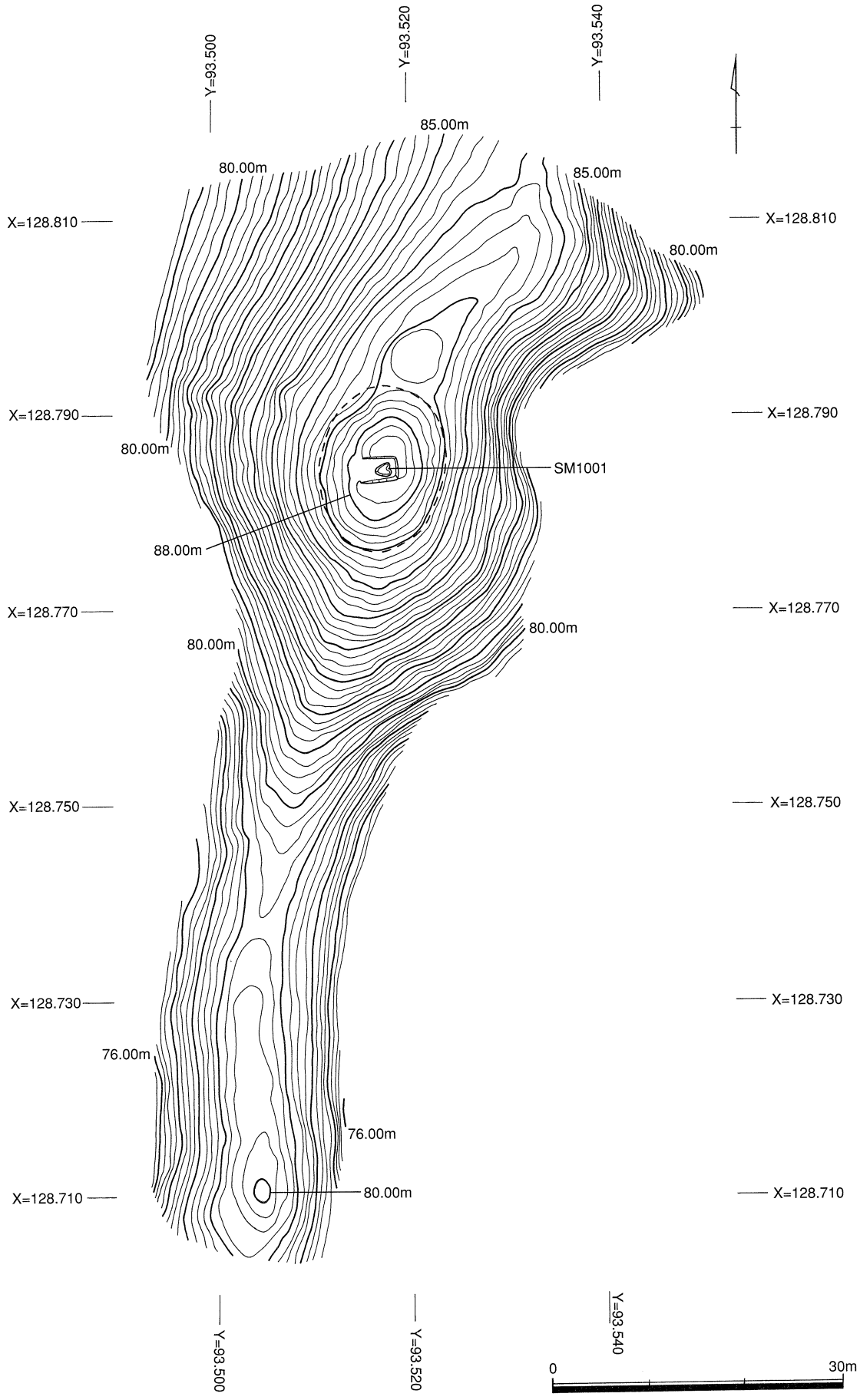
2000年

6月1日　地形測量。腐葉土除去開始。
6月30日　トレンチ掘削開始。
7月3日　写真撮影。遺構検出。作図。
7月10日　遺構検出。遺構内掘削開始。
8月8日　墓壙作図。
8月17日　遺構検出（南側）。検出状況の写真撮影。
8月21日　写真清掃。写真撮影。
9月1日　試掘トレンチ掘削（SM1001の南側および北部トレンチ）。作図（トレンチ断面）。
9月4日　トレンチ精査。写真撮影。
9月13日　空撮準備。
9月14日　SM1001石室空撮（リフトセンサー）。
9月18日　試掘トレンチ写真撮影。
9月21日　空撮準備。遺構内掘削（完掘）。
9月22日　空撮（ヘリコプター）。
9月25日　機材撤収。調査終了。

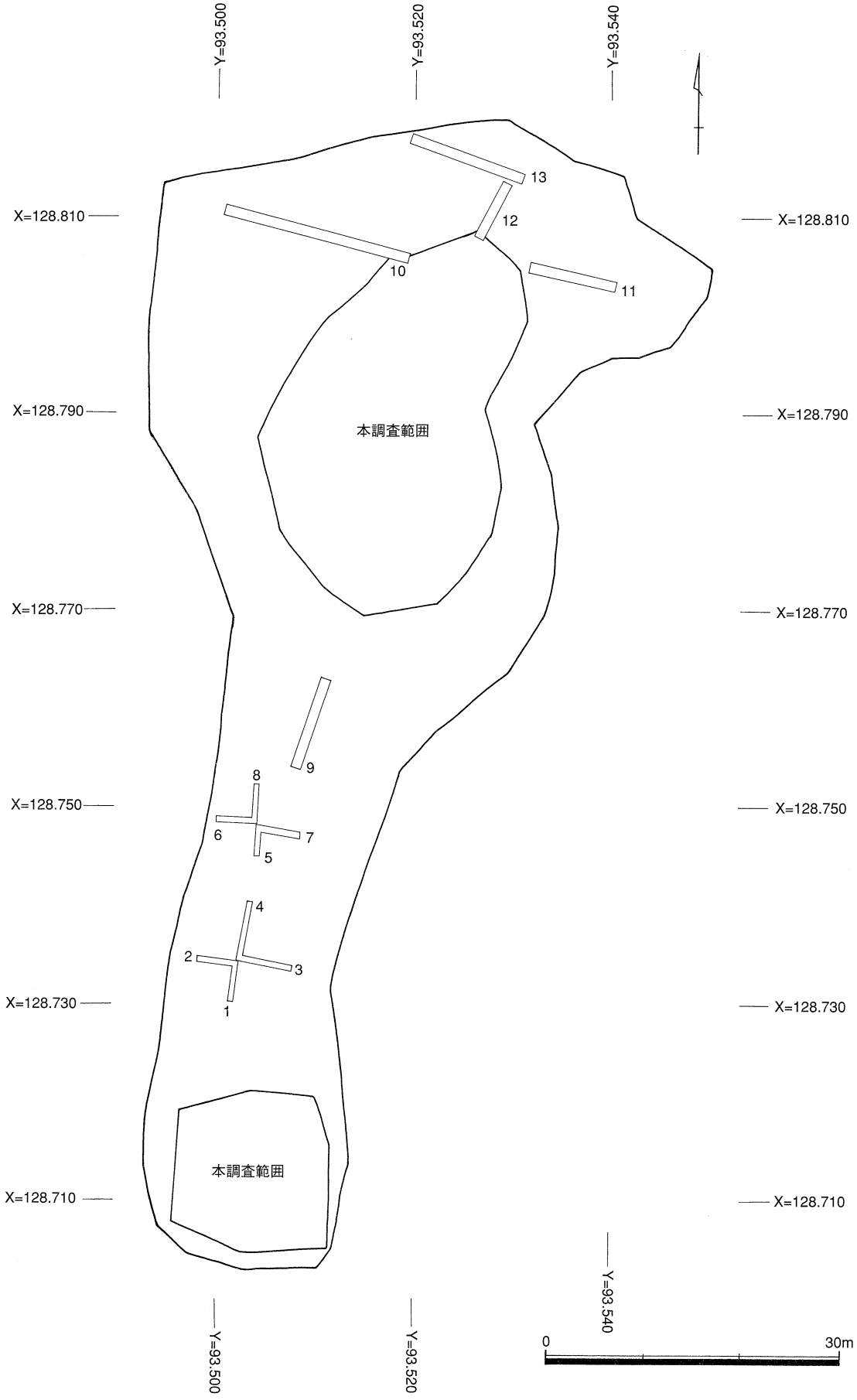



Y=93.500
Y=93.530
X=128.800
X=128.750
X
W
V
U
T
S
R
Q
P
O
N
M
L
K
J
I
H
G
F
E
D
C
B
A
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13

第１図　グリッド配置図



第 2 図　地形平面・遺構配置図



第３図　本調査範囲・トレンチ配置図

2　調査成果

（1）遺跡の位置（Ⅰ-第1図およびⅡ-第1・5・16図）

調査対象地は、阿讃山脈南麓の標高約75～88mの尾根上に位置する。現況は山林となっている。阿讃山脈南麓の板野郡板野町から鳴門市大麻町にかけての尾根上は県内でも有数の古墳集中地域であり、古墳時代前期および後期には多くの古墳が築造される。主なものに萩原墳墓群、天河別神社古墳群などが近隣に所在する。

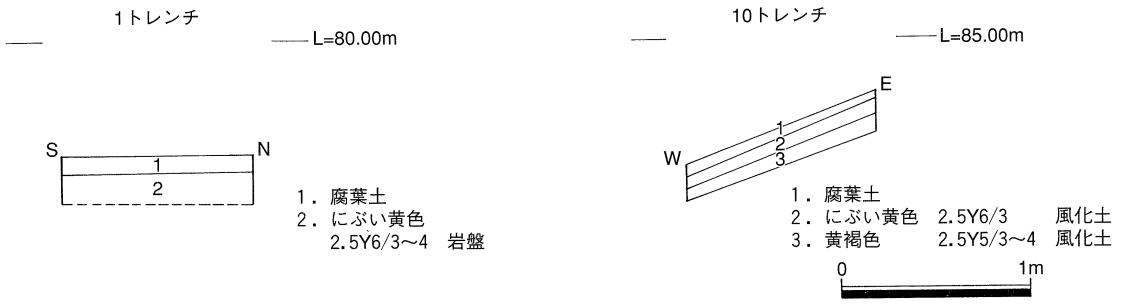
（2）基本層序（第2～4図）

トレンチ配置状況と土層堆積状況

立木の伐採終了時点から調査区北側において墳丘状の地形が確認されていた。調査に際し、現況の地形測量を実施し、より墳丘状の地形が明らかになった。これを墳丘として捉え、墳丘および主体部の確認のため、ここに4ヵ所のトレンチを設定し、掘削作業を行った。またその他のトレンチの設定については墳丘と思われる地点を中心に尾根筋に沿ってメイントレンチを設定し、それに直交するようにサブトレンチを、計13ヵ所設定した。試掘の結果、調査区北部において円墳1基およびその主体部を確認したため、800m²の範囲を対象に本調査へ移行した。

土層堆積状況は各トレンチとも類似しており、各トレンチにより微差はあるが基本層序は以下の通りほぼ対応する。

1．…黒褐色 10YR2/3 砂質土（表土、腐植土。）
2．…にぶい黄色 2.5Y6/3 砂質土（シルト質土。岩盤風化土。）
3．…和泉層群砂岩・泥岩礫層（岩盤。地山。）



第4図　模式柱状土層図

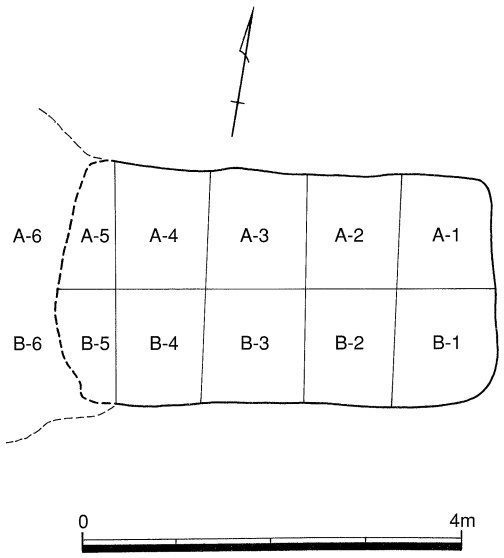
（3）遺構と遺物

今回の調査では円墳が1基確認された。遺物はほとんどが墓壙内からの出土であった。試掘の各トレンチからの出土は皆無であった。若干、墳丘斜面から土器片および石室石材と思われる結晶片岩片が出土しているが、墳丘斜面出土遺物はいずれも小片であり、原位置は遊離していると思われる。これらは墳頂部からの崩落によるものと考えられる。

出土遺構

SM1001（１号墳）（第５～７図）

Q-6グリッド、調査区北部で確認された古墳である。墳丘形態は円墳で、墳丘規模は長軸16.0m、短軸12.0mでやや楕円形状を呈する。これは古墳が築造された尾根幅が狭いために地形の制約を大きく受け、加えて地山を削り出して墳丘を整えているため、結果としてこのような不整形な平面形状に至ったと考えられる。墳頂部は標高88.0mで、墳丘裾と思われる標高86.2mの地形コンタラインから墳丘高は約２mである。墳丘外面には葺石等の外表施設はなく、周溝も検出されなかった。



第５図　SM1001墓壙内出土遺物取り上げ割り付け図

主体部の墓壙規模は長軸（最大長）5.60m、短軸(最大幅)2.50m、最大深度は80cmを測り、平均約40cm前後となっている。削平されているとはいえ、床面までが非常に浅いことから、現状よりも高いレベルに天井部・墳頂部があり、墳丘の築造に盛土があった可能性が考えられるが、土層断面からは確認できない。主軸方向はN-84°-Wで、ほぼ東西方向である。石室は後世の開墾によるためか、破壊され消失しており遺存していなかったため、石室の形状および形態は不明である。しかし、墓壙覆土中や墓壙周辺の墳丘斜面より、結晶片岩や砂岩の破片の散布がみられることから、結晶片岩や砂岩を用いた主体部（石室）であった可能性が示唆される。墓壙は北・南および東側が垂直気味に立ち上がるのに対し、西側のみがそのまま墳丘斜面と同化するため、墓壙西側に主体部入口が設けられていたと思われ、西側に開口する横穴式石室の存在が可能性として指摘できる。頭位方向についても不明であるが、東頭位であった可能性が考えられる。また主体部床面は１面のみ確認された。直径３cm前後の砂岩円礫を用いて敷き詰め、床面を構築していたものと思われるが、後世の攪乱が床面まで及んでおり、床面の円礫は中央および東側部分に一部残存するのみであった。

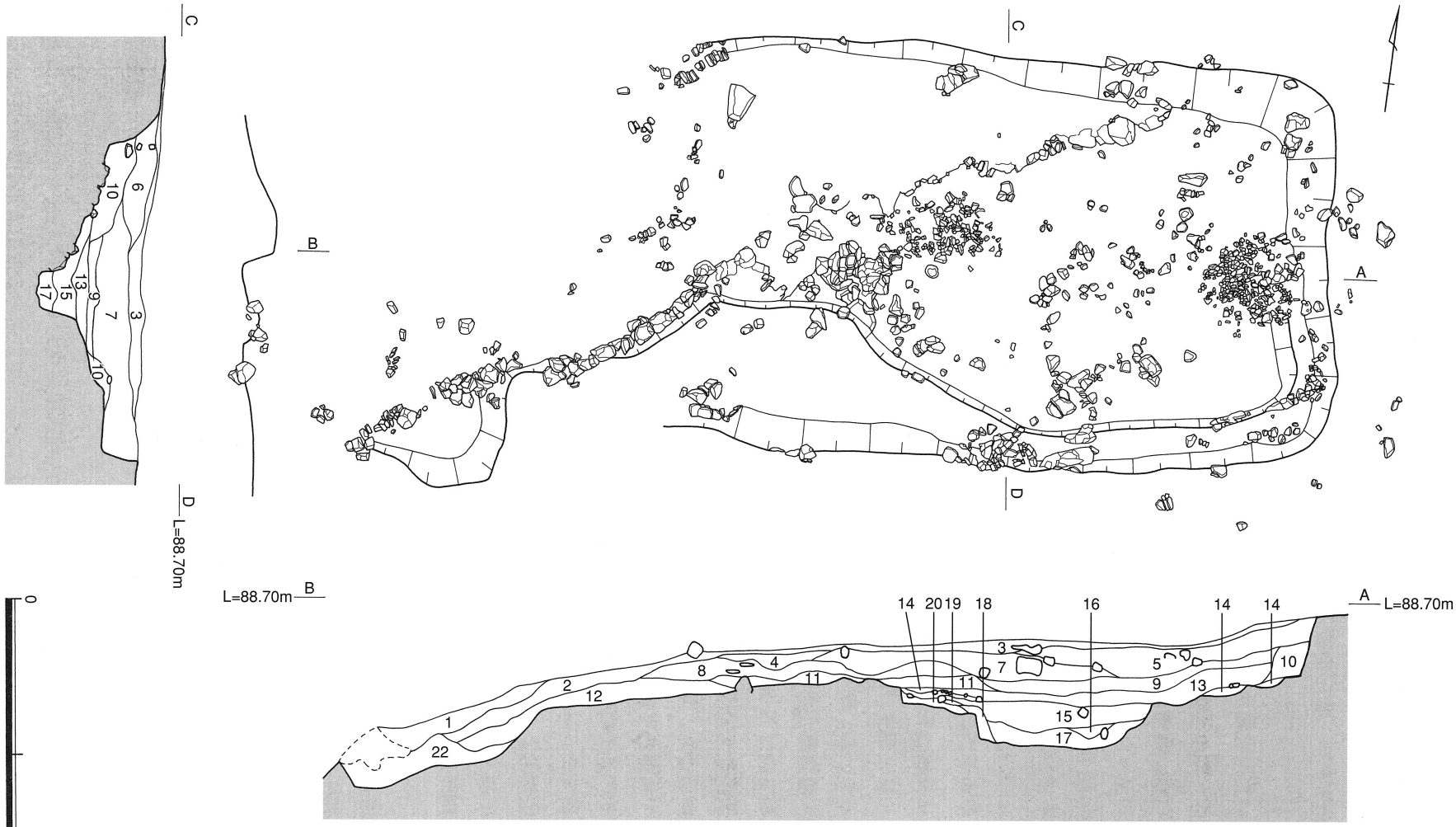
出土遺物（第８～10図）

墓壙内からは土師器・須恵器の土器類の他、管玉・ガラス小玉などの装飾品類や石室石材と思われる結晶片岩片が出土している。遺物は全体的に主体部中央から東側部分にかけて出土しているが、玉類以外はすべて小片であり、床面から遊離した状態のため、副葬位置が特定できるものはない。墓壙東側の床面直上からは水晶の玉２点、ガラスの勾玉１点、管玉８点、小玉を含むガラス玉は計61点が出土した。これらは層位的には床面直上から出土しているものの、組み合わせに不足があることに加え、出土位置が東側に偏っていたことから原位置を保っているとは言い難い。追葬の有無は判断し難いが、可能性として東側に掃き寄せられたことも考えられる。

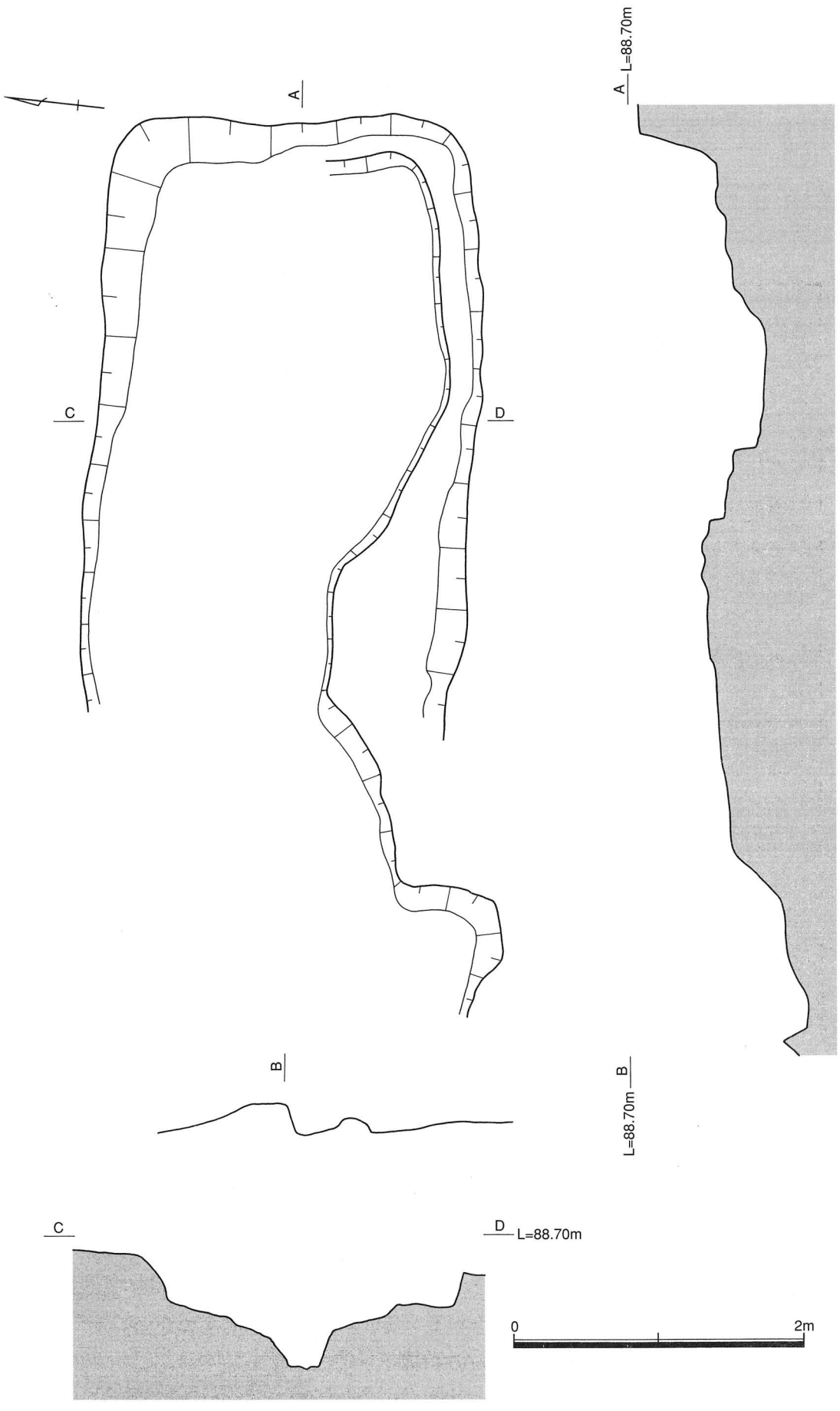
土師器は小片のみで復元・実測可能なものは少ないが、須恵器は復元・実測可能なものが多く、杯身・杯蓋を中心に高杯・提瓶などがみられた。年代的にはMT15並行期段階の６世紀前半頃があてられる。

玉類は奥壁側の床面から出土している。勾玉を除くガラス玉は全て青系統の色調をもち、径７mm前後

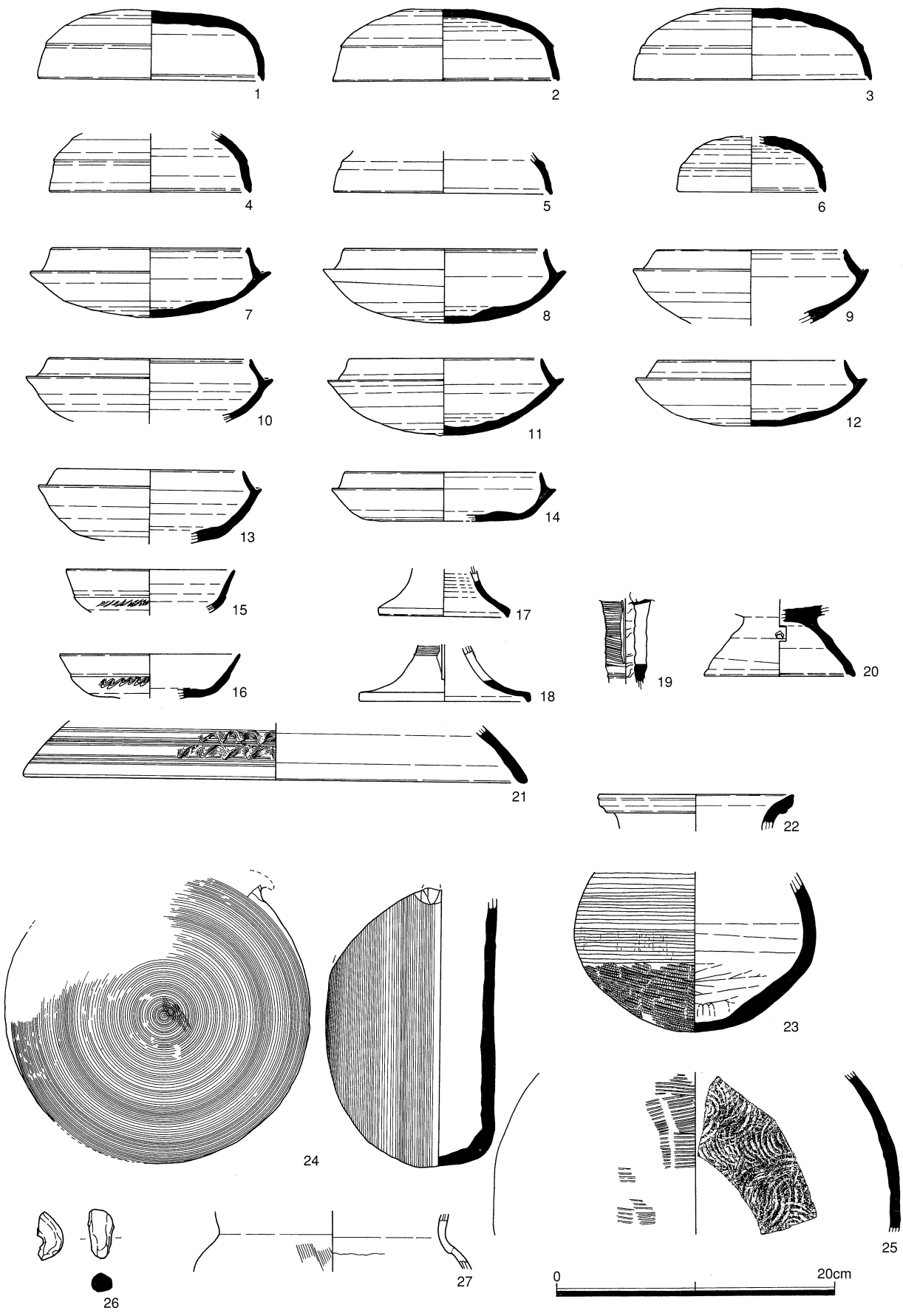
第６図　SM1001平面・土層断面図



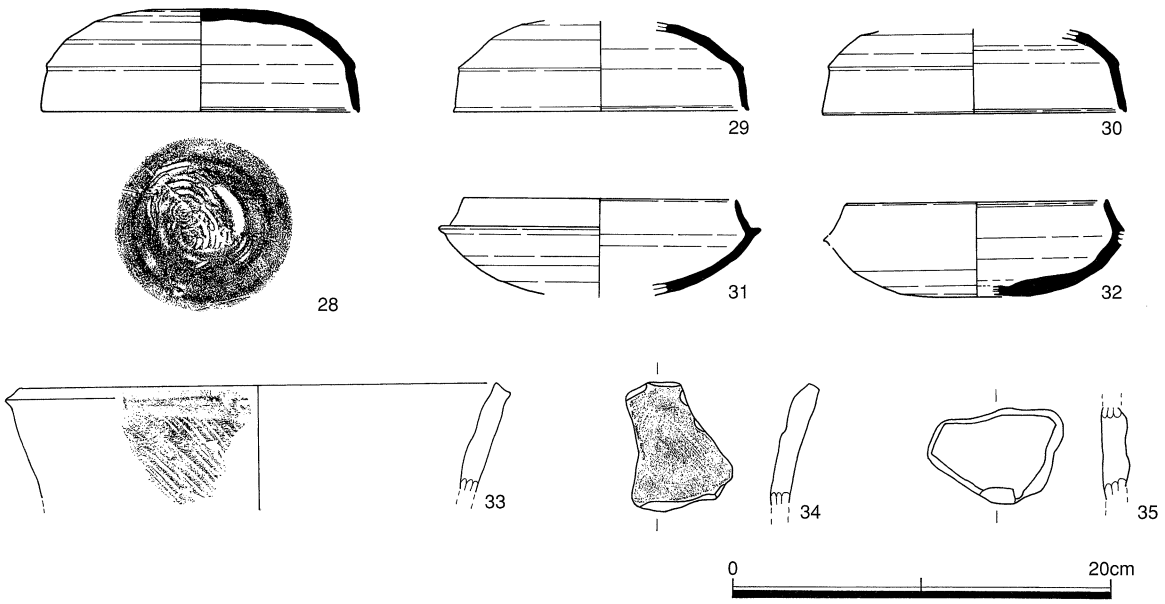
1．腐葉土
2．腐葉土　（わずかに風化土がまじる。）
3．腐葉土　（しまりなし。粘性ややなし。かなりもろい。）
4．にぶい黄褐色　10YR5/3　風化土（しまりややなし。粘性ややなし。第３層に類似しているが風化土を主体とする。）
5．にぶい黄褐色　10YR5/3　風化土（しまりややなし。粘性ややなし。φ＝１～３㎜大の地山礫をやや多く含む。）
6．にぶい黄褐色　10YR5/4　風化土（しまりややあり。粘性わずかにあり。φ＝２㎝前後の地山礫を僅かに含む。土質は５層に近い。）
7．にぶい黄褐色　10YR5/3　風化土（しまりあり。粘性ややあり。９層に類似、しかし粒子がやや粗い。）
8．にぶい黄褐色　10YR5/3　風化土（しまりあり。粘性ややあり。９層又は10層に類似。）
9．にぶい黄褐色　10YR5/3　風化土（しまりややあり。粘性ややなし。やや土に近い。φ＝１㎝未満の地山礫を僅かに含む。）
10．にぶい黄色　2.5Y6/3　風化土（しまり非常に強い。粘性僅かにあり。地山礫含む。突き固めている？）
11．にぶい黄褐色　10YR5/4　風化土(しまりあり。粘性ややなし。５層に類似。φ＝3～4㎝大の地山礫を含む。)
12．にぶい黄色　2.5Y6/4　風化土（しまり強い。粘性ややなし。岩盤に近い。粒子は緻密。）
13．明黄褐色　2.5Y6/6　風化土(しまりややあり。粘性ややなし。φ＝３㎝以下の地山礫を僅かに含む。)
14．にぶい黄色　2.5Y6/4　風化土（しまりややなし。粘性ややなし。φ＝２㎝前後の円礫を含む。上面が床面破壊（盗掘？）により残存僅か。）
15．浅黄色　2.5Y7/4　風化土（しまりややあり。粘性ややなし。φ＝３～５㎝大の地山礫が散在する。）
16．にぶい黄褐色　10YR5/3　風化土（しまりややあり。粘性ややなし。土質は15層に類似するがやや色調が暗く僅かにしまりが不足する。）
17．にぶい黄褐色　10YR5/4　風化土（しまりあり。粘性ややあり。φ＝10～15㎝大の地山礫が稀に含まれる。小礫等は少ない。）
18．にぶい黄橙色　10YR6/4　風化土(しまりあり。粘性ややあり。φ＝２㎝前後の地山小礫を僅かに含む。)
19．にぶい黄褐色　10YR5/3　風化土（しまりあり。粘性ややあり。17層に類似するが礫をほとんど含まない。）
20．にぶい黄色　2.5Y6/3　風化土（しまりあり。粘性ややなし。）
21．にぶい黄色　2.5Y6/4　岩盤　（非常にもろく、風化土に近い。）
22．にぶい黄色　2.5Y6/4　岩盤　（節理がはっきりとしている。）



第７図　SM1001完掘状況平・断面図



第 8 図　SM1001出土遺物 1



第９図　SM1001出土遺物２

のやや大型のものは両小口を平滑に研磨して仕上げられている。管玉はすべて碧玉製であり、穿孔はいずれも一方向からである。１点だけ出土した勾玉は、凹型に熔けたガラスを流し込んで製造されたと思われる。水晶製の算盤玉も２点出土した。玉類のサイズには各種類ごとに規格性・統一性がみられるが、装着状態などは不明である。

（４）まとめ

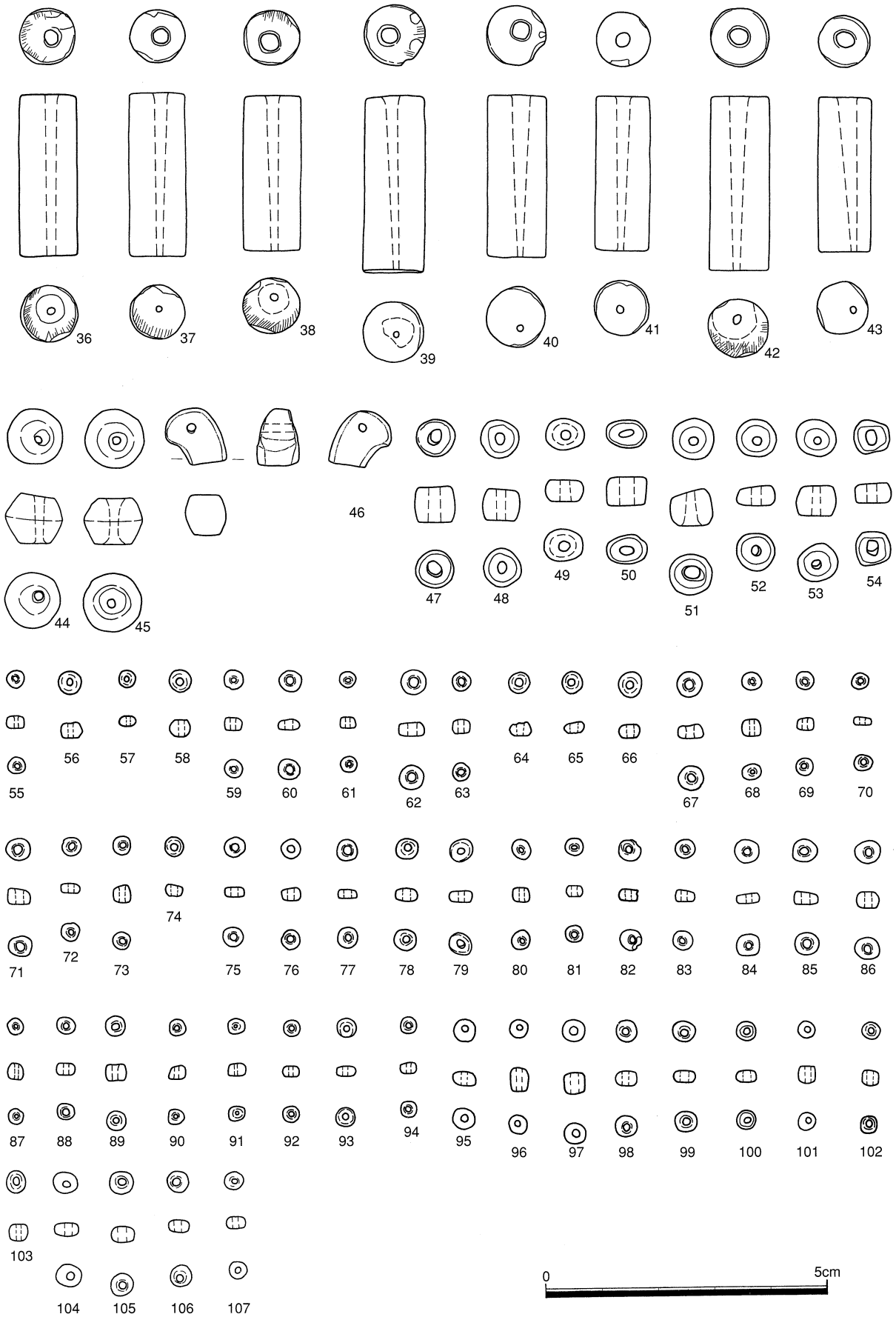
今回の調査では円墳が１基確認された。

１号墳は大きく破壊を受けているものの、わずかながらも主体部床面が残存しており、須恵器や玉類といった遺物の出土もみられた。出土須恵器から６世紀前半という年代は得られたものの、主体部の構造に関しては、床面の構築に円礫を使用していること以外に判明していない。墓壙の残存状況から、石室形態は横穴式石室の存在が可能性として考えられる。

墓壙内および墳丘周辺に結晶片岩の破片が散布していることから、石室石材には結晶片岩礫が使用されていたものと思われる。近隣に所在する大谷山田遺跡・かに塚・ぬか塚など当該地域の後期古墳の石室石材には砂岩が用いられているが、本古墳の東側の尾根上に所在するカネガ谷１号墳においても横穴式石室の石材に結晶片岩が用いられている。両者には多少の時期差があるものの、古墳の立地・形状および主軸方向が東西を志向するなど類同様相を見せる。

また前述の大谷山田遺跡・かに塚・ぬか塚などの後期古墳は比較的低所に築造されているのに対し、西山田（Ⅰ）１号墳およびカネガ谷１号墳は高所に立地していることなど、当該地域における古墳群の様相の一端、時期的な立地の変遷を示す資料として注目される。また、このことは石室使用石材や古墳築造の立地に関してある種の社会的規制があったものと想定される。今後さらに東西主軸を志向する古墳群の規制程度とその階層範囲など立地や石室構造・副葬品の組成を含めて検討が必要である。

本古墳は遺存状態が非常に悪く、遺構・遺物の出土状況など不明な点が多く、検討すべき課題は多く残るが、６世紀前半段階に横穴式石室の存在が指摘できた意義は大きく、MT15並行期段階には本地域に横穴式石室が導入されていたものと考えられる。



第10図　SM1001出土遺物 3 （玉類）

西山田古墳群（Ⅰ）
第1表　出土遺構一覧表
SM

遺構名	グリッド	墳丘形態	墳丘規模	墓壙平面形態	墓壙断面形態	墓壙長軸（m）	墓壙短軸（m）	墓壙深度（cm）	主軸方向	備　考
SM1001	Q-6	円墳	墳頂88m、長軸16m、短軸12mの楕円形の平面形状をもつ。	隅丸長方形	D字状（浅い台形状）	5.6	2.5	80	N-84°-W	石室残存せず。

第2表　出土遺物観察表
SM（土器）

報告書掲載番号	遺　構	出土地点（石室内地点）	層　位	器　種	残存率	口　径（cm）	体　部最大径（cm）	底　径（cm）	頸部（脚柱）径（cm）	器高・残存高（cm）	その他の法量（cm）	部位	形　態	調　整	含有物組　成	色　調	備　考
1	SM1001	Q-6 (A-1·2 B-2)	表土	須恵器杯蓋	天井部～口縁ほぼ1/1	16.0				5.0		天井部～口縁	天井部は緩やかなカーブから屈曲して口縁に向かって直立し、端部は丸みをもって整えられる。端部内面に沈線をもつ。	外面：ロクロナデ。回転ヘラケズリ。内面：ロクロナデ。	石英	外面：青灰内面：青灰	焼成良好。
2	SM1001	Q-6 (A-1·2 B-1)		須恵器杯蓋	天井部～口縁2/3	16.0	16.2			5.1		天井部～口縁	天井部は緩やかなカーブから屈曲して口縁に向かって直立し、端部は丸みをもって整えられる。端部内面に沈線をもつ。	外面：天井部回転ヘラケズリ。ロクロナデ。内面：ロクロナデ。沈線1条。	長石	外面：青灰内面：青灰	焼成良好。
3	SM1001	Q-6 (A-2 B-2)		須恵器杯蓋	天井部～口縁1/3	16.8	17.0			5.1		天井部～口縁	天井部から緩やかなカーブで口縁端部に至り、端部は丸みをもって整えられる。端部内面に沈線をもつ。	外面：天井部回転ヘラケズリ。回転ナデ。内面：回転ナデ。	長石	外面：オリーブ灰内面：灰	焼成良好。
4	SM1001	Q-6 (A-2)		須恵器杯蓋	体部～口縁2/3	14.4				4.1		体部～口縁	天井部のカーブから屈曲して口縁に向かって直立し、端部は丸みをもって整えられる。端部内面に沈線をもつ。	外面：ロクロナデ。天井部回転ヘラケズリ。内面：ロクロナデ。	石英・長石	外面：青灰内面：青灰	焼成良好。
5	SM1001	Q-6 (A-1 B-1)		須恵器杯蓋	体部～口縁1/4	15.6				3.0		体部～口縁	天井部から緩やかなカーブで口縁端部に至り、端部は丸みをもって整えられる。端部内面に沈線をもつ。	外面：回転ナデ。内面：回転ナデ。	石英・長石	外面：灰内面：灰	焼成良好。
6	SM1001	Q-6 (A-1·2)		須恵器杯蓋	天井部～口縁1/3	10.5	10.6			3.9		天井部～口縁	天井部から緩やかなカーブで口縁端部に至り、端部は尖り気味に収める。端部内面に沈線をもつ。	外面：回転ヘラケズリ。ロクロナデ。内面：ロクロナデ。	長石	外面：青灰内面：青灰	焼成良好。
7	SM1001	Q-6 (B-2)		須恵器杯身	口縁～底部4/5	14.0	17.1			5.0		口縁～底部	体部外上方に立ち上がり、やや内傾したかえしをもつ。内面に弱い屈曲があり、端部を丸く収め、深さは浅い。	外面：回転ナデ。底部回転ヘラケズリ。内面：回転ナデ。	長石	外面：青灰内面：青灰	焼成良好。口縁端部の内面には弱い沈線が施されその下位にロクロによる弱い稜線が入る。
8	SM1001	Q-6 (A-1·2 B-2)		須恵器杯身	口縁～底部1/1	14.5	17.4			5.3		口縁～底部	体部外上方に立ち上がり、かえしを貼り付ける。かえしは内傾し、内面に強い屈曲があり、端部を丸く収める。	外面：ロクロナデ。底部回転ヘラケズリ。内面：ロクロナデ。	石英	外面：青灰内面：青灰	焼成良好。
9	SM1001	Q-6 (B-1)		須恵器杯身	口縁～体部1/5	13.4	16.8			5.2		口縁～体部	杯部に内傾するかえしをもつ。かえしは貼り付けで、端部は丸みをもたせ、端部内面に沈線をもつ。	外面：回転ナデ。回転ヘラケズリ。内面：回転ナデ。	長石	外面：灰内面：灰	焼成良好。
10	SM1001	Q-6 (A-1·2)		須恵器杯身	口縁～体部1/9	14.3	17.5			3.95		口縁～体部	体部外上方に立ち上がり、やや内傾したかえしをもつ。内面に弱い屈曲があり、端部を丸く収める。	外面：ロクロナデ。底部ケズリ。内面：ロクロナデ。	長石	外面：灰内面：灰	焼成良好。
11	SM1001	Q-6 (A-1·2 B-2)		須恵器杯身	口縁～底部1/1	13.6	16.8			5.7		口縁～底部	体部外上方に立ち上がり、かえしを貼り付ける。かえしは内傾し、内面に強い屈曲があり、端部を丸く収める。	外面：口縁部ナデ。底部ケズリ。内面：ナデ。	長石	外面：青灰内面：青灰	焼成良好。
12	SM1001	Q-6 (A-2)		須恵器杯身	口縁～体部1/4	13.4	16.5			3.8		口縁～体部	体部外上方に立ち上がり、やや内傾したかえしをもつ。端部は丸く収め、深さは浅い。	外面：回転ナデ。回転ヘラケズリ。内面：回転ナデ。	長石	外面：灰内面：灰	焼成良好。
13	SM1001	T-6		須恵器杯身	口縁～体部1/4	13.4	16.0			5.1		口縁～体部	体部外上方に立ち上がり、かえしを貼り付ける。かえしは内傾し、内面に強い屈曲があり、端部を丸く収める。	外面：回転ナデ。底部回転ケズリ。内面：回転ナデ。	石英・長石	外面：青灰内面：青灰	焼成良好。

報告書掲載番号	遺構	出土地点(石室内地点)	層位	器種	残存率	口径(cm)	体部最大径(cm)	底径(cm)	頸部(脚柱)径(cm)	器高・残存高(cm)	その他の法量(cm)	部位	形態	調整	含有物組成	色調	備考
14	SM1001	Q-6 (A-3)		須恵器 杯身	口縁～底部 1/5	14.0	16.0	8.0		3.5		口縁～底部	扁平な器形に、かえしがつく。かえしは短く内傾し、端部は尖り気味に収める。	外面：ロクロナデ。底部回転ヘラケズリ。 内面：ロクロナデ。	長石	外面：青灰 内面：青灰	焼成良好。
15	SM1001	Q-6 (A-2)		須恵器 高杯	口縁部 1/6	11.9				3.0		口縁部	緩やかなカーブで口縁に至り、端部は尖り気味である。	外面：ロクロナデ。斜刺突文。 内面：ロクロナデ。	石英・長石	外面：灰 内面：灰	焼成良好。
16	SM1001	Q-6 (B-1)		須恵器 高杯	口縁部 1/16	12.8				3.2		口縁～体部	杯部は浅い皿形をもち、体部外上方に立ち上がり、端部を尖り気味に収める。	外面：櫛描き波状文。ナデ。 内面：ナデ。	石英	外面：灰 内面：灰	焼成良好。
17	SM1001	Q-6 (B-2)		須恵器 高杯	脚部 2/7			9.2		3.4		脚部	脚部は末広がりで、下半で大きく開く。端部は丸みをもつ。殆ど欠損しているが、縦長の長方形の透かし孔がつく。	外面：ロクロナデ。自然釉。 内面：ロクロナデ。	長石	外面：暗灰 内面：灰	焼成良好。
18	SM1001	Q-6 (B-1)		須恵器 高杯 脚	脚部			12.0		3.9		脚部	脚部は末広がりで、端部付近でハの字状に大きく開き端部は下方へ拡張し、やや尖り気味に収める。4ヶ所に透かし孔有り。	外面：棒状工具による線刻。回転ナデ。 内面：回転ナデ。	長石	外面：黒 内面：灰	焼成良好。 外面に一部黒色の自然釉。
19	SM1001	Q-6 (B-2)		須恵器 高杯	脚柱部 1/4					6.0		脚柱部	脚柱部は直立。透かし孔は長方形で4方向と思われる。カキメを施した後、外から内方向で穿孔し、外面を削りとる。	外面：カキメ。回転ヨコナデ。 内面：しぼり。	長石	外面：灰 内面：灰	焼成良好。
20	SM1001	T-6		須恵器 高杯	脚部 1/4			10.8		5.1		脚部	短く、外へ開く脚部。端部は丸みをもって、内面に受け状の弱いかえしがつく。	外面：ロクロナデ。 内面：ロクロナデ。杯部との接合力を増加させるため波状になる。	長石	外面：灰 内面：灰	焼成良好。
21	SM1001	Q-6 (N-7)	表採	須恵器 器台	脚部 1/10			35.3		4.0		脚部	脚部外下方に拡がり、端部を丸く収める。	外面：波状文。 内面：ナデ。	石英・長石	外面：灰 内面：灰	焼成良好。
22	SM1001	Q-6 (T-6)	表採	須恵器 壺	口縁部 1/12	13.7				2.4		口縁部	口縁部外反し、端部で肥厚し丸く収める。端部外下部に沈線をもつ。	外面：ナデ。沈線1条。 内面：ナデ。	石英・長石	外面：暗青灰 内面：灰	焼成良好。
23	SM1001	Q-6 (A-1 B-1)		須恵器 壺	体部～底部 1/2		17.2	1.6		11.4		体部～底部	球形の体部をもち底部は歪みのある丸味をもつ。	外面：体部ハケメ(5条／cm)。底部タタキ(4条／cm)。 内面：ハケ。	石英・黒色斑粒	外面：灰 内面：灰	焼成良好。
24	SM1001	Q-6		須恵器 提瓶	全体 2/3		21.9			残存長 19.9	幅12.0	体部	扁球形の体部をもち、側縁の口縁を欠損している。体部肩に把手をもつ。	外面：カキメ。 内面：ユビオサエ。	石英	外面：灰 内面：灰	焼成良好。
25	SM1001	Q-6 (A-3)		須恵器 甕	不明					10.5		体部	体部内彎している。	外面：タタキ(4条／cm)。 内面：同心円文。	石英・長石	外面：灰 内面：灰	焼成良好。 拓本。
26	SM1001	Q-6 (A-1)		須恵器 提瓶 把手	把手				1.35		残存長 3.5 幅1.8	把手		外面：ユビオサエのちナデ。	石英・長石	外面：灰	焼成良好。
27	SM1001	Q-6 (A-2)		土師器 甕	頸部 1/8				16.1	4.4		頸部	体部内彎しながら立ち上がり、口縁部で僅かに外反する。	外面：ナデ。ハケ（7条／cm)。 内面：ナデ。	石英・長石・結晶片岩	外面：橙 内面：橙	焼成良好。 接合痕有り。
28	SM1001	Q-6 (A-1・2)		須恵器 杯蓋	天井部～口縁 1/1	16.7				5.4		天井部～口縁	天井部は緩やかなカーブから屈曲して口縁に向かって直立し、端部は丸みをもって整えられる。端部内面に沈線をもつ。	外面：ロクロナデ。天井部回転ヘラケズリ。 内面：ロクロナデ。同心円文のタタキの工具痕有り。	長石	外面：灰 内面：灰	焼成良好。
29	SM1001	Q-6 (A-1・2 B-2)		須恵器 杯蓋	体部～口縁 1/5	16.0				4.3		体部～口縁	天井部のカーブから屈曲して口縁端部に至り、端部を尖り気味に収める。	外面：天井部回転ヘラケズリ。ロクロナデ。 内面：ロクロナデ。	石英・長石	外面：灰 内面：灰	焼成良好。
30	SM1001	Q-6 (A-1・2 B-2)		須恵器 杯蓋	天井部～口縁 1/2	15.6	15.7			4.8		天井部～口縁	天井部のカーブから屈曲して口縁に向かって直立し、端部は丸みをもって整えられる。端部内面に沈線をもつ。	外面：ロクロナデ。天井部回転ヘラケズリ。 内面：ロクロナデ。	長石	外面：灰 内面：灰	焼成良好。
31	SM1001	Q-6 (A-1・2 B-2)		須恵器 杯身	口縁～体部 1/2	14.4	17.0			5.1		口縁～体部	体部外上方に立ち上がり、かえしを貼り付ける。かえしは内傾し、端部を尖り気味に収める。	外面：回転ナデ。底部回転ケズリ。 内面：回転ナデ。	石英・長石	外面：灰 内面：灰	焼成良好。
32	SM1001	Q-6 (A-1・2 B-2)		須恵器 杯身	口縁～体部 1/5	13.8				5.0		天井部～口縁	体部外上方に立ち上がり内傾するかえしをもつ。受けが欠落している。	外面：底部回転ヘラケズリ。ロクロナデ。 内面：ロクロナデ。	長石	外面：灰 内面：灰	焼成良好。

SM（埴輪）

報告書掲載番号	遺　構	出土地点	層　位	器　種	法量（cm）	形態の特徴	成形・調整	胎　土	色　調	備　考
33	SM1001	墳丘西		円筒埴輪	器高5.7 口径 内25.0 外26.5 厚さ1.1	口縁部はやや外反し、端部を方形状に収める。	外面：ナデのちナナメハケ（3条／cm）。 内面：ナデ。	精、石英・赤色斑粒・黒色斑粒0.1～1.5mm	浅黄橙	焼成軟質。
34	SM1001	墳丘西		円筒埴輪	縦6.8 横5.7 厚さ1.1	口縁部はやや外反し、端部は剥離している。	外面：ナナメハケ（7条/cm）。 内面：ナデ。	精、石英・赤色斑粒・黒色斑粒0.1～2.5mm	浅黄橙	焼成軟質。
35	SM1001	後円部西	腐葉土	円筒埴輪	縦5.1 横7.1 厚さ1.3		外面：摩滅のため調整不明。 内面：ナデ。	精、石英・赤色斑粒0.1～3.5mm	外面：にぶい黄褐 内面：浅黄橙	焼成軟質。

SM（玉類）

報告書掲載番号	遺　構	出土地点（石室内地点）	層　位	材　質	器　種	長径（mm）	短径（mm）	厚さ（mm）	重量（g）	孔径（mm）	穿孔方向	その他の法量（cm）	残存率	色　調	備　考
36	SM1001	Q-6（B-1）		碧玉	管玉	10.3	10.0	28.8	5.89	2.8	片面		1/1	くらいグレイみの緑	ケズリ痕。
37	SM1001	Q-6（B-1）		碧玉	管玉	10.3	9.5	29.0	5.41	3.0	片面		1/1	くらいオリーブ	ケズリ痕。
38	SM1001	Q-6（B-1）		碧玉	管玉	10.3	10.0	27.7	5.56	3.0	片面		1/1	くらいオリーブグリーン	ケズリ痕。
39	SM1001	Q-6（B-1）		碧玉	管玉	11.1	10.5	31.6	7.36	3.0	片面		1/1	くらいグレイみの緑	ケズリ痕。
40	SM1001	Q-6（B-1）		碧玉	管玉	11.0	10.0	29.0	6.16	3.0	片面		1/1	オリーブみの黒	ケズリ痕。
41	SM1001	Q-6（B-1）		碧玉	管玉	10.0	9.5	27.4	4.97	2.5	片面		1/1	オリーブみの黒	ケズリ痕。
42	SM1001	Q-6（B-1）		碧玉	管玉	10.7	10.5	30.8	6.58	3.0	片面		1/1	くらいグレイみの緑	ケズリ痕。
43	SM1001	Q-6（B-1）		碧玉	管玉	9.5	9.2	27.5	4.38	3.5	片面		1/1	オリーブみの黒	
44	SM1001	Q-6（B-1）		水晶	算盤玉	9.6	9.5	8.9	1.05	6.0	両面		1/1	無色	研磨。
45	SM1001	Q-6（B-1）		水晶	算盤玉	10.5	10.5	8.5	1.19	4.5	両面		1/1	無色	研磨。
46	SM1001	Q-6（B-1）		硝子	勾玉	頭部径7.8	残存長10.4		1.21	1.5			1/2	あさい緑	
47	SM1001	Q-6（B-1）		硝子	臼玉	7.3	7.0	6.2	0.48	3.0			1/1	こい青	上面・下面研磨。
48	SM1001	Q-6（B-1）		硝子	臼玉	7.0	6.8	5.6	0.32	2.0			1/1	こい青	
49	SM1001	Q-6（B-1）		硝子	臼玉	6.9	6.0	3.9	0.24	2.0			1/1	くらい青	
50	SM1001	Q-6（B-1）		硝子	臼玉	7.0	5.0	5.1	0.32	2.7			1/1	くらい青	上面・下面研磨。
51	SM1001	Q-6（B-1）		硝子	臼玉	7.6	7.6	6.6	0.56	2.5			1/1	青みの黒	上面・下面研磨。
52	SM1001	Q-6（B-1）		硝子	臼玉	6.9	6.8	3.5	0.23	1.5			1/1	くらい青	上面・下面研磨。
53	SM1001	Q-6（B-1）		硝子	臼玉	7.3	6.8	5.5	0.39	1.5			1/1	くらい青	上面・下面研磨。
54	SM1001	Q-6（B-1）		硝子	臼玉	6.6	6.0	3.7	0.20	2.5			1/1	くらい青	上面・下面研磨。
55	SM1001	Q-6（B-1）		硝子	小玉	3.4	3.2	2.8	0.05	1.0			1/1	つよい緑みの青	
56	SM1001	Q-6（B-1）		硝子	小玉	4.0	4.0	3.0	0.06	1.0			1/1	こい青	
57	SM1001	Q-6（B-1）		硝子	小玉	3.0	3.0	2.0	0.02	0.5			1/1	つよい緑みの青	
58	SM1001	Q-6（B-1）		硝子	小玉	4.0	4.0	3.0	破損のため測定不能	1.5			1/1	くらい緑みの青	
59	SM1001	Q-6（B-1）		硝子	小玉	3.5	3.4	2.6	0.05	0.9			1/1	くらい緑みの青	
60	SM1001	Q-6（B-1）		硝子	小玉	4.2	4.0	2.1	0.05	1.5			1/1	緑みの青	
61	SM1001	Q-6（B-1）		硝子	小玉	3.3	3.0	2.1	0.03	1.0			1/1	つよい緑みの青	
62	SM1001	Q-6（B-1）		硝子	小玉	4.6	4.4	2.8	0.07	1.7			1/1	つよい緑みの青	
63	SM1001	Q-6（B-1）		硝子	小玉	3.4	3.3	2.9	0.04	1.3			1/1	つよい緑みの青	
64	SM1001	Q-6（B-1）		硝子	小玉	3.8	3.6	2.5	破損のため測定不能	1.5			1/1	こい青	
65	SM1001	Q-6（B-1）		硝子	小玉	4.0	3.8	2.0	0.03	1.4			1/1	こい青	
66	SM1001	Q-6（B-1）		硝子	小玉	4.0	4.0	2.5	0.05	1.3			1/1	こい青	

報告書掲載番号	遺　構	出土地点（石室内地点）	層　位	材　質	器　種	長径（㎜）	短径（㎜）	厚さ（㎜）	重量（g）	孔径（㎜）	穿孔方向	その他の法量（cm）	残存率	色　調	備　考
67	SM1001	Q-6 (B-1)		硝子	小玉	4.7	3.6	2.8	0.07	1.7			1/1	くらい緑みの青	
68	SM1001	Q-6 (B-1)		硝子	小玉	3.6	3.0	3.2	0.05	1.0			1/1	くらい緑みの青	
69	SM1001	Q-6 (B-1)		硝子	小玉	3.2	3.2	2.5	0.03	1.0			1/1	くらい緑みの青	
70	SM1001	Q-6 (B-1)		硝子	小玉	3.2	3.0	1.9	0.02	1.1			1/1	緑みの青	
71	SM1001	Q-6 (B-1)		硝子	小玉	4.4	4.0	3.0	0.08	1.7			1/1	こい緑みの青	
72	SM1001	Q-6 (B-1)		硝子	小玉	3.6	3.5	1.9	0.04	1.4			1/1	つよい緑みの青	
73	SM1001	Q-6 (B-1)		硝子	小玉	3.4	3.4	3.3	0.05	1.2			1/1	つよい緑みの青	
74	SM1001	Q-6 (A-1)		硝子	小玉	3.5	3.5	2.5	0.03	1.3			1/1	こい緑みの青	
75	SM1001	Q-6 (A-1)		硝子	小玉	3.8	3.5	2.0	0.03	1.2			1/1	緑みの青	
76	SM1001	Q-6 (A-1)		硝子	小玉	3.9	3.4	2.2	0.04	1.5			1/1	こい青	
77	SM1001	Q-6 (A-1)		硝子	小玉	4.0	3.7	1.9	0.03	1.7			1/1	緑みの青	
78	SM1001	Q-6 (B-1)		硝子	小玉	4.0	3.9	2.2	0.04	1.2			1/1	くらいグレイみの青	
79	SM1001	Q-6 (B-1)		硝子	小玉	4.0	4.0	2.2	0.04	1.8			1/1	こい青	
80	SM1001	Q-6 (B-1)		硝子	小玉	3.7	3.2	2.6	0.04	1.0			1/1	くらい青	
81	SM1001	Q-6 (B-1)		硝子	小玉	3.2	3.2	2.0	0.02	1.1			1/1	くらい緑みの青	
82	SM1001	Q-6 (B-1)		硝子	小玉	3.9	3.8	3.8	0.03	1.4			1/1	つよい緑みの青	
83	SM1001	Q-6 (B-1)		硝子	小玉	3.6	3.5	2.2	0.03	1.2			1/1	こい緑みの青	
84	SM1001	Q-6 (B-1)		硝子	小玉	4.4	4.3	2.0	0.06	1.3			1/1	こい青	
85	SM1001	Q-6 (B-1)		硝子	小玉	4.6	4.2	2.4	0.06	1.3			1/1	つよい青	
86	SM1001	Q-6 (B-1)		硝子	小玉	4.4	4.3	3.0	0.07	1.7			1/1	くらい青	
87	SM1001	Q-6 (B-1)		硝子	小玉	3.1	3.0	3.0	0.04	0.8			1/1	こい緑みの青	
88	SM1001	Q-6 (B-1)		硝子	小玉	3.5	3.0	2.2	0.03	1.2			1/1	にぶい青	
89	SM1001	Q-6 (B-1)		硝子	小玉	3.6	3.4	3.1	0.05	1.3			1/1	くらい青	
90	SM1001	Q-6 (B-1)		硝子	小玉	3.1	3.0	2.7	0.03	0.9			1/1	にぶい青	
91	SM1001	Q-6 (B-1)		硝子	小玉	3.2	2.9	2.1	0.03	0.6			1/1	くらい青	
92	SM1001	Q-6 (B-1)		硝子	小玉	3.1	2.9	1.9	0.02	1.0			1/1	くらい青	
93	SM1001	Q-6 (B-1)		硝子	小玉	3.7	3.4	1.9	0.03	1.1			1/1	くらい青	
94	SM1001	Q-6 (B-1)		硝子	小玉	3.1	3.0	2.0	0.02	1.0			1/1	くらい青	
95	SM1001	Q-6 (B-1)		硝子	小玉	3.9	3.9	2.8	0.05	1.2			1/1	くらい青	
96	SM1001	Q-6 (B-1)		硝子	小玉	3.1	3.1	4.2	0.06	0.8			1/1	くらい青	
97	SM1001	Q-6 (B-1)		硝子	小玉	4.0	4.0	3.9	0.07	1.2			1/1	くらい青	
98	SM1001	Q-6 (B-1)		硝子	小玉	3.9	3.8	2.8	0.05	1.2			1/1	くらいグレイみの青	
99	SM1001	Q-6 (B-1)		硝子	小玉	4.2	3.8	2.1	0.04	1.3			1/1	こい青	
100	SM1001	Q-6 (B-1)		硝子	小玉	3.6	3.2	2.1	0.04	1.2			1/1	くらい青	上面・下面研磨。
101	SM1001	Q-6 (B-1)		硝子	小玉	3.0	2.9	3.2	0.04	1.1			1/1	こい青	
102	SM1001	Q-6 (B-1)		硝子	小玉	3.3	3.0	2.9	0.04	1.0			1/1	くらい青	
103	SM1001	Q-6 (B-1)		硝子	小玉	4.0	3.6	3.0	0.06	1.0			1/1	くらい緑みの青	
104	SM1001	Q-6 (B-1)		硝子	小玉	4.1	3.8	2.3	0.04	1.2			1/1	くらいグレイみの青	
105	SM1001	Q-6 (B-1)		硝子	小玉	4.1	4.0	2.9	0.06	1.3			1/1	くらい青	
106	SM1001	Q-6 (B-1)		硝子	小玉	4.0	4.0	2.4	0.04	1.2			1/1	くらい青	
107	SM1001	Q-6 (B-1)		硝子	小玉	3.6	3.4	2.1	0.03	1.1			1/1	くらい青	

徳島県埋蔵文化財センター調査報告書 第62集

四国横断自動車道建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

（本文編　第１分冊）

発行日　平成17年９月30日

編　集　財団法人 徳島県埋蔵文化財センター
〒779-0108 徳島県板野郡板野町犬伏字平山86番２
TEL（088）672-4545

発　行　徳　島　県　教　育　委　員　会
財団法人 徳島県埋蔵文化財センター
日　本　道　路　公　団

印　刷　株式会社 教育出版センター